

KYOTO UNIVERSITY 2007

知と自由への誘い

京都大学 大学案内 2007



Index

京都大学の教育が ————— 2
めざすもの。

[学術的教養] ————— 3

[文化的言語力] ————— 4

[基礎的知力] ————— 6

◎誌上ゼミナール

ポケット・ゼミ ————— 8

◎さらなる飛躍へ

留学生交流 ————— 14

大学院進学 ————— 16

就職支援 ————— 19

ベンチャー起業 ————— 22

◎学生生活サポート

図書館 ————— 24

京都大学生生活協同組合 ————— 26

学生生活を支援する ————— 28

制度や施設

クラブ・サークル ————— 30

学部紹介 ————— 32

総合人間学部 ————— 32

文学部 ————— 36

教育学部 ————— 40

法学部 ————— 44

経済学部 ————— 48

理学部 ————— 52

医学部 ————— 56

薬学部 ————— 62

工学部 ————— 66

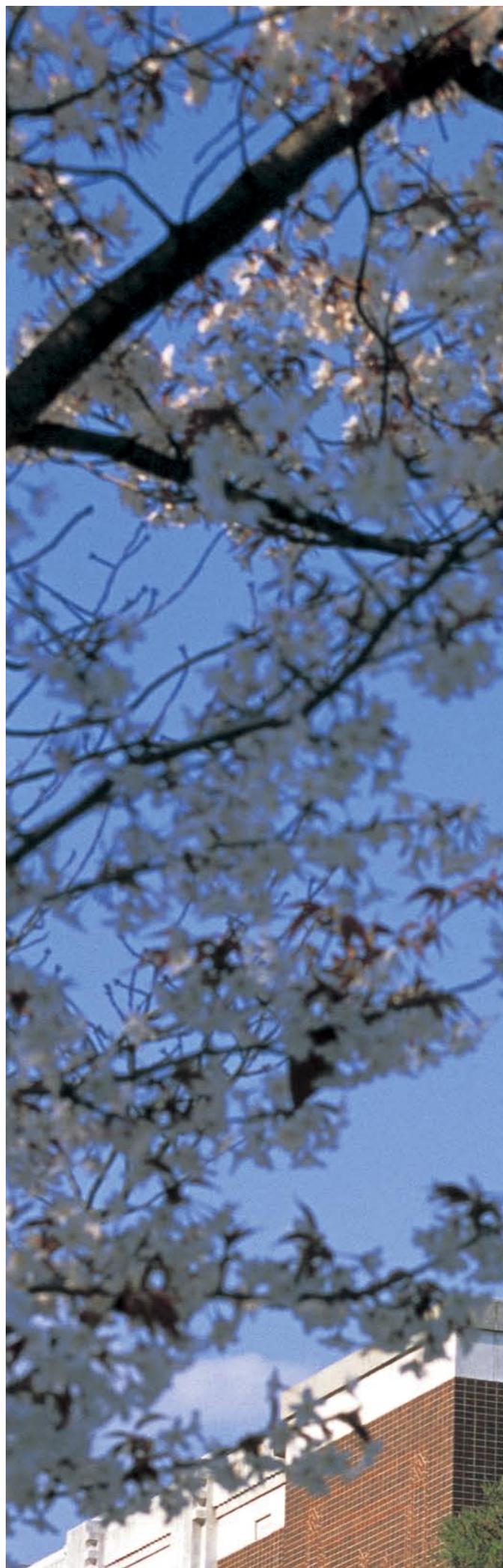
農学部 ————— 70

教員の研究テーマ紹介 ————— 74

入学者選抜要項・学生募集要項の請求方法 ————— 90

多様な入学制度／お問い合わせ先一覧 ————— 91

キャンパスマップ・交通案内 ————— 96



京都大学の基本理念

京都大学は、創立以来築いてきた自由の学風を継承し、発展させつつ、多角的な課題の解決に挑戦し、地球社会の調和ある共存に貢献するため、自由と調和を基礎に、ここに基本理念を定める。

研究

京都大学は、研究の自由と自主を基礎に、高い倫理性を備えた研究活動により、世界的に卓越した知の創造を行う。

京都大学は、総合大学として、基礎研究と応用研究、文科系と理科系の研究の多様な発展と統合をはかる。

教育

京都大学は、多様かつ調和のとれた教育体系のもと、対話を根幹として自学自習を促し、卓越した知の継承と創造的精神の涵養につとめる。

京都大学は、教養が豊かで人間性が高く責任を重んじ、地球社会の調和ある共存に寄与する、優れた研究者と高度の専門能力をもつ人材を育成する。

社会との関係

京都大学は、開かれた大学として、日本および地域の社会との連携を強めるとともに、自由と調和に基づく知を社会に伝える。

京都大学は、世界に開かれた大学として、国際交流を深め、地球社会の調和ある共存に貢献する。

運営

京都大学は、学問の自由な発展に資するため、教育研究組織の自治を尊重するとともに、全学的な調和をめざす。

京都大学は、環境に配慮し、人権を尊重した運営を行うとともに、社会的な説明責任に応える。

(平成 13 年 12 月 4 日制定)

京都大学の教育がめざすもの。

「即戦力を求める傾向の強い社会的風潮に流されることなく、教養が豊かで人間性が高く、社会でリーダーとして活躍できる人材の育成をめざしています。」

京都大学の教育課程は、本学の基本理念にあるように「多様かつ調和のとれた教育体系のもと、対話を根幹として自学自習を促し、卓越した知の継承と創造的精神の涵養につとめる」ことを実現すべく用意されています。京都大学は百年以上の歴史を誇る総合大学であり、殆どあらゆる学問分野に多彩な教員を擁しています。この教育課程の下で教員集団は、「教養が豊かで人間性が高く責任を重んじ、地球社会の調和ある共存に寄与する、優れた研究者と高度の専門能力をもつ人材を育成する」ため、幅広く深い教養教育、学問の先端を学ぶための土台とも言える確かな基礎教育、多様な分野にわたる専門教

育、さらには第一線の研究者教育まで、質の高い教育に携わっています。

京都大学の10学部はそれぞれ固有の伝統と歴史、個性ある教育・研究目標を持っており、お互いの協力と調和を根幹としながら切磋琢磨し、総体として強い教育・研究力を実現しています。法学、経済学、工学、医学、農学など「実学」教育を中心とする学部が体勢を占めていますが、文学や理学のような基礎分野の教育に力を注いでいる学部もあります。いずれにせよ即戦力を求める傾向の強い社会的風潮に流されることなく、教養が豊かで人間性が高く、社会でリーダーとして活躍できる人材の育成をめざしています。

京都大学高等教育研究開発推進機構長

西田 吾郎



京都大学の教育課程

京都大学は、自由闊達な気風を求める「自由の学風」を歴史的に育んできており、その教育課程は、学生個人々の自発自啓を基本精神として、教養教育と専門教育を系統的に編成したものになっています。

各学部における4年間（医学部は6年間）の一貫性を持った教育カリキュラムに基づいて、学生は早い時期から自ら学ぶ姿勢を身につけ、積極的に研究活動に携わることができます。

本学では、教養教育を全学的な立場から企画・運営する責任組織として、「高等教育研究開発推進機構」を設置しています。「機構」においては、本学が掲げる教養教育の目的を達成するため、幅広い基礎教育の充実、外国語教育の改善、学生の自主的な勉強意欲を引き出す教育環境の活性化に取り

組んでいます。

各学部が専門教育と共に重視している教養教育は主に「全学共通科目」に具体化され、A群（人文・社会系科目）、B群（自然科学系科目）、C群（外国語科目）及びD群（保健体育科目）の区分のもとに、基礎から高度な内容にわたって多種多様な科目が提供されています。これをもとにして各学部は卒業に要する単位数を定めていますが、それらの科目選択は基本的には学生の自由意志に委ねられています。

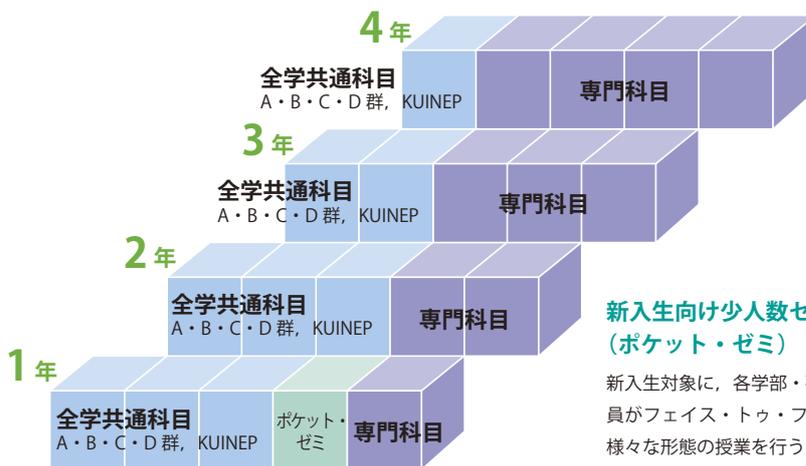
新入生向けガイダンスの実施（全学共通教育）

全学共通教育（教養教育）の全学的な責任組織である高等教育研究開発推進機構では、全学部（10学部）の新入生を対象とした「全学共通教育に係る新入生向けガイダ



ンス」を実施しています。

このガイダンスにおいて、本学の教育課程及び「自由の学風」に根ざした教育理念や学生個人々の自学自習を基本精神とした教養教育の目的・目標等を紹介し、さらに総合大学としての特徴を生かして各学部、研究科、研究所及びセンターから提供される971科目に及ぶ多様な全学共通（教養）科目について、その選択の仕方や適正な履修方法の説明を行っています。



全学共通科目

平成18年度は、人間・環境学研究科と理学研究科を中心に、各学部、研究科、研究所及びセンター等から971科目の提供があり、内訳は次のとおりです。

A群（哲学・思想、歴史、文明、芸術・言語文化、行動科学、地域・文化学、社会科学等の系列科目）：373科目

B群（数学、物理学、化学、生物学、地球科学、情報科学等関連科目）：397科目

C群（英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、イタリア語、スペイン語、朝鮮語、アラビア語、日本語〔留学生対象〕）：92科目

D群（健康科学・スポーツ実習等）：6科目

国際教育プログラム（KUINEP）：23科目

国際交流科目：4科目

複数群：103科目

[全学共通科目について詳しく知るには]

高等教育研究開発推進機構

共通教育推進部教務掛

<http://www.z.k.kyoto-u.ac.jp/>

新入生向け少人数セミナー（ポケット・ゼミ）

新入生対象に、各学部・研究科・研究所・センター等の教員がフェイス・トゥ・フェイスの親密な人間関係の中で、様々な形態の授業を行うものです。異なる専門分野の教員と接することにより視野を広げ、人間・社会・自然について深く考える力を養成することになります。

授業は、歴史、地理、古典の講読や環境・資源・宇宙・医学等の最先端の研究成果の紹介、野外実習など総合大学ならではの豊富なメニューです。

平成18年度は、「海岸生物の生活史」、「火山探査車を作ろう」、「脳のモデル」、「ブラックボックスを開けよう」、「チンパンジー学集中実習」等151科目を開講しています。

（各学部の特色あるポケット・ゼミの内容を、8ページから13ページに紹介しています。）

学生個人々が学問と向き合うことを通して、高い自律性、優れた価値基準、豊かな人間性の獲得を目指す。

本学の教養教育の目的 [学術的教養]

本学の教養教育の目的「文化的言語力」

グローバル社会における
指導的活躍の基盤となる、
異世界文化理解と
外国語運用力の修得。



【写真】 CALL 教室における外国語授業

「学術的教養」は、深い思考とこれに裏付けられた豊かなコミュニケーションによって生きたものになります。そしてこれは高度な言語力に支えられます。あらゆる学術的活動や社会的活動がグローバル化を特徴としている今日、地域や民族文化の固有性の認識を基礎としつつ、国境の壁を越えて共通の言語による対話を可能にする高度で文化的な言語力を修得することが求められます。本学の教養教育においてはこの「文化的言語力」の修得を重視します。言語力の修得は、大学の

限られた授業時間のみで達成できるものではないことはいまでもありません。学生諸君の日常的な自学自習を促進するための、学習法や教育方法・教材等の工夫・改善を進めていくことを目標にしています。

語学学習システム等による
外国語教育

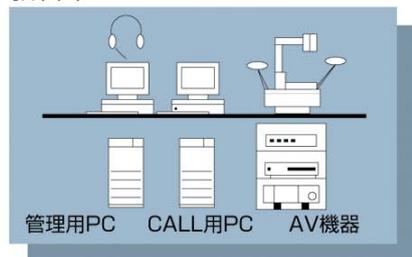
外国語実習等では、外国人教師（英語：15名、ドイツ語：3名、フランス語：6名、

中国語：15名、ロシア語：1名、スペイン語：2名、イタリア語：2名）による授業を行っています。

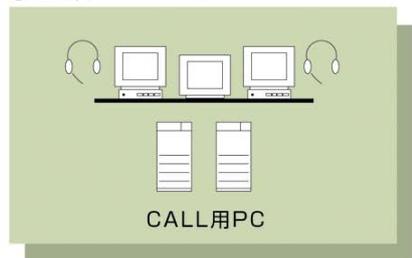
また、英語や仏語等では、2回生向けとしてコンピュータ支援型言語学習（CALL: Computer-Assisted Language Learning）のクラスを設けています。これは、最新教育システムを駆使して、個々の学生の能力にみあった徹底的な読解、作文、ヒアリング能力の総合的な向上を図るものです。

学術情報メディアセンター南館内に語学実

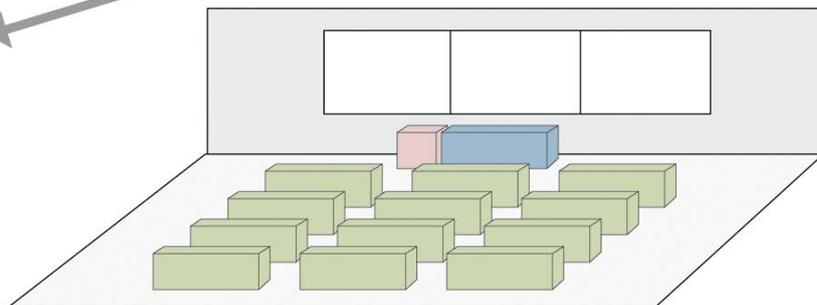
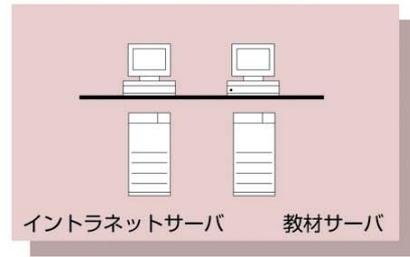
教官卓



学生卓



CALL用サーバシステム



CALL教室システム概念図

習 CALL 教室を展開していますが、CALL と呼ばれているコンピュータを利用した外国語の学習支援は、情報環境機構により運用されている語学学習システムで、コンピュータによる音声や画像などのマルチメディア処理技術を活かした外国語学習環境の構築を推進し、全学共通教育の外国語科目を中心に語学教育の支援活動を行っています。

CALL 教室は、教員卓、学生卓（60 台）、AV システムからなる CALL システムで構成さ



【写真：上】 CALL 教室の学生用ブース

【写真：下】 CALL 教室の教員卓

れており、主に外国語の授業に利用されています。

教員卓、学生卓にはネットワークにつながった PC に、ヘッドセットマイクロフォン、MD レコーダ、CCD カメラ（301 教室）等の周辺機器や、DV、VHS、DVD、MD、Hi8 などの各種メディアに対応する AV システムが備えられており、マルチメディアを利用した外国語学習に適した環境となっています。また、コースウェアマネジメントソフトウェアが導入されており、教員が教員卓のヘッドフォンから学生のヘッドフォンへ直接話しかけることや、学生卓にビデオの映像を配信することなどが簡単な操作で行えるため、普通教室での授業よりも効率的な授業が可能になっています。

京都大学国際教育プログラム (KUINEP)

海外の協定校より迎えた 40 余名の留学生とほぼ同数の日本人学生に、学際的・先端的なテーマを学際的な講師陣が英語で講義を行っており、学部によっては卒業に必要な単位（1 - 2 単位）に認定しています。

平成 18 年度は、「情報と社会」、「エネルギー・資源」、「開発経済学」等 23 科目を開講しています。

国際交流科目

国際交流科目は、本学学生の海外留学や、海外研修を促進するために平成 17 年度から設けられ、提供を希望する学部・研究科あるいは研究所と国際交流センターが協力して企画する全学共通科目です。この科目は海外の大学等で研修を行い、現地の自然・政治・経済・文化・歴史などを学ぶことを目的とします。

平成 18 年度は、「中国の社会・経済・文化」、「ベトナムにおける環境・防災マネジメント I」、「ベトナムにおける環境・防災マネジメント II」、「韓国における工業と環境」の 4 科目を開講しています。



【写真】 KUINEP 講義風景

教育環境のさらなる充実を目指して①

自主的な学習を支援する施設



【写真】 Student Research Room の様子

Student Research Room

学生が自主的に学習できる静かな空間を提供することを目的に「Student Research Room」を吉田南総合館北棟地階に設置しています。10時から19時までの開室時間に多くの学生が来室しています。

CALL 自律学習コーナー / CALL Learning Space

学術情報メディアセンター南館オープンスペースラボラトリー内には、「CALL 自律学習コーナー」を展開しており、語学教材を自習できる端末を設置しています。

CALL 自律学習用端末では、センターで開発された *Introduction to the Beauties of Kyoto* を始め、本学教員が開発した英語、フランス語、ドイツ語、中国語、韓国・朝鮮語などの自律学習用外国語教材、また

ライセンス取得済みの市販教材の一部の学習をすることができ、学生にとっては必須の環境となっています。

また同じく語学の自習室として、吉田南総合館北棟 2 階に設けられた「CALL Learning Space」では、ヘッドセットと CALL 授業（外国語教育参照）のテキストがインストールされた Windows 自習用端末を 20 台、ティーチング・アシスタントの常時配置で学習を支援しています。



【写真：上】 CD-ROM 版 CALL 教材

【写真：左】 CALL 自律学習用端末の利用風景

担当掛：情報環境部 情報基盤課 教育システム支援グループ



〔写真〕 オープンスペースラボラトリー（学術情報メディアセンター南館）

学術研究の専門家として、 また社会における指導的活動の 強固な基盤となる幅広い 基礎知識・技術・技能の修得。

本学の教養教育の目的〔基礎的知力〕

伝統的に築きあげられてきた個別学問領域は、情報技術の革命的な発展によって変革期にあるといえます。このような現状において、異分野間で語り合うことができる共通の基盤を確立することが不可欠になっています。それぞれの専門に関わる学術の基礎を幅広く修得するとともに、自然科学分野における人文・社会分野の基礎的知識や判断基準、文系分野における自然科学の知識・素養の獲得は、教養教育の重要な部分です。「基盤的知力」とはこれを指しています。学生の学習歴が多様化し、蓄積の幅や一貫性が必ずしも十分でない今日、諸分野の基礎のバランスある修得を目指した伝統的な共通基礎教育の強化が目標になります。

情報教育

京都大学では、理工系学部のみならずほとんどの学部において基礎情報処理教育が行われています。その内容はいわゆるコンピュータに関する読み書き能力を中心としたものです。理工系学部によってはこれらの教育を専門基礎科目として、あるいは、全学共通科目のB群科目としていますが、文系学部ではさらに初歩的なレベルからの教育も行っています。

また、実践機関として学術情報メディアセンターがあり、情報リテラシー教育支援、語学教育支援、遠隔講義支援、コンテンツ作成支援等を行い、全学共通科目を中心としながら、各学部での専門教育におけるメディア技術をも促進しています。

情報環境機構による情報サービス

京都大学では教育研究などさまざまな活動を支えるために必要な、高い安全性と利便性を備えた先端的な情報環境を構築・運営することを目的に情報環境機構が設けられており、学術情報ネットワークや大型計算機システムなどさまざまなサービスを提供しています。中でも教育用コンピュータシステム、語学学習システムそして遠隔講義支援サービスは学生の皆さんにとって、京都大学での学習を支援するサービスです。

教育用コンピュータシステム

教育用コンピュータシステムではネットワークに接続されたパーソナルコンピュータ約1,200台を情報環境機構・学術情報メディアセンター南館内の演習用マルチメディア設備を備えた教室や学内19箇所のサテライト端末室に展開するとともに、その一部は利用者がいつでも使える自習用端末として、学術情報メディアセンター南館、附属図書館、総合人間学部・人間環境学研究科図書館内に設置してオープンスペースラボラトリー（OSL）として運用しています。これらの端末ではWindowsとLinuxの2システムのオペレーティングシステムが利用可能です。またオフィスソフトのほかプログラ

ミング言語の処理や統計処理、数式処理など大学での学習に必要なさまざまなソフトウェアが導入されています。さらに、利用者には電子メールのアカウントが与えられ、WWWブラウザを利用したWebメールシステムにより学内だけでなく、学外からもメールの読み書きが行えます。このようなサービスにより、授業と自習とに統合的な情報環境を提供するとともに、電子メールやWWWを利用したコミュニケーション環境を提供しています。

教育用コンピュータシステム・OSLの
サービス時間

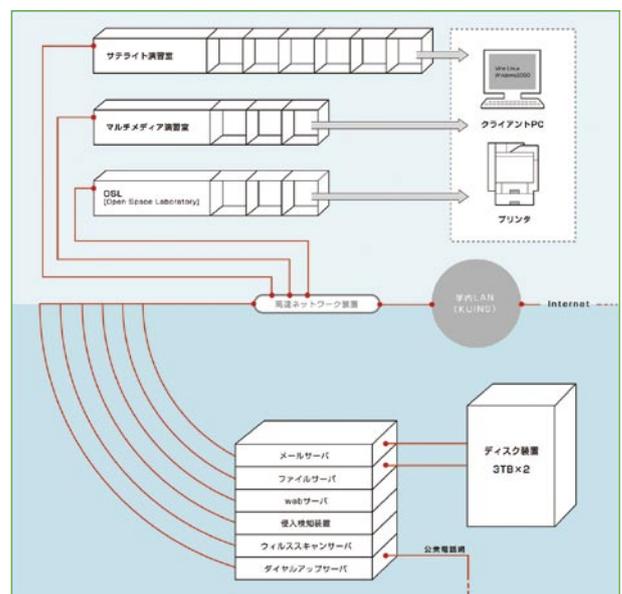
月～金曜日：10:00～20:00

土曜日：10:00～18:00（試行中）

担当掛：情報環境部 情報基盤課
教育システム支援グループ

遠隔講義支援サービス

遠隔講義支援サービスでは、学術情報メディアセンターをはじめとする学内の遠隔講義用施設を利用して、国際遠隔講義、大学間遠隔講義、キャンパス間遠隔講義など、様々な遠隔講義の支援を行っています。カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）との共同で両校の学生がネットワークを介して一緒に授業参加できる遠隔講義を1998年から継続しているのに加え、台湾との遠隔講義、中国、マレーシアとの3ヶ国同時進行型遠隔講義、インドネシア、タイとの国際シンポジウムなど、新しい講義やセミナーも次々に開設されています。国内の他大学（慶応義塾大学、広島大学、東京電機大学など）との遠隔講義も開講されており、他大学の学生と



〔図〕 教育用計算機システム システム構成図

同時に講義を受けることのできる機会も広がりました。

これらの遠隔講義の多くは全学共通科目として開講されており、学年や学部にかかわらず受講できる体制となっています。さらに、桂キャンパスの開設にともなって、吉田、桂、宇治各々のキャンパスを結ぶ高精細遠隔講義



[写真：上下とも] 国際遠隔講義風景

システムも運用が開始されました。開講されている講義をキャンパス間の移動なしに受講できるため、受講科目選択の幅が広がります。このほか、衛星回線を用いた遠隔講義システムSCSの運用を行っており、国内の多数の大学・研究機関を結んだ遠隔講義、会議を支援しています。

担当掛：情報環境部 情報基盤課
データベース・遠隔講義支援グループ

OCW@KU プロジェクト

京都大学ではアメリカマサチューセッツ工科大学 (MIT)、東京大学、大阪大学など国内外の大学と共同で Open Course Ware を行っています。京都大学オープンコースウェアは、全人類のための「創造的グローバル＝ローカルな知のクラスター」という視点から国際的な知的資産の蓄積の貢献に参加すること、および京都大学のビジビリティを高め、世界中から優秀な教員、学生を発見すること、およびインターネットによる国際的な教育展開を狙っています。京都大学で行われている講義の教材をインターネットで公開し、学

内の学生・教職員・他大学の学生・関連学会の研究者・京都大学を志望する受験者・さらなる学習を志す社会人など、あらゆる方々に京都大学の講義内容を知っていただくことを目的としています。京都大学に入学すればこのような講義が受けられるのだということを予め知っていただき、学生生活を有意義に送っていただけるよう掲載する講義教材の数も増やしつつあります。京都大学の知的資産の世界を十分に楽しんでください。将来の進路を決めるうえでの重要な情報も発見できるでしょう。

URL <http://ocw.kyoto-u.ac.jp/>



[写真] OCW@KU プロジェクト ホームページ

教育環境のさらなる充実を目指して②

KULASIS ークラシス (全学共通教育教務情報システム)

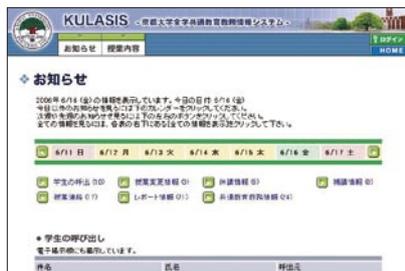
高等教育研究開発推進機構では、全学共通科目にかかる全ての教務情報のWEB化に取り組んでいます。このシステムの名称は、学生から募集した結果 KULASIS(クラシス)に決定したものです。学生サービスの充実を目的として開発しています。

KULASIS は、インターネットを利用したサービスで学内・学外(パスワードが必要)からもアクセスできます。具体的には、次の機能が稼動しています。

[お知らせ機能]

全学共通科目に関する休講情報、教室変更、さらには定期試験の時間割、レポートの提出期限の情報を得ることができます。携帯電話でも利用可能ですので、学生は手軽に情報を取り入れることができます。

また、お知らせ機能は、学内の電子掲示板にも反映されます。



[シラバス検索機能]

授業内容が色々な条件で検索できますので、印刷物から調査するよりもとても便利です。また、シラバスの内容に変更があった場合、リアルタイムで画面に反映されますので、冊子よりも最新の情報を確認することができます。



[その他の機能]

履修登録、試験時間割確認、成績確認など学生個人に対応したサービスを展開しています。



[写真] 学内の電子掲示板

Pocket Seminar

[ポケット・ゼミ] 誌上ゼミナール

ポケット・ゼミは、新入生対象に各学部・研究科・研究所・センター等の教員がフェイス・トゥ・フェイスの親密な人間関係の中で、様々な形態の授業を行うものです。異なる専門分野の教員と接することにより視野を広げ、人間・社会・自然について深く考える力を養成することになります。

授業は、歴史、地理、古典の講読や環境・資源・宇宙・医学等の最先端の研究成果の紹介、野外実習など総合大学ならではの豊富なメニューです。

ここでその一部についてゼミの内容をご紹介します。

「イギリスの道端遊びと遊び歌」 総合人間学部

英国の作家ノーマン・ダグラスが『ロンドンの道端遊び』（1916年刊）の原稿を出版社に持ち込んだ時、目を通した編集者は、「たいへん見事な文学上のお仕事です」と絶賛しながら原稿を返却して「でも読者はいないでしょう」（“I can't see a public for it”）と宣告したという。たしかにダグラスが、ロンドンの下町をくまなく歩いて、子供たちを観察し、仲間に入り、手なづけて採集した遊びや遊びの歌は、人びとが自分の掌のように知る日常の一部を採集したにすぎないもので、ことさらに興味を抱く人は少なかったかも知れない。

しかし、それが今となって貴重なことはいうまでもない。100年近く前の遊びが、今どれだけ伝承されているかはわからないが、現在の英国で子供たちが道端で歌を歌ったり奇声をあげて戯れているようすを見ることはまずない。交通事情は日本も英国も同じことで、道はもはや遊んだり楽しんだりするところではないからだ。



もちろん車の危険ばかりがその理由ではないだろう。

ダグラスが採集した歌のうちいくつか、たとえば“Sally go round the moon”などはマザー・グースとしても知られている。マザー・グースは言ってみれば、これまでいずれかのマザー・グース・コレクションの中に収録されたことがあるもの、いわば登録・公認済みの伝承童謡である。これはこれからも英語圏の言語文化のひとつとして存続していくだろう。その外側に未登録の歌がある。マザー・グースについて言われるナンセンスな語句のおもしろさ、意表をつくイメージの交錯は、ここでもまったく同じ。詩想というものを少なくともある時代まで、子

供たちは遊び歌を通して身につけたはずである。（ジョン・レノンもそうか？）遊びがなくなれば、歌も失われていくことになるのだろうか。

ダグラスが集めた100篇以上のそのような遊び歌を、その中にある躍動や興奮、一言で言えば楽しさを感じとりながら、日本語のリズムに置き換えていくことはできないか。ゼミの学生との共同作業としてそのことを考えている。と同時に、私たちの文化における遊びと歌についても語りあいたい。

人間・環境学研究科

川島 昭夫 教授

専門分野：英国近代社会文化史

「考古学入門」 文学部



はじめに

「京都大学の地下に沢山の遺跡が眠っていることを知っていますか？」そんな質問から授業は始まる。私達が毎日通い、勉強し、研究している吉田・北白川地区キャンパスの地下には、旧石器時代から始まる一万年以上の歴史が埋まっている。

考古学とは

考古学は英語で Archaeology である。しかし、泥まみれの靴に薄汚れた服で、いつもどこかを歩き回っている考古学者に、「貴方の学問はアーケオロジーではなく、「歩けオロジー」ですな」と皮肉屋の研究者が言ったという。これは名言と、いつしか考古学を説明する始めに、まずこれを紹介することになった。

したがって、京都大学での「考古学入門」は必然的に、大学およびその周辺の遺跡を歩き回ることから始まる。遺跡を訪ねて歩き回るとは、遺跡の立地する環境や景観を理解するのに重要であるが、昔の人々のネットワークを知ることにも役立つ。

京大構内と周辺の遺跡

今回は、比叡山西南麓に広がる扇状地を歩き、その上に形成された縄文時代の遺跡を中心に探訪している。京都大学遺構内では、吉田南構内、本部構内、北部構内に縄文時代の集落があった。

本部構内を北東に出れば、中世から継承される白川道が、鎌倉時代の石仏を脇に従えて、山中越えの道へと続いている。この白川道の北側、人文科学研究所当りには北白川小倉町遺跡、その更に北側には北白川上終町遺跡と縄文遺跡が連なる。皆、白川の形成した扇状地にのる。せいぜい1時間もあれば行き来できる距離である。

隣の集落

上終町を北に過ぎると、白川通りは一時下る。そして、また上り始めると、一乗寺川・音羽川の

扇状地になる。白川通りを歩くと簡単にこの高低差が実感できる。そして、扇状地の間には縄文遺跡はない。一乗寺には向畑遺跡、修学院には修学院小学校、修学院離宮遺跡の縄文時代の遺跡がある。白川の縄文集落からは墓が発見されているのに、この地区の遺跡にはお墓がない。分村なのだろう。

最後に鴨川を越えて上賀茂神社まで歩く。5~6キロは歩かなくてはならない。この地域には上賀茂遺跡、上賀茂本山遺跡、植物園北遺跡と縄文遺跡が連なり、住居や墓も出土しており、別の縄文集落が集落を構えていたようである。

縄文人を実感

縄文人と同じように、当時あった集落を歩き、同じムラの中と隣ムラとの間を歩いてみて、違いを発見できるだろうか？ 自然景観はまったく残っていないが、歩くことにより、少しでも縄文時代のネットワークが実感できれば、「考古学が始まる」と期待している。

〔写真〕白川道の脇に現存する鎌倉石仏の見学風景



文学研究科歴史文化学専攻

泉 拓良 教授

専門分野：縄文考古学、レバノン考古学

「野生の教育人間学」 教育学部

ポターの『ピーターラビットのおはなし』やブルーナの『うさこちゃん』の絵本をみればわかるように、絵本にはウサギ、クマ、ネズミといった多くの動物たちが登場します。不思議なことには、人間が主人公の絵本よりも動物が主人公の絵本の方が圧倒的に多いのです。なぜこれほど動物が絵本に描かれているのでしょうか。しかも、子どもたちがこのような動物絵本を通して成長することを考えると、子どもは動物を必要としているのではないかと考えたくなります。子どもには、大人のように食料としたり材料としたり使役に使用するようなことは別に、動物を必要とする深い理由があるのではないのでしょうか。この理由とはいったい何か、このゼミではこの問いを手がかりにして、「人間とは何者か」を考えようというものです。

この「人間とは何者か」の問いは、神話に明らかのように、太古より動物との比較によって論議されてきました。動物は人間にとって自分の存在の理由を明らかにする手がかりだったのです。このことが示すように、子どももまた動物と出会うことによって、人間と動物との境界線を認識するようになります（動物を超えて人間になること）。しかし、動物はそれ以上の存在です。この人間と動物との境界性は両義的であり、動物性は一方で忌避すべきものであると同時に魅力に満ちたものでもあります。動物性がもたらす戦慄や驚異は、日常的な世界を超えた

驚嘆を生みだします。子どもは野生の存在と出会うことによって、動物との境界線を超えて、あたかも動物のように世界との連続的な瞬間を生きてことができます。そのとき世界のうちに溶けることによって、生命に十全に触れることができるのです（人間を超えて〈動物〉となること）。

絵本に動物がでてくるのはなぜか？ なぜ子どもは動物を飼いたがるのか？ これらのことは当たり前すぎて学問的な問いの対象にならないと思うかも知れませんが、そのような日常の事象のなかに、「人間とは何者か」という最大の謎（ミステリー）を解くための糸口が隠されているのです。このゼミでは、この人間学的考察を、具体的に絵本を検討しながらすすめてきました。最終回には参加者がお気に入りの絵本を取りあげて、それぞれが考察を加えることになっています。ところで、「人間とは何者か」とは、つまりは「私は何者か」という問いと重なるものです。このゼミが終わるときには、参加者の絵本や動



物にたいする見方が変わるだけでなく、学問研究が知識を増やすことなどではなく（それも大切なのですが）、より高く「動物を超えて人間になること」と、より遠く「人間を超えて〈動物〉となること」という人間の二重の課題を生きたことと無関係でないことを学んでもらえればと思います。

教育学研究科

矢野 智司 教授

専門分野：教育人間学

「社会保障の法と政策」 法学部



最近、テレビや新聞などで社会保障の話題を耳にすることが多くありませんか？ なんだか複雑で難しそうイメージを持っている人も多いのでは。しかも、まだ若くて元気な皆さんには、ちょっと縁遠い存在かもしれません。でも、案外身近な存在でもあります。例えば、病院に行ったら保険証を出して診療を受けますし、小さな頃に保育所に通っていた人もいることでしょう。ところで、今の社会保障のしくみについて、皆さんはどれくらい知っているのでしょうか。また、社会保障と聞いて何をイメージするのでしょ

うか。年金？ 医療？ 介護、福祉、労災、失業、児童手当、生活保護、……。これらの社会保障制度は、今や私たちの日常生活にすっかり定着し、すでになくてはならない存在になっています。私たちが意識的にせよ、無意識的にせよ、社会保障の存在を前提とした生活設計をしているのではないのでしょうか。そうだとすれば、今の社会保障制度を維持するにせよ、変えるにせよ、今のしくみを見無視して議論はできないはず。今の社会保障制度は、いったいどのような理念に基づき、何を目的とし、どのような給付と負担の構造になっているのか。年金未納問題や少子高齢化などに関する世上の議論を耳にして、社会保障の将来について漠然とした不安を覚えている人も少なくないかもしれませんが、世上の批判や不信に掉差す前に、まずは現在の制度を理解することが必要です。

その上で、今のしくみにどのような問題や課

題があるのか、それらに対処するにはどうしたら良いかを考えましょう。近年、社会保障の分野では、毎年のように大きな改革が行われています。2004年の年金改正をはじめ、2005年の介護保険改革、障害者自立支援法の制定、生活保護における自立支援プログラム、そして2006年の医療制度改革、等々。これらの改革では、どのような背景の下、いかなる理念に基づき、何を指して、どういった点が改められたのでしょうか。最近の議論では何かと費用を抑える観点ばかりが強調されがちですが、社会保障は何のためにあるのか、どのような価値や理念を実現するためのしくみなのかといった規範的な視点から考えてみることも重要です。

このゼミでは、社会保障を構成する複数の部門または主要な論点の中から参加者の関心に即していくつかを選び、各テーマについて、まず1週目に現行制度の概要を理解した上で、2週目に最近の改革や将来の方向性等を検討するというスタイルで議論を進めていきます。

素材は豊富にあります。また、答えは1つとは限りません。自分で調べ、考え、議論することがゼミの基本。皆さんの斬新な発想にも期待しています。

法学研究科

稲森 公嘉 助教授

専門分野：社会保障法

「社会思想史ゼミナール」 経済学部



何をしているのか？

「経済学部の教員が担当するゼミだから、お金や企業の話だろう」という予測を裏切るのかも知れませんが、このゼミでは、人間とは何か？人間はなぜ社会（集団）を形成するのか？人間はなぜ学ぶのか？ 自分らしさとは何か？経済活動は人間や社会にどのような影響を与えるのか？などの、2500年以上前から変わらない素朴な問いを、複数の書籍（小説も使います）やゼミでの議論を参考にしながら、一緒に考えを深めていきます。

2004年度は、社会と個人との関係について、「学ぶ」ことや「読書する」とことと関連付けながら考察しました。2006年度は、社会（所属集団）との関係から自分自身のイメージ形成を考えています。もちろん多くの人にとって、普段の生活で、「自分とは誰か？」を意識することは余りないと思いますが、海外旅行や外国生活を送る

と、この問いを突きつけられることがしばしばあります。国際化時代を生きる皆さんにとっては、避けて通れない問いということもあり、多様な学部所属（文、総人、教、工）の5名の参加者全員が、これまでの自分の人生経験や読書体験を基にしながら、非常に面白い議論を展開しています。議論が終わらずに、そのまま一緒に昼食をとりながら話を続けるときもあります。

何を目指しているのか？

このゼミの準備や参加を通して皆さんに目指して欲しいことは次のようなことです。それは、「暗記しては吐き出す」受験型勉強から「思考力を鍛える」学習スタイルへの移行、そして、「ひとりではがんばる」だけの孤独な勉強ではなく「まず一人で考えてみて、その結果について他者と議論をしながら、また考える」という共同作業を含む思考様式の習慣化です。以上のことができるようになると、みなさんの大学生活が、より豊かに楽しくなるのではないのでしょうか。このきっかけが、本ゼミナールでの学習や人間関係によって得られることを願っています。

多様で個性的な人物との出会いの場を目指して

ポケット・ゼミは少人数ですから、大講義とは違って、教員との人間関係は作りやすいと思います。しかしゼミとは、教員との関係だけでなく、新入生である皆さん同士の豊かな人間

係をはぐくむ場でもあるべきだと思っていますので、ゼミでの議論も、参加者同士の相互理解が進むように工夫をしています。それが成功しているのか、04年度の参加者たちは、ゼミ終了後も、様々な場で「ミニ・同窓会」をしているようですし、それぞれ成長した顔つきで、相談や雑談のために今でも研究室を訪れてくれます。私にとって非常に楽しいひとときです。

まずは紅茶でも飲みながら…

とはいえ、誰でも未知の人間関係を作るときや難しいテーマについて話し合うときは、必要以上に身構えたりしてしまうことがあります。しかし緊張しては、議論も人間関係も楽しくなりません。ですから、まずは、紅茶を飲みながらリラックスして、ゆったりと落ち着いた気持ちになってから、ゼミでの議論を開始します。時には脱線して、担当者の「どたばた英国留学記」や、京都に関するトリビアも聞けるかも知れません。

所属学部の枠にとらわれずに、積極的に学ぶ気持ちを持つ新入生の参加を期待しています。

経済学研究科

竹澤 祐丈 助教授

専門分野：社会思想史、英国社会論

「地球の温度を測ってみよう」 理学部

ポケゼミの概要

本ポケゼミの目玉は、9月のはじめに阿蘇山の研究施設に泊り込んで、観測を実際にやることである。この観測旅行に先立ち、京都のキャンパスにおいて月に2回程度の事前セミナーを行っている。セミナーの定員は10名である。

動機はなんでもよい

セミナーに参加している学生の所属学部は、実に多彩である。動機も、将来どんな研究ができるか知りたい（理学部）、理系の研究がどんなものか見てみたい（法学部）、修学旅行で行った阿蘇山にもう一度行ってみたい（法学部）、違う道を選んだが火山に興味がある（農学部・工学部）など様々である。京都大学が総合大学を自認するのであれば、多様な専門に向かいつつある学生に対して、我々が信念をもって取り組んでいる研究領域を紹介すべきと考えている。

事前セミナー

事前セミナーでは、観測旅行で実施する観測手法を紹介するが、それ以上に火山に浸りきってもらう。真っ赤な溶岩が滝のように流れる火山や火砕流に襲われた痛ましい災害の現場など、世界の火山噴火のビデオをふんだんに見て、火山の多様な姿を感じ取ってもらう。さらにそれぞれの火山のホームページにアクセスし、観測研究や災害・防災体制について簡単な報告をし

てもらおう。観測機材は貧弱なのに1980年代に噴火予知・防災に成功しているインドネシアの存在に驚き、20世紀最大級のセントヘレンズ火山の噴火に際して観測や情報伝達体制を整備して被害を最小限にとどめた米国の叡智に感心する一方で、噴火後の治山治水対策を十分に行わないために災害が頻発している怠慢（哲学？）の実態を知り、違和感を覚えたりする。些細なことではあるが、メールやプレゼンテーションソフトの使い方の講習も行う。

観測旅行

観測旅行は、学生にとって最も印象に残る経験である。ガスマスクとヘルメット使用の講習を受けた後、世界最大級のカルデラと火砕流が流れた原野を眺望し、激しく噴湯を続ける中岳火口を覗きながら観測を行う。観測という我々の問いかけに対して、データという形で正直に自然が応えてくれることに新鮮な驚きを感じる。宿泊する火山研究センターは、わが国で最初に設置された大学付属の火山観測施設である。学生は、重厚な雰囲気の中に当時の京都大学の並々ならぬ決意を感じ、焼肉パーティーで多様な専門領域に向かいつつある多くの友人を得るのである。

[写真] 噴湯する阿蘇中岳火口を見下ろしながら赤外線温度を測る班。ガスマスクを着けると山登りは大変だが、火山ガスはなんともない（2005年9月）。



理学研究科附属
地球熱学研究施設

鍵山 恒臣 教授 田中 良和 教授

専門分野：火山物理学 専門分野：火山電磁気学

大倉 敬宏 助教授

専門分野：火山物理学

「発生と分化—ヒトの体はどのようにしてできるか」 医学部



生命科学や生殖技術の進歩と社会

ヒトやその他の多くの動物の体は、たった1個の受精卵から出発し、細胞増殖によって数十万個の細胞が増え、また分化という現象によって多様な細胞が形成されます。もし、その過程で何らかの不都合が起こると、様々な発生障害となって現れることも少なくありません。こうした複雑な発生分化の現象は、以前は「神秘」とされてきましたが、近年の研究によってそのメカニズムが次第に明らかになりつつあります。その一方で、生殖を経ないで体細胞から個体を

作るクローン技術が開発されたり、ヒトの生殖や胎児発生に人為的な手を加えることが技術的には可能になったことから、それに伴う様々な問題、特に倫理的問題が生じてきており、科学者の世界に止まらず、広く社会的な関心を集めています。こうした科学の急速な進歩は、人間存在そのものに対する我々の認識も変えずにおかないでしょう。

学生の自発的な活動を中心に

このポケットゼミでは、理系、文系の様々な専門分野に進む学生が集まって、意見を交換し議論します。毎回テーマを決めて担当者が発表して自らの考えを述べ、それに基づいて参加者全員が、それぞれの立場から意見を述べ合います。とりあげたテーマの例を挙げると、「ヒトの生命

はいつ始まるか」、「クローン技術と社会への影響」、「生殖補助医療の現状とその社会的・倫理的問題」、「出生前診断とその倫理的問題」などがあります。いずれも簡単に結論のでない大きな問題ですが、出席者が自発的に調べ、科学技術の現状とそれに伴う種々の問題点を考え、議論します。学生が自発的に発表して議論することによって重点を置き、教員は必要に応じて議論に参加するという形をとっています。結論のでないテーマが多いのですが、教室の講義では普段あまり見られない学生一人一人の積極的な発言が議論を白熱させ、それによって参加者が互いに新たな視点に気づかされ、視野が広がることもしばしばです。生殖や発生というデリケートな問題を扱いますが、科学の進歩とそれに付随する様々な問題についての「本音」の意見も飛び出すので、立場や背景によって多様な捉え方や考えがあり得ることを学ぶのも大切な点です。参加者の希望やその時々ホットな話題からのテーマを選んで議論を進めることにより、若者の柔らかない頭で考えて議論し、互いを刺激し合うことを楽しんでいきます。



医学研究科
形態形成機構学
塩田 浩平 教授
専門分野：
発生学、先天異常学

「薬の有機化学 Organic Chemistry of Pharmaceuticals」 薬学部



授業のテーマと目的

医薬品が開発されるまでの探索から設計・合成までを眺め、薬の化学の面白さと難しさを探る

授業計画と内容

現在使用されている医薬品の歴史的な流れを理解しながら、なぜ有機化合物が医薬品として機能するのか、なぜ副作用を抑え

るのが難しいのかなどについて調べ、考え、理解してもらう。また、最新のテクノロジーとメソドロジーを駆使した医薬品開発の一端を紹介する。

薬学部では教員7名によるリレー方式でポケット・ゼミを行っています。

担当教員

所属部局	職名	氏名	分野名
薬学研究科	教授	富岡 清	薬品合成化学
薬学研究科	教授	藤井 信孝	薬品有機製造学
薬学研究科	教授	本多 義昭	薬品資源学
薬学研究科	教授	竹本 佳司	薬品分子化学
薬学研究科	助教授	伊藤 美千穂	薬品資源学
薬学研究科	助教授	宮部 豪人	薬品分子化学
薬学研究科	助教授	大野 浩章	薬品有機製造学

「景色を眺め、景色について考える」 工学部

景色は超域的世界

景色の意味を辞書で調べると、「物の外面の様子、有様、また、外見から受ける感じ」（『日本国語大辞典』）と書かれている。

「物の外面の様子、有様」と、「それから受ける感じ」という、二重の意味を、景色はもっている。前者は、物にかかわる世界であるから、理系の世界、後者は、情緒にかかわる世界であるから、文系の世界である。

景色は、この二つの世界にまたがる文理融合の世界、あるいは文理を越えた超域的世界にかかっている。

眺めながら考えるのは、京都の景色

私たちの目を楽しませてくれる、魅力的で、楽しい景色は、すべてが自然に生まれてきたわけではない。またその美しさは、自然に維持されているわけでもない。特に、私たちに身近な景色は、私たちの意識的な努力によって、美しくもなるし、醜くもなるのであって、すべてが天賦のもの、所与のものではない。

京都には、由緒ある洗練された景色がたくさんある。景色の見方を学ぶのに、これほどふさわしい場所はないだろう。魅力的な景色を眺めながら、なぜ魅力的なのか、その理由を考えてみる。

次に、なぜその魅力が持続してきたのか、その理由も考えてみる。優れた景色をどのように保護・保全していったらよいか、という現実的な課題を、現代の京都は抱えているからである。これは、全国共通の課題でもある。



ゼミの進め方

目に見える世界が景色だ、と考える人が多い。しかし、景色はそれほど単純ではない。山を「景色として見る」から、山の景色があるのであって、山があれば山の景色があるわけではない。

そこで、日本人は、どんなものを景色として見てきたのか、その歴史を私が概説して、景色の見方の基本をまず知ってもらおう。教室の外に出るのは、それからである。

実際に出掛けていくのは、たとえば次のような場所で、そこを調べたことのある大学院生や教師がヒントを与えながら、その魅力や課題を考えてもらう。各学生は、その中から、一ヶ所を選んで、レポートにまとめて報告する。

○大文字山に登って、京都盆地の景色を眺めな

ら、桓武天皇がどうしてこのような景色の地に遷都したのかを考える。

- 東山山麓の景勝地を歩きながら、良好な景色がどうして保存・継承されてきたのかを考える。
- 三条大橋から四条大橋までの鴨川沿いの道や、高瀬川沿いの木屋町通りを歩きながら、水辺の景色が持つ価値と、課題を考える。
- 町家や高層ビルが混在する都心を歩きながら、解決すべき課題とその方策について考える。

工学研究科都市環境工学専攻

樋口 忠彦 教授

専門分野：景色学、生態地景色論

「京の食を学び、体験する」 農学部



テーマと目的

794年に平安京が建都されて以来、京都は多くの文化を育んできました。とりわけ食文化は、日本の代表的な伝統のひとつとなっています。現在「文化遺産」としてもとらえられている京の伝統野菜は、それらの味や食感を活かした食材として京の食文化の成熟に不可欠のものとなっています。また、京都は海から離れた内陸の地の故に各地の産物を美味しく食べる技、つ

まり食材の加工と調理の技術を編みだしてきました。これらは、現代日本の食文化の基盤となるとともに、諸外国でも受け入れられて来ています。

また、最近では京都の伝統食品に免疫力の強化やリラックス効果を持つ成分が含まれ健康に良いことなども明らかになってきています。体に良い日本食の原点を見いだすことが出来ます。本ポケットゼミでは、今日の京都の食文化を形成する複数の要素を現代科学の視点から学び、また物作りを体験することで理解を深めることを目的としています。あまりにも日常的事象であり思考することの少ない「食」の奥深さ、多面性を知ることにより生活の質を豊かにする知恵を見いだしてください。以下に具体的なゼミの内容を紹介します。

食品の素材を学ぶ

食品を構成する最も重要な要素は、素材です。京都の伝統野菜は京野菜とよばれ今やブランド化し、経済的な付加価値を高めています。食材としての京野菜を取り上げ、それらの特徴を歴史、栽培技術、利用法、経済などの面から考察します。

食感を学ぶ

食材は味覚のみならず歯ごたえ、喉ごしなどの食感に重要な役割を果たします。食の個人的嗜好性にも深く関わります。ここでは電子顕微

鏡を用いた構造的観察により食品の構成要素としての食感の基となる食材の特性を学びます。

食品の健康機能を学ぶ

近年、食品には栄養素の供給源としての役割のみならず、積極的に人間の健康を保ち、元気にしてくれる働き、機能があることが分かってきました。日常の食生活の重要性が指摘されています。京都の伝統食品中に健康に良い成分が含まれていることが最近明らかになってきています。体に良い日本食の原点がここにあります。

京の食を体験する

京の食文化の形成には、食材の加工と調理の技術の発達に欠かせませんでした。ここでは実際の物作りの現場を見学するとともに、自らトライアルすることにより理解を深めたいと考えています。食の幅と奥深さを知ることにより、参加者のその後の食生活が豊かなものになる切っ掛けになることを期待しています。

【写真】京の食文化を支える食材の交差点、錦市場



農学研究科
食品生物科学専攻

河田 照雄 教授

専門分野：食品分子機能学

留学生交流

留学生との交流や、海外への留学を通して相互の教育・研究水準を高めるとともに、異文化理解、国際協調精神を身につける。



〔写真〕 吉田キャンパス内の留学生との交流施設「KI・ZU・NA（きずな）」

留学生交流は、相互の教育・研究水準を高めるとともに、国際理解、国際協調の精神の醸成、推進に大きな役割を果たしています。更に、開発途上国の場合はその人材要請に協力するなど、国際貢献のための重要な国策とされています。京都大学では、現在 80 ヶ国から約 1,200 名の留学生を受け入れ国際色豊かなキャンパスとなっています。

近年、留学生交流の新たなニーズとして、大学に在籍しながら 1 年程度の短期間外国の大学に留学する短期留学が活発化しており、本学においてもこの留学を積極的に支援し、その施策を展開しています。

京都大学国際教育プログラムについて (KUINEP [Kyoto University International Education Program])

このプログラムは、海外の学生交流協定を締結している大学から学部学生を半年もしくは 1 年間受け入れて本学の学生とともに英語で教育することにより、本学学生の国際性を育成し、留学生との相互交流を活発にすることを目的としたものです。

開講科目は 24 科目で、本学の全学共通科目として提供し、単位を認定します。

短期留学推進制度について

この制度は、大学間の学生交流協定等に基づき海外の大学へ派遣される学生に対して我が国が奨学金を支給し、諸外国の大学との留学生交流の一層の拡充を図ることを目的として設けられたものです。

毎年、11 月頃に募集（※）を行い、書類選考及び必要に応じ面接を行い受給候補者を決定します。（採用数は若干名）

（※）募集期間は変更することがあります。

授業料等を不徴収とする大学間学生交流協定校への派遣留学について

この制度は、海外の大学との学生交流協定に基づいて本学の学部又は大学院に在籍しつつ、1 年以内の 1 学期又は複数学期、協定校で教育を受けて単位を取得又は研究指導を受けるものです。

毎年、10 月及び 1 月ごろに募集（※）を行い、書類選考及び必要に応じ面接を行い派遣留学生を決定します。

京都大学が学生交流協定を結んでいる相手は、19 か国 35 大学 3 大学群あります。京都大学を通じて出願手続きができ、留学先では授業料等を支払う必要はありません。

授業料等を不徴収とする大学間学生交流協定による派遣留学（交換留学）に関する Q&A

Q1：学生交流協定とは何ですか？

学生交流協定は、学生の交流（交換留学）についての取り決めで、①在籍する大学に授業料を納めることにより派遣先大学での授業料等が免除されることや②留学先で修得した

単位の一部を在籍する大学で修得したものと
して認める単位互換などについての取り決め
をしています。

Q2：派遣留学（交換留学）とは何ですか？

国際交流を促進するために、学生交流協
定に基づいて、互いに学生を留学させあうシ
ステムのことで、京都大学に在籍しつつ、1
学年以内の1学期又は複数学期のあいだ、
京都大学が協定を結んでいる海外の大学に
学位取得を目的としない留学をし、教育を受
けて単位取得し、又は研究指導を受けるもの
です。

Q3：語学力・学力はどのくらい必要ですか？

留学生生活を円滑に過ごすための必要最低
限の語学力は、渡航前から必要ですし、また
留学すれば自然と語学力が高まるというもの
では決してありません。日本の学校へ進学す
る場合と同様、留学にも一定以上の学力が
必要です。1回生の時から十分な準備をし、
派遣留学の応募書類提出時には、基準を満
たしているようにしてください。

英語圏への留学のための語学力証明書に
は TOEFL が使われることが一般的です。

非英語圏への留学についても日常生活で、
読む・聞く・話す・書くことができ、教育の
ため授業の聴講及び研究指導を受けること
のできる程度の力は最低限必要です。

**Q4：派遣留学（交換留学）の準備にはど
のくらいの期間がかかりますか？**

派遣留学（交換留学）を希望する学生は、
留学を希望する一学年前に、所属の学部・
研究科を通じて学内選考用の申請書（日本
語）を提出することが必要です。協定校が提
供する資料の中から、自分の専攻領域に合っ
たプログラムや履修したい講義を持つ大学を
事前に自分で調べてから、学内選考用の書
類を提出する必要があります。

派遣留学（交換留学）は、年度により募
集日程及び協定校に多少変更がありますが、
毎年10月及び1月ごろに募集を行います。

学内選考を通過した学生は、その後、留
学希望先の大学の願書に加えて、推薦状、
留学目的、研究予定等を記した書類を提出
することになります。

**Q5：派遣留学先で取得した単位は、京都
大学で認定されますか？**

留学先で修得した単位を本学で修得した

単位として認める単位認定制度があります。

**Q6：一募集期に、複数の大学に応募でき
ますか？**

できません。なるべく多くの学生に留学の
機会を与えるために、派遣留学希望先は一
校に絞っていただいています。

**Q7：大学の情報・資料はどこで入手でき
ますか？**

協定校から定期的を送られてくる資料は、
留学生ラウンジに保存してありますので、自由
に閲覧できます。そこにはないものは、各校の
インターネットサイトで見てください。

**Q8：派遣留学（交換留学）するための奨
学金はありますか？**

協定校への派遣留学生を対象とした奨学
金として、次の奨学金・助成金制度がありま
す。

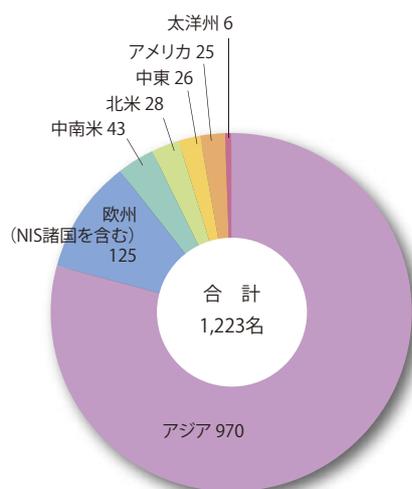
- ①独立行政法人日本学生支援機構の短期留
学推進制度（派遣）
奨学金 月額 80,000 円
- ②京都大学教育研究振興財団からの助成を
受けて、京都大学が実施する京都大学「留
学派遣」
渡航費の一部助成

留学促進のための説明会

学生のみなさんに海外への留学を身近に
感じてもらうため、年間を通して、各種の説
明会を開催しています。主な内容として、交
換留学、大学院レベルの留学、夏休み等
を利用する語学研修、TOEFL 対策等があり、
教職員、生協、関係団体、学生組織、留学
体験学生等による詳しい説明・体験談、協
定校から来ている留学生とその大学へ留学し
たことのある京都大学生のペアによる協定校
紹介など、有益な情報、助言の得られる機
会ですので、ぜひ参加して下さい。



**外国人留学生受け入れ状況
(平成 18 年 5 月 1 日現在)**



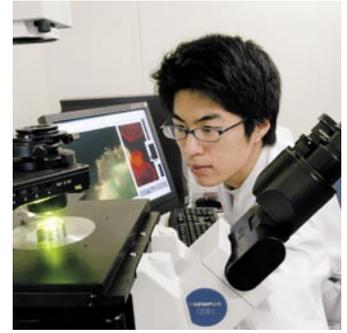
**大学間学生交流協定校への派遣実績一覧
(平成 17 年度)**

国名	大学名	人数
大韓民国	ソウル大学校	1
シンガポール共和国	シンガポール国立大学	1
タイ王国	カセサート大学	1
オーストラリア	シドニー大学	1
ニュージーランド	オークランド大学	1
オーストリア共和国	ウィーン大学	2
ベルギー王国	ルーバンカトリック大学	1
フランス共和国	ストラスブール大学連合	5
	グルノーブル大学連合	2
ドイツ連邦共和国	ミュンヘン大学	1
	ボン大学	1
オランダ王国	ハイデルベルク大学	2
	ライデン大学	2
スウェーデン王国	ユトレヒト大学	3
	ウプサラ大学	2
スイス連邦	ストックホルム大学	2
カナダ	ローザンヌ大学	1
アメリカ合衆国	トロント大学	2
	ケベック州大学学長長協議会	5
14 カ国	ジョージワシントン大学	2
17 大学 3 大学群		38

その他、学部・研究科独自の学生交流協定に基づく留学、
個人手続きによる短期語学研修、大学院生を中心とした
調査等、年間千件を超える海外渡航が京都大学生により
行われています。

大学院進学

学部教育で身につけた知識や技術をより深め、
次世代を担う研究者・実務者をめざす。



京都大学は、高い倫理性に支えられた「自由の学風」を標榜しつつ、学問の源流を支える研究を重視し、先端的・独創的な研究を推進して、世界最高水準の研究拠点としての機能を高め、社会の各分野において指導的な立場に立ち、重要な働きをすることができ、人材を育成するため、学部教育・大学院教育の更なる充実に努めています。これに伴い大学院進学者の割合は年々増加の傾向にあり、平成18年(2006)3月に2,225名が学部を卒業しましたが、その内、約62%が大学院に進学しました。

進学先については、基本的に学部と関連した大学院へ進学することが一般的ですが、異なる大学院へ進学することも可能です。又、学部を持たない独立研究科へは、様々な学部出身者が集うこととなります。

また、一部の学生においては、他大学の大学院へ進学する人もいます。

大学院のカリキュラム

本学大学院各研究科の標準修業年限は5

年であり、博士前期課程(前期2年の課程、本学大学院では修士課程と呼んでいます)と博士課程(後期3年の課程)に区分しています。ただし、医学研究科は標準修業年限が4年の博士課程、アジア・アフリカ地域研究研究科は5年一貫制の区分をしない博士課程、地球環境学舎地球環境学専攻は修士課程修了者を対象として後期3年の課程だけの博士課程です。

教育課程については、定められた単位(修士課程および医学研究科博士課程では30単位、博士後期課程では各研究科により定められている)を修得し、かつ、必要な研究指導を受けて、研究論文の審査と最終試験に合格すると修士もしくは博士の学位が授与されます。

独立研究科

独立研究科とは、その名のとおり学部を持たない大学院です。

人間・環境学研究科は、自然、人間、文化、文明にかかる諸学問分野の連携を通じて、新たな人間像と文明観・自然観の確立をめざす研究を充実発展させ、「専門知」、「統合知」によって人間および環境の問題に先見性と広い視野から対処しうる高度な研究者・実務者の養成をめざしています。

エネルギー科学研究科、情報学研究科および生命科学研究科では、それぞれの掲げる複合的学域の創出・深化に携わる研究者の養成を主眼にした大学院教育の体系化をめざしています。

アジア・アフリカ地域研究研究科では大学院5年一貫教育でフィールドワークを重視し、地域研究者や国際貢献できる実務者の育成を目的としています。

地球環境学舎は、地球環境問題の解明と解決のために、環境安定とそれを支える人間

活動の双方に資する新たな文明理念と科学技術知を構築すること、そしてそれを現実世界に適用しうる人材育成を行うことを目的として平成14年に設置されました。

開かれた大学院をめざして

現在、グローバル化時代の進展に伴い、職業を持つ社会人のリフレッシュ教育の推進が要請され、各種の制度が整備されています。これらの制度には社会人特別選抜、高度専門職業人養成大学院等のコースがあります。

【社会人特別選抜】

本学大学院においては、文学研究科、教育学研究科、法学研究科、経済学研究科、医学研究科、工学研究科、エネルギー科学研究科、情報学研究科および地球環境学舎で実施されております。

【高度専門職業人養成大学院】

従来の修士課程とは区別された大学院修士課程として、医学研究科で社会健康医学専攻を平成12(2000)年4月に開設、法学研究科で法曹養成専攻(法科大学院)を平成16(2004)年4月に開設、平成18(2006)年4月には公共政策専攻(公共政策大学院)および経営管理専攻(経営管理大学院)の2つの高度専門職業人養成大学院が開設されました。

医学研究科社会健康医学専攻について

本課程は、将来、保健・医療・福祉分野における専門職あるいは教育研究職につくことを希望する者が、「社会における人間」の健康に関わる問題を探知・評価・分析・解決するために必要な知識、技術、態度を身に付けることを目的としています。勉学の対象となる学問分野は、自然科学から人文社会科学にわたっていることから、あらゆる分野の

出身者で、国内外の保健・医療・福祉分野で高度専門職業人あるいは教育研究者としての活躍をめざす意欲あふれる者の応募を歓迎します。

なお、本専攻に平成16年度から知的財産経営学コースを開講しました。これからの日本は知的創造立国を志向しており、医療分野でも特許を広く認めようとしています。従って先端医学の研究成果を知的財産として管理・活用する高度専門職が求められています。この分野で活躍したい意欲あふれる応募者を歓迎します。

また、平成17年度から医師、歯科医師を対象とした1年制のコース（臨床研究者養成コース Master of Clinical Research : MCR）を開設しました。これまでの我が国の医学研究は、主に生命科学に重点をおいてきましたが、同時にヒトや集団を単位とした臨床研究を推進する必要があります。MCRは、この領域で活躍する研究者を育成するための我が国で初めての本格的な教育課程です。自らの臨床経験に根ざしたリサーチクエスチョンにもとづいた臨床研究を志す方の応募を歓迎します。

平成18年度より、遺伝カウンセラー・コーディネータユニット（「遺伝カウンセラーコース」・「臨床研究コーディネータコース」）を開設しました。ゲノム・遺伝情報を利用した医療、遺伝薬理学情報に基づいたテーラーメイド医療、新たな医薬品開発研究、再生医療をはじめとした先端医療研究に対応できる高度な専門的知識と技術ならびにコミュニケーション能力をもち、患者・家族・被験者の立場を理解して新医療とのインターフェースとなりうる人材を総合的に養成します。

法科大学院について

社会の大きな転換期にある現在、法や法の精神をよりいっそう社会の中に定着させることが強く求められています。そのためには、裁判制度の改革なども必要になりますが、とりわけより多くの法律家（法曹）を養成することが不可欠です。法科大学院制度は、そうした課題に応えるために構想されたものであり、本学でも、このような社会的要請に応えるため、平成16年4月に法科大学院を開設し、現在450余名が就学しています。

法学研究科・法学部は、わが国における法学・政治学の研究・教育の中心的拠点としての役割を果たしてきましたが、法科大学院においても、自主・独立の精神と批判的討議を重んずる伝統を継承し、自由闊達な教育環境の中で、法制度に関する原理的・体系的な理解、緻密な論理的思考能力、法曹としての高い責任感を涵養し、社会の抱える構造的な課題や最先端の法的問題に取り組むことのできる総合的な法的能力の育成を図ります。また実務的課題にも対応した教育を充実させるため、実務経験の豊富な多くの実務家教員を迎えたところであり、研究者教員と実務家教員が連携しつつ、理論と実務を架橋する高度な教育を通じて、法の精神が息衝く自由で公正な社会の実現のため、幅広い分野において指導的な役割を果たす創造力ある法曹を輩出したいと考えています。

公共政策大学院について

本大学院は、公共的な仕事に携わる高度専門職業人を養成する専門職大学院として、

定員40名をもって2006年4月に開学いたしました。専任として教育にあたる教員は12名ですが、他にも法学研究科、経済学研究科をはじめとして、それ以外の研究科の先生方、そして実務家の方々を加えた多くの教員が授業を担当いたします。

現代社会の複雑化に伴う様々な問題に取り組み、望ましい解決を与えるためには、公共的な立場から状況を把握するとともに、多様な知識を総合する能力を備えていることが求められます。こうした能力は、狭い意味での中央、地方の公務員や国際機関職員のみならず、今日ではシンクタンク、NPOやNGO、ジャーナリスト、そして社会的責任が増している民間企業において働く人々にも必要不可欠です。本大学院は、そうした能力を育成するために、法学・政治学・経済学・経営学を有機的に結合した科目や、実務経験者による具体的な事例に則した実践的な知識を涵養する科目を提供すると同時に、幅広い視野と教養を身につけるために原理的・歴史的知識を教授する科目も多数用意しています。

また、本大学院の特色として、少人数教育が挙げられます。各学生に履修指導教員がついて、学業上の悩みから進路の決定まで手厚く相談にのり、適切な助言を行います。定員が少ないので、教員と留学生や社会人も含む学生たちが共同してコミュニティを作り上げることが容易であり、それは公共的に考えるということを文字通りに体得することにもつながる、と考えています。

公共的な仕事に従事したいという使命に燃えた、そして強い倫理感を備えた方々が本大学院を志望されることを、期待しています。本大学院は、中央・地方レベルにおける国内行政および立法機関、国際機関、NPO/NGO、シンクタンク等の職業に従事する者のほか、一般企業において公共的な業務に携わる者など、公共政策分野の高度専門職業人、すなわち、優れた教養と公共政策の立案・遂行・評価に必要な専門的知識を有し、高い倫理的責任感を備えた人材を育成することを教育目標とし、この教育目標を実現するために、公共政策分野における理論的知見と実務的素養を架橋し、さらに実務における総合的能力と専門的能力との結合を旨とするカリキュラムを提供します。

本大学院は、公共政策分野における高度専門職業人を目指す大学学部卒業生や、すでに広く公共政策に関わる業務に携わっており、より専門性の高い能力を習得しようとする



〔写真〕法科大学院における模擬裁判による授業

る職業人など多様な人材を受け入れます。そのため、専門的な学識を問う筆記試験や、自己申告書等を踏まえた口述試験を組み合わせた総合的な方法により選抜を行います。これらの人材が、相互の刺激と切磋琢磨を通じて、公共政策に携わる使命感を共有し、今日の公共政策担当者に求められる実践的知識と長期的、総合的視点を獲得することを期待しています。

経営管理大学院について

社会情勢が大きく変化している中、マネジメントに関する高度な専門的かつ実践的な能力を有する真のプロフェッショナルが求められています。そこで、京都大学では、このような真のプロフェッショナルを育成するという社会的要請に応えるために、京都大学経営管理大学院を設置しました。

本大学院では、従来から欧米をはじめとするビジネススクールにおいて行われてきた教育体系を、論理思考教育により重点を置くことによって強化・洗練させ、実行性のある諸活動を通じて、経営管理に関する高度の専門的学識を持った高度専門職業人を養成・再教育することを目的としています。特に、職業経験を有した専門的知見を持つ社会人、文系のみならず理系のバックグラウンドを持つ学生、外国人留学生といった多様な人材を受け入れ、相互の刺激と切磋琢磨を通じて、現代の複雑なマネジメント諸課題に取り組むことができる実践的知識と論理的思考を獲得することを目指します。

多種多様なバックグラウンドを持つ人材を受け入れ、多様なキャリア・アチーブメントを実現するために、多数の開講科目を用意しています。また、それらの応用力の前提となる経営管理の基礎領域については、あえて必修科目を設定せず、スーパーバイザーが、それぞれの学生の知識や履修状況、そして将来の希望を踏まえ、履修すべき科目や学修すべき内容についてアドバイスをしていきます。このようなきめ細やかな、かつ厳しい教育体制を採ることで、意欲のある学生の期待に応え、今後の日本を変革できる人材の育成を図ります。

経営管理大学院に入学する学生に対して第一に求めるのは、現代の要求する複雑なマネジメント諸課題に積極的に取り組もうとする意思。第二に求めるのは、厳しい教育課程をこなしながら、教員とともに、経営管理大

大学院への進学（●印は主な出身学部を紹介しています。）

	総合人間学部	文学部	教育学部	法学部	経済学部	理学部	医学部	薬学部	工学部	農学部
文学研究科 文献文化学専攻 思想文化学専攻 歴史文化学専攻 行動文化学専攻 現代文化学専攻	●	●								
教育学研究科 教育科学専攻 臨床教育学専攻		●	●							
法学研究科 法政理論専攻 国際公共政策専攻 法曹養成専攻（法科大学院）	●	●		●						
経済学研究科 経済システム分析専攻 経済動態分析専攻 現代経済・経営分析専攻 現代経済学専攻 ビジネス科学専攻					●					
理学研究科 数学・数理解析専攻 物理学・宇宙物理学専攻 地球惑星科学専攻 化学専攻 生物科学専攻	●					●				●
医学研究科 医学専攻 医科学専攻 社会健康医学系専攻 生理系専攻 病理系専攻 内科系専攻 外科系専攻 分子医学系専攻 脳統御医科学系専攻							●			●
薬学研究科 創薬科学専攻 生命薬科学専攻 医療薬科学専攻								●		
工学研究科 社会基盤工学専攻 都市社会工学専攻 都市環境工学専攻 建築学専攻 機械理工学専攻 マイクロエレクトロニクス専攻 航空宇宙工学専攻 原子核工学専攻 材料工学専攻 電気工学専攻 電子工学専攻 材料化学専攻 物質エネルギー化学専攻 分子工学専攻 高分子化学専攻 合成・生物化学専攻 化学工学専攻 機械工学専攻 機械物理工学専攻 精密工学専攻	●								●	
農学研究科 農学専攻 森林科学専攻 応用生命科学専攻 応用生物科学専攻 地域環境科学専攻 生物資源経済学専攻 食品生物科学専攻	●									●
人間・環境学研究科 共生人間学専攻 共生文明学専攻 相関環境学専攻	●	●								
エネルギー科学研究科 エネルギー社会・環境科学専攻 エネルギー基礎科学専攻 エネルギー変換科学専攻 エネルギー応用科学専攻	●								●	●
アジア・アフリカ地域研究研究科 東南アジア地域研究専攻 アフリカ地域研究専攻						●				●
情報学研究科 知能情報学専攻 社会情報学専攻 複雑系科学専攻 数理工学専攻 システム科学専攻 通信情報システム専攻	●					●			●	
生命科学研究科 統合生命科学専攻 高次生命科学専攻	●					●		●		●
地球環境学舎 地球環境学専攻 環境マネジメント専攻	●	●							●	●
公共政策教育部 公共政策専攻				●	●					
経営管理教育部 経営管理専攻					●	●			●	

学院の一員として積極的に活動、貢献する知的意欲とその基盤となる能力および経験になります。意欲ある学生の入学を期待します。

学部第3学年から大学院への入学について

大学院工学研究科、エネルギー科学研究科、情報学研究科及び地球環境学舎では、大学に3年以上在学した者で、志望研究科が所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認められた者に、大学院修士課程の出願資格を認めています。

これは、大学院修士課程への入学を希望する学生で、かつ、成績が優秀な者には、早期に大学院での教育・研究指導を受けて、専攻分野における研究能力を養うことを目的とするものです。

また、優れた研究業績を挙げた者には、大学院修士課程では1年以上の在学期間で修士の学位が、博士後期課程に1年以上（修士課程の在学期間と合わせて3年以上）の在学期間で博士の学位が授与されることもあります。

就職支援

企業・組織での実務者として、社会での活躍を目指すために。
豊かな人生をおくるために。



【写真】「就職ガイダンス」の様子

キャリアサポートセンター

我々や企業を取り巻く経済状況に好転の兆しがあり、また団塊の世代の大量退職の関係もあって求人状況の改善が見られますが、各企業においては、より優秀でかつ自社に合う学生を求める傾向に変わりはなく、内々定獲得の二極化が進むなど、学生にとっては依然厳しい状況が続いています。一方、学生側も就職に対する希望が多様化しており、学生の希望と企業側の求める人材とのマッチングをいかに図るか、学生がいかに自分の能力や経験を活かせ、かつ適性にあった就職先を見つけることができるかが大きな課題となってきました。

また、大学院への進学率が高い本学では、学生自身が自分の進むべき道（将来の進路・職業）について早い時期から考えていくことは、充実した学生生活を送るうえで重要なことであると考えています。

キャリアサポートセンターでは、学生の就職活動を支援するため、各種就職関連ガイダンスや就職相談の実施に加え、各種企業資料・会社案内（パンフレット）、求人情報、OB・OG名簿、就職関連書籍・ビデオ・CD、企業主催のセミナー・説明会開催情報及びインターンシップ募集情報の収集・閲覧を行っています。就職関連書籍・ビデオ・CDについては貸し出しも可能です。

近年の就職活動においては、インターネットの活用が不可欠なものとなりつつあることから、キャリアサポートセンターに就職情報検索用のパソコンを数台設置し、学生が自由に利用できる環境を整えています。

ガイダンス等の開催

就職活動の概要を紹介する「就職ガイダンス」、企業の人事担当者を招いて企業概要や求める人材像等について説明を受け、併



【写真】キャリアサポートセンターにおける「模擬面接」の様子

せて業界研究を行うことを目的とした「企業ガイダンス」の実施のほか、少人数を対象とした自己分析講座、ビジネスマナー講座、個人又は少人数を対象としたエントリーシート添削、模擬面接などを実施しています。学部1・2回生向けには将来のキャリアについて考える「キャリアデザイン講座」を実施しています。また、有料の講座を、外部で受講するより割安で受けられるシステムを導入し、キャリアアップの機会増大を図っています。

平成17年度開催ガイダンス等一覧

行事名	実施回数等	のべ参加者数(人)
就職ガイダンス	6回	1,378
企業ガイダンス	15回	3,485
キャリアデザイン講座	3回	282
合同企業説明会	全4回 計7日	3,002
公務員関係ガイダンス等	全12回 計14日	917
就職セミナー	13回	1,628
エントリーシート添削	18日	93
自己分析指導講座	10回	57
公務員試験模擬面接	14日	65
模擬面接	16日	121
SPI 模擬テスト対策講座、SPI 模擬テスト	講座1回、 テスト2回	176
国家公務員I種採用試験対策講座(有料)	3講座、 計12日	70
マスコミ就職直前対策セミナー(有料)	1講座、 計7日	22
就職相談室	85日	379
計		11,675

就職相談室の開設

就職情報企業から就職指導の専門家を相談員として招き、就職・進路にかかる様々な相談に対応しており、専門的立場から適切なアドバイスを行っています(予約制)。気軽に、また、何度でもご利用いただけます。



【写真】キャリアサポートセンター

インターンシップ

— 実社会体験を学びに活かす —

インターンシップは、学生が在学中に企業・団体等の現場において実社会を体験する貴重な学びの機会です。

京都大学におけるインターンシップの活用

本学では、就業体験を通してキャリアアップを目指す在学生に対して、多種多様なインターンシップについての情報提供を行っています。国内の国公立・民間研究機関、地方公共企業体や民間企業等における現場での貴重な経験を、大学における学びに活かせるようサポートします。毎年多くの在学生がインターンシップを体験し、近年は、外国の研究機関や企業におけるインターンシップに積極的に参加する在学生も増えていきます。本学では、このような学外でのインターンシップを授業に採用し、学外の国公立・民間機関等で行った就業体験を単位として認定する制度を取り入れている学部（学科）や研究科もあります。

インターンシップの効果

社会の現場での就業体験を通して、次のような効果が期待できます。

- ・ 責任感や人間関係を学び、人間的に大きく成長することができる。[人間の成長]
- ・ 働くことに対してのイメージがより具体的になり、目的意識を持った就職活動を行える。[修業意識の高揚]
- ・ 自らの学生生活を振り返る良い機会となり、今、自分が何をすべきかが見えてくる。[学習意欲の向上]

インターンシップの類型

- ・ 学外実習等の授業科目とする場合。
→単位として認定します。
- ・ 学校行事等、大学等における活動の一環として位置づける場合。
→単位認定しません。
- ・ 企業等が実施するインターンシップのプログラムに学生が個人的に参加する場合。
→単位認定しません。

海外インターンシップ

世の中のグローバル化が進み、国際的な広い視野やコミュニケーション能力を身に付けることのできる海外インターンシップへの関心が高っています。

海外インターンシップ体験を希望する学生を支援するため、京都大学内においては、以下の2つの委員会が活動しています。

「外国での研修に参加しよう！」

— 京都大学イアエステ学内委員会

君達の中で、外国へ行ってみたいが、語学研修だけでは物足りない！

そうかといって直接留学に踏み込むのは少し怖い！と考えている人はいませんか？

君たちにぴったりなのがIAESTE（イアエステ）の提供する外国研修（海外インターンシップ）です。

インターンシップとは、学生時代に企業などで就業体験を行うことで、「社会で働くこと」を身近に体験できる実践的な機会です。

IAESTEは世界的な規模で、主として理工

農業系学生の外国の企業、大学、研究機関での交換研修（2～3ヶ月）を実施している機関です

(<http://www.iaeste.or.jp/>)。

「京都大学イアエステ学内委員会」は、京都大学内でこのイアエステ活動に関する情報提供と相談、派遣生募集とサポート、外国から研修に来る学生との交流などを行っています。興味のある人は是非ご連絡ください(連絡先: i-df@iaeste.office.or.jp)。

「皆さんも一緒に活動しませんか？」

— アイセック京都大学委員会

アイセックは、世界約90の国と地域に活動拠点を持つ世界最大規模の学生NPOであり、国際平和と人材の育成を目指し「海外研修生交換事業」「企画事業」も行っています。アイセックの海外研修生交換事業を通して、毎年約3,000名の学生が多種多様なインターンに参加しています。

(<http://www.aiesec.jp/>)

アイセックでは自分たちで活動を創っていくうちにたくさんの人と出会います。例を挙げると、インターンシップで日本に来たトルコ人、バングラデシュで農業研修をしている同世代の学生、台湾のアイセックで活動している人、インドへインターンシップに行った人...etc. 価値観の多様性や社会の可能性に触れる場をアイセックは提供してくれます。

あとは皆さんの積極的な姿勢と社会への好奇心次第です。アイセックは学生団体です。皆さんも一緒に活動しませんか？

(連絡先: kyoto@aiesec.jp)

平成17年度卒業者の進路状況

学部名	進路		卒業者数		進学者数		就職者数		臨床研修医		その他	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
総合人間学部	88	45	46	17	33	22					9	6
文学部	115	96	37	29	55	53					23	14
教育学部	28	40	7	16	18	18					3	6
法学部	283	127	89	37	87	31					107	59
経済学部	214	49	33	6	159	35					22	8
理学部	263	25	227	24	25	1					11	0
医学部	91	16	2	0	0	0	84	14			5	2
薬学部	51	34	42	30	2	1					7	3
工学部	891	72	788	60	73	9					30	3
農学部	201	101	168	83	28	17					5	1
合計	2,225	605	1,439	302	480	187	84	14			222	102

[資料] 卒業生の産業別就職状況について

平成 17 年度卒業生の産業別就職状況（医学部をのぞく）

産業	学部	総合人間学部		文学部		教育学部		法学部		経済学部		理学部		薬学部		工学部		農学部		男子計	女子計	総合計
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女			
農業																				0	0	0
林業																				0	0	0
漁業																				0	0	0
鉱業																				0	0	0
建設業		1						1								3		1		6	0	6
製造業	食料品・たばこ				1				1							3		2	1	5	3	8
	繊維工業・衣服	1		1					1		1						1			4	1	5
	印刷・同関連業		1	6	8															6	9	15
	化学工業・石油	2	1	1	1				4	1		1			1	3			3	10	8	18
	鉄鋼・非鉄・金属				1				2		2						1			6	0	6
	一般機械器具	1				1												1	1	3	1	4
	電気・機械器具								1	3	4						2	3		7	6	13
	電子・デバイス	2	1								1		1				5	1	1	10	2	12
	輸送用機械器具	1		2	1		1	3	1	1							3	1		10	4	14
	精密機械器具		1						1								2		1	4	1	5
	その他					2			1	1	8	3					1		1	11	6	17
電気・ガス・水道業								7	1	7		1				4			19	1	20	
情報通信業		3		10	9	5	3	10		1	1	11	1	1		16	2	5	4	62	20	82
運輸業		2	1	3	1		1	4	1	8						8		1	26	4	30	
卸売小売・飲食	卸売業		2	1	1	1		3	2			1				1		2	2	9	7	16
	小売業	2	1	1	2		1		1									1		4	5	9
金融・保険業	金融業	7	1	4	5	1	1	14	4	41	7	4				5		4	1	80	19	99
	保険業	1		2	1	1		9		9		1				1		1		25	1	26
不動産業			1	2	1			1		1						2			6	2	8	
飲食店・宿泊業							1												0	1	1	
医療・福祉	医療・保健衛生													1					1	0	1	
	社会保険福祉介護						1												0	1	1	
教育学習支援	学校教育		1	7	2	3	1		1			1							11	5	16	
	その他	1	2	5	1	3	2	1	1			2				1		2	13	8	21	
複合サービス事業								1	1	62	19					2			65	20	85	
サービス業	法務	1							2										1	2	3	
	学術・開発研究		1																0	1	1	
	宗教			1															1	0	1	
	その他	8	6	1	12	2	4	6	1	2	1	2				3		2	3	26	27	53
国家公務		2	2			1	15	9	4	3					2		2		25	15	40	
地方公務			5	5	1	1	2		4		1				5	1	3		21	7	28	
上記以外									3										3	0	3	
総合計		55		108		36		118		194		26		3		82		45				
男子計	女子計	33	22	55	53	18	18	87	31	159	35	25	1	2	1	73	9	28	17	480	187	667

ベンチャー起業

自らのアイデアを具現化し、ベンチャー起業を志す人を
様々な面からサポートします。



世界から注目されるロボットの開発



ロボ・ガレージ代表
高橋 智隆 さん
(2003年工学部物理工学科卒)

私は工学部在学中よりロボットに関する研究を基に試作機を製作し、ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーで行われている特許相談・起業支援などのプログラムを利用することで、技術やアイデアを企業に売り込む活動をしてきました。結果、模型玩具ロボットが世界中で販売されることとなりました。
そして、2003年の卒業と同時にベンチャー「ロボ・ガレージ」を創業し、ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーに拠点を置いてロボットの開発や事業展開に取り組んでいます。

起業を目指すみなさんへ (教育活動について)

VBL主催の講義、「新産業創成論」では、新産業創出への最近の動きおよび大学における取り組みを概論するとともに、ベンチャーの動向・企業経営、特に注目される学生起業のベンチャーや京都ベンチャーの内実、およびハイテクベンチャーの基盤となる知的財産権(特許)、今後の産学連携の在り方・戦略に関して、この分野で活躍されている実際の企業の経営陣・弁理士・研究者の方をお呼びし、受講生との討論を主体に行っています。

また、将来の産業・科学技術の発展の担い手となる起業家や研究者育成の一環として、ハイテクベンチャーの種となる技術アイデアの創出と特許化を支援するため、院生・学生・そして高校生を対象とした「テクノ愛」を財団法人近畿地方発明センターと共同で毎年開催しています。

ベンチャー起業支援システム

VBLでは独自のベンチャー起業支援システムを展開しています。そのシステムでは、「特許相談室」と「起業相談室」の2つの相談室を深い連携のもと推進し、ベンチャー起業を志す人のサポートを行っています。

特許相談室では、予約が入り次第随時国際イノベーション機構知的財産部のアドバイザーによる京大全学の教職員ならびに学生を対象とした知的財産(特許)に関する個別相談に無料で応じています。技術特許・ビジ



ネスモデル特許の出願相談に加え、発明の新規性、先行技術調査などを相談することができます。現在までに100件を越える出願特許がなされ、その内約30件が通常実施やオプション契約に至っており、相談者からだけでなく学内外からも高い評価を得ています。

起業相談室では、毎週水曜日に京都リサーチパーク株式会社プロジェクト開発部より専門アドバイザーに来館頂き、事業計画・法人設立や、大学発ベンチャーに不可欠な兼業申請手続き、経営コンサルタント、資金調達方法、インキュベーション施設の利用等について無料で相談することができます。

テクノ愛

ユニークな発想やベンチャー精神を持つ人材の育成の一環として、身近な生活に役立つ技術から最先端技術までの幅広いアイデアを、高校生・大学生などを対象に広く募り、審査により表彰します。優れたアイデアには表彰だけでなく、京都大学から特許出願を行い、さらに希望者には起業家へのアドバイス・サポートも行います。



京大ベンチャーズ 「サイエンス・グラフィックス有限会社」の設立



サイエンス・グラフィック (有)
取締役

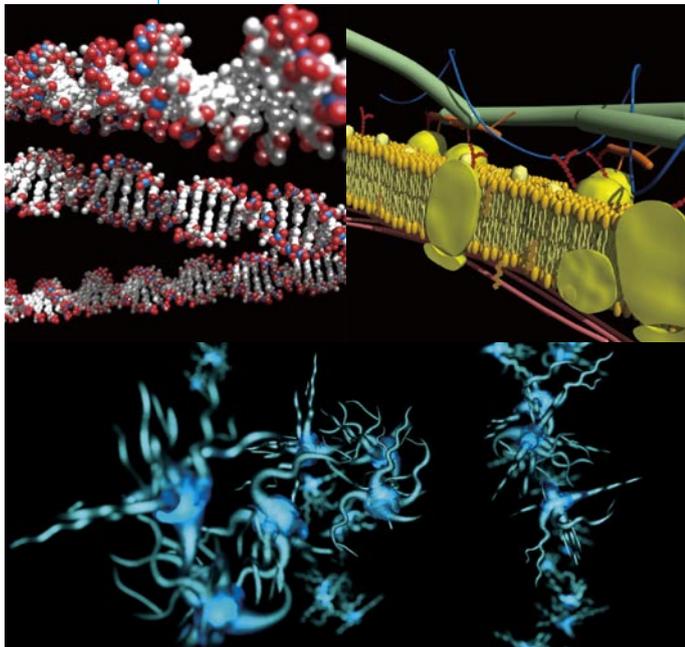
辻野 貴志さん

(2004年 工学研究科
合成生物化学専攻修了)

学部生の頃より科学技術を伝えることに興味があり、CGによる映像化やサイエンスライターとしての活動を行ってきました。さらにこの内容で事業を推し進めるために、2004年12月に京都大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーを拠点に「サイエンス・グラフィックス有限会社」を設立しました。

最近では大学、研究機関のほかにも、企業との取引も増えつつあります。また、これまで培ってきたCGデザインの知識を有形化すべく、CG関連のソフトウェア開発も進めています。

サイエンス・グラフィックス有限会社によるCGイラストレーション作品



京都大学 VBL

ベンチャー支援の京都大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー (VBL) は、全学の教育・研究施設として工学研究科を主体に、情報学・理学研究科、化学研究所等の教員・博士研究員および大学院生・学生を含む横断的で柔軟な運営組織から形成されています。「先進電子材料開発のための原子・分子アプローチ」を教育研究テーマとして掲げ、次世代の産業を支える基盤技術である研究開発プログラムの推進と、ベンチャー精神に富んだ創造的人材ならびに起業家マインドを持った若手研究者の育成を通して、本学の国際イノベーション機構 (IIO) 内の組織として、大学を核としたイノベーション創出活動を展開します。

2003年にはVBL内に、京都大学の教員や院生などの起業家の活動の場として、「京大ベンチャーズ」を開設しました。

さらに京大の学生・教員・職員を対象としたベンチャー起業支援システムとして「特許相談室」と「起業相談室」を開設し、特許取得方法やベンチャー起業ノウハウを無料で相談できる場を提供しています。

また、独創性とベンチャー精神に富んだ若手育成のための教育プログラムとして「新産業創成論」や「先端電子材料学」を開講し、そしてハイテクベンチャーの種となる技術アイデアの創出と特許化を支援するため、院生・学生・そして高校生を対象とした「テクノ愛」を毎年開催しています。

このようにVBLは、特許・起業相談室、各種講義などの試策を通してベンチャー起業支援を行うと共に、全学の教育・研究・基盤技術創成のための中核的推進拠点として機能しています。



[写真] 京都大学 VBL 外観



〔写真〕 附属図書館閲覧室

充実した資料の蓄積と、情報技術による 学術情報サービスにより、学習支援・ 研究支援を行っています。

〔教育・研究における図書館の役割〕

附属図書館

附属図書館は学習・教育・研究支援機能をもち、学生、教職員をはじめ、学術情報を必要としている人々に広くサービスを行っています。IT時代にふさわしい図書館をめざして、情報リテラシー教育、新生のためのオリエンテーション、留学生のためのオリエンテーション等各種講習会を実施しています。

蔵書は下の表に示されているように、附属図書館では約87万冊、全学で約615万冊所蔵しており、創立より107年にわたる歴史から、国宝「今昔物語集 鈴鹿本」をはじめ、古文献資料、特殊文庫、全集ものコレ

クション等、貴重なものが数多くあります。また、理工学系外国雑誌のセンター館として国内未収集の学術雑誌を東京工業大学と連携して収集し、全国の研究者の利用に供しています。また、学外からインターネットを介して京都大学附属図書館ホームページにアクセスして、次のページにあるようなデジタル化した貴重資料を見たり、京都大学が所蔵している図書や雑誌を検索することができます。学内からは電子ジャーナルと文献データベースが利用できます。

蔵書数（平成18年4月1日現在）

部局名	蔵書数			所蔵雑誌種類数		
	和書	洋書	計	和雑誌	洋雑誌	計
附属図書館	595,322	275,288	870,610	13,037	10,791	23,828
全学	3,143,875	3,002,771	6,146,646	49,958	50,070	1,000,028

注：全学の蔵書冊数に附属図書館の冊数含む

館内の施設・設備等

閲覧室	1,100 席
1 階	端末コーナー 参考図書、雑誌、新聞、常設展示、 ラウンジの各コーナー
2 階	開架図書と閲覧室
3 階	情報端末室、メディア・コモン、 A Vホール
地 階	書庫

3階の情報端末室には学術情報メディアセンターのオープンスペースラボラトリーとして80台のパソコンおよび情報コンセント64口があります。このパソコンの利用にあたっては学術情報メディアセンターへの登録が必要です。

蔵書検索システム

京都大学の蔵書は、京都大学 OPAC（オープンアクセス：オンライン蔵書検索 Online Public Access Catalog）で検索できます。京都大学 OPAC はインターネットで公開していますので、どこからでも検索できます。

URL [http://kensaku.libnet.kulib.](http://kensaku.libnet.kulib.kyoto-u.ac.jp)

[kyoto-u.ac.jp](http://kensaku.libnet.kulib.kyoto-u.ac.jp)

京都大学 OPAC は京都大学の蔵書約615万冊のうち約270万冊が検索できます。検索のページのキーワード欄に書名・著者名等を入力し検索をクリックすると、所蔵している本の書名と京都大学のどこの図書館（室）で所蔵されているかを知ることができます。最近では、中国語の簡体字やハングル等、多様な文字の表示もできるようになりました。

メディア・コモン (Media Commons)

附属図書館に、映像や音楽が楽しめる「メディア・コモン」があります。CD、DVDをはじめ多種のメディアに対応できるように構想され、勉学や研究に必要な映像や音声情報を活用できるほか、学生や教職員が読書や勉強で疲れた頭を映像や音楽でリフレッシュさせることができます。

ガラス張りの広さ240m²のスペースに、DVDやビデオ・カセットが見られる1人用個

人ブースが16席、窓越しに時計台や吉田山を見ながらCD、カセットを聴くことができる1人用ソファが8席、50インチの大型プラズ



【写真】メディア・コモン (Media Commons)

マ・ディスプレイで迫力ある映像を楽しむことのできる4人用AVコーナーが2カ所等合計32席があり、さらに5.1チャンネルスピーカーを装備したメディア・シアター (防音設備付/10席) などがゆったりとした空間に配置されています。

京都大学文学部卒業生である故片田清氏寄贈のCDコレクション、4,870枚のほか、DVD約870点 (映画, ドキュメンタリー, 音楽), ビデオ約760点 (ドキュメンタリー, 言語) などを置いています。

京都大学の学習・研究活動を支える 図書館・図書室群

- 附属図書館
- 附属図書館宇治分館
- 人間・環境学研究所・総合人間学部図書館
- 人環・総人図書館分室
- 文学研究科図書館
- 教育学研究科・教育学部図書室
- 法学研究科・法学部図書室
- 法学研究科附属国際法制文献資料センター
- 経済学部・経済学研究科図書室
- 経済学研究科・経済学部調査資料室
- 理学研究科・理学部
- 理学部中央図書室
- 数学教室図書室
- 物理学教室図書室
- 宇宙物理学図書室
- 地球物理学図書室
- 化学教室図書室
- 生物系合同図書室
- 地質学鉱物学教室図書室
- 医学図書館
- 医学部保健学科図書室
- 薬学研究科・薬学部図書室
- 工学研究科・工学部
- 地球系土木図書室
- 建築系図書室 (吉田・桂)
- 物理系図書室
- 航空宇宙工学図書室
- 電気系図書室 (吉田・桂)
- 化学系図書室
- 工業化学科図書室
- 資源工学図書室
- 農学研究科・農学部図書室
- 生物資源経済学専攻図書室
- エネルギー科学研究科図書室
- アジア・アフリカ地域研究科
- アフリカ地域研究資料センター図書室
- 情報学研究科図書室
- 地球環境学堂図書室
- 人文科学研究科図書室
- 漢字情報研究センター図書室
- 再生医科学研究科図書室
- 基礎物理学研究所図書室
- ウイルス研究所図書室
- 経済研究所図書室
- 数理解析研究所図書室
- 原子炉実験所図書室
- 霊長類研究所図書室
- 東南アジア研究所図書室
- 学術情報メディアセンター図書資料室
- 放射線生物研究センター図書室
- 生態学研究センター図書室
- 環境保全センター図書室
- フィールド科学教育研究センター
- 森林系図書室
- 瀬戸臨海実験所図書室

京都大学電子図書館 >> <http://ddb.libnet.kulib.kyoto-u.ac.jp/exhibit/index.html>

貴重資料画像

国宝「今昔物語集 鈴鹿本」

京都大学所蔵資料でたどる年表

このように京都大学は、国語の教科書に載っている古典作品や、歴史上の重大な出来事に関する資料を多数所蔵しています。

BC500

『論語』

500

『伊勢物語』

1000

『源氏物語』

1500

付喪神『御伽草子』

1800

『日本植物誌』
-シーボルト来日

1800

『國女歌舞伎絵詞』
-阿国歌舞伎

1800

『天正遣欧使節肖像画』

1800

『平家物語』



【写真】本部構内の正門横にあるカフェレストラン「カンフォアラ」

バランスのとれた食生活や、 書籍・文具・日用品など、 生協は生活のすべてをサポートします。

【京都大学生協同組合】

学内の各キャンパスには、京都大学生協同組合が運営するカフェレストラン、食堂、ショップなどがあり、京都大学での勉学・教育・研究生生活を幅広くサポートしています。

朝食から夕食まで、 食生活をしっかりサポート

生協食堂では安全で安心な食材を使用し、栄養バランスの取れた豊富なメニューで、朝食から夕食時間帯までの食生活をサポートしています。レシートへの栄養価表示や、食生

活や健康に関する情報の提供、食生活相談や体力測定など、学生の食の自立を応援し、健康への関心を高める企画に取り組んでいます。

書籍からパソコン、文具など、 勉学・研究生生活をしっかり サポート

講義に必要な教科書や専門書、雑誌から文具類やパソコンまで、大学での勉学や研究に必要とされる商品、サービスを提供してい

ます。特に書籍・雑誌は生協組合員の特典として定価の10%引（CDは15%引）で提供し、大変喜ばれています。

安全で安心な大学生活をサポート

行動範囲や社会的責任の広がる大学生活、事故や病気などの「万が一」に備えるため、「学生総合共済」に取り組んでいます。安い掛金で大学生活にぴったりの保障が自慢です。京都大学では約70%の学生・院生が加入し、給付金額は1年間（04年10月～05年9月）で736件、約4,617万円でした。事故や病気にあわないための予防活動や情報提供にも力を入れています。

京都大学の内外でも大好評、 「京都大学オリジナルグッズ」

最近急増している京都大学への観光客や修学旅行生などから人気の京都大学オリジナルグッズも生協で販売しています。手頃なボールペン・レポート用紙・Tシャツ・タオルなどから、贈答に最適のクリスタル用品や時計



【写真：左】ショップ内でのパソコンコーナー 【写真：右】 同じく書籍コーナー

京都大学生協同組合各施設の営業時間

キャンパス（学部）	施設の名称	営業時間（平日）	取扱内容等	
吉田キャンパス 北部構内 (理・農)	食堂部	8:20～21:00	1階: カフェテリア食堂, 2階: 喫茶(計250席)	
	購買部	10:00～18:00	文具・食品・日用品の販売等	
本部構内 (文・教・法・経・工)	中央食堂	8:00～21:00	カフェテリア食堂, 喫茶(計396席)	
	時計台生協ショップ	10:00～20:00	文具・食品・日用品の販売等 (薬品・クリーニングは10:00～17:00)	
	京大ショップ	10:00～17:00	京大オリジナルグッズ, 教員図書等	
	コンベンション・サービスセンター	10:00～17:30	JR チケット発券, イベントサポート, アルバイト紹介	
	生協本部	組合員センター	10:00～17:00	生協加入・脱退・共済給付申請
	正門カフェレストラン「カンフォーラ」	9:00～22:00	カフェレストラン(計100席)	
吉田キャンパス 吉田南構内 (全学共通・総人)	吉田食堂	10:30～16:30	1階, 2階: カフェテリア食堂(計587席)	
	吉田ショップ	8:30～19:00	文具・食品・日用品の販売, 教科書販売等	
吉田キャンパス 医学部構内 (医・薬)	食堂部	10:00～17:00	カフェテリア食堂, 喫茶(計174席)	
	ショップ	10:00～18:00	文具・食品・書籍などの販売	
吉田キャンパス 西部構内	カフェテリア「ルネ」	11:00～22:00	カフェテリア食堂(計494席)	
	ショップルネ	パソコンコーナー	10:00～19:00	パソコン本体・パーツ・周辺機器
		書籍コーナー		教科書・参考書などの専門書, 一般書, 雑誌等, スタディガイド
		旅行, プレイガイド		海外・国内旅行, プレイガイド等
ルネ南側別館	11:00～17:00	住まいの斡旋, リサイクル用品		
宇治キャンパス (各研究所)	食堂部	11:00～20:00	カフェテリア食堂(計168席)	
	購買部	10:30～18:00	文具・食品・日用品の販売等, JR チケット発券	
桂キャンパス	桂Bクラスター キャンパスショップ	10:00～18:00	文具・食品・日用品の販売等, JR チケット発券	
	桂Bクラスター カフェテリア食堂「セレネ」	11:00～21:00	カフェテリア食堂(計126席)	
	桂Bクラスター カフェ「アルテ」	9:00～20:00	喫茶(展望デッキ席もあります。計244席)	
	桂Aクラスター ショップ	10:00～20:00	文具・食品・日用品の販売等, JR チケット発券	
	桂Aクラスター ベーカーリーショップ「リュージュ」	8:00～20:00	焼きたてパン, 調理パン等	

詳しくは京都大学生協ホームページ <http://www.s-coop.net> をご覧ください。

のほか、「食べられるオリジナルグッズ」として喜ばれている八つ橋, かわらせんべい, 飴などもあります。また京大教員が考案した元素記号の立体周期表「エレメンタッチ」なども大学らしいと評判です。

京大受験生や, 新入生も 応援しています。

生協では京都大学を受験する皆さんの宿泊の手配も行い, 安心して受験していただけるようお手伝いをしています。受験の不安を和らげるなど, 受験生のサポートには在校生があたっています。

また毎年3月には新入生の住まい探しや生

【写真】百周年時計台記念館内にある「京大ショップ」。京都大学オリジナルグッズや京都大学の教員が執筆した書籍が購入できます。



活用品の購入ができる「新入生センター」を開設し, 京都大学での新生活がスムーズに始まるお手伝いをしています。

ほかにも, 京都大学オープンキャンパスでのキャンパスツアー開催や各種相談コーナー

の運営などを通して, これから京都大学を目指す人々へのサポート活動にも力を入れています。

学生生活を支援する制度や施設

学習・研究に安心して取り組んでもらうために。

[学生生活を支援する制度や施設]

身体に障害がある方たちへのサービス

本学では、身体に障害があつて、受験及び就学上の特別な配慮を必要とする入学志願者のための相談を常時行っています。受験及び就学上必要な特別措置等について協議いたしますので、ご相談ください。また、進路上の相談にも応じています。

なお、相談の内容によっては対応に時間を要することもありますので、この相談を希望する方は、出願前の早い時期に、志望する学部の教務掛へ照会してください。

(照会先については、92 ページを参照してください。)

履修相談

本学では、新入生を対象としたガイダンスを実施しています。全学共通科目については、高等教育研究開発推進機構が4月入学時に「新入生向けガイダンス」を開催しています。専門科目については、各学部において新入生向けガイダンスの実施や教務掛の窓口において履修相談に応じています。

(全学共通科目については、共通教育教務掛 [Tel.075-753-6508 ~ 6511] に照会してください。専門科目については、92 ページの各学部教務掛に照会してください。)

経済的に困難な方たちへのサービス

入学料・授業料免除等

(1) 入学料免除

入学前1年以内において、出願者の学資負担者が死亡し、又は出願者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、入学料の納付が著しく困難であると認められる方について、出願者本人からの申請により選考の上、全額又は半額を免除する制度です。

(2) 入学料徴収猶予

経済的理由により入学料の納付期限までに納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる方及び入学前1年以内に出願者の学資負担者が死亡し、又は出願者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、入学料の納付期限までに納付が困難であると認められる方について、出願者本人からの申請により

選考の上、入学料の徴収を猶予する制度です。

(3) 授業料の免除

本学では「授業料免除」と「授業料免除京都大学特別枠」という二つの免除制度があります。

「授業料免除」は経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる方及び入学前1年以内に出願者の学資負担者が死亡し、又は出願者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、授業料の納付が著しく困難であると認められる方について、出願者本人からの申請により選考の上、各期ごとに全額又は半額を免除する制度です。「授業料免除京都大学特別枠」は出願資格として学業優秀を条件としないこと、後期授業料(前期は実施しません。)の全額を免除することが「授業料免除」と異なっています。(問い合わせ先: 学生センター経済担当

Tel.075-753-2536)

入学時に要する納付金(平成18年度)

入学料	授業料
282,000円	(前期分のみ) 267,900円 (年額) 535,800円

*入学時に改定されることがあります。
*納付金は、全学部において同額です。

奨学金制度

学業成績や人物が優れかつ健康であつて、経済的な理由により就学が困難であると認められる場合に奨学金を申請することができます。

日本学生支援機構奨学金

高校在学中に大学進学後、貸与を受けようと希望する方に予約採用が、進学後に採用を希望する方に在学採用の申請方法があります。

なお、第1学年(編入学の入学年次を含む)において希望により、貸与月額の初回振込時(又はその翌月)に定額(300,000円)を増額して貸与する制度があります。

申込のできる方は、一定の収入金額以下の方、又は国の教育貸付け(国民生活金融公庫の教育ローン)を申込んで貸付を受けることができなかった方が申込めます。

貸与月額(平成18年度入学者)

	自宅通学者	自宅外通学者	採用数(注)
第一種奨学金(無利子貸与)	45,000円	51,000円	261名
第二種奨学金(きぼう21プラン)(有利子貸与)	3・5・8・10万円のうちから選択		242名

(注)平成17年度1年次在学採用数

地方公共団体奨学金及び民間団体奨学金

本学には、日本学生支援機構奨学金以外に地方公共団体奨学金及び財団法人、公益法人、民間企業等の出資による民間団体奨学金などの多様な奨学金制度があります。

募集等の条件は団体により種々異なりますが、募集時期はほとんどが4月~6月の間です。

なお、都道府県市区町村の教育委員会であり扱っているケースも多いので、直接出身地等の教育委員会に問い合わせるのもよいでしょう。

奨学金を貸与或いは給付されている在学生は、大学院生を含めて約340名います。

毎年約80団体より募集があり、約50名が新規に採用されています。

小口短期貸付金(学生援助会)

学生センターでは、病気や不慮の事故、家庭からの送金の延着、その他の急な出費に対し、最高5万円まで無利子で短期間(1~6カ月以内)の貸付融資を行っています。

なお、金額によっては、あらかじめ保護者等を保証人とする債務保証書を提出する必要があります。

(問い合わせ先: 学生センター経済担当

Tel.075-753-2535)

学生寄宿舍

本学の学部学生が入居できる学生寄宿舍は、右ページ上の表の3寮です。いずれも大学の近くにあり、便利で安価に生活することができます。詳しくは、学生部厚生課へお問い合わせください。

(問い合わせ先: 学生センター生活担当

Tel.075-753-2539・2540)

学生寄宿舎一覧

	吉田寮	熊野寮	女子寮
収容定員	147名	422名	35名
対象学生	男子・女子	男子・女子	女子
建物構造	木造 2階建(3棟)	鉄筋コンクリート 4階建(3棟)	木造モルタル塗 2階建(2棟)
居室様式	和室	洋室	洋室
食堂の設置	無	有	無
寄宿料(月)	400円	700円	400円
光熱水料等	2,000円から3,500円(各寮により異なります)		
通学時間(※)	徒歩約5分	徒歩約15分	徒歩約7分

※吉田キャンパス本部構内までの参考通学時間

下宿・アパート等の紹介サービス

学生センター生活担当では、入学手続の日から下宿・アパート等を紹介しています。風呂は無く、台所・トイレも共同ですが、その分、部屋代も安価で、4.5畳で15,000円、6畳で20,000円前後のものを紹介しています。

また、京都大学生生活協同組合では、アパート・マンション等の紹介をしています。

(問い合わせ先：学生センター生活担当

Tel.075-753-2533)

アルバイトの紹介サービス

学生センターでは、主に家庭教師・祭礼行列員等のアルバイトを紹介しています。

祭礼アルバイトは、京都の三大祭(葵祭、祇園祭、時代祭)等で、行列に参加したり、山車を引いたりするもので、学生生活の思い出にもなり、学生に好評のアルバイトです。

なお、その他一般のアルバイトは、京都大学生生活協同組合で紹介しています。

(問い合わせ先：学生センター生活担当

Tel.075-753-2533)

健康管理について

保健管理センター

本学学生の健康の保持と増進を図り、最適な健康状態で充実した学生生活を過ごしてもらうために、健康管理を専門的に行う施設として保健管理センターを設置しています。

センターには専任の医師と看護師がおり、定期並びに臨時健康診断や保健指導などの予防医療、応急処置などの初期診療、その他健康に関するあらゆる相談を行っています。病院などとは異なり、ちょっとした不安や疑問を解決するためにごく気軽に受診することができます。また、検査や投薬も受けられます。

個別の相談や診療は正門西側カフェレストラン・カンフォア隣の保健診療所で受け付けます。

保健診療所

保健診療所では、下記各科の専門医が、本学学生の傷病診療と健康相談・メンタルヘルス相談を行っています。

(a) 診療科名

内科 神経科 皮膚科 眼科
スポーツ整形外科 耳鼻咽喉科

(b) 診療受付時間

10:00～12:30, 14:00～16:30

(c) 休診日

土曜日、日曜日、国民の祝日及び年末年始(12月29日～1月3日)

は全日休診です。

なお、臨時休診日(定期健康診断実施日等)は、その都度受付の掲示板に掲示しています。

(d) 料金

学生の健康相談・メンタルヘルス相談及び正課中における負傷についての初診時の料金は無料です。傷病診療(薬価、検査料、処置料その他の経費)は実費となります。

(各科の診療などの問い合わせ先：

Tel.075-753-2405〈内科〉または

Tel.075-753-2404〈受付〉)

学生教育研究災害傷害保険

学生が、「急激」かつ「偶然」に「外来」の事故を被った場合の災害補償を全国的な補償救済措置として制度化されたもので、本学では、教育研究活動中等の不慮の災害事故補償のため、保険料も低額な本保険への全員の加入を強く勧めています。

また、インターンシップ、教育実習、介護

体験、ボランティア活動等において学生が万が一相手にケガをさせたり物を壊したりした時に備えて賠償責任保険の加入も勧めています。

(問い合わせ先：学生センター生活担当

Tel.075-753-2533)

京都大学学生健康保険組合

京都大学では、昭和25年より本学学生が、風邪やケガで学内の医療機関で治療を受けた場合、学生相互に医療費を補助することを目的とした、学生健康保険組合を設置しています。

この保険組合に加入すると学内の医療機関(京都大学保健診療所及び医学部附属病院)で受診した1年間に支払った医療費の総額が1万円までは50%を補助し、これを超えた場合は超えた額の10%を補助します。入院の場合は90日を限度に1日につき100円です

(入院期間中の医療費の補助は非適用)。組合費は1年間500円で全員が加入されるようお勧めします。

(問い合わせ先：学生センター生活担当

Tel.075-753-2534)

カウンセリングセンター

京都大学では、学生が学生生活を送る上で出会う様々な悩みや問題を相談できる場所として、カウンセリングセンターを設置しています。大学は、単に知的な学習・研究のためだけではなく、全人的な成長・発達のためのものであるべきものです。しかし学生生活の中で、自分だけでは抱えきれない問題が生じてくることもあるかもしれません。友人や家族にさえ話しにくい内容の場合もあるでしょう。そういう時のために、カウンセリングセンターがあるのです。

カウンセリングセンターでは、心理学(臨床心理学・相談心理学・青年心理学など)を専門とするスタッフが相談に応じています。現在、1年間に約500人の学生が相談に訪れ、のべ4,000回から4,500回に上る相談面談がなされています。

(カウンセリングセンターの詳細については、ホームページをご覧ください。

<http://www.kyoto-u.ac.jp/counseling/>)



第10回世界陸上選手権 に出場 男子競歩 20km で 25 位

体育会陸上競技部

杉本 明洋 さん

(出場当時、情報学研究所修士課程 2 年)

2005 年 8 月にフィンランドの首都ヘルシンキで行われた「第 10 回世界陸上選手権」の男子競歩 20 キロの日本代表として出場。右の写真はレース中の杉本さんです。



Club & Circle Activities

京大生は
勉強・研究だけではなく、
クラブ、サークル活動においても
優れた成績をおさめています。



第 27 回全国国公立大学 空手道選手権大会 女子団体組手 準優勝 体育会空手道部



文科系サークル (104 団体)

【音楽・ダンス系】

- 音楽部交響楽団
- 軽音楽部
- 音楽研究会
- 合唱団
- グリークラブ
- アカペラサークル・CRAZY CLEF
- ギタークラブ
- マンドリンオーケストラ吹奏楽団
- リコーダー同好会
- E.M.B.G.
- 軽音サークル・こんぺいとう
- 軽音サークル・ZETS
- 吉田音楽製作所
- 民族舞踊研究会
- ALL 京大舞踏研究会
- アマチュアダンスクラブ
- 箏笛会
- 千鳥会
- アンブラグド

【芸術・古典系】

- 劇団ケツベキ
- 劇団ペーパームーンシアター
- 映画部
- 映画文化研究会
- シネマ研究会
- 雪だるまプロ
- 漫画研究部
- アニメーション同好会
- 創作サークル「名称未定」
- 美術部
- 美術研究会
- 陶芸部
- 写真部
- 書道部
- 能楽部観世会
- 能楽部宝生会
- 能楽部金剛会
- 能楽部狂言会
- 心茶会
- 落語研究会
- 囲碁部
- 奇術研究会

将棋部 遊劇隊

【宗教系】

- キリスト者学生会
- 基督教共助会
- 平和哲学研究会
- 古典に学ぶ会
- 原理研究会

【人文・社会・自然系】

- クイズ研究会
- RPG 研究会
- SF 研究会
- 唯物論研究会
- 京大に在籍する在日韓国・朝鮮人学生の集い
- 韓国文化研究会
- 京都大学韓国人留学生会
- 京都大学留学生会
- アフリカ研究会
- 京大ムスリム協会
- 歴史研究会

地理同好会

- 鉄道研究会
- バス研究会
- 天文同好会
- 粋な科学の会
- 生物科学の会
- ころぼっくる
- 野生生物研究会
- 都市公書問題研究会
- 環境ネットワーク 4R の会
- 環境サークルえこみっと
- 社会科学研究会
- 機械研究会
- E.S.S.
- エスペラント語研究会
- 児童文学研究会・紙風船
- 点訳サークル
- 手話サークル
- グッドサマリタンクラブ
- さいもんめ
- 放送局・KUBS
- 現代社会研究会
- アジア連帯! 学生キャンペーン

刑事法研究会

- 探検部
- MPI (経営・政策勉強会)
- 京都大学かるた会
- きのこじき
- 京都大学自然農研究会

【その他】

- 学生平和委員会
- 人権研究センター
- ユネスコ学生クラブ
- ユニセフクラブ
- アイセック
- 全学学生自治会同同学会
- 西部講堂連絡協議会
- 文化サークル連合
- 応援団
- 11 月祭全学実行委員会
- 京都大学新聞社
- 京大学生新聞会
- 京大生協学生委員会
- 京大大学院生協議会
- ボランティアサークル Aile



第59回全日本アマチュア将棋名人戦 優勝

将棋部
浅田 拓史 さん
(法学部3回生)

2005年8月に行われた第59回全日本アマチュア将棋名人戦全国大会において、初出場、また、20歳4か月という史上2番目の若さで優勝しました。



トリプルアクセルを跳ぶ京大生

2005年ネーベルホーン杯(ドイツ)国際競技大会2位

体育会フィギュアスケート部
神崎 範之 さん
(農学研究科 修士課程1年)



「僕はフィギュアスケートを小さい頃からやってきましたが、受験の度に練習不足になり、なかなか成績が残せませんでした。京都大学に入ってから、その自由な学風のもと勉学をしながらまとまった練習時間も取れ、世界の舞台上で活躍することもできました。皆さんが受験に成功し、この京都大学で様々な経験を積めるように頑張ってくださいと思います。」



創部100年目にして 全日本選手権 初優勝 体育会ボート部

2006年6月に埼玉県戸田市の戸田漕艇場で行われたボートの第84回全日本選手権において、「男子かじ付きペア」で大会初優勝を果たしました。京都大学ボート部の創部100周年を飾るにふさわしい優勝ででした。右は優勝を決めた直後のクルー。左は「第57回京大・東大対抗ボートレース」の様。右側が先行する京大エイト。



体育会所属の運動部 (48 団体)

合気道部
アーチェリー部
居合道部
ウェイトリフティング部
空手道部
クライダー部
硬式庭球部
ゴルフ部
サッカー部
自転車競技部
柔道部
少林寺拳法部
スキー競技部
相撲部
ソフトボール部
卓球部
バスケットボール部
バレー部
ハンドボール部
フィギュアスケート部
ボウリング部
ボクシング部
ライフル射撃部
ラグビー部

アイスホッケー部
アメリカンフットボール部
ウィンドサーフィン部
カヌー部
弓道部
剣道部
硬式野球部
サイクリング部
山岳部
自動車部
準硬式野球部
水泳部
スピードスケート部
ソフトテニス部
体操部
馬術部
バドミントン部
バレーボール部
フィールドホッケー部
フェンシング部
ボート部
ヨット部
ラクロス部
陸上競技部

体育会に所属していない体育系サークル (38 団体)

京都を歩く会
散策の会
オリエンテーリングクラブ
ワンダーフォーゲル部
フリークライミングクラブ
神陵ヨットクラブ
硬式庭球同好会
硬式庭球同好会・フリーク
KIDDY KIDS
フレームショット
京大ソフトテニスサークル
テニスサークル・JUST OUT
京大T.C.T
スキー同好会・スノーパンサー
基礎スキークラブ・ラスカル
青城サッカークラブ
飛翔会
持久走同好会
メイプル・
バスケットボール同好会
バスケットボールサークル・フリークラブ
バスケットボールサークル・L.E.D

バレーボールサークル・JUSTICE
剣道同好会・指薪会
天之武産合気会
空手同好会
東洋医学拳法京都大学支部
太極拳同好会
圓和道部
ソフトボール同好会・プレッシャーズ
卓球同好会 SMASH × SMASH
バドミントンサークル・レモンスカッシュ
アルパトロスゴルフ同好会
アウトドアサークル・DOWN HILL
バードマンチーム・シューティングスターズ
京大フィッシングチーム
BREEZE
チアリーディングサークル
TREVIS
有機農業研究会

課外活動施設

北部グラウンド
北白川スポーツ会館
馬場(厩舎)
吉田南グラウンド
テニスコート
総合体育館
総合体育館附属プール
バレーコート
弓道場
アーチェリー場
相撲場 など

【学外の施設】
白馬山の家
白浜海の家
笹ヶ峰ヒュッテ
志賀高原ヒュッテ など

総合人間学部

Faculty of Integrated Human Studies

新たな「人間の学」をめざして

総合人間学部が望む学生像

本学部の基本理念に共鳴し、積極的に総合人間学の開拓を志す学生、また文系・理系の既成の枠に縛られることなく、多様化する21世紀国際社会のリーダーたらしめる学生、未知の分野・未踏の地を恐れず限りない好奇心をもてる学生、学を究めるためにはいかなる労苦もいとわず、その先に見えてくる新たな光に無上の悦びを感じることをできる学生、本学部はそういう学生が門をたくことを望んでいます。

学部概要

本学部は、平成4年10月1日に法令上設置され平成5年4月に第一期生を迎え入れた、京都大学で最も新しい学部です。

新学部を「総合人間学部」と名付けた理由は、本学部の研究・教育が、自然と調和した人間の全体的形成を目標とするものだからです。「総合人間学」とは、心理や思想といった内面、あるいは身体面からだけでなく、政治・経済・文化・歴史といった社会環境、さらには物質や生物などの自然環境との関係を含めて、人間存在のあらゆる面に光を当てようとする学問です。すなわち、人間と人間をとりまく世界を総合的に捉える新たな学問の確立が、総合人間学部に与えられた課題なのです。

現代社会の危機感の中にあるわれわれは、人間自身を最大のテーマとして取り上げます。そうしてこそ初めて人類生存や文明の可能性が求められるからです。このような根本的な問題の追究は、従来のように高度に専門化された研究だけでは不可能でしょう。京都大学の自由な学風と伝統のもとに、既存の個別科学の枠を越え、より多様で総合的な学問の場を提供することを、本学部はめざしています。

総合人間学部は、大学院人間・環境学研究科に直結する学部として構成されています。専攻分野の細分化を避けて、時代の要請に適應できる1学部1学科制をとり、総合人間学科の下に、人間科学系、認知情報学系、国際文明学系、文化環境学系、自然科学系の5学系の構成としました。

5学系全体で120名の入学生は、最初の1年間ほどの学系にも属しません。そして、自由に広い学問分野に触れた上で、2年進級時に自らの学系・主専攻を選択します。その際、前期日程「文系」または前期日程「理系」のいずれの入学試験を経たかは問われません。また広い視野を持つ創造性豊かな人間を育成する目的で、本学部は副専攻の制度を設けています。これは各自の主専攻の他に、異なる学問分野を系統的に履修することによって、幅広い専門知識を身につける制度です。副専攻を選択し、所定の単位を修得した場合は、卒業の際に、学士の学位記とは別に主専攻・副専攻を明記した専攻認定書が発行されます。

[写真] 吉田山山頂の気象観測塔(高さ約14m)



総合人間学部の教育

5つの学系

総合人間学部には、5つの学系があります。人間をめぐる現代の複雑な状況は、過去の人間について蓄積された叢智の上に、人間についての根源的、総合的理解を緊急に行う必要性を提起しています。このような必要性に応えるため、思想、社会、文化の3方面から人間の総合的な把握がなされねばなりません。この3側面から現代の人間を系統的に学ぶことによって、従来存在しなかった新しいタイプの人材を養成するため、「人間科学系」が設置されています。また、今日、人間と機械の情報処理の問題を総合的に学ぶことは、焦眉の急務となっています。脳の機能とは何かから、人間の認知、行動発言、言語機能の探求、その基礎にある情報科学と数理科学にいたるまで深く学ぶために「認知情報学系」が設置されています。

世界のグローバル化が進む状況のなかで、西洋ならびに近代主義と、非西洋とその固有の文明を複眼的に捉えることが要請されています。近代主義を主として社会科学領域や歴史文化研究の側面から分析し、いち早く近代化した日本のあり方を検討するとともに、東アジアとの比較を行うことによって国際的で新しい文明の理念を構築するために、「国際文明学系」が設置されています。また、世界各地の固有の民族性や地域性、人間にとって基本的な居住の視角から各文明の特質を解明し、文明相互の交流を理解するために「文化環境学系」が設置されています。

さらに自然を理解し、人間と自然の共生を保持するために、多様な自然現象を物理科学、物質科学、生物科学、地球科学的手法によって探求し、自然現象の構造や基本原理を明らかにする必要があります。自然科学の諸分野の基礎を学ぶとともに、自然と人間の共生関係を維持するための自然観・物質観念を養成するために「自然科学系」が設置されています。

以上5学系から総合人間学部・総合人間学科が構成され、それらのダイナミックな連携のもとでの教育と研究をめざしています。

専攻の決定

前期日程「文系」または前期日程「理系」という入学試験の形態にかかわらず、本学部入学生はすべて、入学後1年間、どの学系にも分属しません。自由な学風のなかで、幅広い学問分野に触れ、自分の専攻する分野を見極めた上で、2年進級時に主専攻を決めて、学系に分属されます。

4年一環教育

柔軟で広い視野をもつ知性の涵養を目的とした全学共通科目と、総合人間学部固有の授業科目を、4年間を通じて有機的に結合させたカリキュラムで実施します。大学院「人間・環境学研究科」の教員が、総合人間学部の学部教育を担当し、指導教員となっています。また、卒業研究指導教員とは別に、教員アドバイザー制度を設け、履修上の指導と学生生活上の相談に応じます。

副専攻制度

総合人間学部では、広い視野を持ち創造性豊かな人間を育成する目的で、主専攻のほかに、副専攻の制度を設けています。副専攻は、各自が所属する学系の専門分野以外の特定の分野を系統的に履修する制度です。これによって、専門以外の分野にも深い知識と素養を身につけることができます。副専攻は、指導教員とよく相談の上、各自で選択します。副専攻を修得したことに対しては学士の学位記とは別に副専攻名を記した認定書が発行されます。

大学院「人間・環境学研究科」

総合人間学部の大学院進学志望者の多くは、「人間・環境学研究科」を受験して進学

しています。また、本学の他の各研究科や他大学の大学院に進学することもできます。
「人間・環境学研究科」には、次の3専攻が設けられています。

共生人間学専攻

本専攻では、「人間相互の共生」という視点をふまえて、社会や文化の中に生きる人間存在のありようを探求し、人間同志が共に生きるなかから生まれる諸問題を解決できる人材を育成するための教育研究を行ないます。このため、人間社会論講座、思想文化論講座、認知・行動科学講座、数理科学講座、言語科学講座及び外国語教育論講座の6講座を設置しています。

共生文明学専攻

本専攻では、自然と人間・社会とを対峙させ、自然を制御することを文明の営みとしてきた西欧文明、及び自然との共生を文明の営みとしてきた地球上の他の文明を考察することによって、「文明相互の共生」を可能にする方策を探求し、関連する諸問題を解決できる人材を育成するための教育研究を行ないます。このため、現代文明論講座、比較文明論講座、文化・地域環境論講座及び歴史文化社会論講座の4講座を設置しています。

相関環境学専攻

本専攻では、従来の科学・技術・産業に内在する「開発」の論理を見直し、人類を含めた生態系の、全体としての存続に寄与することを志向する「人間と自然の共生」の論理を学問的営為に根づかせるべく、そのための新しい科学・技術のあり方を探求し、それとともに自然と人間との共生を図る新しい社会システムのあり方を模索し、関連する諸問題を解決できる人材を育成するための教育研究を行ないます。このため、共生社会環境論講座、分子・生命環境論講座、自然環境動態論講座及び物質相関論講座の4講座を設置しています。

さらに詳しく知るには

総合人間部のホームページ

<http://www.h.kyoto-u.ac.jp/>

入学についてのお問い合わせ

総合人間学部教務掛 **tel.075-753-6506**

在学生からのメッセージ



圧倒的な「知」との出会い

3回生

檀 朋美 さん

大学に入って私は、受験の反動で全く勉強しなくなり、無気力な一年半を過ごしました。しかしある時、総合人間学部の実習の授業を受け、素晴らしい先生方に出会い、私は目が覚めました。今まで気付かなかったのが不思議なほど、この学部には面白い事がいっぱいあったのです。国社数理全ての学問が学べる、総合大学を縮小したようなこの学部は、先生も学生も、ありとあらゆる知識と好奇心を持ち、高レベルの知的空間が広がっています。

反面、やりたい事が多くすぎて悩む学生が多いのは事実です。自分が本当にやりたい事は何か、その答えを見つけるために、色々な事に挑戦して下さい。そんな力も、この学部が求めるものだと思います。この場所で、自分の専門性を高めつつ、知性を磨いていく。そんな充実した日々を一緒に過ごしましょう。



総合人間学部を目指されるみなさんへ

3回生

吉田 雄一 さん

私は、高校生の頃から「大学において専門分野を学ぶことは確かに大切だが、できうことなら複数の分野にまたがって学びたいものだ」と考えていました。また、「大学生に相応しい教養を身につけたい」という思いも強くあったため、教養部を前身とする総合人間学部を選びました。

現在、私が取り組んでいるのは、主としてパレスチナ問題ですが、それを単に民族対立・宗教対立としてのみ扱うのではなく、その根底にある問題性にも触れる形でのアプローチを試みています。そのためには多角的な視野が必要なのですが、そのような視野を得るのに同学部のシステムは最適であると実感しています。何しろ、各分野の専門家が揃っておられるのですから。

問題意識をもち、主体的に学ぶ意欲に溢れる皆さんの入学をお待ちしています。

卒業後の進路

[進学]

約5割が人間・環境学研究科等の大学院等へ進学します。

[就職]

就職先は、官公庁や教育機関、マスコミやIT関連といった情報通信業、金融業、化学・電気・機械等のメーカー、広告会社等のサービス業等総合人間学部の性質上多岐に渡っており、卒業生は社会の広い分野で活躍しています。



就職先の例

衆議院事務局、日本経済新聞社、MIT、TIS、三菱東京UFJ銀行、みずほフィナンシャルグループ、野村證券、旭化成ケミカルズ、三菱電機、NEC、富士写真フイルム、博報堂DYメディアパートナーズ

就職者内訳

建設業1名/製造業11名/情報通信業3名/運輸業3名/卸売・小売業5名/金融業9名/不動産業1名/サービス業16名/教育・学習支援業4名/国家・地方公務員2名

総合人間学部で取得可能な資格

総合人間学部では、高等学校、中学校、養護学校の教育職員になることを目指す学生は、教育職員免許法の定めにより、所定の単位を修得し、所定の手続きを行えば免許状が取得できます。

また、博物館等の専門職員となるための学芸員の資格も、博物館法の定めにより、他学部の科目を修得することで、取得することができます。

総合人間学部で取得できる教育職員免許状の種類及び教科

種類	教科
中学校一種	国語、社会、数学、理科、保健体育、英語、ドイツ語、フランス語
高等学校一種	国語、地理歴史、公民、数学、理科、保健体育、情報、英語、ドイツ語、フランス語

卒業生からのメッセージ



一緒に総合人間学部でがんばりましょう

1998年卒業

京都大学大学院 人間・環境学研究科助手

戸田 剛文 さん

私は、総合人間学部の一期生です。学部卒業後は、人間・環境学研究科へと進学し、去年から助手として勤務しています。主に近代のイギリス哲学を専門に研究しています。学生から教員というように、立場は変わりましたが、平成5年の設立以来ずっとお世話になりつばなしです。

よく京都大学は自由だと言われ、事実そのとおりだと思いますが、自由な中で地に足をつけて進むには、周りに流されず、自分は自分と信念をもって生きることがとても重要です。それはそれで大変なのですが、それができれば京都大学はそういう個性の強い人に対してとても居心地のいいところですよ。特に総合人間学部は、その研究範囲の多様性もあって、いわば「学問の梁山泊」のようなところでもあります。そんな総合人間学部でひとあはれしてみませんか？



感性で生きよ

2005年卒業

NHK勤務

土田 正太 さん

人間についてトータルでみていくという視点は、卒業した今でも重要なだと考えている。そして、ひとりひとりの人間の魅力こそがこの学部の文化であると私は捉えている。

大学時代は運動科学を研究し、個人的にはルーマニア西部のジプシー文化に関心があり研究した。現在はNHKに勤め、ディレクターとして芸術、自然、医療、バラエティなどの番組を制作している。現代社会に対して、何をドキュメントし、伝えなければならないかという仕事だ。

諸君は新しい自己実現の段階を求め、大学というイメージを消費し、枝葉末節の知識や情報に達成感を覚えることと思う。しかし、大切なのは、表面的なすべてのものを削ぎ落とした後に露出する、考え方やイデオロギー、そして何の根拠もない感性を「信じる」ということである。豊かな人生を期待する。

学系紹介

人間科学系

本学系は、既存の人間についての知を踏襲しつつ、より包括的根底的な人間理解を目指す。その道筋として三つが考えられる。第一は「思想」の方向で、人間存在の哲学的、倫理的な解明ならびに芸術などの創造行為の思想的、歴史的解明がなされる。第二は「社会」研究の方向で、社会的存在としての人間の形成や社会行動について実証的、理論的研究がなされる。第三は「文化」研究の方向で、文学や映画などの文化現象について歴史的社会的研究がなされる。「思想」、「社会」、「文化」の三方向はさらに以下の六分野から成り、それらは相互に有機的に連関し、人間についての知を刷新して、新たな総合的学の構築を目指す。

人間存在論、創造行為論、人間形成論、社会行動論、文芸表象論、文化社会論

認知情報学系

脳、身体、言語、数値情報などに関する研究をおとし、人間の多様な創造世界に関する理解を深めることが本学系の目的です。人間同士、あるいは人間と環境との関わりは、脳、身体、言語等をインターフェイスとして行われています。環境の認識と環境への働きかけは脳内の認知機構と行動制御機構によって実現されるものです。人間相互のコミュニケーションは言語システムを媒体に行われ、それを媒介する計算機の情報処理には複雑な数値機構が関与しています。

本学系では、人間の健康や脳の機能から、人間の認知、行動発現、言語機能、そしてその基礎となる運動・代謝栄養医学、情報科学や数理学に至るまで、人間や機械の情報処理システムを総合的に学びます。その過程で、理系・文系という枠を超えた幅広い探究能力と、人間の認知行動の総合的理解に基づく科学的で柔軟な思考能力を身につけることを目指しています。

認知科学、行動制御学、身体機能論、現象数理論、数値情報論、言語情報科学、言語比較論、外国語教育論

国際文明学系

「タコツボ化」した社会諸科学や人文諸学が現代社会の直面する深刻な諸問題の解決に十全な有効性を発揮し得ないという指摘がなされるようになってすでに久しい。

学生諸君には、本学系が提供する社会科学系諸分野あるいは日本・東洋・西洋の歴史と文化に関する人文系諸分野のなかから特定のものを主専攻として選択しその研究に従事する一方で、関連諸学を領域横断的に学び、言葉の真の意味での「ユニバーシティ」で学んだ人間であれば当然に体得すべき高度で幅広い教養（リベラル・アーツ）と柔軟な思考に裏づけられた専門知識の修得を心がけていただきたい。

「何をどう学ぶか」を自分自身で設計したいと願う意欲的で主体的な学生よ、来たれ。

文化環境学系

文化環境学系では、近代文明のグローバル化が進展する現代にあつて、その基層単位をなす世界各地固有の民族性や地域性、人間社会にとって基本的な居住の諸相の実態と、将来的な意義を見定める視座の確立を追求します。また、各文明の地域的特性を多角的に比較しながら、文明相互の交流とその文化的所産、さらには文明の自己相対化の諸相を複眼的な視点から解明します。

教育方針としては、文明に関して日本人の常識が必ずしも世界の常識ではないこと、文明はたえず交流変化しつつ、その自己同一性は長く保たれるという複雑な存在であることを理解させ、文化や環境の諸問題を研究する上で、現場で学ぶことの重要性を身につかせます。

授業は、大学院・人間環境学研究科の以下の研究分野に属する教員によって行われます。

多文化複合論、地域文明論、文明交流論、文化人類学、地域空間論、環境構成論

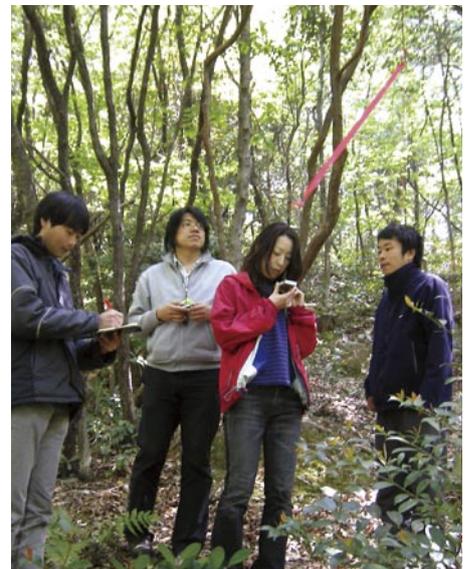
自然科学系

自然科学系は、物質や生命、地球・宇宙を支配する基本原理やその間の相関関係を理解することを目指した学系です。物理学、有機・無機化学、生物学、地球科学で構成されています。

それぞれの学問領域が持つ基本的な考え、知識を基礎とし、さらにその間の壁を越えて新しい領域を模索するために必要な教育と研究が行われています。自然科学の基礎に基づく「自然観」と、他の系での学修から得る「人間観」を組み合わせ、各自の「知」を求めることが目標となります。

講義は、大学院人間・環境学研究科の以下の研究分野に属する教員によって行われます。

分子環境相関論、生命環境相関論、生物環境動態論、地球環境動態論、物質物性相関論、物質機能相関論



吉田山の気象観測（微風向観測）の様子

専門科目

主専攻	科目
人間科学系	<p>[入門科目] 人間科学入門</p> <p>[人間存在論関係] 自己存在論A、自己存在論B、自己存在論演習A、自己存在論演習B、認識人間学A、認識人間学B、認識人間学演習A、認識人間学演習B、人間実践論A、人間実践論B、人間実践論演習A、人間実践論演習B、環境存在論、環境規範論、環境存在論演習、環境規範論演習、人間存在論特殊講義A、人間存在論特殊講義B、人間存在論特別演習</p> <p>[創造行為論関係] 創造行為論演習I A、創造行為論演習I B、創造行為論演習II A、創造行為論演習II B、近代芸術論演習A、近代芸術論演習B、近代芸術論A、近代芸術論B、舞台芸術論演習A、舞台芸術論演習B、舞台芸術論A、舞台芸術論B、創造ルネッサンス演習A、創造ルネッサンス演習B、創造ルネッサンス論A、創造ルネッサンス論B</p> <p>[人間形成論関係] 人間形成論、人間形成論演習I A、人間形成論演習I B、人間形成論演習II A、人間形成論演習II B、人間形成史論、人間形成史論演習A、人間形成史論演習B、関係発達論、関係発達論演習A、関係発達論演習B、精神病理学・精神分析学、精神分析学I、精神分析学II、精神病理学・精神分析学演習A、精神病理学・精神分析学演習B</p> <p>[社会行動論関係] グループ・ダイナミクス実習A、グループ・ダイナミクス実習B、人間行動論、社会情報論、人間行動論演習A、人間行動論演習B、社会情報論演習A、社会情報論演習B、宗教現象学、生命倫理学、宗教学研究法論演習A、宗教学研究法論演習B</p> <p>[文芸表象論関係] 英文文芸表象論講義A、英文文芸表象論講義B、英文文芸表象論演習I A、英文文芸表象論演習I B、英文文芸表象論演習II A、英文文芸表象論演習II B、英文文芸表象論講義I A、英文文芸表象論講義I B、英文文芸表象論講義II A、英文文芸表象論講義II B、ドイツ文芸表象論講義A、ドイツ文芸表象論講義B、ドイツ文芸表象論演習A、ドイツ文芸表象論演習B、ドイツ文芸表象論講義A、ドイツ文芸表象論講義B</p> <p>[文化社会論関係] ヒストリー・オブ・アイディアズI A、ヒストリー・オブ・アイディアズI B、ヒストリー・オブ・アイディアズII A、ヒストリー・オブ・アイディアズII B、ヒストリー・オブ・アイディアズ演習A、ヒストリー・オブ・アイディアズ演習B、動態映画文化論A、動態映画文化論B、動態映画文化論演習A、動態映画文化論演習B、制度・生活文化史A、制度・生活文化史B、制度・生活文化史演習A、制度・生活文化史演習B、メディア・スタディーズI A、メディア・スタディーズI B、メディア・スタディーズII A、メディア・スタディーズII B、メディア・スタディーズ演習A、メディア・スタディーズ演習B</p>

文学部

Faculty of Letters

文学部が望む学生像

知的な人間活動の基礎を明らかにする、そうした人文科学の諸学問に対して強い学習意欲をもち、研究への高い志を持つ新生を本学部は歓迎します。

学部概要

本学部は、明治39年(1906)9月、文科大学として創設、大正8年(1919)2月文学部と称されることになりました。文科大学開設の年、哲学科が、翌40年(1907)9月史学科、さらにその翌41年(1908)9月に文学部が設置され、45年(1912)5月までには当初の研究体制がほぼ整備されました。それ以後、時代の要求に応じて講座の拡充が行われてきましたが、平成4年(1992)4月より新たに文化行動学科が設置され、4学科、44講座、30専攻となりました。平成7年(1995)4月から4学科を廃止し、新たに人文学科1学科が設置されました。

人文学科設置にあたっては近年の人文科学研究のめざましい発展に即応するとともに、現在人類が共通にもつ様々な特性や、共通に抱える思想的、倫理的、文化的、科学的課題を基礎においた新しい人文学の構築を目指しました。この目的に沿って、より広い学問的視野に対応した哲学基礎文化学系、東洋文化学系、西洋文化学系、歴史基礎文化学系、行動・環境文化学系、基礎現代文化学系の6つの系と、その中に従来の専攻に相当する34の専修学問分野が設置されています。人類の思想や言語文化、歴史、行動さらには文化全般に関する諸学問です。

文学部では、2年生でそれぞれの系に、次いで3年生からは各専修に分属します。各専修とも人間社会についての深い知識と理解を必要とすることから、語学はもちろん、諸学を広く勉学することが望まれます。3・4年生時は、本格的に専門教育を行います。少人数の専門教育が原典に即して行われる場合が多くなります。また、各専修における高度の専門教育と並んで、人文学全体に対するより広い視野を養うため、それぞれの系を単位とした共通の授業も開講されます。卒業に際しては、演習指導をもとにして卒業論文を作成することが必要です。

[写真]

左：慶陵壁画

上中：チンギス・カン聖旨牌

上右：しずか

右下：ビエール・ペール『歴史批評辞典』

根源的な人間理解への多角的なアプローチ



文学部の教育

文学部とは？

言うまでもなく、文学部は詩人や小説家を養成する学部ではありません。そもそも、何か特定の職業に就いて生きるための訓練の場所ではないのです。それでは、何をやるのでしょうか。たとえば、人が仕事の手を休め、ふと我に帰って、自分の人生や家族や社会や時代について、ぼんやりと考えを巡らすとき、知らず知らずのうちに文学部の研究領域にそっと触れていると言えます。つまりその人は無意識の内に、人って何だろう、社会とは何かという根源的な問いの前に立っているのです。この種の省察は、生きる上ですぐに役立つものではありません。でも本当は、人が人である限り、大切にしなければならないものなのでしょう。それを問い、省察し、研究するのが私たちの文学部なのです。

多様な研究と学問的伝統

文学部の多種多様な研究を束ねる唯一のキーワードは、人間とその文化的営み。ですからその研究は、人類文化の遙かな起源から現代まで、地理的にはこの日本から始まって地球の全域に及びます。そのため、文学部の広大な研究領域をカバーする系と専修も実に多種多様です。学部生は2年生になる時に6つの系のいずれかに仮分属し、さらに3年生で34の専修のいずれかに分属します。それぞれの専修は、教員と学生(=学部生+大学院生)からなる独立した研究室を形成しており、学部生は教員や大学院生と授業等の場を共有することを通して、多くのことを学んでゆきます。さらに研究室の多くは、他大学で研究者として活躍している卒業生を加えた研究会を運営しています。この研究室を中心にした独自のネットワークの裾野が、各専修の学問伝統を支えているのです。

国際化と新しい研究者の育成

日本研究であれ、外国研究であれ、国内の評価だけで研究者として認められた時代は終わりました。今では国際交流の活発化によって、哲学、歴史、文学、行動文化学、いずれの分野でも、国際化が進行しつつあります。その中で、日本人研究者は世界の研究者と対等に渡り合い、自分の研究の価値を世界に認めさせ、国際研究水準の引き上げに寄与し、最終的には世界の研究者が、ナショナリズムの垣根を乗り越えて、相互理解の共通基盤に立つよう努めなければなりません。そのために文学部では学部生の段階から、外国留学や外国人研究者との交流、さらには専修横断の学際的な公開シンポジウムなどへの参加を通じて、国際スタンダードにかなった研究者を育てようとしています。

文学部の4年間

1年生の時に履修する科目はほとんどが全学共通科目で、ごく少数のものを除いて学部専門科目の履修は2年生になってからです。2年生になるとときには、3年生で専修に分属する準備として6つの系に仮分属します。文学部は理工系の学部と比べると規模は小さいですが、先にも触れたように34の専修があり、その研究内容は千差万別といってもよいくらいです。多くの専修での研究内容は皆さんにとっては未知のものですから、どのようにして専修を決定すればよいか、とまどうかもしれません。そこで、2年生では、1年生の秋に行った希

望調査に従って系に仮分属し、各専修が開講している入門講義や基礎演習といった学部専門科目を履修して、2回生の秋に希望専修を決定する準備をします。もちろん3回生になって専修に分属する際には、他の系の専修に分属することもできます。2回生で履修する文学部英語や各国語の文献講読は系の分属に従ってクラスが構成されて行われます。これは、各専門分野に関連した文献を読解するためのものです。

3回生では本格的な専門教育が始まります。各専修に分属して、講義の他、演習や特殊講義といった専門的な授業を履修しますが、中には大学院生と席を並べるものもあります。そのような授業では、大学院生と同じ資格で報告を行ったり、討議に参加することになります。最初は圧倒されてとまどうかもしれませんが、大学院生の真剣な態度から学問研究というもの身近に感じられようになるでしょう。

4回生では、卒業論文の作成が勉強の中心になります。各自が自ら論文のテーマを決定し、資料を集めて分析し、論文にまとめていく過程は、皆さんにとっては初めてのことで、ときには苦しいかもしれませんが、一つのを完成することの重要性を学ぶことができるでしょう。この経験は卒業以後の社会生活にとっても非常に有意義なものです。そして大学院へ進学して研究を進めようと考えている人にとっては、卒業論文が本格的な研究の最初の一步となります。

さらに詳しく知るには

文学部のホームページ

<http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/index-j.html>

入学についてのお問い合わせ

文学部第一教務掛 tel.075-753-2709

在学生からのメッセージ



ある哲学書生の場合

西洋近世哲学史専修3回生

稲岡 栄次 さん

西洋近世哲学史専修に分属して二ヶ月。哲学の奥深さと難解さが身に染みる今日この頃。まだ哲学的思考に不慣れなので、哲学史上の巨人達のテキストに閉口することも正直しばしばです。

そんな哲学書生の（公私に相通ずる）日常はというと（これはあくまで僕の場合ですが）、一日中「本の虫」。こんな、世間から乖離した日常に、ふと身震いすることもあります。

けれど、僕がこういう哲学書生になったのにも、それなりのきっかけがありました。というのは、つまり——ある日、生きるということが、わからなくなりました。「なんのために？」ということが——我ながら、よくもまあこんなむずがゆい台詞をぬげぬげと公言できたものだ！

もっとも、そんなむずがゆい台詞が真剣な学問の種になってしまうあたりが、哲学とか文学とかの言い知れぬ魅力だとも思うのです。



文学部で学ぶということ

国語学国文学専修4回生

三原 尚子 さん

私は国語学国文学専修で、日本の古典文学全般を学んでいます。卒業論文は芭蕉のことを書こうと思っています。

私の属する国語学国文学専修をはじめ、文学部の多くの専修で学ぶ内容は、将来の進路や職業に直接関係があるわけではありません。だからといって短絡的に「文学部へは行く価値がない」「文学部で勉強することは全く役に立たない」と考えるのは間違っていると思います。

確かに、文学部での学びは何かを覚えきいたら終わりとか、何かの実験を成功させたら終わりというものではないし、あやふやで分かりにくいものです。しかし、文献を読んで仮説を立て、それを検証するという文学部らしい(?)やり方を学ぶことは、今後の人生で大いに役立つと信じています。

是非文学部で、楽しい大学生活を送ってください。

卒業後の進路

ここ数年は、就職者が50%前後、大学院進学者が35%前後、他大学や各種学校への進学者が35%前後で、男女別に見てもその割合は大きな変化はありません。就職者の特徴としては、これまでは、公務員、教員、マスコミ関係が多数を占めていましたが、最近では通信業に就く割合が高くなってきました。また、一つの企業等に集中して就職するのではなく、幅広い業種に分散しているのが、大きな特徴です。



就職先の例

みずほフィナンシャルグループ、朝日新聞社、NTTコミュニケーションズ、NTT西日本、JR西日本、トヨタ自動車、富士通、共同通信社、三井住友銀行、静岡県庁

文学部で取得可能な資格

文学部では、教育職員免許状の取得を目的とした教職課程をはじめ、博物館学芸員の資格取得の教育課程を設けています。また、地理学専修の卒業生で測量に関する科目を修得し、卒業後1年以上測量に関する実務を経験した者は、測量士の資格を取得できます。他に、教育学部開講の所定の科目を履修することによって、図書館司書、学校図書館司書教諭の資格を取得できます。

取得できる資格：教育職員免許 中学校一種（国語・社会・英語・仏語・中国語・宗教） 高等学校一種（国語・地理歴史・公民・英語・仏語・中国語・宗教）

卒業生からのメッセージ



京大での学生生活を振り返って

2004年 卒業

京都大学大学院文学研究科社会学専修修士課程2年在学中

井波 和夫 さん

京大の持つ独特の雰囲気と存在感。これらに言い知れぬ魅力を感じ、京大に進学することを決意したのは高3の時でした。

学部時代には資格試験の勉強やサークルの運営、インターンなどに力を入れてきました。素晴らしい友人や仲間恵まれ、充実した日々を過ごすことができたと思います。

学業ですが、学部・大学院を通じて社会学を専攻しています。学説・理論の研究や、統計ソフトを用いたデータ分析、三重県熊野地方でのフィールドワークなどに取り組んできました。社会学という学問の有する幅広さと奥深さを噛み締める毎日です。社会学を学ぶことで得た、多角的な物の見方や現場第一の姿勢などを、社会人になってからも生かしていきたいです。

最後になりますが、これから大学生になられる皆様の大学生活が素晴らしいものになるようお祈り申し上げます。



本物の「知と学問」に出会う場所

1999年 現代史学専修卒業

外務省外交史料館 勤務

浜井 和史 さん

歴史とは何か。学問とは？ 自由とは？ 文学部で学んだ4年間は、こうした根本的な問いに対して大真面目に考え、心行くまで本を読みあさり、そして気が置けない友人たちと徹底的に語り合うことができた時間でもありました。文学部は、そうした知的好奇心・探究心を満たすには最高の環境だと思っています。

現代史学専修で外交史を学んだ私は、大学院でより専門的な研究に携わった後、歴史研究の専門知識を活かした仕事に就いています。学問の世界とは正反対ともいえる「官」の世界に身を置く現在でも、自分を見失うことなく専門性を充分に発揮した仕事ができるのは、文学部で培われた「知と学問」に対する情熱に負うところが大きいと実感する日々です。みなさんもこの文学部で、本物の「知と学問」に触れてみませんか。

学科紹介

哲学基礎文化学系

ここは、様々な文化圏・言語圏において蓄積されてきた哲学・思想を学び、新しい時代の思想の担い手たらんとする人材を育成する「場」です。そこはまた、社会や他の学問領域において自明とされている事柄が、原点に立ち返って問い直される「場」でもあります。「殺人は悪。」これは現代日本の常識です。でも、その根拠は何でしょう。そもそも「善・悪」の区別には、どんな意味があるのでしょうか。また科学や歴史学は「実証的な学問」を目指しています。しかし、ここで標榜されている「実証性」とは一体何なのでしょう。これらの問いを問うことは、文系・理系の枠を超えた人間の知的営み全般へと眼差しを向けることでもあります。哲学基礎文化学系とは、そんな知的野心あふれる「場」でもあるのです。

哲学、西洋哲学史(古代・中世・近世)、日本哲学史、倫理学、宗教学、キリスト教学、美学美術史(美学・芸術学、美術史学、比較芸術史学)

東洋文化学系

東洋文化学の5つの専修の名前から分かるように、「東洋文化学」の「東洋」は、日本、中国、インドのそれぞれを中心とした三つの文化圏を研究対象としています。それらの地域の文学、思想、語学、文化を歴史的に考察して行くのが、本系の主たる研究分野です。ただ、日本の文化は、中国文化の影響が大きく、中国文化はインド文化の影響を受けているので、隣接する国の文化の研究にも注意を払う必要があります。インド古典学では、紀元前から存在する多くの古典から、現代の口頭伝承までを研究対象としており、仏教学では、インドからチベット、中国周辺の仏教の研究を行います。中国関係では、専門教育の前に、中国語の学習をしていることが望ましく、インド古典、仏教学では、サンスクリットなど関係諸語、また英語、フランス語、ドイツ語の習得を重視しています。

国語学国文学、中国語学中国文学、中国哲学史、インド古典学、仏教学

西洋文化学系

西洋文化学系は、ヨーロッパおよびアメリカの文化と社会について、主として文学と言語の視点に立って研究教育を行っています。取り扱われる時代は、古典古代から中世、近代、現代までと広範囲にわたっています。どのような研究対象を選ぶにせよ、文献資料の正確な読解と整理が研究の基礎となるため、まず最初に十分な語学能力を養うことが大切です。また図書館には貴重な文献が多数所蔵されており、有効に活用することができます。西洋文化学系は次の7つの専修からなり、それぞれの文化圏の文学、言語、芸術、思想、社会に関心をもつ学生諸君を待っています。

西洋古典学、スラブ語学スラブ文学、ドイツ語学ドイツ文学、英語学英文学、アメリカ文学、フランス語学フランス文学、イタリア語学イタリア文学

歴史基礎文化学系

歴史基礎文化学系は、日本史学・東洋史学・西南アジア史学・西洋史学・考古学の5つの専修科目によって構成されています。文献史料を主な材料とする前四者と考古学では、研究方法は大きく異なりますが、いずれも人類社会の発展の状況を時間軸に沿って跡づけ、考察しようとする点では共通しています。また、文献・史料を読み解く基礎学力を重視し、演習・実習の授業の充実にも努めている点も5専修の共通点です。

文学部の図書室だけでなく、附属図書館・博物館や人文科学研究所などの近隣の施設に豊富な史料が所蔵されています。また、他の系で行われている授業—たとえば、地理学や現代史学、東西の古典語など—を合わせて学ぶことにより、人類文化の営みを総合的にとらえる視点を獲得することができます。とても恵まれた学習環境にあると言えるでしょう。

日本史学、東洋史学、西南アジア史学、西洋史学、考古学

行動・環境文化学系

心理学専修では、心の働きを実験を通して研究しています。基礎心理学、実験心理学、基礎行動学の分野では認知を中心とする基礎的領域を扱い臨床心理学は含みません。

言語学専修では、人間の言語が機能する仕組みについての理論的研究、現在話されている言語を調査・分析し記述する研究、古文書を読み言語の変化や、文献以前の言語について推定する研究などが行われています。

社会学専修では、社会を実証的分析を通して研究しています。社会学、社会人間学、比較文化行動学の分野では資料に基づく社会学、家族社会学、フィールドワーク研究などを扱っています。

地理学専修では、地域の形成過程や地域構造の分析を通して、地表空間における様々な人間活動を研究しています。地理学、地域環境学、環境動態論の各小分野では、地域現象全般、人間と環境の関係、景観とその変遷を対象とした研究を扱っています。

各専修ではそれぞれの分野について固有の基礎的な方法を修得することが不可欠です。講義内容を十分理解するために1、2回生から入門的講義、演習、実習や講読の必須科目を設定しています。

心理学、言語学、社会学、地理学

基礎現代文化学系

基礎現代文化学系は、科学哲学科学史、二十世紀学、現代史学、情報・史料学という4つの研究分野からなる小さな系ですが、現代の文化と社会について、人文学の視点から考察することを目指しています。現代は、人類史においてもっとも大きな変貌を遂げた時代だと言われます。その変貌を捉えるために、哲学や歴史、思想、文学といった従来の研究分野のみならず、映像や科学、情報といった現代文化を特徴づけるものではあるが、これまで人文学ではあまり扱われてこなかった分野にも視野に入れ、私たちの生きている現代をつねにグローバルな視点に立って考える学際的な研究を行っています。

科学哲学科学史、情報・史料学、二十世紀学、現代史学

専門科目(学部共通科目)

1回生～	2回生～	3回生～	4回生
サンスクリット(2時間コース)、現代インド語(ヒンディー語)	博物館学Ⅰ、博物館学Ⅱ、博物館学Ⅲ、博物館学実習、ギリシア語(2時間コース)、ギリシア語(4時間コース)、ラテン語(2時間コース)、ラテン語(4時間コース)、スペイン語(初級)、スペイン語(中級)、イタリア語(初級4時間コース)、イタリア語会話(中級)、朝鮮語(初級)、朝鮮語(中級)、サンスクリット(4時間コース)、チベット語(初級)、アラブ語(初級)、モンゴル語、オランダ語、リトニア語、英語、英語論文作成法、情報処理	ヘブライ語、イラン語(初級)、チベット語(中級)	

専門科目 (系別科目)

系	1 年生～	2 年生～	3 年生～	4 年生
哲学基礎文化学系		系共通科目 (哲学) 講義, 系共通科目 (西洋古代哲学史) 講義, 系共通科目 (西洋中世哲学史) 講義, 系共通科目 (西洋近世哲学史) 講義, 系共通科目 (日本哲学史) 講義, 系共通科目 (倫理学) 講義, 系共通科目 (宗教学) 講義, 系共通科目 (キリスト教学) 講義, 系共通科目 (美学) 講義, 系共通科目 (美術史学) 講義, 西洋哲学史講読, 日本哲学史講読, 美学美術史学講読	哲学特殊講義, 哲学演習, 西洋哲学史特殊講義, 西洋哲学史演習, 日本哲学史特殊講義, 日本哲学史演習, 倫理学特殊講義, 倫理学演習, 宗教学特殊講義, 宗教学演習, 宗教学講読, キリスト教学特殊講義, キリスト教学演習, キリスト教学講読, 美学美術史学特殊講義, 美学美術史学演習 I, 美学美術史学演習 II, 美学美術史学演習 III	卒業論文 (哲学), 卒業論文 (西洋哲学史), 卒業論文 (日本哲学史), 卒業論文 (日本哲学史), 卒業論文 (倫理学), 卒業論文 (宗教学), 卒業論文 (キリスト教学), 卒業論文 (美学美術史学)
東洋文化学系	系共通科目 (サンスクリット語学サンスクリット文学) 講義, 系共通科目 (インド哲学史) 講義, 系共通科目 (仏教学) 講義	系共通科目 (国語学) 講義, 系共通科目 (国文学) 講義, 系共通科目 (中国語学) 講義, 系共通科目 (中国文学) 講義, 系共通科目 (中国哲学史) 講義, 国語学国文学講読, 中国語学中国文学講読, 中国哲学史講読, インド古典学演習	国語学国文学特殊講義, 国語学国文学演習, 中国語学中国文学特殊講義, 中国語学中国文学演習, 中国語学中国文学外国人実習, 中国哲学史特殊講義, 中国哲学史演習, インド古典学特殊講義, インド古典学演習, インド古典学講読, 仏教学特殊講義, 仏教学演習, 仏教学講読 I, 仏教学講読 II	国語学国文学演習, 卒業論文 (国語学国文学), 中国語学中国文学演習, 卒業論文 (中国語学中国文学), 卒業論文 (中国哲学史), 卒業論文 (インド古典学), 卒業論文 (仏教学)
西洋文化学系	系共通科目 (西洋古典学) 講義, 系共通科目 (イタリア語学イタリア文学) 講義	系共通科目 (スラブ語学スラブ文学) 講義, 系共通科目 (ドイツ語学ドイツ文学) 講義, 系共通科目 (英語学) 講義, 系共通科目 (英文学) 講義, 系共通科目 (アメリカ文学) 講義, 系共通科目 (フランス語学) 講義, 系共通科目 (フランス文学) 講義, スラブ語学スラブ文学講読, ドイツ語学ドイツ文学講読, ドイツ語学ドイツ文学外国人実習, 英語学英文学講読, 英語学英文学外国人実習, アメリカ文学講読, アメリカ文学外国人実習, フランス語学フランス文学演習, フランス語学フランス文学講読, イタリア語学イタリア文学講読	西洋古典学特殊講義, 西洋古典学演習, 西洋古典学講読, スラブ語学スラブ文学特殊講義, スラブ語学スラブ文学演習, スラブ語学スラブ文学講読, スラブ語学スラブ文学外国人実習, ドイツ語学ドイツ文学特殊講義, ドイツ語学ドイツ文学演習 I, ドイツ語学ドイツ文学演習 II, ドイツ語学ドイツ文学演習 III, 英語学英文学特殊講義, 英語学英文学演習 I, アメリカ文学特殊講義, アメリカ文学演習 I, フランス語学フランス文学特殊講義, フランス語学フランス文学演習 I, フランス語学フランス文学演習 II, フランス語学フランス文学外国人実習, イタリア語学イタリア文学特殊講義, イタリア語学イタリア文学演習, イタリア語学イタリア文学外国人実習	卒業論文 (西洋古典学), 卒業論文 (スラブ語学スラブ文学), 卒業論文 (ドイツ語学ドイツ文学), 英語学英文学演習 II, 卒業論文 (英語学英文学), アメリカ文学演習 II, 卒業論文 (アメリカ文学), 卒業論文 (フランス語学フランス文学), 卒業論文 (イタリア語学イタリア文学)
歴史基礎文化学系	系共通科目 (考古学) 講義, 系共通科目 (先史学) 講義	系共通科目 (日本史学) 講義, 系共通科目 (東洋史学) 講義, 系共通科目 (西南アジア史学) 講義, 系共通科目 (西洋史学) 講義, 日本史学講読, 東洋史学講読, 西洋史学講読, 考古学講読, 考古学実習	日本史学特殊講義, 日本史学演習 I, 日本史学実習, 東洋史学特殊講義, 東洋史学演習 I, 東洋史学演習 II, 東洋史学演習 III, 東洋史学演習 IV, 東洋史学演習, 東洋史学実習, 西南アジア史学特殊講義, 西南アジア史学演習 I, 西南アジア史学演習 II, 西南アジア史学講読, 西南アジア史学実習, 西洋史学特殊講義, 西洋史学演習 I, 西洋史学演習 II, 西洋史学演習 III, 西洋史学講読, 西洋史学実習, 考古学特殊講義, 考古学演習 I, 考古学演習 II	日本史学演習 II, 日本史学実習, 卒業論文 (日本史学), 卒業論文 (東洋史学), 卒業論文 (西南アジア史学), 卒業論文 (西洋史学), 考古学演習 III, 卒業論文 (考古学)
行動・環境文化学系	系共通科目 (言語学) 講義 I	系共通科目 (心理学) 講義 I, 系共通科目 (言語学) 講義 II, 系共通科目 (社会学) 講義, 系共通科目 (地理学) 講義, 心理学実習 I, 心理学実習 II, 言語学基礎演習, 社会学特殊講義, 地理学講読, 地理学実習	系共通科目 (心理学) 講義 IIa, 系共通科目 (心理学) 講義 IIb, 系共通科目 (心理学) 講義 IIc, 系共通科目 (心理学) 講義 II d, 系共通科目 (心理学) 講義 II e, 心理学講義, 心理学特殊講義, 心理学演習 I, 心理学講読, 心理学実習 III, 言語学特殊講義, 言語学演習, 言語学卒論演習, 社会学特殊講義, 社会学演習, 社会学講読, 社会学実習, 地理学特殊講義, 地理学演習 I, 地理学講読	心理学演習 II, 卒業論文 (心理学), 卒業論文 (言語学), 卒業論文 (社会学), 卒業論文 (社会学), 地理学演習 II, 卒業論文 (地理学)
基礎現代文化学系		系共通科目 (科学哲学) 講義, 系共通科目 (科学史) 講義, 系共通科目 (情報・史料学) 講義, 系共通科目 (二十世紀学) 講義, 系共通科目 (現代史学) 講義, 系共通科目 (日本現代史) 講義, 系共通科目 (基礎現代文化学) 基礎演習 I, 系共通科目 (基礎現代文化学) 基礎演習 II, 系共通科目 (基礎現代文化学) 基礎演習 III, 系共通科目 (基礎現代文化学) 情報技術演習, 系共通科目 (基礎現代文化学) 講読 I, 系共通科目 (基礎現代文化学) 講読 II, 系共通科目 (基礎現代文化学) 講読 III, 系共通科目 (基礎現代文化学) 講読 V, 系共通科目 (基礎現代文化学) 講読 VI	系共通科目 (基礎現代文化学) 講読 IV, 科学哲学科学史特殊講義, 科学哲学科学史演習, 情報・史料学特殊講義, 情報・史料学演習, 二十世紀学特殊講義, 二十世紀学演習 I, 二十世紀学演習 II, 現代史学特殊講義, 現代史学演習 I, 現代史学演習 II	科学哲学科学史演習, 卒業論文 (科学哲学科学史), 卒業論文 (情報・史料学), 卒業論文 (二十世紀学), 卒業論文 (二十世紀学), 現代史学卒論演習, 卒業論文 (現代史学)

教育学部

Faculty of Education

教育学部が求める学生像

20世紀は教育が学校中心に機能した学校教育社会でした。しかし、21世紀は学校社会だけでなく、社会のさまざまな場所と一人ひとりの人生のさまざまな局面において、人間形成の営みがゆるやかにネットワーク化される「人間形成社会」が出現すると予想されます。これからの教育学は、この「人間形成社会」の展開過程で必要になる、新しい種類の〈教育〉を創造するという課題に取り組まなければなりません。

そのため、教育学部では、人間と社会について深い関心と洞察力をもち、柔軟な思考と豊かな想像力に富む学生を求めています。

学部概要

京都大学教育学部は昭和24年5月31日、新制京都大学が発足すると同時に設立され、同年7月1日第1回の入学者を迎えました。

教育学部の起源は、明治39年9月、京都帝国大学開設と共に設置された教育学教授法講座に発しており、同講座は昭和28年8月教育学部に移管されるまで、47年間にわたって文学部哲学科に所属し、その講座名からもうかがわれるように、教育学における原理と方法、理論と実践の統一を重視して、斯学の研究と教育に貢献してきました。

教育学部は、戦後の学制改革にあたって、教育という広範で複雑な諸現象とその学問的基礎となるべき教育諸科学の重要性をふまえて、この教育教授法を基礎とし、教育諸科学の総合的な研究・教育にあたる学部として発足しました。

このように教育学部は、教育諸学科の研究とその教育を任務とする学部として設けられましたが、同時に学部発足以来、本学の全学部学生のために、教育職員を養成するための教職課程の運営と教育に当たると共に、現職教員の再教育にも力を注いでいます。

また、戦後の社会の急速な変化に伴う青少年の発達上の問題にかかわる教育相談と治療を行うため、それまでの実践的蓄積を基に、昭和55年から心理相談室が開設され平成9年4月には、それを発展させた臨床教育実践研究センターが設置されました。

最近では教育心理学系スタッフを中心に、21世紀COEプログラム「心の働きの総合的研究教育拠点」を推進し多様な研究活動を行っています。「イメージと表象の性質と機能」「身体化された心」「文化・社会的環境との相互作用」「進化と生涯発達」という4つのテーマを軸に、国際シンポジウムやワークショップの開催、海外からの客員研究員の招聘、院生の海外派遣などさまざまな企画が実施されており、基礎研究から臨床実践まで包含しています。

また、平成17年度には独立行政法人日本学術振興会による平成17年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブにおいて、京都大学大学院教育学研究科の申請した教育プログラム「理論・実践融合型による教育学の研究者養成」が採択され、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成に取り組んでいます。

[写真]「教育社会学概論」の講義風景

人間しさを擁護し促進する態度を養う



教育学部の教育

学部教育の方針

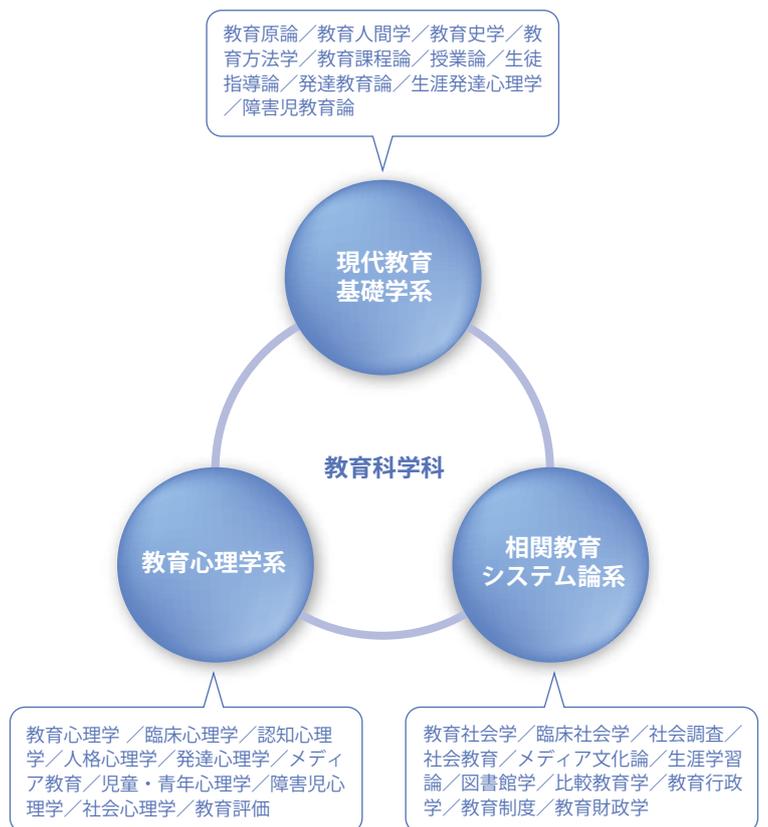
教育学部においては、一般教育と専門教育を有機的に関連させながら、現代人にとりわけ必要とされる、広い視野と異質なものへの理解、多面的・総合的な思考と批判的判断力を備えた「人間しさを擁護し促進する態度」を啓培するための高度な一般教育と幅広い専門教育を行っています。

学部4年間のカリキュラム概要

教育学部生については、1回生の必修科目として「教育研究入門」「情報学」を開講しています。また、全学の学生を対象にして、教職科目をはじめ、毎年継続的に多くの「全学共通科目」として講義及び少人数ゼミ等の教養教育科目を開講しています。

教育学部は、平成10年度から1学科（教育科学科）3大学科目（系）で教育編成を行っております。これは、教育の総合的理解が必要な学部段階では、教育に関する諸科学の修得に重点を置いた幅広い基礎教育を重視し、ゆるやかに専門的分化を図ることを目的としたものです。

それぞれの大学科目（系）における教育内容は、以下のとおりです。



教育学部では、入学選抜試験により毎年60名が入学しており、当初は主として基礎となる教養科目を履修しますが、次第に専門科目や高度一般教育としての教養科目を受講することができます。

平成19年度入試からは後期日程試験を廃止し、前期日程試験において、入試の多様化の一環として幅広い分野から学生を選抜する意味で、「文系」型、「理系」型入試を導入します。

入学当初は所属する系を特定せず、各自が学習を進めながら最も適した道を探して、3年次に系への分属を決めます。

平成6年度(1994)から2年次学生に対し、分属オリエンテーションを実施し、学生の希望分属を尊重しつつ、調整を図っていますが、系によっては単位修得状況等をもとに決定します。

その他

昭和58年度(1983)から、いったん他の教育分野で専門教育を受けた者、あるいは大学卒業後社会経験を積んだ者で再度本学部に入學して教育諸科学の勉学を望む者が近年増加しているのを受けて、一般社会人を含めた国内外の他大学卒業者を対象に第3年次編入学試験を行い、毎年約10名が編入学しています。

さらに詳しく知るには

教育学部のホームページ

<http://www.educ.kyoto-u.ac.jp>

入学についてのお問い合わせ

教育学研究科教務掛 tel.075-753-3010

在学生からのメッセージ



アットホームな環境で

教育科学科2年生

吉川 芙美代 さん

子どもの成長や発達心理に興味を持っていたものの具体的なイメージがわからず参加したオープンキャンパス。ある教授に相談したところ、「それなら教育学部が向いているよ」といわれ、この言葉が励みとなって教育学部を志望するようになりました。

教育学部というと教育のことだけを学ぶように考えがちですが、それだけではなく心理学や政治学、社会学など幅広い教養を身につけてそこから教育全体を見つめなおすことができます。私もさまざまな分野の学問に出会ったことで、夢が広がり、教育と人間形成への興味も深まりました。

また、一学部一クラスなので仲が良く、同回生はもちろんのこと先輩や後輩、先生方、たくさんの人と親しく交流できます。アットホームでオープンな雰囲気の中、充実した毎日を送ることのできるとても魅力的な学部です。



経験と対話を糧に

教育科学科4年生

中藤 信哉 さん

「人の心とはどのようなものなのか。」という漠然とした問いを抱えながら教育学部に入學して3年が経ちましたが、答えが出るどころか、疑問は深まるばかりです。

しかしながら、幸いなことに教育学部には、心理学、教育学の粋にとらわれず、人間に興味を寄せる人が多く集まっており、彼らとの対話、そしてそこから生まれる直感や思索は、人の心や教育を考える上で、非常に重要な示唆を与えてくれます。

私は今、自己像に関する葛藤が、人格形成にとって、また、ひいては自己という複雑で難解な概念に対して持つ意味に関して、臨床心理学的なアプローチを用いて何かしら自分なりの答えを出そうとしています。簡単に答えが出るような問題ではありませんが、経験や、周囲の人との対話を大切にしながら、これからも考え続けていきたいと思っています。

卒業後の進路

教育学部の平成17年度卒業生は68名で、そのうち36名(約53%)が就職しています。その中には教育(学校)関係に就職し、教師等になった人も数名います。また、23名(約34%)は大学院に進学しています。残りの9名(約13%)は聴講生等です。



[就職先の例]

NTTコミュニケーションズ, KDDI, バンダイナムコゲームズ, 共同通信社, 文藝春秋, 角川書店, 東海旅客鉄道, 阪和興業, みずほフィナンシャルグループ, みずほ銀行, 東京海上日動火災保険, NOVA, リクルートマネジメントソリューションズ, 家庭裁判所調査官

教育学部で取得可能な資格

本学部の修学期間内に教育職員免許法に定められた科目の必要単位を修得し所定の手続きをすれば、教育職員免許状の中学校1種、高等学校1種免許状を取得することができます。また、中学校、高等学校の免許状を取得し、免許法に定められた特殊教育に関する専門教育科目の必要単位を修得すれば、養護学校教諭1種免許状を取得することができます。

その他修学期間中に法律に定める科目の必要単位を修得すれば、それぞれ社会教育に関する指導・助言を与える社会教育主事、博物館の資料収集、保管展示及び調査研究などの仕事に携わっている学芸員、図書館法に規定している図書館において図書に関する職務に携わる図書館司書の資格を取得することができます。また教育職員免許状を有する者が図書館学に関する科目の必要単位を修得すれば、学校図書館司書教諭の資格を取得することができます。

卒業生からのメッセージ



出会いの場

2006年 卒業
(株)京都吉兆 勤務

近藤 夕円 さん

入学時は臨床心理士になりたい、という動機で教育学部を選びましたが、最終的には日本文化の精神や智慧の継承について関心を持ち、その現場を突きとめようと考え就職して、今に至ります。教育学部は様々な角度から人の変化を捉えようという、人間好きな人が集まっているように感じます。その好み方は十人十色。4年間の学部生活において様々な種類の先生方、先輩方、同輩、後輩と出会うことができました。また、私のように進路選択が定まらない変わり者の一人の受け入れ先があったことは、教育学部、京大ならではの恵みだと思います。4年間の学部生活では、見えないものや物事の奥にあるものを見通し、揺さぶられながらも自分の考えを持ち続けることの大切さを学んだように思います。



大学時代に得たもの

2005年 卒業
(株)リクルートマネジメントソリューションズ 勤務

石橋 慶 さん

「自分とは？」という問いに向き合うための「4年の自由期間」と「個性豊かな友人」を与えてもらったこと。今振り返るとそれが京都大学で学んだ最大の意義でした。

京都大学は「自由」が校風ですが、裏を返せば「大学は答えを出さないよ」というメッセージ。幸い4年という時間もあるので、嫌でも自分について考えさせる環境がありました。さらに教育学部は心理学から文学、果ては経済学にまたがる領域をカバーする小さな総合大学のような学部なので、多様な知識と個性を持つ人間が集まっています。自然、自分という存在が彼らによって照らし出されることになりました。

今も日々の仕事の中で「自分とは？」という問いは常に厳しく降りかかってきますが、そんな時に立ち返る自分のルーツはしっかりと京都大学にあります。

大学科目(系) 紹介

現代教育基礎学系

現代教育基礎学系は、哲学、思想、歴史、心理学などに基盤を置く専門分野から構成され、教育に関わる事象について、学校教育はもとより家庭教育、社会教育など広い領域を視野に入れた研究・教育を行っている。教育についてのものの考え方や見方が、どのようにして形成されるのか、人間の生成、成長発達はどうに捉えられるのか、実際の学校教育において、授業はどのような仕組みや方法で行われているのか、その教育内容はどんな原理で構成されているのか、など教育活動の基礎を様々な研究方法やアプローチを通して教授する。

教育の現場やフィールドとして人間の活動領域を捉え直し、教育学についての幅広くかつ周到な識見を備えた専門家を育てるためのカリキュラムを提供している。

教育原論, 教育人間学, 教育史学, 教育方法学, 教育課程論, 授業論, 生徒指導論, 発達教育論, 生涯発達心理学, 障害児教育論

教育心理学系

教育心理学系では、教育心理学、認知心理学、臨床心理学を中心に充実したカリキュラムが生まれ、他学部の心理学系教室とも連携して活発な教育・研究活動が行われている。

教育心理学では人の発達の特徴、教授-学習法、知能、メディア教育など、教育活動に密接にかかわる心理学的諸側面に関する知識の習得とその応用をめざす。認知心理学では、記憶、推論、意思決定、他者理解、共感といった高次認知過程の諸側面に関する主要な理論や知見を学習し、さらに心理実験調査等を実施して各自の研究をまとめる。臨床心理学では人格の形成、心理療法の諸理論、心の健康とストレス等に関する基礎知識を習得し、種々の心理検査の実習を通して臨床実践に役立つ手法を身につける。教育心理学系では、心の仕組みとはたらきについての幅広い識見と柔軟な思考力の育成を基本としつつ、大学院進学希望者の指導にも力を入れており、教育心理学・認知心理学・臨床心理学の研究者をめざす人、大学院修了後に臨床心理士の資格取得をめざす人にも適した教育カリキュラムを整備している。

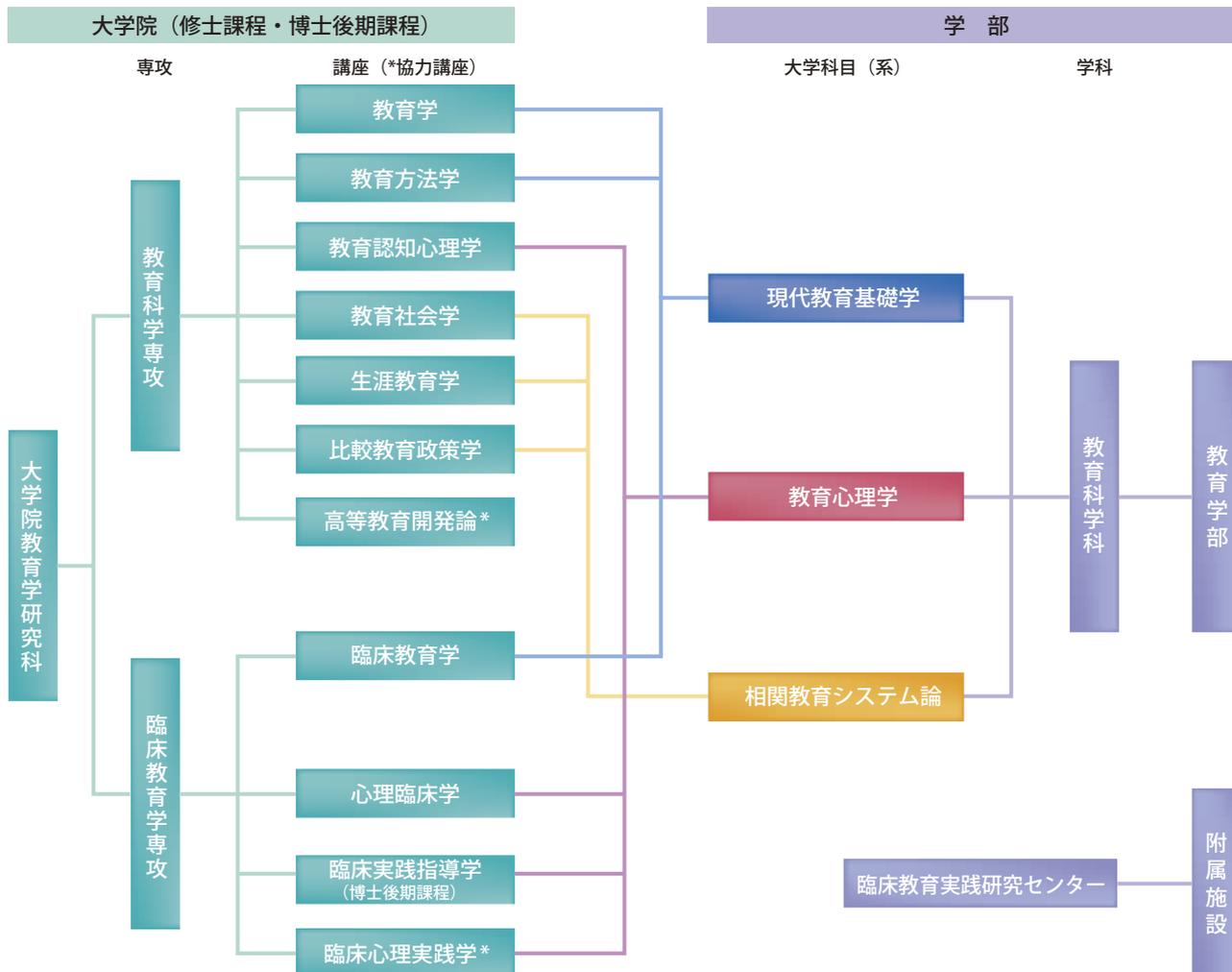
教育心理学, 臨床心理学, 認知心理学, 人格心理学, メディア教育, 発達心理学, 児童・青年心理学, 障害児心理学, 社会心理学, 教育評価

関連教育システム論系

21世紀は単に学校だけが教育にかかわるのではなく、社会全体が人間形成社会になり、そうした社会での教育の柔軟なありかた、ネットワーク化が課題になります。関連教育システム論系は、こうした方向を視野に入れて、教育と社会との結びつきを創造的に探求することを目的としています。教育社会学では、人間の社会形成にかかわる集団の教育作用について研究するとともに、学歴社会、青少年問題、教育変動などの諸問題を社会学的手法を用いて分析しています。生涯教育学では、図書館やメディアを含んで、生活のなかでの多様な学習のあり方を、とりわけ国際的・歴史的な観点から理論的、実践的な研究をしています。比較教育政策学では、国際的視野に立って、教育制度、政策、実践、理論などの比較考察をしています。また政策科学的視点からは、具体的に教育行財政についての立案などを行っています。学部教育においては、これからの社会と人間に求められている重要な課題を意識したカリキュラムを提供し、特に少人数のゼミや講義に特徴があります。

教育社会学, 臨床社会学, 社会調査, 社会教育, メディア文化論, 生涯学習論, 図書館学, 比較教育学, 教育行政学, 教育制度, 教育財政学

教育学研究科及び教育学部における研究・教育の概略図



専門科目

大学科目(系)	1 回生～	2 回生～	3 回生～	4 回生
現代教育基礎学系	教育研究入門Ⅰ・Ⅱ, 情報学Ⅰ・Ⅱ	教育原理Ⅰ・Ⅱ, 民族と教育, 教育史概論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 教育史, 教育学基礎演習Ⅰ・Ⅱ, 臨床教育学基礎演習Ⅰ・Ⅱ, 臨床教育学概論Ⅰ・Ⅱ, 身体教育学, 教育方法論, 発達教育論Ⅰ・Ⅱ, 生涯発達心理学基礎論Ⅰ・Ⅱ, 生涯発達心理学講義Ⅰ・Ⅱ, 生徒指導論, 精神保健Ⅰ・Ⅱ, 障害児教育の教育課程論, 教育方法学基礎演習ⅠA・ⅠB, 教育方法学基礎演習ⅡA・ⅡB, 学校論ゼミナール, 教育課程論Ⅰ・Ⅱ, 教育心理学実習A・B, 心理学統計実習A・B, 教育人間学概論Ⅰ・Ⅱ, 障害児教育指導法Ⅰ・Ⅱ, 小児の発育生理と衛生Ⅰ・Ⅱ	教育情報学, 教育学専門ゼミナールⅠ・Ⅱ, 教育史専門ゼミナールⅠA・ⅠB, 教育史専門ゼミナールⅡA・ⅡB, 教育史文献講読演習Ⅰ・Ⅱ, 教育史史料講読演習, 臨床教育学講読演習Ⅰ・Ⅱ, 臨床教育学専門ゼミナールⅠ・Ⅱ, 教育方法専門ゼミナールⅠ・Ⅱ, 発達教育専門ゼミナールⅠ・Ⅱ, 教育方法講読演習Ⅰ・Ⅱ, 発達教育講読演習Ⅰ・Ⅱ	
教育心理学系	教育研究入門Ⅰ・Ⅱ, 情報学Ⅰ・Ⅱ	認知心理学概論Ⅰ・Ⅱ, 人格心理学概論Ⅰ・Ⅱ, 児童・青年心理学講義, メディア教育概論, 発達教育論Ⅱ, 知覚心理学講義A・B, 発達心理学講義A・B, 社会心理学講義, 文化心理学講義, 教育認知心理学基礎演習A, 教育心理学実習A・B, 心理学統計実習A・B, 臨床心理学概論Ⅰ・Ⅱ, 障害児心理学講義Ⅰ・Ⅱ, 教育心理学概論Ⅰ・Ⅱ, 教育認知心理学基礎演習B, 発達教育論Ⅰ	教育情報学, 健康心理学講義, 発達心理学講義C, 認知心理学講義Ⅰ・Ⅱ, 比較心理学講義, 神経生物心理学講義, 多変量解析論, 乳幼児の心理学, 教育心理学コロキアムⅠA・ⅠB, 教育心理学課題演習Ⅰ, 認知心理学課題演習, 臨床心理学課題演習, 教育心理学講読演習Ⅰ・Ⅱ, 臨床心理学講読演習Ⅰ・Ⅱ, 臨床心理学実習Ⅰ・Ⅱ,	教育心理学コロキアムⅡ, 教育心理学課題演習Ⅱ
関連教育システム論系	教育研究入門Ⅰ・Ⅱ, 情報学Ⅰ・Ⅱ	教育社会学概論Ⅰ・Ⅱ, 臨床社会学概論Ⅰ・Ⅱ, 社会学講義, メディア文化論, 生涯学習概論Ⅰ・Ⅱ, 社会教育計画論Ⅰ・Ⅱ, 同和・人権教育論, 図書館情報学概論Ⅰ・Ⅱ, 図書館サービス論, 資料組織論, 図書館資料各論, 学習指導と学校図書館, 学校経営と学校図書館, 読書と豊かな人間性, 比較教育学概論Ⅰ・Ⅱ, 教育行政学概論Ⅰ・Ⅱ, 憲法第一部, 憲法第二部, 行政学, 財政学, 教育法学, 関連教育システム論基礎演習ⅠA・ⅠB, 関連教育システム論基礎演習ⅡA・ⅡB, 情報サービス論, 情報サービス論演習, 情報検索演習, 資料組織論演習Ⅰ・Ⅱ, 情報メディアの活用, 関連教育システム論基礎演習Ⅲ,	教育情報学, 教育社会学講義, 教育社会学史, 現代教育社会論, 図書館経営論, 図書館資料論, 比較教育学講義, 行政法第一部, 教育行政学, 教育経営学Ⅰ・Ⅱ, 教育社会学専門ゼミナールⅠ・Ⅱ, 社会調査Ⅰ・Ⅱ, 生涯教育・図書館情報学専門ゼミナールⅠ・Ⅱ, 比較教育学専門ゼミナール, 教育政策学専門ゼミナール, 関連教育システム論講読演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	

教職科目

1 回生～	2 回生～	3 回生～	4 回生
	教職教育論, 教育学概論Ⅰ・Ⅱ, 教育課程論Ⅰ・Ⅱ, 比較教育学概論Ⅰ・Ⅱ, 教育人間学概論Ⅰ・Ⅱ, 教育社会学概論Ⅰ・Ⅱ, 教育行政学概論Ⅰ・Ⅱ, 教育心理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 授業心理学Ⅰ・Ⅱ, 教育方法論, 道德教育論, 特別活動の理論と実践, 生徒指導論, 生徒指導の精神と具体的方策, 教育相談, 国語科教育法Ⅰ・Ⅱ, 社会科教育法Ⅰ・Ⅱ, 地理歴史科教育法, 公民科教育法, 数学科教育法Ⅰ・Ⅱ, 理科教育法Ⅰ・Ⅱ, 英語科教育法Ⅰ・Ⅱ, 保健体育科教育法Ⅰ・Ⅱ, 商業科教育法, 工業科教育法, 農業科教育法, 情報科教育法Ⅰ・Ⅱ, ドイツ語科教育法Ⅰ・Ⅱ, フランス語科教育法Ⅰ・Ⅱ, 中国語科教育法, 水産科教育法, 宗教科教育法, 民族と教育, 同和・人権教育論, 発達教育論Ⅰ・Ⅱ	教職総合演習, 教育実習Ⅰ	職業指導, 教育実習Ⅱ, 障害児教育実習, 教職教育

法学部

Faculty of law

法学部が望む学生像

法学部では、世界・国家・社会の様々な問題に対する強い関心を持ち、多方面にわたる学力、とりわけ社会科学に関する基礎的な学力を備え、論理的思考力に優れた学生を求めています。

学部概要

法学部は、明治32年（1899年）に法科大学として創設されました。それ以来、すでに33,600余名の卒業生を世に送り出しています。

創設期の教授陣は、東大法科をトップクラスで卒業した者を中心に30代の新進気鋭の学者から成っていました。彼らは、自由な学問研究を尊び、ドイツの大学に範を求めて、東京帝国大学とは異なる大学のあり方を模索しました。明治32年から行われた卒業論文制度とそれに関連した演習の必修化は、そうした模索の成果です。今では、そのような制度はそのまの形では残っていませんが、演習を重視するとともに、自由選択の余地をできるだけ広げ、学生の自主的学修を奨励するという伝統は、脈々と受け継がれています。

発足時の講座数は23でしたが、戦前すでに32講座に達し、戦後の経済・社会の急激な変容、文化・科学の著しい進展に対応して次第に拡充をとげ、昭和58年度には、大講座2を含め39講座を擁するにいたりました。平成4年度からは、研究・教育の国際化・学際化・高度化に対応して、従来学部配置されていた講座を大学院に配置した21の大講座へと再編するとともに、この大学院講座の担当者が学部教育を兼担するかたちに組織変更がなされました。平成16年4月には、法科大学院の設置にともない、大学院全体の組織に大きな変更がなされ、12の大講座に再編されました。

また、平成15年度には、本学部・大学院の「21世紀型法秩序形成プログラム」が文部科学省「21世紀COEプログラム」の一つに採択され、大きな補助金を得て、活発な研究を続けています。

法学部は、国家や社会のあり方を見直したり、組織を運営するときに必要な基礎的知識を養成することを目的としています。今日、世界も日本も大きな転換を迎えつつあり、それに伴って様々な問題が生じています。こうした状況に対応して新しい制度を設計するためには、互いの文化を尊重し交流することのできる豊かな国際感覚のもと、法律や政治の仕組みに関する専門的な知識と、社会全体を視野に収めながらそれらを組み合わせる構想力を養わなければなりません。法学部は、こうした能力を備えた人材を育成するために、豊かな教養と法律学・政治学の基礎的知識を提供することを使命としています。

〔写真〕「刑法第一部」の講義風景

未来を見つめ指導の人材を育てる制度知の一大センター



法学部の教育

卒業までの単位取得の仕組み

法学部を卒業するためには、各科目を履修し、試験で合格点をとる必要があります。法学部の試験は100点満点で採点され、60点未満は不合格となります。合格した場合、各科目の授業時間に応じて単位が与えられます。

本学は、夏休みを境に、1年を前期と後期の2学期に分けるセメスター制を採用しており、外国語および保健体育科目を除き、半期週1時間の科目は2単位、半期週2時間の科目は4単位となっています。卒業に必要な単位数を構成する科目は、教養科目と専門科目とに分かれます。教養科目は半期2単位が原則であり、専門科目には、2単位科目と4単位科目（週2時間）とがあります。卒業するためには、教養科目を46単位以上、専門科目については、演習2単位を含む84単位以上を取得しなければなりません。

第1・第2学年では主として教養科目を学ぶ

教養科目は、一般教養科目、外国語科目、および保健体育科目からなり、これらの科目は、「全校共通科目」として提供されます。

一般教養科目は、人文・社会科学系科目と自然科学系科目からなります。例をあげれば、人文・社会科学系科目は、哲学、心理学、社会学、歴史学、文学、経済学、政治学、法学等に属する科目群からなり、自然科学系科目は、数学、物理学、化学、生物学等に属する科目群からなります。卒業するためには、人文・社会科学系科目から5科目20単位以上、自然科学系科目から2科目8単位以上取得しなければなりません。

外国語科目は、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、イタリア語からなり、英語を6単位以上、その他の外国語のうち一つを8単位以上取得しなければなりません。外国語の単位の計算は、他の科目に比べて2倍重いのになっています。また、第一学年における外国語科目は、原則として学部のクラス単位で開講されます。

保健体育科目は、講義と実技それぞれ2単位、合計4単位まで履修することができますが、人文・社会科学系科目または自然科学系科目で代替することもできます。

これらの教養科目は、卒業までのどの学年においても履修することができますが、実際には、主として、第1および第2学年で履修するようにカリキュラムが編成されています。なお、本学では、1年生のことを1回生、2年生のことを2回生と呼びます。

高学年になるほど専門科目の授業が増える

1回生に配当される（つまり1回生のみが受講・受験することができる）専門科目は、通年4単位の外国語講読（英語）と、半期2単位の、法学入門、政治学入門、家族と法、司法制度論のみです。外国語講読は、原書講読方式による少人数教育を旨としており、クラス単位で開講されます。

2・3回生配当科目は、憲法第一部、憲法第二部、刑法第一部、民法第一部、国際機構法です。その他の専門科目は、原則として3・4回生配当科目ですが、2回生も一定限度内で受講・受験できる2・3・4回生配当科目というものもあります。2・3・4回生配当科目のうち、民刑事法関連科目としては、刑法

第二部と民法第二部があり、ほかに政治関連科目（政治原論、政治過程論、比較政治学、アメリカ政治、国際政治学、国際政治経済分析、政治史、日本政治外交史、政治思想史、行政学、公共政策等）と基礎法関連科目（法理学、法社会学、法制史科目）があります。政治関連科目と基礎法科目については、2科目に限り履修を認めることになっています。

3・4回生配当科目としては、憲法・民法・刑法の各分野の科目のほか、行政法、国際法、刑事訴訟法、民事訴訟法、商法、労働法、外国法等の科目と政治学の各科目があります。経済学部の一部の科目も受講・受験できるようになっています。

演習は3・4回生に配当され、半期2単位で、4単位まで履修できます。少人数クラスで周到な予習に基づいた活発な討論が行われることが期待されています。

科目選択の自由と主体的学習

こうしたカリキュラム編成の趣旨は、1回生・2回生では、専門科目を勉強する前提として必要な広くかつ深い教養を身につけることを主たる目標とし、専門科目の勉強も、法学については、中心科目の基礎的部分と基礎法科目の一部のみの学修にとどめ、政治学についても、その一部を学修するにとどめ、専門科目の本格的な勉強は3回生以上から始めることを推奨するという事です。必修科目はありませんので、このような趣旨を踏まえ、自分なりにどのような科目を選択し、学習計画を練っていくかは、すべて学生各自の主体的判断に任されています。もっとも、専門科目については、学生に対し堅実な学習を促すため、キャップ制を採用し、各学期において登録できる専門科目の単位数に上限を設けています。

さらに詳しく知るには

法学部ホームページ

<http://kyodai.jp/>

入学についてのお問い合わせ

法学部教務掛 tel.075-753-3107

在学生からのメッセージ



結論を導き出す力

学部3回生

河野 梓さん

複雑化する現代において、法による解釈はますます重要になると考えられます。法学部では、法律の知識に基づいて、結論を導き出す力を養うことができます。必修科目が存在しないという自由な学風の中で、自分の判断で学習計画を立て、知識や能力を伸ばしていくことができると思います。また、3回生からは、演習を履修することができます。演習では、教授の指導の下で、3・4回生が課題についての討論を行います。報告や質問を通して、理解を深める良い機会になると思います。



自由の気風にて

学部4回生

近田 明範さん

宿題もなければ出席もない、必修科目もなければ多くの講義にはレポートもありません。法学部には昔ながらの自由が多く残っていますが、逆にここまで自由だと「なぜ勉強するのか」、そこから考えねばならず、答えに悩んでいるうちにいつの間にか試験勉強の山に囲まれていることも…。自由の中、放埒や倦怠に陥らないように自律していくのは大変ですが、この先どんな場所でも自分のライフスタイルで生きていこうとするなら、それこそ人生の中で一番大切な勉強なのではないかなと思います。

とまあ、難しい話はこれくらいにしておいて、受験生のみなさん、「自由」に挑戦する気概のある方は是非、法学部の門を叩いてみて下さい！

卒業後の進路

卒業生の進路は、司法修習生、国家・地方公務員、民間企業、法科大学院を含む大学院への進学など多方面にわたっていますが、なかでも、平成16年度より開学した、全国各地の法科大学院へは、進学者の約80%が進学しています。また、平成18年度に設置された京都大学公共政策大学院は、入学者の1/3が本学部の出身です。民間企業への就職先としては、金融・保険業が比較的多いですが、業種を問わず幅広く広がっています。



法学部で取得可能な資格

法学部では、教育免許状の取得を目的とした教職課程を設けています。また、法学部以外の学部が開講する科目を修得することにより、その学部で取得できる資格や、受験資格が得られることがあります。

取得できる資格の例：教育職員免許状（中学1種社会・高校1種公民）

卒業生からのメッセージ



かけがえのない学生生活を

2005年 卒業

京都大学大学院法学研究科法曹養成専攻（法科大学院）

中 亮介さん

学部時代にはゼミ活動に積極的に参加していました。ゼミは、議論やイベントへの参加等を通じて皆で時間を共有することにより、人間としての幅を広げる絶好のチャンスです。おかげで私は、かけがえのない思い出や友人達を得ることが出来ました。皆さんもゼミ活動にはぜひ積極的に関わって欲しいと思います。

かねてより法律家に憧れていた私は、法科大学院へと進学しました。法科大学院では、研究者・実務家として第一線で活躍している先生方から様々なことを教わりながら、高い理想と能力を持った友人達から常に刺激を受けつつ、日々学習に励んでいます。学年が上がるにつれて学習内容もより実践的になり、ますます充実させています。法曹への道を進むのはそれなりに覚悟が必要ですし、厳しく大変であることは確かですが、しかしそれに見合ったやりがいと面白さがあると確信しています。



京都大学にて学んだこと

2005年 卒業

厚生労働省医政局総務課 勤務

宮邊 香奈さん

私は、大学では行政学ゼミ（秋月教授）に所属していました。ゼミでは、実際の政治・行政・社会の具体的事例を様々な角度から分析することにより、過去の学者により提唱されているモデルが実際にあらわれてくることに新鮮な驚きを感じていました。

過去から現在までの様々な具体的事例を見ていく中で、世の中の当たり前（と思われていること）を策定していくこと、社会の変化に対応した当たり前を策定していく行政に興味を持つようになり、国家公務員をめざすようになりました。配属先は厚生労働省医政局総務課で、5月現在医療制度改革に携わっています。

医療という誰にとっても身近な問題に取り組む中で、全体に対応して設計した制度が、現場の運用段階で個別のニーズに応えるものでなければならないということに難しさを感じていますが、実際に、目の前で展開していくことが、ゼミで学んだモデルを通じてみると新たな側面が見えることもあり、また自分の行動を考える上での基礎にもなっています。

教員紹介

大嶽秀夫 教授 (政治学)

1980年代以降の日本政治の動向とくに行政改革と政党再編の政治過程とその影響。

中森喜彦 教授 (刑法)

犯罪論の体系的構築。

棚瀬孝雄 教授 (法社会学)

現代法秩序の研究。弁護士や司法制度の問題にも取り組んでいる。

西村健一郎 教授 (社会保障法)

社会保障の法理論。

吉岡一男 教授 (刑事学)

犯罪現象の包括的理解にもとづいて、刑事法や刑罰など刑事制度を中心に、犯罪対応のあるべき姿を検討しています。

櫻田嘉章 教授 (国際私法)

生活関係の国際化に伴い、私人の間で発生する法律問題を解決するための基礎及び応用理論。

森本 滋 教授 (商法)

会社法の比較研究・金融関連法の研究。

芝池義一 教授 (行政法)

国や地方自治体が行っている行政活動のための法制度や個別の制度を分析するための「行政法の一般理論」について研究しています。

徳田和幸教授 (民事訴訟法)

民事訴訟における手続保障のあり方、多数当事者訴訟に関する諸問題等についての研究。

河上倫逸 教授 (西洋法制史)

ヨーロッパ近・現代法を歴史的文明現象として把握し、その比較研究。法の歴史的・社会理論の構築。

錦織成史 教授 (民法)

とくに、不法行為、損害賠償の分野を中心に研究しています。

初宿正典 教授 (憲法)

近代以降のドイツ憲法史にヒントを得つつ、日本国憲法の諸問題を特にドイツ憲法と比較しながら研究しています。

位田隆一 教授 (国際法)

国際法の観点から生命倫理の研究と実践を進めています。

岡村周一 教授 (行政法)

行政訴訟法その他行政法の諸問題の研究。

小野紀明 教授 (政治思想史)

特に20世紀の西洋政治哲学を哲学や芸術思潮と関連させながら研究している。他方で、今日の社会的問題に積極的に対応しようと試みる現代規範理論も、政治思想史を基礎として考察しています。

林 信夫 教授 (ローマ法)

ローマ社会における契約法を中心に、法の存在態様、展開過程の歴史的メカニズムの解明に取り組んでいます。

の場敏博教授 (政治学)

現代日本の政党政治を、①戦後日本の政党政治の流れの中に、②他の先進民主主義国との比較の中に位置づけています。

大石 眞 教授 (憲法)

民主制・議会制度を中心とした憲法学の研究を行うとともに、日本憲法史や宗教法制などを考察しています。

伊藤之雄 教授 (日本政治外交史)

日本の政党政治や外交の発達過程や近代・現代国家の展開と共に、伊藤博文・原敬などの有力政治家を考察しています。

山本 豊 教授 (民法)

契約の内容規制、消費者契約、電子契約など現代契約法の先端的問題の研究。

寺田浩明 教授 (中国法制史)

伝統中国における法(成文法や裁判や契約)のあり方を比較法史的視点から研究しています。

木南 敦 教授 (英米法)

アメリカ合衆国の法制度について比較という観点を取り入れて研究しています。憲法、信託法、小切手法といろいろ取り上げています。

松岡久和 教授 (民法)

不動産物権変動論、金融・担保法、不当利得法などを具体的な各論の中心に置き、最終的には民事財産法の構造をどう捉えるかを研究しています。

真淵 勝 教授 (公共政策)

日本官僚制の研究。とくに経済官庁が対象である。ゼミでは市町村合併や年金など、近年話題になっている政策テーマが取り上げられています。

新川敏光 教授 (政治過程論)

福祉国家の構造、その発展と再編の政治について、比較論的に研究しています。

川瀆 昇 教授 (経済法)

独占禁止法と証券取引法を中心に経済法の全般を法と経済学的手法も利用しつつ分析しています。

村中孝史 教授 (労働法)

雇用されて働いている人たちの労働条件や、労働組合をめぐる法律関係について、教育・研究を行っています。

浅田正彦 教授 (国際法)

国際法の諸問題につき軍縮や武力行使を素材として研究を行い、国際法全般にわたって教育を行っています。

潮見佳男 教授 (民法)

民事責任の基本問題。

亀本 洋 教授 (法理学)

正義論と法学方法論を中心に、法理学または法哲学と呼ばれる分野の研究と教育を行っています。

酒巻 匡 教授 (刑事訴訟法)

刑事手続法の基本問題。

山本克己 教授 (民事手続法)

民事手続法の基本問題。

岡村忠生 教授 (税法)

国際課税の諸問題、特に多国籍企業への課税や、個人所得課税の基本問題について、研究を進めています。

洲崎博史 教授 (商法)

保険契約法の基本問題。

前田雅弘 教授 (商法)

株式会社の適切な管理運営を確保するために、法はどうあるべきかという問題を中心に研究しています。

鈴木基史 教授 (国際政治経済分析)

国際紛争・協調の実証的・理論的分析。

山本敬三 教授 (民法)

現代契約法の基礎的研究。

北村雅史 教授 (商法)

企業の健全性確保の見地から、経営者の義務・責任や経営機構に関する会社法制のあり方について研究しています。

塩見 淳 教授 (刑法)

市民の安全確保と自由領域の保障とをともに満たしうような刑法を求めて研究・教育を行っています。

服部高宏 教授 (ドイツ法)

現代ドイツにおける法形成過程に関する研究。ケアの法制度化をめぐる諸問題に関する研究。

伊藤孝夫 教授 (日本法制史)

日本法制史全般にわたる諸問題、日本近代法の形成と展開。

秋月謙吾 教授 (行政学)

中央地方関係にかかわる官僚制の研究。

横山美夏 教授 (民法・フランス法)

契約に関わる基礎的な法律問題について、フランス法と日本法とを比較検討しながら研究しています。

中西 寛 教授 (国際政治学)

国際政治の歴史的展開。

佐久間 毅 教授 (民法)

権限のない者がおこなった契約などの取引の効力をどのように考えるべきかを、主に研究しています。

笠井正俊教授 (民事訴訟法)

民事訴訟における審理の在り方、専門的知見を要する訴訟に特有の問題等を中心に研究を進めています。

唐渡晃弘 教授 (政治史)

ヨーロッパ政治外交史、とくに民族問題と国民国家の研究

酒井啓亘 教授 (国際法)

国連の平和維持機能を国際法の観点から研究しています。

土井真一 教授 (憲法)

憲法の基本原理、とりわけ法の支配と権力分立論について、研究を行っています。

毛利 透 教授 (憲法)

民主主義と表現の自由の基礎理論、統治機構改革、憲法訴訟論などを研究しています。

山田 文 教授 (民事手続法)

民事紛争解決手続 (訴訟外手続を含む) について、制度論的・法解釈論的なアプローチで研究しています。

高山佳奈子 教授 (刑法)

因果関係や故意・責任能力といった犯罪の成立要件、および犯罪に対する刑罰のあり方を研究しています。

中西 康 教授 (国際私法)

国際民事手続法の基礎理論及び欧州統合における法の役割について研究しています。

橋本佳幸 教授 (民法)

不法行為法を中心に、民事財産法の直面している現代的諸問題について研究・教育を行っています。

中川英彦 教授

(企業法務及び国際取引法)

企業活動と法の接点、法と実務との乖離、その解決方法はどうあるべきかなど、法と実務の架け橋を探求しています。

村上光瑛 教授 (刑事裁判実務)

刑事手続法の理論と実務の架け橋、裁判員裁判の巡る諸問題等について、教育と研究をしています。

松田一弘 教授 (知的財産法)

特許侵害訴訟及び審決取消訴訟に関する諸問題について研究しています。

上子秋生 教授 (行政実務)

我が国の地方公共団体の行政活動および運営に関する法制度についての研究を行っています。

本多正樹 教授 (金融法務)

金融取引、金融制度に関連する法的諸問題の研究。

森川伸吾 教授 (中国法)

対中直接投資並びに日中間の企業取引及び紛争処理に関連する法律問題を研究しています。

待鳥聡史 助教授 (アメリカ政治)

議会と大統領が別個に選ばれる「二元代表制」下で、政策決定に大きな権限を持つ議会の研究を行っています。

堀江慎司 助教授 (刑事訴訟法)

伝聞法則をはじめとする刑事証拠法を中心に、刑事手続法全般について研究、教育を行っています。

島田幸典 助教授 (比較政治学)

英独を中心とする欧州諸国制の比較的研究。

深澤龍一郎 助教授 (行政法)

行政機関が裁量権限を行使することによって発生するさまざまな法的問題について研究を行っています。

船越資晶 助教授 (法社会学)

批判法学の法・社会理論。

戸田 暁 助教授 (企業法務)

証券取引法などの企業法の理論と実務に関する諸問題について研究を行っています。

稲森公嘉 助教授 (社会保障法)

社会保障の法理論及び法制度について、主に医療保障のしくみを中心に研究を行っています。

曾我部真裕 助教授 (憲法)

憲法で保障された表現の自由、特にマスメディアの自由について研究しています。

齊藤真紀 助教授 (商法)

会社における関係者間の利害調整枠組みの研究を行っています。

奈良岡聡智 助教授 (日本政治外交史)

大正期を中心とする近代日本の政党政治、政官関係、日英関係について研究しています。

増田史子 助教授 (国際取引法)

国際商取引法、とくに国際運送を中心に、貿易取引の私法的規整について研究しております。

愛知靖之 助教授 (知的財産法)

特許法、とりわけ特許発明の技術的範囲画定に関する諸問題を中心に研究を行っています。

高谷知佳 助教授 (日本法制史)

前近代日本の社会と秩序の多面性について研究しています。

アリスティア・スウェール 助教授

(国際公共政策)

主に明治期の政治思想・行政学を研究してきたが、最近では新古典の政治経済学と新公共経営を分析しています。

濱田 毅 助教授 (刑事法)

刑事手続法と刑事実体法について、実務 (特に検察実務) の観点から、研究及び教育を行っています。

専門科目 (平成 18 年度開講分)

法学部専門科目	経済学部開講科目	演習
法理学、法社会学、日本法制史、西洋法制史、ローマ法、東洋法史、英米法概論、ドイツ法、フランス法、憲法第一部、憲法第二部、行政法第一部、行政法第二部、税法、国際法第一部、国際法第二部、国際機構法、民法第一部、民法第二部、民法第三部、民法第四部、商法第一部、商法第二部、経済法、民事訴訟法、国際私法、国際取引法、労働法、社会保障法、刑法第一部、刑法第二部、刑事訴訟法、刑事学、政治原論、政治過程論、比較政治学、アメリカ政治、国際政治学、国際政治経済分析、政治史、日本政治外交史、政治思想史、行政学、公共政策、法学入門、政治学入門①、政治学入門②、司法制度論、家族と法、外国書講読 (英)、外国文献研究 (英・独・仏)、特別講義 (日本政治思想史、中国法、外交史、法学基礎文献)、特殊講義 (EUの政治)、演習	ミクロ経済学1、ミクロ経済学2、社会経済学1、社会経済学2、経済政策論1、経済政策論2、財政学、経済史1、経済史2、労働経済論、金融論、金融政策、基礎統計学、経済統計学、経営学原理、会計学1、会計学2、社会政策論、公共経済学	法理学、法社会学、日本法制史、ローマ法、東洋法史、英米法、ドイツ法、憲法、行政法、税法、国際法、国際機構法、民法、商法、経済法、国際私法、労働法、社会保障法、刑法、刑事学、政治原論、政治過程論、国際政治学、国際政治経済分析、政治史、日本政治外交史、政治思想史、行政学、公共政策

経済学部

Faculty of economics

経済学部が望む学生像

経済学の研究対象である経済活動は、人間が生きていくために最も基本的なものです。私たちが毎日生活しているのは、多くの人々が日々経済活動を営んでいるからこそ可能になっているものです。しかし、その経済活動は決して単純なものではなく、産業の空洞化、雇用問題、財政赤字、地球環境問題等等、私たちが解決すべき経済問題が、次々と新たに発生し、複雑性を増しています。

このような状況を前にして、経済学の課題を解決するためには、即効性のある個々の断片的な知識を詰め込むよりも、どのような事態になっても対応できる柔軟な思考力と創造力を備えることが、むしろ重要であると考えています。このような素質を有した学生を経済学部は期待しております。

学部概要

伝統性と先端性の統合

本学の経済学部は1919（大正8）年に法学部（法科大学）から別れて誕生しました。法学部の時代にもすでに1899（明治32）年から経済学関連の講義がスタートしていましたから、その歴史は日本でも一、二という伝統をもっています。この長い歴史の間に京都大学経済学部は、多数の著名な研究者を輩出し、また個性的な実業界のリーダーや各方面で活躍する優れた人材を送り出してきました。さらに、本学部はたえず先端的な分野の拡充をはかってきました。最近の例をあげると、2002年に、大和証券グループの協力を得て、金融・証券システム寄附講座を開設しました。また、同年、現代中国経済の調査研究のメッカとすべく、上海センターを設立しました。

自学自習と少人数教育の重視

京都大学は自由闊達な気風を求める「自由の学風」を歴史的に育んできましたが、経済学部も学生の自学自習・自発自啓を基本精神としています。学部科目はすべて選択科目であり、必修科目はありません。経済学や経営学の専門科目だけではなく、隣接分野である法学・政治学科目を含めて、幅広い分野から自主的に選択し、自由に学ぶことができます。また、大学院との共通科目や、経験豊かな社会人講師による講義も開講しています。

また、本学部では、創立以来、演習（ゼミナール）制度を重視し、少人数の学生と担当教員による対話型学習システムをつくってきました。ゼミナールは、学生が共同学習と討論を通して最も成長できる場であるとともに、親しい友人をつくる絶好の場です。卒業後もゼミナール単位での同窓会が盛んに行われています。

多様性と国際性

本学部は、論文入試をはじめ、留学生入試、外国学校出身者入試、3年次編入学入試など、国立大学のなかで先んじて、多様な入試制度を導入してきました。そのねらいは、多様な経験をもった学生の能力を一層高めるとともに、多様な学生同士が刺激し合いながら相互に切磋琢磨し、豊かな教養と人間性、国際感覚を身につけることにあります。ちなみに、留学生の比率は大学院生を含めると京都大学のなかでは最も高く、国際性にあふれる学部です。

〔写真〕 徳賀教授のゼミ風景

未来を切り拓く柔軟な思考力と創造力を培う



経済学部の教育

第1学年で学ぶこと

第1・第2学年では「全学共通科目」と呼ばれる教養科目を主として履修します。これと並行して第1学年では、経済学部が提供する「入門科目」を受講し、経済学の基本を学ぶことになります。入門科目には、「マクロ経済学入門」、「ミクロ経済学入門」、「社会経済学入門」、「基礎統計学」、「経済史・思想史入門」、「現代経済事情」、「経営学入門」、「会計学入門」、「情報処理入門」があります。これら9つの科目の概要については、2ページ後に紹介しています。

第2学年から学ぶこと

第2学年からは経済学の専門科目を受講することができます。専門科目は、「専門基礎科目」と「専門科目」に分かれています。「専門基礎科目」として、マクロ経済学、ミクロ経済学、社会経済学、計量経済学、経済統計学、経済史、経済学史、経済思想など経済学の基本となるもの、国の経済活動に関わる経済政策や財政学、資金の流れに関する金融論、経営学の基礎である経営学原理、企業の仕組みに関する経営組織論、企業が顧客に対してどうすればよいかを考えるマーケティング、企業を運営するために必要な資金を考える経営財務論や会計学などがあります。「専門科目」としては、今日の経済・経営の分野において必要とされる多数の講義が用意されています。これら「専門基礎科目」と「専門科目」はすべて選択科目であり、必修科目はありません。さらに、経済学や経営学の専門科目だけではなく、隣接分野である法学・政治学科目を含めて幅広い分野から、自分自身の興味と関心に応じて、自主的に受講科目を選択することができます。

少人数ゼミナール

京都大学経済学部で重要な役割を果たしているのは演習（ゼミナール）です。指導教員の指導のもとで、少人数の学生同士で、様々な具体的テーマについて報告・討論しながら、問題の本質を捉えるべく共同で学習します。ゼミナールにおいて、自発的な参加意欲や勉学意欲をつちかい、コミュニケーション能力を高めることができます。ゼミナールでの主体的な勉強を通じて身につけた能力は、一生役立つと思います。第2学年からゼミナールに参加することができます。ゼミナールは各教員が特定のテーマで毎年各学年10名を募集し、指導します。第3学年進級時に、所属ゼミナールを変更することも認められています。ゼミナール参加者は、第4年次に卒業論文を提出することができます。

「自学自習」と学問の自由

大学での勉強は基本的に「自学自習」です。つまり自分で問題を見つけ、自分でものを考え、自分でその解決を見つけ出すことが求められます。また、大学を支える基本原理は「学問の自由」です。自由があるから多様な考え方

が生まれ、科学は進歩し、社会の要請に応えることができるのです。自由な学問を行うためには学問の伝統のなかで育まれてきたものをしっかり勉強する必要があります。自由に絵を描くためにはしっかりとデッサンの修行を積まなければならないことと同じです。経済学の考え方を学ぶことができれば、社会のどのような立場にあっても迷うことなく判断できる力を得ることができると思います。このような意味で、自由に学ぶことのできるところが京都大学経済学部です。



『国富論』
「経済学の父」と称されるアダム・スミスの『国富論』の初版（経済学部図書室所蔵）

さらに詳しく知るには

経済学部ホームページ
<http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/>
 入学についてのお問い合わせ
 経済学部教務掛 tel.075-753-3406

在学生からのメッセージ



経済学部って
何を勉強する所？

4 回生
長屋 真季子さん

経済学部って何を勉強する所？経済学部では経済史、財政、国際貿易、企業経営など多岐に渡る分野を勉強することができます。私たちが生活する上で関わってくることはすべて経済現象の一部だと言えるでしょう。

経済学部では様々な分野を一通り勉強し、自分が最も興味を持った分野をゼミで専門的に学びます。学内の授業で最も充実した勉強をすることができるのはゼミだと思います。ゼミでは専門分野の勉強だけでなく、教授との距離が近いので教授の人柄にも触れることができます。また院生の先輩方やゼミ生からの刺激を受けることにより、さらに充実したものとなります。ゼミは厳しいですが、厳しいからこそやる気になる、そんな場だと思います。



経済学のおもしろさ

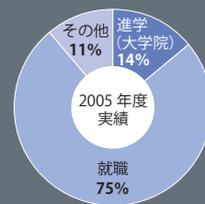
3 回生
真戸原 秀重さん

私の高校生時代、現小泉政権が発足し、平成不況を脱するかのよう見え、EU 圏内でユーロは確実に浸透し、対米同時多発テロ事件が実行されました。その中で私は日々の出来事と、確実につながっている「経済」とは一体何なのか、そしてまた経済とは、今どのように動いているのかということに、強く興味を抱きました。このことこそが私が経済学部に進んだ理由でした。

現在私が所属しているゼミでは、国際経済学を主に学習しています。ゼミでは基本的な理論の学習の他だけでなく、最新の経済問題の研究も行なわれます。今や経済はグローバル化し、経済活動は国境を越えて地球規模で行われ、ヒト・モノ・カネが自由に行き来しています。日本の FTA、EU や NAFTA の域内統合、人民元切り上げなど為替レートの問題が時事の話題となる今日、国際経済学を学ぶことの重要性は増し、その学習をすることは非常に意義深く、面白いことだと感じています。

卒業後の進路

京都大学経済学部はすでに 80 年余の歴史があり、多数の個性的な人材を社会に送り出してきました。学界のリーダーとして多数の優れた研究者を出してきましたし、政界・実業界のトップリーダーも少なくありません。毎年 1 割強の学生は大学院へ進学しています。



〔就職先の例〕
三井住友銀行、トヨタ自動車、住友商事、中央青山監査法人、三洋電機、東京電力、東京三菱銀行、農林中央金庫、東京海上火災保険、監査法人トーマツなど

経済学部で取得可能な資格

大学を除くすべての国公立、私立学校の教員となるためには教育職員免許状が必要です。

経済学部は教員免許状についての課程認定を受けており、教育職員免許法に定められた所要の単位を修得すれば、次の種類の免許状が取得できます。

高等学校教諭：「地理・歴史」、「公民」、「商業」
 中学校教諭：「社会」

卒業生からのメッセージ



大学時代に得たもの

1993 年 卒業
サントリー株式会社 勤務

田端 昌史 さん

高校時代、社会事象の本質を見極めるためには、経済思想からマーケティングまで、もちろんマクロもミクロも、そしてマルクスもある、懐と奥の深い京都大学経済学部で学ぶしかないと思いつき、恋焦がれるように入学を果たしました。

大学生生活で得たものはたくさんあります。かけがえのない恩師、「コイツにはかなわない」と思えるような友人たち。そしてそんな出会いのなかでこそ見えてくる、「自分とは何なのか」という問いに対する（価値観・流儀という意味での）答えなど。

私はいま宣伝企画部で広告業務に携っていますが、どんな業務も、常に本質を見極め、人との出会いを大事にし、自分なりのこだわりをもって取り組んでいます。そして今でも大学時代に得たものが私の原点、心の支えとしてしっかりと存在しています。



「場」としての「経済学部」の魅力

1998 年 卒業
JICA フィリピン事務所 勤務

横田 未生さん

進路に迷う高校時代、色々自分なりに考え経済学部を選んだのですが、今思えば、そんなものはどうでもよかったように思えます。格好よく説明することは後からいくらでも可能なのですから。

私は現在フィリピンで開発援助の仕事をしています。中小・零細企業振興のための新規プロジェクトの企画・形成、立上げを担当し、仕事内容はフィリピン政府関係者や他ドナーとの調整・交渉から、プロジェクトのネタ探しの地方回りまで多岐に亘ります。今の仕事と大学で習った「経済学」が特に関係しているとは思いません。しかし、「経済学部」で学んだものは今の自分のあり方に大きく関係しています。多面的なモノの捉え方、異なる意見を否定・攻撃することなく議論する方法。「経済学部」という「場」で、できる限り多くの人や考え方に触れ、自分自身のペースを築いてください。

入門科目紹介

ミクロ経済学

市場メカニズムのもとで経済行動を分析する学問を「ミクロ経済学」と言います。ミクロ経済学の起源は19世紀から20世紀にかけて登場した最大化原理を基礎に置く完全競争モデルまでさかのぼります。しかし現代経済は大企業による寡占化の道をたどり、完全競争の虚構性が批判されるようになりました。そこで将棋のように戦略的に意思決定する「ゲーム理論」が登場しました。ゲーム理論を中心とした現代ミクロ経済学はたくさんの応用経済学の基礎ツールとなっています。医療・福祉経済学、マーケティング経済学、情報・通信経済学、都市・交通経済学、企業・組織経済学、環境経済学のような先端分野で、ミクロ経済学が役に立っています。

マクロ経済学

マクロ経済学は経済活動を大きな視点から分析する経済学の1分野です。大きな視点というのは、つまり、その分析対象が特定の個人、企業、産業の経済活動ではなく、1国経済や世界経済全体だということです。なぜ経済は好況と不況を繰り返すのか、政府は景気の変動を抑制するためにどのような政策を採ればよいのか、なぜ産業革命以降先進国は産業構造の転換を果たし所得の大きな上昇を達成できたのか、それに対し多くの発展途上国が農業中心の経済構造から脱却できず所得の低い状態にあるのはどうしてなのか、といった疑問をもったことがあるでしょう。マクロ経済学が取り組んでいるのは、これらの疑問により正確な答えを与えることだといえます。

社会経済学

もともと「社会経済学」は、スミス、リカード、マルクスなど古典派と呼ばれる人たちの経済理論の名称でした。かれらは、経済分野だけでなく政治や文化などの分野に及ぶ広い社会的視座をもつとともに、数世紀に及ぶ歴史を考察する長期的視野をもっていました。しかし、20世紀に入ると、大量生産技術の成立といった技術面の変化や、巨大企業の出現といった組織面の変化によって、古典派経済理論の有効性は低下しました。このような資本主義の変化をふまえて、新たな理論を作ったのはケインズとカレツキです。現代の社会経済学は、古典派経済学者たちの社会的歴史的視点とケインズとカレツキの理論とを結合して、現代資本主義の構造や制度を分析します。

基礎統計学

統計学は元々は国家の為政者が行政のために必要とした、資料を提供するための方法だった様です。人口、所得、耕地面積等の資料を収集し、整理し、一国の国力を測るなどが当初の目的でした。今日では、データの処理にも幅があり、行政だけでなく、商業、そして、株式や為替におけるような売り買いに直接結びつく統計、など応用は様々です。基礎統計学では、記述統計学と数理統計学によって成り立つ二つの領域を概観します。前者では、物価指数など、実務上よく使われるツールの説明をします。後者では、データに関する様々な推定や、仮説に関する検定を学びますが、多少とも、数学的です。この講義では、このような最も基礎的なツールを学ぶことも、非常に重要です。

経済史・思想史

温故知新という言葉を知っていますか？昔のことから新しいことを知る、経済史や思想史とは、まさにそんな学問です。このふたつの分野は、現在の経済社会や経済学を歴史的に眺めることで、経済や社会に関する「忘れ去られた課題」を再発見し、併せて「新しい課題」や「経済学のあり方」を構想します。例えば、ある国が経済大国になる過程の分析からその秘訣や条件そして様々な問題点を学んだり、ある企業の発展・没落から経営とは何かと考へてみたり、また、人間が集団形成するときの諸問題を把握することで理想社会について提言したりします。歴史的な発想法を身につけて、当たり前だった日常の「新たな可能性」について一緒に考えてみませんか。

現代経済事情

人間の社会を扱う以上は、経済学は経済的・社会的問題の解決という目的意識から無縁ではありえません。これは「政策関心」と言い換えることもできるでしょう。経済政策論、財政学、金融論、社会政策論、世界経済論、公共経済学など、「現代経済事情」の諸講義は、いずれも「現代の社会問題や経済問題を素材に考える」という共通項を持っています。経済問題に対しては通常さまざまなアプローチがあります。複雑な社会現象そのものを理解する際には、やはり総合的・多面的な分析視角が必要となります。「現代経済事情」の諸講義に共通するねらいは、現実の経済問題などへの感受性と複眼的な見方を養うことにあります。

経営学

経営学は、広く経営現象を研究する学問です。「経営」とはある目的を達成しようとする事業について、それを計画し、指揮し、管理する活動です。その対象は民間企業の経営が従来の中心でしたが、近年は病院や政府、地方自治体などの社会的部門でもその経営の善し悪しが問題にされるので、広がってきています。企業の経営でさえ単純に利益だけを目的として行われておらず多くの人が利害や欲求の関連の下に動いていますので、経営は複雑なシステム現象であり、それを研究する経営学も非常に複雑な理論体系となってきました。経営学は企業だけではなく病院や政府、NPOなどを経営することの難しさとその醍醐味を理解させてくれると思います。

会計学

会計学は、「事業の言語」といわれる会計を対象として発達した学問です。会計の仕方がかわれば事業の見え方もかわるため、どのような考え方に基づいて事業活動を認識し表現すべきかという問題が重要になります。会計学は、現実の会計を正確に理解するとともに、望ましい会計について考えてきた学問です。会計は、社会会計・国民経済計算といったマクロ会計と、家計・企業会計・非営利法人会計・公会計といったミクロ会計に分類されます。また、会計情報の利用者の相違によって、企業外部の株主や債権者などに対する財務会計と経営者などのための管理会計に分類されており、それぞれに対応して財務会計学と管理会計学が発達しています。

情報処理

情報処理とは人間の意思決定活動であり社会活動そのものです。またインターネットやコンピュータなどの情報通信技術は、このような活動を支援する道具です。今では、情報通信技術の急速な発展が社会を大きく変え、情報通信技術なくしては企業の経営が成り立たなくなってきました。情報処理は、単に、経済学や経営学を学び、理解し、分析するためだけに活用されるものではありません。コンピュータシミュレーションによって社会や組織を解析し、あるいは未来を予測するといった新しい方向も生まれています。情報通信技術と情報処理は、経済学や経営学と深く関係し、今後の発展が期待される分野なのです。

講座・教員一覧

専攻名	講座名	教授	助教授	講師	助手
経済システム分析	経済理論	八木紀一郎 小島専孝 宇仁宏幸	遊喜一洋	ディミター・ヤルナゾフ	
	統計・情報分析	大西 広 森棟公夫		飯山将晃	白井 亨
	歴史・思想分析	田中秀夫 堀 和生	坂出 健 竹澤祐文		
経済動態分析	比較制度・政策	今久保幸生 岡田知弘 久本憲夫 岩本武和	黒澤隆文 久野秀二	稲葉久子	
	金融・財政	(植田和弘)	島本哲朗 諸富 徹		
	市場動態分析	橋木俊詔 田尾雅夫 西牟田祐二 文 世一			
現代経済・経営分析	現代経済学	下谷政弘 西村周三 塩地 洋	依田高典 渡邊純子	櫻田忠衛	
	国際経営・経済分析	山本裕美 根井雅弘	菊谷達弥 宇高淳郎		
	経営管理・戦略	若林靖永 成生達彦	曳野 孝	マスワナ・ジャン・クロード	
	市場・会計分析	上總康行 藤井秀樹	若林直樹 澤邊紀生		
	事業創生	末松千尋 日置弘一郎 徳賀芳弘	梶山泰生		
	ファイナンス工学		岩城秀樹		
	ビジネス科学	吉田和男	松井啓之		
プロジェクトセンター			宮崎 卓		
寄附講座		木島正明	西出勝正 芝田隆志		片川真実

専門科目

1・2 回生	2 回生～	3 回生～
<p>●入門科目</p> <p>ミクロ経済学入門, マクロ経済学入門, 社会経済学入門, 経済史・思想史入門, 現代経済事情, 経営学入門, 会計学入門, 基礎統計学, 情報処理入門</p>	<p>●専門基礎科目</p> <p>ミクロ経済学 1, ミクロ経済学 2, マクロ経済学 1, マクロ経済学 2, 社会経済学 1, 社会経済学 2, 経済史 1, 経済史 2, 経済政策論 1, 経済政策論 2, 財政学, 金融論, 計量経済学, 経済統計学, 経営学原理, 経営戦略, 経営組織 1, 経営組織 2, マーケティング 1, マーケティング 2, 経営財務, 会計学 1, 会計学 2</p> <p>●専門科目 I</p> <p>社会思想史, 日本経済論, 公共経済学, 世界経済論, 社会政策論, 経済数学 1, 経済数学 2, 経営史, 財務会計, 管理会計, 組織経済論, 情報処理論 1a, 情報処理論 1b, 情報処理論 2a, 情報処理論 2b, 経済学史, 日本経済史, 欧米経済史, 工業経済論, 国際金融論, 労働経済論, 農業経済論, 国際農政論, 金融政策, 証券投資論, 派生証券論, ファイナンス工学, 保険論, 比較経営論, IT ビジネス論, ネットワーク経済論</p>	<p>●専門科目 II</p> <p>社会経済変動論, 経済哲学, 意思決定論, 計画理論, 経営情報論, アジア経済史, ヨーロッパ経済論, 経済統合論, 国際経済学, 比較経済システム論, 市場経済移行論, 地域産業論, 地域開発論, 租税論, 公共政策論, 地方財政論, 財政政策論, 金融リスク論, サービス経済論, 医療経済学, 交通経済論, 情報・通信産業論, 現代経済思想, 進化経済学, 産業組織論, 産業・企業成長論, 東アジア経済論, 現代日本産業論, 人的資源管理論, オペレーション・マネジメント, 都市経済学, 組織調査論, 国際経営史, 非営利組織経営, 流通論, マーケティング・リサーチ, 会計監査論, 経営分析論, 原価計算論, 国際会計論, 国際経営論, 事業創成</p>

大学院連携科目	「特別科目」及び「演習」	留学生対象科目
<p>応用計量経済学, 上級計量経済学, 上級統計学, 上級数理統計学, 思想史の方法と対象, データベース構築論, 国際財政論, 金融システム論, 土地経済論, 環境経済学, 数理経済学, 国際マーケティング</p>	<p>外国経済書講読, 演習, 卒業論文, 特殊講義</p>	<p>基礎比較経済論, 基礎企業ガバナンス論, 基礎人的資源論, 基礎組織行動論</p>

理学部

Faculty of Science

自然への疑問。自然からの声。そして自然の理に学ぶ。



理学部が望む学生像

- ・自由を尊重し、既成の権威や概念を無批判に受け入れない人
- ・自ら考え、新しい知を吸収し創造する姿勢を持つ人
- ・優れた科学的素養、論理的合理的思考力と語学能力を擁し、粘り強く問題解決を試みる人

学部概要

自然はどのようにになっているか、そして自然はなぜそのように成り立っているのか、自然を動かす法則は何なのか、私達人間はしばしばこういう疑問を抱きます。理学部は、答えを誰も教えてくれないような自然への疑問を持つ人達が、自然の声に耳を傾け、疑問を解く喜びとともに、さらなる自然の深い秘密に接することを楽しむ学部です。

理学部は、京都大学の中でも最も長い歴史をもつ学部で創立以来何度かの改革を行ってきましたが、最近の大きな改革は1994年に理学科のみの一学科制が発足したことです。この制度は、多岐にわたる学問分野を学ぶ過程で自らの適性を発見し、それに応じた専門分野の選択を可能にし、同時に従来の学問分野の枠組みにとられない人材の育成を意図しています。3年次、4年次において、各専門分野に分かれ、少人数ゼミや実験・実習を通じて更に深く学問的教養を身に付けます。学生の自ら学ぶ意欲を尊重し、育ていく教育方針が基本です。

京都大学理学部は、国内国外において著名な多数の独創的研究者を輩出してきました。その中にはノーベル賞やフィールズ賞のような国際的に最高レベルとされている賞の受賞者も含まれています。

また、理学部には霊長類研究など新しい研究分野を幾つも開拓してきた伝統が今でも息づいています。こうした学問の創造や開拓は、研究や教育に対する自由な雰囲気の中で生まれ育つものであり、一朝一夕でつくられるものではありません。このような環境において、今また、21世紀COE拠点として、5専攻(系)の全てにあたる5つの教育研究計画が評価され、理学部全体で活動しています。

[写真] 理学部が提供している全学共通科目「生命現象の生物物理学」の講義風景

理学部の教育

理学部の教育理念

教育目標

- ・自然科学の基礎体系を深く習得し、それを創造的に展開する能力の養成
- ・個々の知識を総合化し、新たな知的価値を創出する能力の養成

教育の特徴

- ・自由な雰囲気の下で学問的創造を何よりも大切に、自律的学修が推奨される学風
- ・理学科のみの1学科制
- ・緩やかな専門化を経て、研究の最前線へ

理学部の教育方針

1年次・2年次では、主として全学共通科目と理学部学部科目を履修する。

1年次から2年次にかけては、全学共通科目である一般教育科目、外国語科目、保健体育科目などと学部科目である専門基礎科目を主として履修します。これらの科目は、大学院人間・環境学研究科及び理学研究科を実施責任部局として全学部ならびに研究所、研究センターなどにより、全学部の学生を対象に開講されています。また、講義以外にも演習、ゼミナール、講読、実験、実習など様々な形で授業は行われ、これらの科目を履修することによって、専門分野を学ぶための基礎を養うとともに、幅広い学問に接して高い教養を身につけ、人間としての視野を広げるよう工夫されています。

少人数クラスを設け履修を円滑に進める。

系登録するには、所定の科目の単位を2年次の終わりまでに取得する必要があります。必要な単位数や科目履修の進捗などで不明なところがあれば相談できるよう、理学部教員2人が対応する少人数クラス(10名)が設けられています。

3年次から4年次にかけては主として専門科目を履修する

理学部は理学科1学科とし、この学科には5つの系が設けられています。これらの系は、おおよそ次のような専門分野と対応しています。

- 数理科学系： 数学
- 物理科学系： 物理学、宇宙物理学
- 地球惑星科学系： 地球物理学、地質学鉱物学
- 化学系： 化学
- 生物科学系： 動物学、植物学、生物物理学

系登録は、2年次の終りの時期に行います。3年次では、これらのいずれかの系に属し、その系が担当する課題演習を履修し、4年次においては課題研究(卒業研究)または講読(数学系)を履修します。

全学共通科目に関しては、以下のように大別してA～Dの4群とそれらの組み合わせから成っています。

- A 群科目 人文科学及び社会科学系科目
- B 群科目 自然科学系科目
- C 群科目 外国語科目
- D 群科目 保健体育科目
- A・B 群科目 科学論など
- A・C 群科目 芸術交流論など

B・D群科目 健康科学など

学部科目としては、専門基礎科目と専門科目とがあります。これらの科目の数は多く、広い分野にわたって履修することが可能です。特に専門科目は履修単位の上限はありません。これは広く浅く学ぶことを薦める意図ではなく、年次とともに履修科目の専門化の程度を進めて、自己に適した専門的課題を見つけ、それに関連する分野の科目を重点的に履修し易くするためのものです。

4年次では卒業研究に取り組む

4年次では、数学系では講究と呼び、他の系では課題研究と呼ばれる卒業研究が必須科目になっています。この科目の履修においては、学生は、個別に教員の指導を受け、研究の手法を学びつつ、課題の追求とその結果をまとめる基礎力をつけます。この学習を通じて、専門分野の研究の現場に触れることが期待されています。

学部3年次から大学院への入学について

大学院理学研究科は、数学・数理解析専攻と化学専攻においては、大学に3年以上在学した者で、所定の科目とそれを優秀な成績で単位取得したと理学研究科が認めた者には、大学院修士課程の出願資格を認めています。また、修士課程または博士課程において、特に優秀と理学研究科が認めた者に、それぞれ、1年で修士の学位が、または修士課程と合計して3年の在学で、博士の学位が授与されることがあります。

さらに詳しく知るには

理学部ホームページ

<http://www.rigaku.kyoto-u.ac.jp>

入学についてのお問い合わせ

理学部第二教務掛 tel.075-753-3637

在学生からのメッセージ



自由な学風

理学部数理科学系4年

三井 健太郎 さん

京都大学の魅力は何といっても学生の自主性を重んじることにあります。例えばその現われとして、学生が主体となって行われる勉強会、所謂自主ゼミが盛んに行われているということが挙げられます。これは講義を超えた内容を学んだり理解を深めたりすることができる大切な場の一つです。

私はそんな中で複素幾何学に興味を持ち代数と幾何が様々に関係している様子を知りました。数理科学系では4年次から教員の指導のもとセミナーが週一度開かれるのですが、私は現在そのセミナーで楕円曲線上の有理点について学んでいます。

数学をするためには落ち着いて考えることのできる時間と環境が不可欠です。考えをまとめるために哲学の道で散歩するなどということができるのも京都大学の魅力かもしれません。



面白いものを見つけてください

理学部化学系4年

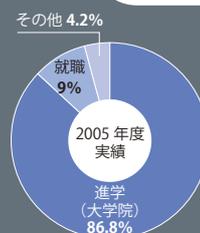
北田 敦 さん

理学部では勉強や研究に限らず色々な事に対し自分で考える時間をたくさん取ることが出来ます。そうした時間の中から、常識に囚われない自由な発想が生まれるのではないかと感じています。幅広く興味を持ち、積極的であって下さい。そして、面白いと思えるものを皆さんの手で見つけてください。

僕の場合は、新しい低次元磁性体無機化合物の合成でした。層状ペロブスカイトを母体として、層間の非磁性アルカリイオン層を、磁性イオンと陰イオン(主にハロゲンイオン)の二次元格子に変換させるイオン交換反応で、低次元性の強い、新奇な磁性体の合成を試みています。現在物的に興味深い(量子効果が顕著に現れると期待できる)スピン量子数が $S=1$ のNi(II)イオンとハロゲンイオンからなる二次元正方格子を持つ化合物の合成に向け格闘中です。

卒業後の進路

卒業後大学院に進学する者が全体の5分の4以上に達し、博士の学位取得者は毎年100人を超えています。卒業後民間企業等に就職し専門的・技術的職業に従事する者は全体の10分の1程度です。



[就職先の例]

大阪ガス、日本電産、NECシステムテクノロジー、ジャストシステム、リクルート、三井住友銀行、三菱商事、岡山県

理学部で取得可能な資格

理学部では、教育職員免許状の高等学校教諭一種免許状(数学・理科)と中学校教諭一種免許状(数学・理科)の課程認定を受けています。

数理科学系・物理科学系・地球惑星科学系の卒業者については測量法施行令第14条第1項に規定する「相当する学科」としての認定を受けています。

また、学芸員資格についても、必要な科目を修得することにより取得することが可能です。

卒業生からのメッセージ



研究者を育てる土壌

1999年卒業

独立行政法人 産業技術総合研究所 地質情報研究部門 研究員

田村 亨 さん

京都大学の理学部に在籍できたのは、私の人生で最も幸運なことの一つです。理学部での4年間、熱心に勉強したわけではありませんが、数学や物理で素晴らしい能力を発揮する同級生達に囲まれる中、得意だけでなく、好きなこと、興味あることに取り組むことが、学問には大切だということが分かりました。理学部では入学後に多様な分野から専門を選択できます。1・2年生時の講義から興味を持った地質学を専攻して素晴らしい先生に出会い、自分の好きな学問を発見することができました。また、先輩や先生にお手本をとらず、あくまで独自性を志向する雰囲気には大きな影響を受けました。独自性は研究者にとって最も重要なことだと思います。理学部をはじめ京都大学には、それを追及することの喜びや誇りを自然に教えてくれる土壌がありました。



潤沢な人材と選択肢

2006年卒業

京都大学大学院理学研究科 物理学・宇宙物理学専攻(物理学第一分野) 修士課程1年

布山 美慕 さん

大学生活を左右する大きなもの、その一つは周りにいる人々だと思います。京都大学理学部では『理学部』として募集するため自分の志望する分野とは違う分野の人とも知り合うことができます。例えば自分が物理を志望していても化学志望の人と議論を交わしたり、さらに研究者になってからもそのような関係を貴重な財産とすることができると思います。また、自分の志望系が決まっていなくても豊富な選択肢から様々な人と触れ合ってから決めることができます。先生方も研究分野で一流の方ばかりであり、その方々に講義を受けるばかりでなく直接質問することができます。

大学は自分で行こうと決めていく場所です。もしあなたが何かを得ようと思って大学に来るのなら京都大学は最高の環境だと思います。

各系の紹介

数理科学系

数学は、数、図形、数量の変化などの背後にある法則を明らかにすることを旨とする学問です。その長い歴史のなかで確固とした体系を築いてきましたが、現在でも多くの新しい問題が、その内部から、また物理学、地球惑星科学、化学、生物科学など他の科学からの影響の下に生まれ、それらを解決するために新たな理論が次々に創出されています。また数学は、その普遍的な性質により、自然科学は勿論のこと、情報科学、経済学など多くの分野とのつながりを持つようになっています。

数理科学系においては、20世紀前半までに確立した、代数学、幾何学、解析学の基礎を広く学習するとともに、最近の発展しつつある数学を目標として学びます。

数論、代数幾何学、複素多様体論、微分幾何学、トポロジー、微分位相幾何学、微分方程式論、関数解析、複素解析、代数学解析、表現論、作用素環論、力学系、非線形数学、確率論、数値解析、計算機科学、保険数学

化学系

化学とは何かを一言で誰にも異論の無いように言うのは難しいのですが、大ざっぱに言えば、原子、分子のレベルで物質の構造、性質、反応の本質を明らかにし、それに基づいて自然を理解し有用な物質の創造を目指す、物質科学の要をなす学問であると言えます。原子、分子、生命から宇宙に至るこの自然界に存在するあらゆる物質を研究対象としますから、知的探求の場としては広大なフロンティアを持っており、その研究方法やスタイルも分野によってかなり異なり、合成、分析、測定の実験中心の分野から、理論と計算が中心の分野まで色々とあります。このように研究対象や研究方法も大変バラエティに富んでいますから、各人の能力や適性に応じて自分に適した研究分野が大変見つけやすい学問分野です。

関連化学、理論化学、物理化学、物性化学、無機化学、有機化学、生物化学

物理科学系

物理学は、自然界の普遍的な法則を明らかにし、物質の種類や時間・空間・エネルギーのスケールの違いによって様相の異なる様々な現象を、統一的に理解することを目的とする。本系は3教室に分かれ、物理第一教室では主に物質の構造と性質について、物理第二教室では時空の基本構造から素粒子、原子核、重力、宇宙論まで、宇宙物理学教室では太陽から宇宙論まで宇宙の様々なスケールでの諸現象について、それぞれ理論、実験、観測等をからめながら幅広い研究と教育を行っている。

不規則系物理学、量子光学・レーザー分光学、低温物理学、光物性、固体量子物性、固体電子物性、化学物理・生命物理、ソフトマター物理、非線形動力学、凝縮系の理論、統計物理学、流体物理学、非平衡物理学、原子核・ハドロン物理学、高エネルギー物理学、宇宙線、素粒子論、原子核理論、天体核、太陽物理学、太陽・宇宙プラズマ物理学、恒星物理学、銀河物理学、理論宇宙物理学

生物科学系

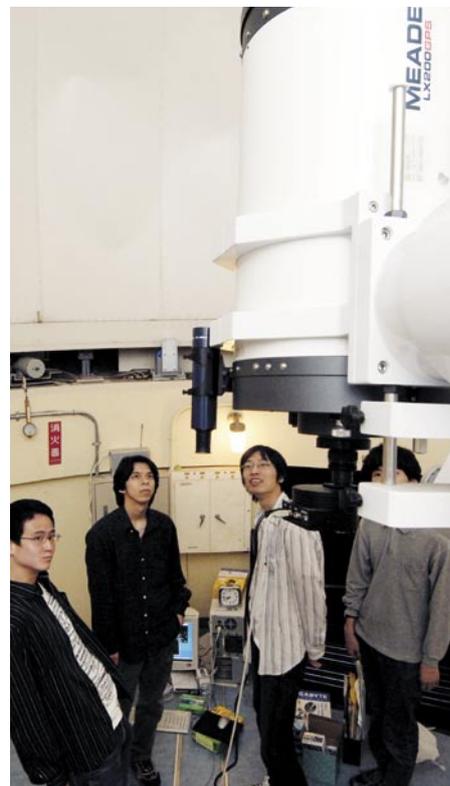
生物科学系は、動物や植物などの生物の細胞内の構造や機能および遺伝子の発現過程といったミクロ研究のみならず、生態学、行動学、系統分類学、人類学など野外のマクロ研究にも力を注いできた。この伝統に培われた野生生物学研究と、最近めざましい分子生物学研究を統合して、世界最高レベルの研究と教育の推進を目指している。

自然人類学、人類進化論、動物系統学、海洋生物学、動物行動学、動物生態学、生態科学I、発生ゲノム科学、放射線生物学、細胞情報制御学、植物生理学、形態統御学、植物系統分類学、植物分子細胞生物学、植物分子遺伝学、生態科学II、ゲノム情報発現学、分子生物物理学、分子進化学、分子生体情報学、神経生物学、分子細胞生物学、分子発生学

地球惑星科学系

われわれの生活する地球、地球を取り巻く惑星間空間を研究の対象としている。雲の動きを引き起こす大気の流れ、日本の前に広がる太平洋の奥深くの静かな流れ、地震を起し火山を造る地球内部の変動、オーロラとして見える太陽からの粒子と地球磁場、ヒマラヤをつくり南米とアフリカを引き裂いたマンツルの流れ、ダイヤモンドを造り出した高温・高圧の世界、35億年前らん藻として存在した生物はいかなる変遷を経て今見る生物になったか、他の惑星には生物は存在したか、身近で遙かな事柄を研究し教育している。

固体地球物理学、水圏地球物理学、大気圏地球物理学、太陽惑星系電磁気学、地球テクトニクス、地球物質科学、地球生物圏史、関連地球惑星科学



[写真] 天体撮像観測の実習風景

全学共通科目(専門基礎科目)

科目

微分積分学A、微分積分学B、線形代数学A、線形代数学B、微分積分学統論A、微分積分学統論B、確率論基礎、数理統計、線形代数学統論、多項式環と計算機代数A、多項式環と計算機代数B、非線形数学、非線形数学セミナー、現代解析学の展開、関数論、数値計算の基礎、現代の数学と数理解析—基礎概念とその諸科学への広がり、対称性の数理A、対称性の数理B、物理学基礎論A、物理学基礎論B、初修物理学A、初修物理学B、熱力学、振動・波動論、力学統論、物理学実験、特殊相対論、電磁気学統論、現代の素粒子像、天体観測実習、宇宙の誕生から現在まで、やわらかな物理学—物質と生命の本質を探る、低温科学A、低温科学B、ピーム科学入門、放射性同位元素と放射線の取扱入門、基礎物理化学A、基礎物理化学B、基礎有機化学A、基礎有機化学B、無機化学入門A、無機化学入門B、基礎化学実験、現代化学入門A、現代化学入門B、薬学物理化学(化学熱力学)、基礎地球科学I A、基礎地球科学I B、基礎地球科学II A、基礎地球科学II B、地球科学実験A、地球科学実験B、Field地球科学A、Field地球科学B、Visual地球科学概説、Visual地球科学演習、地球生物圏史セミナー、固体地球セミナー、地球物理学セミナーI、地球テクトニクス基礎セミナー、自然災害科学I、自然災害科学II、環境地図科学ゼミナールII、生物学実習I、生物学実習II、生物学実習III、生物自然史基礎論A、生物自然史基礎論B、真菌自然史A、真菌自然史B、動物自然史A、動物自然史B、植物自然史A、植物自然史B、生命現象の生物物理学、基礎生物学A、基礎生物学B、現代植物学、薬学生物学、薬用植物学、霊長類学のすすめ、生態科学、コンピュータグラフィックス実習A、コンピュータグラフィックス実習B、基礎情報処理、基礎情報処理演習、コンピュータサイエンス入門、グラフ・ネットワーク、科学英語A、科学英語B

専門科目

1年次	2年次	3年次
線型代数学演習 A, 線型代数学演習 B, 地球・惑星科学 I, 地球・惑星科学 II, 地球・惑星科学 III, 現代化学セミナー A, 現代化学セミナー B, 大学で学ぶ物理学, 自然人類学 A, 自然人類学 B	集合と位相, 代数学入門, 幾何学入門, 数学基礎演習 I, 数学基礎演習 II, 解析力学 1, 解析力学 2, 波動と量子論, 熱・統計力学 1, 物理のための数学 1, 物理のための数学 2, 物理学情報処理論 1, 解析力学 1 理論演習, 解析力学 2 理論演習, 熱・統計力学 1 理論演習, 天文学概論, 計算地球物理学, 計算地球物理学演習, 地球連続体力学, 観測地球物理学, 観測地球物理学演習 A, 観測地球物理学演習 B, グローバルテクトニクス, 地質科学通論, 基礎地質科学実習, 有機化学 I A, 有機化学 I B, 物理化学(量子化学) A, 物理化学(量子化学) B, 無機化学 I, 物理化学 II, 生物化学 I, 分子生物学 I, 分子生物学 II, 分子遺伝学 I, 海洋生物学, 細胞生物学, 構造生物学, 無脊椎動物学, 植物系統分類学 I, 生物物理化学, 生体分子科学, 基礎生物学実験 I, 基礎生物学実験 II, 基礎生物学実験 III, 臨海実習第 1 部	代数学 I, 代数学 II, 幾何学 I, 幾何学 II, 解析学 I, 解析学 II, 微分方程式論, 函数解析学, 代数学演義 I, 代数学演義 II, 幾何学演義 I, 幾何学演義 II, 解析学演義 I, 解析学演義 II, 函数論統論, 数値解析, 計算機科学, 量子力学 1, 量子力学 2, 量子力学特論 1 散乱と半古典近似, 熱・統計力学 2, 物理実験学 1 (粒子物理), エレクトロニクス, 物性物理学 1, 物性物理学 2, 物理実験学 2 (物性), 物理数学特論 1, 連続体力学, 量子物性論, 電磁気学 3, 電磁気学 4, 物理学情報処理論 2, 非線形科学, プラズマ物理, 宇宙物理入門, 物理の英語, 熱・統計力学 2 理論演習, 量子力学 1 理論演習, 量子力学 2 理論演習, 電磁気学 3 理論演習, 電磁気学 4 理論演習, 現代物理学, 物理科学課題演習(原子核物理: 素粒子の基本相互作用-量子電磁力学, アインシュタインは正しいか?- EPR パラドックスを検証する-, 原子核と電磁場の相互作用, 粒子の加速, 高強度レーザー, 自然における対称性, 自然界の 4 つの力, 宇宙 X 線放射過程, 宇宙ガンマ線放射), 物理科学課題演習(物性物理: , 相転移, 物質の光応答, 固体電子の量子現象, 高温超伝導と巨大磁気抵抗, プラズマ, 量子エレクトロニクス, 低温物性・超流動, 自己組織化現象のダイナミクス), 基礎宇宙物理学 I. 自己重力, 基礎宇宙物理学 II. 電磁流体力学, 基礎宇宙物理学 III. 輻射/観測, 物理科学課題演習(宇宙物理: 天体測光観測, 天体撮像観測, 天体分光観測), 弾性波動論, 地球流体力学, 電離気体電磁力学, 地球熱学, 測地学 I, 地震学 I, 海洋物理学 I, 気象学 I, 地球電磁気学, 物理気候学, 火山物理学 I, 地形学, 地球惑星科学課題演習(地球物理: 固体地球系, 流体地球系, 重力と地殻変動, 地球内部と地震発生, 地下構造と活構造・地表変動, 地球熱学, 海洋構造と変動システム, 気象学総合演習, 地球磁気圏の構造と波動現象, 気候システムと気候物理), 岩石学 I, 岩石学 II, 鉱物学 I, 鉱物学 II, 層序学, 地質調査法, 生物圏進化史, 古生物学 I, 古生物学 II, 構造地質学, 地層学, 地球年代学, 岩石レオロジー, 岩石学実験 I, 岩石学実験 II, 結晶学演習, 地質科学野外巡検 I, 地球テクトニクス実験, 古生物学実験, 地球惑星科学課題演習(地質鉱物: 地質科学研究法 1, 地質科学研究法 2), 生物化学 II, 生物化学 III, ケミカル・バイオロジー, 化学実験法 I, 化学実験法 II, 無機化学 II A, 無機化学 II B, 物性化学 I, 物性化学 II, 化学統計熱力学 I, 化学統計熱力学 II, 有機化学 II, 有機化学 III, 化学数学, 物理化学 III A, 物理化学 III B, 量子化学 I, 量子化学 II, 分析化学 I, 分析化学 II, 環境化学, 化学演習 I A, 化学演習 I B, 化学演習 II A, 化学演習 II B, 化学演習 III A, 化学演習 III B, 化学演習 IV, 化学演習 V, 化学演習 VI, 化学実験 A, 化学実験 B, 化学実験 C, 化学実験 D, 植物系統分類学 II, 脊椎動物系統学, 動物行動学, 生態学 I, 生態学 II, 人類学第 1 部, 人類学第 2 部, 陸水生態学, 放射線生物学, 分子情報学, 理論分子生物学, 発生物学 I, 発生物学 II, 植物生理学, 動物発生進化論, 植物分子生物学, 分子進化学, 環境生態学, 免疫生物学, 神経生物学, 分子遺伝学 II, 膜生物学, ゲノム科学, 再生生物学, 細胞内情報発信学, 数理生物学, 植物分子遺伝学 I, 生物間相互作用, 植物分子遺伝学 II, 生物学セミナー A, 生物学セミナー B, 生物学実習 A, 生物学実習 B, 生物学実習 C, 生物学実習 D, 生物学実習 E, 臨海実習第 2 部, 臨海実習第 3 部, 臨海実習第 4 部, 野外実習第 1 部, 野外実習第 2 部, 陸水生態学実習 I, 陸水生態学実習 II, 安定同位体実習, 物質の創成と制御

4年次	卒業研究科目	特別講義
代数幾何学 I, 代数幾何学 II, 整数論 I, 整数論 II, 位相幾何学 I, 位相幾何学 II, 微分幾何学 I, 微分幾何学 II, 確率論, 偏微分方程式, 函数解析特論, 解析学特論 I, 解析学特論 II, 力学系, 非線型微分方程式, 数値解析特論, 計算機科学特論, 保険数学 I, 保険数学 II, 保険数学演習 I, 保険数学演習 II, 原子核物理学 1, 原子核物理学 2, 素粒子物理学 1, 素粒子物理学 2, 重力, ソフトマター, 量子力学特論 2 場の量子論, 量子力学特論 3 多体論, 量子光学・光物性, 物理数学特論 2, 非平衡統計, 物性物理学 3, 物性物理学 4, 太陽物理学, 恒星物理学, 銀河・星間物理学, 観測的宇宙論, 惑星物理学, 測地学 II, 地震学 II, 海洋物理学 II, 気象学 II, 太陽地球系物理学, 陸水物理学, 火山物理学 II, 活構造学, 鉱物学特論, 惑星科学基礎論, 変成岩岩石学, 地史学, 鉱物学実習, 地質学機器分析法実習, 地質科学野外巡検 II, 実験岩石力学, 実験岩石力学実習, 理論テクトニクス特論, 地球年代学実験, 無機化学 III, 物理化学 IV, 有機化学 IV, 有機化学 V	<p>[数学] 代数学講究, 幾何学講究, 解析学講究, 計算機科学講究</p> <p>[原子核科学] 自然における相互作用 I, 自然における相互作用 II, 素粒子と原子核, 原子核の世界, 天体核現象, 高エネルギー天体物理</p> <p>[物性科学] 不規則系の物性, 光物性, 固体電子物性, 超伝導と磁性, プラズマ, レーザー分光, 低温物理, 化学物理・生命現象の物理, 非線型・非平衡現象の理論, ソフトマターの階層構造と揺らぎ, 凝集系の分子分光, 分子集合体および無機化合物の構造と物性, 固体・表面のナノ構造解析, 反応動力学・理論生物物理学, 化学物理理論</p> <p>[宇宙科学] 太陽物理, 恒星物理, 銀河物理, 理論天文学</p> <p>[地球惑星科学 (地球物理学)] 惑星間空間物理, 地球電磁場, 大気物理, 気候物理, 海洋物理, 地震・地球内部, 測地, 地表変動・固体地球物理・火山物理</p> <p>[地球惑星科学 (地質学鉱物学)] 地球テクトニクス, 岩石学, 鉱物学, 地層学, 地史学</p> <p>[化学] 有機物性化学, 生物構造化学, 量子化学, 理論化学, 分子分光学, 物理化学, 光物理化学, 分子構造化学, 電子スピン化学, 金相学, 表面化学, 無機物質化学, 有機合成化学, 有機化学, 集合有機分子機能, 生物化学, 遺伝子動態学</p> <p>[生物科学] 植物系統分類学, 動物系統学, 動物生態学, 生態科学, 自然人類学, 霊長類行動生態学, 動物行動学, 海洋生物学, 免疫生物学, 動物の発生と進化, 植物生理機能学, 植物の発生生物学・細胞性粘菌における細胞分化と形態形成, 植物分子遺伝学, 植物細胞分化の分子生物学, 分子細胞生物学, 放射線生物学, 細胞分子構造生物学, 分子情報学, ゲノム情報発現学, 細胞シグナル伝達の分子生物学, 神経生物学, 多細胞体構築の分子発生遺伝学, 遺伝子分子生物学, 幹細胞と幹細胞化の分子細胞生物学</p>	数学特別講義, 物理科学特別講義, 地球惑星科学特別講義, 化学特別講義, 生物科学特別講義

医学部

Faculty of Medicine

学部概要 (医学部が望む学生像)

京都大学医学部は 21 世紀の医学・医療の発展を担い、人類の福祉に貢献することを自らの使命と考え、この理想を追求する学生を求めています。医学には大きく分けて、基礎医学および臨床医学の研究に携わる分野、多様な疾患に悩む患者の医療に携わる分野、さらに環境・福祉・予防など、広く地球的な視点から人々の健康増進に関わる社会医学分野があります。

医学は生命科学の中心的分野の一つです。医学研究は生命の不思議を解き明かし、その結果知り得た生命の営みの原理に基づき、なぜ病気が起こるかを解明しようとするものです。さらにこの病因解明に基づき、新たな診断法や治療法、およびその予防法の開発に努力を傾けます。このような医学研究の遂行には、真理を追求するための強い好奇心と未知への挑戦心、不屈の精神と忍耐力などが重要です。

医療の原点は「人を愛する」ことにあります。それ故、医療に携わる者には、感性豊かな人間性や人間そのものに対する共感と深い洞察力、および人々の健康を増進し、病める者を救おうという強い意志と情熱が必要です。また現代の医療は多様な職種の特任家との連帯あるいは共同作業を要することから、医師には円滑に医療を遂行するための指導力と大きな包容力、ならびに厳しい倫理観が求められます。さらに、医療の進歩と発展に寄与するためには、強い向上心と探求心を持ち続けることのできる人材が求められます。

社会医学は、単に一人ひとりの患者ではなく、我が国あるいは世界の大きな集団を対象として、人々の健康増進を追求する分野です。さらに、このような問題解決のために行政的、あるいは啓発的活動も行う必要があります。このような社会的な要因による医学的問題解決のためには、秀でた社会性と優れた行政的活動能力、および幅広い国際性が要求されます。したがって、この分野では広い視野を持ち、人間社会全体に目を向ける感性、柔軟な思考力と豊かな人間性を持つ人材が望まれます。

京都大学は学生の自主性、自己啓発を教育の主眼として、個性豊かな創造性の涵養を目指しているため、自ら学習課題を発掘し解決しようとする主体性を持った人材を求めています。さらに、京都大学医学部は、多様な能力と幅広い教育背景を持ち、医学・医療の分野で指導的立場に立ちうる人材を集めたいと考えています。このような背景に鑑み、医学に従事する職業的な制約による適性を重視し、高い知的能力のみならず、人間性を含めた総合的に卓越した能力・人格を有する学生の入学を切望するものであります。

〔写真〕放射線生物学の実習風景



医学科 新医学領域の開拓と革新的医療の創成

医学科の教育がめざすもの

京都大学医学部では、個々の学生の、医師、医学研究者としての資質を最大限開拓し、医学や医療の分野で活躍できる、すぐれたリーダーを養成することをめざしています。

「医師」には高度な専門知識の修得と同時に、その知識を論理的に使いこなす能力、病める患者さんと向き合って病気を治療する感性豊かな人間性や、人間そのものに対する深い洞察力を必要とします。また、何よりも、人々の健康を増進し、病めるものを救おうという強い情熱が必要です。一方、病気の発生機序の解明、新しい診断法や治療法の開発などを目指す医学研究、制度を改革するための人間社会への深い理解も重要です。京都大学医学部は、このようなすぐれた医療人を育成することをめざしています。

「医学研究者」には、新しい知を開拓するための情熱と、卓抜した能力が必要です。京都大学には、国際的にもすぐれた業績をあげ、卓抜した開発能力を有する指導者が集まっており、研究開発のできる人材を養成する環境が形作られています。

生命科学の深淵に触れる基礎医学

第1学年、第2学年では、「全学共通科目」と呼ばれる教養科目を主とした科目の履修が主体となります。しかし、これと並行して、生命科学に関する基礎的な教材に関して、少人数で教員と議論したり、あるいは、人体の理解の基本となる解剖学をはじめとして基礎医学の履修を開始します。

基礎医学の履修は、第3学年では本格的になり、生命科学の深淵に触れる学習を、さまざまな面から掘り下げて深めていくこととなります。その中で、特に学生が興味をもったテーマについては、学生が各研究室に所属して、医学研究の現場に直接触れる期間が自主研修として設けられています。世界的な先進的研究を行っている研究室が多く、最新の医学研究を身をもって体験できる機会となっています。

実践的な臨床医学教育

臨床医学の教育では、近年、単に医学知識を習得するだけでなく、臨床の現場に適応して責任をもって診療できる人材を育成することが強く求められています。京都大学では、節目、節目において、積極的に臨床教育の改革を進めてきましたが、単に各科が個別の分野の教育を行うだけでなく、学生が臨床医学を系統的に学習できるように、医学教育推進センターを設けて、実践的な臨床教育を推進しています。

医学部附属病院は、近年、多くの新しい部門、設備が加わり、例えば基礎医学との橋渡しとしての探索医療センターが設けられました。また、地域医療との密接な関係を作り上げ、医療機関同士の連携により医療の効率を上げるための地域医療ネットワークなどが組織されました。初期診療・救急医学のセッションも整備され、外科も新しい形に再編されるなど、新しい時代を担う組織づくりをめざして脱皮し続けています。施設も多額の寄付により、新しく構築されるなど整備が進んでいます。診療・治療・教育の場として充実した施設となっています。

また、学外の実習病院では、第一線で医療に携わっている経験豊かな医師が

多数臨床教授として学生教育に協力しており、豊富な臨床経験に基づいた少人数教育が行われます。これらを通して、最新の医療の発展に貢献できる人材養成をめざして、密度の高い教育が行われています。

さらに詳しく知るには

医学部ホームページ

<http://www.med.kyoto-u.ac.jp/>

入学についてのお問い合わせ

医学研究科 教務・学生支援室 tel.075-753-4325

在学生からのメッセージ



最先端の科学で生老死に挑戦

医学部医学科 5回生

村川 泰裕 さん

健康長寿は万人の願いです。生命科学の進歩により遺伝子レベルで生命現象や病態が明らかにされ、医療機器も飛躍的に改良されていることを背景に、新たな医療手技が次々に生まれています。このように医学が日進月歩している中、その最先端に身を置き、「生老死(生まれ、病を患い、老い、死ぬ、という四苦)」に挑戦したいと考え、本学の医学部に進学しました。著名な先生方の科学研究の本質に迫る講義に感銘を受けたり、海外のノーベル賞受賞者の研究室で研修したり、本学の研究室で自発的に研究する機会にも恵まれ充実した毎日を送っています。「現在の難病」が近い将来に「過去の病」となることを目指し挑戦し続けたいと考えています。非常に自由な学風の下、自らやりたいことを見つけ探求していく場として本学は最適の環境だと感じています。

学科紹介 (医学科)

医師や医学研究者を養成するための教育・実習を基本とします。すべての授業が必須科目で、6年間の授業で、医学全般をすべて学び、経験することになります。基礎医学は、生命科学と医師に必要な解剖学・病理学・法医学・社会健康医学などを学びます。臨床教育は、すべての臨床医学の分野について、授業と臨床実習によって、理論的な基礎と実際の医療現場での活用を学びます。

これらを通じて、6年の卒業後、医師国家試験の受験資格が与えられます。また、MD・PhDコースが用意されており、研究に専念することを希望する学生は、第4学年終了後、臨床教育を受けずに大学院へ進学し、基礎医学研究に専念することもできます。

1回生	基礎医学生物学, 医学情報リテラシー, Early Exposure
2回生~3回生	組織学, 組織学実習・組織標本作製実習, 肉眼解剖学講義実習, 発生学, 生理学, 生理学実習, 実験動物学, 分子細胞生物学, 分子細胞生物学実習, 神経科学, 脳実習, 免疫学, 微生物学講義, 微生物学実習, 寄生虫学, 病理学総論, 病理学各論・実習, 法医学, 法医学実習, 薬理学・薬理学実習, 放射線生物学, 遺伝医学, 薬物動態学・毒性学, 医療情報学
3回生~4回生	社会・環境・予防医学, 診断治療学総論, 循環器病学・心臓血管外科学, 血液病学, 内分泌・代謝病学, 呼吸器病学, 消化器病学, 泌尿器科学・腎臓病学, 臨床神経学(神経内科学・脳神経外科学), 特殊感染症学, 免疫病学, 整形外科学, 耳鼻咽喉科学, 眼科学, 婦人科学・産科学, 皮膚科学, 小児科学, 加齢医学(老年医学), 精神医学, 麻酔・集中治療・救急医学, 放射線腫瘍学, 口腔外科学, 形成外科学, 医の倫理, 糖尿病・栄養内科学
4回生	自主研究
5回生~6回生	臨床実習(血液・腫瘍内科, 内分泌・代謝内科, 循環器内科, 消化器内科, 呼吸器内科, 免疫・膠原病内科, 老年内科, 糖尿病・栄養内科, 神経内科, 消化管外科, 肝胆膵・移植外科, 眼科, 産科婦人科, 小児科, 皮膚科, 泌尿器科・人工腎臓部, 腎臓内科, 耳鼻咽喉科, 整形外科, 精神科神経科, 放射線科/核医学, 麻酔科/救急部/集中治療部, 脳神経外科, 呼吸器外科, 心臓血管外科, 形成外科, 口腔外科/薬剤部, 検査部・感染制御部/輸血部, 病理部, 外来化学療法部)
6回生	卒業試験

卒業後の進路

研究分野によっては大学院に進学する者もありますが、一般的には医師免許取得後、医学部附属病院あるいは研修病院において2年間の臨床研修を受けます。



医学科で取得可能な資格

医学科の所定の課程を修了し、卒業した者および卒業見込み者は、厚生労働省が実施する医師国家試験受験資格が与えられます。

卒業生からのメッセージ



自ら学ぶこと

2003年 医学科卒業
京都大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 医師

本多 啓吾 さん

私は、卒業後、耳鼻咽喉科・頭頸部外科医として勤務しています。学生時代、京都大学で学べて良かったと感じるのは、自ら学ぶ習慣を身につけることができた点です。医学界は日進月歩であり、医師として医療に従事するためには、常にその進歩について行く努力が必要です。その際、忙しい業務の中で、膨大な情報の中から有用なものをすばやく見つけ出す能力が不可欠となります。これは、与えられたものをこなすだけでは決して身に付きません。学生時代に、自ら考えてこつこつと学んでいくことが大切です。最初は無駄が多いように感じるかもしれませんが、得られる知識よりもむしろ学ぶ過程を大切にすべきです。志の高い仲間と囲まれ最先端の医学に触れば、自ずと様々なことに対する興味関心が湧いてくるでしょう。学生の自主性を重んじる学風のもと、是非、自ら考え、自ら学び深めていってください。



社会人として、医者として

2005年 医学科卒業
京都大学医学部附属病院研修医

吉岡 拓人 さん

医学部に入ると、ほとんどの方が医者になります。私は元々医学部を選ぶに当り、医者とはどういうものなのかあまり深く考えていませんでした。大学時代は3つのクラブ活動の中で密な人間関係を通して、受験勉強で凝り固まった頭が少々軟らかくなり、人間として成長出来た気がします。そして国試を終え医者としてのスタートを切り、今は日々の業務に追われつつも少しずつ気づいてきました。医者は社会人である、社会に貢献する義務があると。いくら仕事が辛くてもそのことを忘れず頑張らねばと思っています。ただ医者は人間であるので、多忙な合間にうまく息抜きをするといった自己管理も必要です。今振り返れば、医者としての土台が築かれた京大時代は非常に有意義でした。決して自分は医者になるという自覚を忘れず、日々の活動を頑張ってください。



【写真】血液検査学実習風景

保健学科が望む学生像

京都大学医学部がこれまで推し進めてきた医学研究並びに高度先進医療をさらに発展させ、豊かな保健・福祉社会を実現するため、新しく設置した保健学科において健康科学を確立し、人々の健康を実現したいと考えています。

これを具体化するには、共に学び共に展開する人材が必要です。保健学科は高度医療専門職を、そして将来の健康科学を発展させる人材を育成したいと考えています。恵まれた教育・研究環境で、そして学問を育む京都において、夢のあるチャレンジを志す若人を求めています。

保健学科教育課程の概要

本学科では、「健康について科学すること」を教育過程の中心として取り上げ、新入生から『人間健康科学概論』において、「健康科学」に関する基盤形成をしていきます。4年間を通じてヘルスプロモーションの考え方を学習し、保健医療福祉分野において「健康科学」を実践しようとする人材を育成します。

チームに積極的に参画してリーダーシップを発揮できる医療専門職として、患者中心の医療を進めるために必要な共通理念・方法論を学習し、その基礎の上に立って高度先進医療に対応でき、国際的にも将来の医療を担うことのできる人材を育成します。

授業科目の区分

保健学科の授業科目は、全学共通科目、専門基礎科目、専門科目から成り立っています。全学共通教育は、個々の学問領域を超えた幅広い分野に共通する基礎的な知識および方法を教授するとともに、学生が高度な学術文化に触れることを通して豊かな人間性を育むための教育を実施することを目的としています。専門基礎科目は、医学部保健学科全専攻の学生が個々の専門領域を超えて、医療従事者として共通する基礎的な専門知識を教授するものです。そして専門科目は、各専攻それぞれの専門分野における知識や技術を教授するものです。

学年	1		2		3		4	
セメスター	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
科目	全学共通科目				各専門科目			
	専門基礎科目 (全専攻共通・必修)				・看護学専攻 ・検査技術科学専攻 ・理学療法学専攻 ・作業療法学専攻			

セメスター制の履修方法

セメスター制とは、1年を前期・後期の2学期に分けて、各学期ごとに履修科目登録と成績評価を行う制度です。保健学科は基本的にセメスター制をとりますが、各教科実習や臨床実習の実施日時は京都大学全体のセメスター日時と一致しない場合があります。

全学共通科目

全学共通科目はA群、B群、C群、D群の4群に区分されます。これをもとに保健学科は卒業に必要な基礎となる科目数と単位数を定めています。各専攻によって、特に履修を要望する科目があります。

専門基礎科目

専門基礎科目は医療専門職に進む学生が共通して学ぶべき医学・医療領域のコアカリキュラムと位置付けられる重要なもので、全専攻に共通する専門領域の基礎概念および基礎知識を理解するための科目です。一般教養科目と平行して第Iセメスターより第IIIセメスターまでに、保健学科全専攻の学生は必須単位として共通履修することとなります。

専門基礎科目は生体の基礎、医療の基礎ならびに健康科学より構成され、13科目が含まれその配当単位は合計17単位となっています。全学共通科目として開講される基礎人体構造学、生体制御機構概論、医療情報学、健康人間学の4科目は全専攻の学生に必須単位であり、専門基礎科目としての履修単位とみなされます。

専門科目(看護学専攻)

看護学専攻では第Iセメスターから、全学共通科目・専門基礎科目と並行して、看護学の基礎となる「看護学原論」、「生活環境看護学」、「コミュニケーション論」を学習します。これらの科目は、看護学において基本的な概念となる人、環境、生活、健康に対する理解を深めると共に、看護に対する興味を新たにしたり、各自の看護観を形成したりするための基盤となるものです。第IIセメスターでは、援助方法の基礎となる「看護援助学」「看護援助学演習I」など、より具体的な学習を進めます。

2年次以降は成人、老年、母性、小児、精神、地域の各領域の専門科目が本格的に始まります。ここでは、人体の構造や機能、病理などの専門基礎科目や、基礎看護学の学習を踏まえ、各領域の特性や捉え方、疾患をもつ人や状況のアセスメント、必要な援助方法などを学習します。一部の演習は各領域が共同し、事例を用いたより具体的なフィジカルアセスメントや症状マネージメントをしたり、援助の考え方を習得できるように学習します。

専門科目(検査技術科学専攻)

- 1年次：全学共通科目として「健康について科学すること」を教育テーマの中心として取り上げ、『人間健康科学概論』において、「健康の科学」に関する基盤形成をしていきます。また、チーム医療教育として、患者中心の医療を進めるために必要な共通理念・方法論を学習します。広い教養と見識を培う時期です。
- 2年次：基礎医学に関する講義を中心に問題を論理的に解説する能力を培います。生体の正常な機能と病因・病態を中心に、基礎医学の知識を総合的に理解する時期です。後期では臨床検査に関連する実習を行います。専門基礎科目を中心に編成されており、いずれ臨床医学の場で必要となる基礎医学を学習します。
- 3年次：臨床検査医学に必要な実習が主体となり、知識を経験に活かす時期となります。基礎医学の総論、実習を通じて学んできた知識を実習に活かし、臨床検査に関する技術を習得することにより、将来に向けて生きた知識と技術を体験します。
- 4年次：卒業ゼミとして、指導教員のもと各自が学生医学論文のための研究に取りかかります。さらに、3年次までに実習してきた臨床検査学全般にかかわる実践的な検査実務を、病院実習として

京都大学医学部附属病院の検査部・病理部・輸血部において、少人数単位で体得します。臨床検査技師の国家試験を受験しますが、その対策に終始することなく、チーム医療教育、地域医療、医療の国際協力など幅広い医療に関する問題および医工連携に直結する実習にも取り組んでいます。

専門科目 (理学療法学専攻)

第Ⅰセメスターから「理学療法総論」を学び、「理学療法見学実習」で実際の理学療法の現場を見学・体験させることによって理学療法への興味を深めた後、第Ⅱセメスターから専門科目として人体構造学、運動機能解剖学などの基礎医学を学んでいきます。

第Ⅲセメスターには疾病概論、外傷・救急概論、病理学総論などの専門基礎科目を中心に学び、その後の専門科目を学ぶ上での基礎づくりを行います。そして第Ⅲセメスターから第Ⅴセメスターにかけては理学療法評価学、各疾患別理学療法学などの専門科目が始まり、それまでに学習してきた基礎医学と臨床医学を結びつけるような講義および実習を行います。

第Ⅵセメスターから第Ⅶセメスターにかけては臨床実習を行い、臨床現場における理学療法の実践を経験します。第Ⅷセメスターは卒業研究と各種セミナー等の演習科目により、さらに理学療法学を深めていきます。

専門科目 (作業療法学専攻)

1年次では、共通科目と専門基礎科目と合わせて、臨床実習Ⅱ(早期臨床体験)により実際の作業療法臨床の場面を見学することで、作業療法への興味を深め、2年次からは、人体の構造と機能および心身の発達について、作業機能開発学講座から作業学、作業分析学、作業学演習Ⅰ、作業療法評価学総論を、作業機能適応学講座から発達障害系病態学、精神医学、老年医学、作業療法治療学の各(身体障害、精神障害、発達障害)領域についての総論を学びます。3年次には、さらにそれらの応用として、作業療法管理運営論、心理社会機能評価学、日常生活援助法Ⅰ・Ⅱ、研究方法論、作業療法治療学の各領域それぞれの各論、高次神経障害作業治療学、高齢期作業治療学、さらにはそれらの技術を習得するための演習・実習を学びます。4年次には、より高度な臨床応用力をつけるために、地域作業治療学、作業療法演習、各領域の適応学原理を選択により作業療法アプローチに重点をおいて学びます。

さらに詳しく知るには

医学部保健学科ホームページ

<http://www.hs.med.kyoto-u.ac.jp/>

入学についてのお問い合わせ

医学研究科 教務・学生支援室 (保健学科教務担当) **tel.075-751-3906**

在学生からのメッセージ



「健康」って楽しいこと!!

保健学科看護学専攻3年生

熊谷 有希子 さん

医学の進歩や社会の発展に伴い、人々の価値観やライフスタイルが変化してきた今、保健医療では、一人一人が主体的に健康へアプローチできるような援助が求められつつあります。そういった意味では「保健」という領域は過渡期にあり、保健学科では一般の保健学に加え、人々の求める新しいスタイルを持った「健康」について様々な観点から学ぶことができます。

入学当初は保健にあまり興味がなかった私も、保健医療の無限の可能性と健康の楽しさを実感し、同時に、時代を超えて変わらない人々の“生きる願い”のようなものを見つけた気がします。

医療系だからといって堅くなることはありません。人々の求める新しいスタイルの「健康」とは何か、それは自身の日々の生活や仲間との交流の中で、自然と見出されていくものなのかもしれません。実に個性的な教授陣も、あなたの熱意を応援してくれます。

「健康」を楽しんでみませんか。

卒業後の進路

[看護学専攻] 医療系(病院、診療所、助産院、訪問看護ステーション、保健所、介護老人保健施設など)、福祉系(健康福祉事務所、老人福祉施設、児童福祉施設、知的障害者援護施設など)、学校(養護教諭)、官公庁、企業、教育研究機関、大学院進学など

[検査技術科学専攻] 医療系(病院、診療所、保健所等)、教育研究機関、大学院進学、製薬等企業・研究所、医療機器メーカー、臨床検査センター、今後は高度先進医療関係、科学捜査研究所、医療・保健行政など

[理学療法学専攻] リハビリテーションセンター、国公立病院、私立病院、老人保健施設、肢体不自由児施設、通所リハビリテーション施設、大学院進学、行政機関、教育機関、関連企業など

[作業療法学専攻] 医療系(病院、診療所、保健所、保健センターなど)、福祉系(児童福祉施設、精神障害者社会復帰施設、身体障害者社会性援護施設、老人福祉施設など)、養護学校、関連企業、研究所、保健医療福祉行政機関、大学院進学など

* 医学部保健学科としては、未だ卒業生がありませんので、以下のグラフは2006年3月の京都大学医療技術短期大学部4学科の卒業生の進路状況を掲載しています。

看護学科



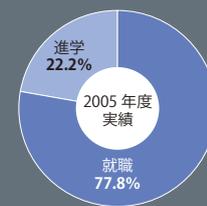
衛生技術学科



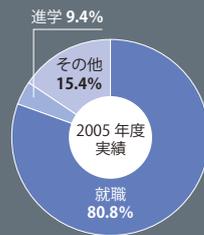
就職	60	国公立・大学附属病院	33
		私立病院	27
進学	17	大学編入	15
		助産師課程	2
その他			8

就職	15	病院	9
		企業	5
		その他	1
進学	15	大学編入	11
		臨床工学技士専攻科	3
		その他	1
その他			5

理学療法学専攻



作業療法学専攻



就職	14	病院	14
進学	4	大学編入	4

就職	21	病院	15
		企業	1
		その他	5
進学	1	大学編入	1
その他			4

保健学科で取得可能な資格

保健学科の所定の課程を修了し、卒業した者および卒業見込み者は、以下の厚生労働省が実施する国家試験の受験資格が与えられます。

[看護学専攻] 看護師、保健師

[検査技術科学専攻] 臨床検査技師

[理学療法学専攻] 理学療法士

[作業療法学専攻] 作業療法士

看護学専攻

看護学の対象者は、あらゆるライフサイクルにある個人や家族はもとより、広く地域や国際社会にも及んでいます。また、病気の人だけでなく、疾病の予防や健康増進を含むあらゆる健康レベルにある人に関わっています。既成の枠にとらわれない新しい発想のもとで教育・研究を行い、新たな領域を開拓していくことをめざし、看護学専攻では、教育・研究体制として大講座制をとっています。

1. 臨床看護学講座

臨床看護学講座は、基礎看護学系と臨床看護学系からなっています。基礎看護学系は、看護学の理論や概念を背景に、実践の基盤となるエビデンスの探求や評価手法を開発し、看護学全体の基礎となる知識や方法論の体系化をめざして教育・研究を行います。臨床看護学系は、主として成人期にある人のからだところの健康問題に対し、専門的な視点からアセスメントする方法や援助方法を開発し、実践の場で有効に活用できるように、教育・研究を行います。

2. 家族看護学講座

少子化・核家族化が進む 21 世紀において、家族は非常に重要な社会的単位であり、健康生活を維持・増進するための一次的なサポートシステムです。さまざまな家族・社会の形態や環境のなかで、夫婦が自立して次世代を生き育てることに直接あるいは間接的に参加できるように、支えし生活を援助していく方法を教育・研究します。

3. 地域・老年看護学講座

長寿・高齢化社会や少子化社会に対応してサクセスフルエイジング、介護予防、訪問看護等の地域高齢者に対する保健看護活動や地域組織活動、健康な街づくり、保健医療福祉の連携とネットワーク化等の地域看護の専門的な理論や技術について教育・研究します。

検査技術科学専攻

検査技術科学専攻は、近年の分子細胞生物学、遺伝子医療、移植医療、再生医療など医学および医療技術の急速な進歩に伴い、幅広い教養と専門医療職としてのより深い知識や最新の技術を習得した臨床検査技師を養成することを目的とします。本専攻は、基礎生体病態情報解析学、臨床生体病態情報解析学、ならびに情報理工学の3講座からなり、基礎医学、臨床医学、遺伝子工学、画像診断学・情報科学を含めた生命科学のあらゆる分野を視野に入れた幅広い知識や技術を学び、さらに国際的にも活躍しう研究者・教育者としての優れた人材を育成します。

1. 基礎生体病態情報解析学講座

基礎生体病態情報解析学講座では、難病、移植、再生、生殖医療等の高度医療を主とする生体情報解析に対応できる検査技術科学を開発・発展させるために、生体からの情報を抽出し遺伝子、分子レベルから細胞、組織にわたる基礎的な生理学的ならびに病理学情報を分析します。これらの情報を基に病態解明のための分子診断検査、細胞情報解析ならびに形態学的解析技術等を開発し、これに関する教育、研究を行います。

2. 臨床生体病態情報解析学講座

分子生物学、遺伝子工学技術の急速な発展・進歩に伴い、難治疾患に対する高度先進医療の開発が医療現場で大きく進展しています。臨床生体病態情報解析学講座では、移植・再生医療、遺伝子治療をはじめとする先端科学の臨床への展開を支援する臨床検査のエキスパートとして必要な理論や技術について教育・研究します。

3. 情報理工学講座

生体医療情報解析に画像診断技術が高度先進医療として導入されつつあります。これらの診断機器を開発・導入する上で、基礎となる情報科学の理論、医用工学技術について習得する必要があります。そのために、情報理工学講座では、医学・医療分野と工学分野を融合した医工連携による最先端技術の研究開発および事業化に将来発展しうる教育・研究を行います。

理学療法学専攻

理学療法は、日常生活に必要な基本的動作能力に障害があったり、または障害を引き起こす可能性のある人々に対して社会生活に適応するために必要な援助技術や治療技術を提供する実践科学です。少子高齢化の進んだ今日では、理学療法士の職域は医療現場だけでなく地域医療や福祉の分野などにも急速に拡大し、保健・医療・福祉専門職としてバランスのとれた活動が求められます。また理学療法士は、医療専門職の中でもとりわけ自由裁量に基づいた判断と行動が必要とされ、そのため専門領域の知識や技術の習得だけでなく豊かな人間性と問題解決能力の涵養が必要とされます。

理学療法学専攻は、このような社会的ニーズに応えることのできる理学療法士を養成するために運動機能開発学講座と健康運動機能学講座を設けています。

運動機能開発学講座

運動機能開発学講座では、疾病や外傷などによって運動機能に障害が生じたり、後遺症が残存したものの、スポーツ障害や呼吸循環代謝障害などに対してこれらの回復や軽減を目的とした理学療法を対象にします。

健康運動機能学講座

健康運動機能学講座では、健康な生活を営むために必要な運動機能について定量的、定性的に分析・評価するための方法を確立し、高齢者の保健、障害予防のための運動方法の研究などを対象にします。

本専攻の最大の特徴は、附属病院で実践される先端医療を目の辺りにした臨床教育に学生が自ら参画できる環境にあるということです。理学療法におけるこの領域は世界的にも未知の部分が多く、今後の可能性が注目されるどころです。

卒業後は、急性期、療養型の医療機関だけでなく、高齢者の保健・行政機関、リハビリテーションセンター、介護保険事業所、教育、研究機関などに就職し、リーダーとして活躍する事が期待されます。

作業療法学専攻

人の日々の生活は、身辺処理や生活管理などの日常生活活動、職業や家事・育児・学業などの仕事関連活動、余暇活動などとさまざまな作業活動によって営まれています。生活の質、健康な生活、社会参加の内容は、そうした作業活動のありように左右され、病や障害はその作業活動に支障を来し生活に障害をもたらします。病や障害の有無にかかわらず人間の健康な生活を維持し、豊かにするには、日々の生活を構成するさまざまな作業活動の影響・効果を科学的に捉えることが必要です。作業療法学専攻は、健康科学の一環として「作業療法学」を確立し、より高度な専門性を備えた臨床、教育、研究に携わる人材の育成するため、作業機能開発学講座と作業機能適応学講座を設けています。

1. 作業機能開発学講座

作業と人間との関わり、作業が生活に及ぼす影響・意義、など人間の健康生活に必要な作業活動の基本機能を神経筋骨格系の機能的側面、社会心理学的側面から理論的に理解、究明し、心身の障害に対する作業治療学、日常生活や社会生活の援助の基礎となる知識と効果的介入法の教育と研究を図ります。

2. 作業機能適応学講座

精神機能、心理・社会機能、感覚・運動機能、高次神経機能、など人間の健康生活の基本となる機能に障害がある人々に対し、生活を構成するさまざまな作業活動を用いて日常生活の自律と適応、社会参加を図る作業療法に関し、高度な治療原理、問題解決法の考案・実施に関する臨床教育と研究を行います。

全学共通科目 (保健学科)

学 科	科 目
看護学専攻	健康心理学, 健康教育論, 人間健康科学概論, 分子細胞生物学, 医療有機化学 A, 医療有機化学 B, 神経科学総論 A, 神経科学総論 B
検査技術科学専攻	健康心理学, 健康教育論, 人間健康科学概論, 数学基礎 A, 数学基礎 B, 初修物理学 A 又は物理学基礎論 A, 初修物理学 B 又は物理学基礎論 B, 医療有機化学 A, 医療有機化学 B, 神経科学総論 A, 神経科学総論 B, 分子細胞生物学, 物理学実験, 分析化学及び環境化学実験, 情報科学概論, 基礎情報処理演習
理学療法専攻	健康心理学, 健康教育論, 人間健康科学概論, 神経科学総論 A, 神経科学総論 B, 人間発達学, 健康運動学, 分子細胞生物学, 医療有機化学 A, 医療有機化学 B, 情報科学概論, 基礎情報処理演習, 初修物理学 A 又は物理学基礎論 A, 初修物理学 B 又は物理学基礎論 B
作業療法専攻	健康心理学, 人間健康科学概論, 神経科学総論 A, 神経科学総論 B, 人間発達学, 健康運動学

専門科目 (保健学科)

大学科目 (系)	1 回生～	2 回生～	3 回生～	4 回生
看護学専攻	看護学原論, 生活環境看護学, 看護援助学, コミュニケーション論 (人間関係論), 看護援助学演習 I, 生活健康実習	生体防御看護学, 看護援助学演習 II, 生活援助実習, 成人看護対象論, 成人看護学 I, 成人看護学 II, 成人看護学演習, 精神看護学概論, 母性看護概論, 母性保健論, 小児看護概論, 小児保健学, 生育医療学, 在宅ケア論, 老年看護学, 保健福祉行政論, 地域看護学概論, 地域看護学断学, 保健看護政策論, 保健行動学習論, 地域看護活動論 I, 地域看護活動論 II	成人看護学実習, 精神看護学演習, 精神看護学実習, 母性看護学演習, 小児看護学演習, 家族看護学, 母性看護学実習, 小児看護学実習, 基礎助産学, 生殖科学, 助産診断技術学 I, 老年看護学演習, 老年看護学実習, 地域看護学演習, 地域看護学実習	看護管理・倫理学, 看護カウンセリング論, 緩和ケア論, 患者教育論, 高度医療看護論, リエゾン精神看護学, ヒューマン・セクシャリティ論, ペアレンティング論, 助産診断技術学 II, 助産経営学, 助産学実習, 看護研究, 選択実習, 症例研究,
検査技術科学専攻		生化学, 生化学実習, 分子生物学実習, 細胞生物学実習, 微生物学, 微生物学実習, 臨床検査総論, 血液学, 臨床生理学, 医用電子工学, 医用電子工学実習, 検査情報管理学	遺伝子検査技術学, 遺伝子検査技術学実習, 医動物学・実験用動物学, 医動物学・実験用医動物学実習, 病理学各論, 病理組織・細胞検査学, 臨床検査総論実習, 感染制御学, 血液検査学, 血液検査学実習, 臨床生理学, 臨床生理学実習, 臨床化学, 臨床化学実習, 生体応答解析学, 生体応答解析学実習, 医療情報学実習, 診療画像学概論, 画像情報学実習, 検査情報管理学実習, 生体応答解析学, 情報処理工学, 医用核磁気学	公衆衛生学実習, 検査精度管理学, 放射性同位元素検査技術学, 病理組織・細胞検査学実習, 画像診断機器工学, 医用機器システム学, 臨床実習, 臨床病態学, 卒業研究
理学療法専攻	理学療法見学実習, 理学療法総論, 人体構造学, 運動機能解剖学	リハビリテーション医学, 運動学, 筋・骨格系病態学, 筋・骨格系理学療法学, 神経系病態学, 人体機能学, 人体機能学実習, 発達障害系病態学, 老年医学, 日常生活援助法 I, 精神医学, 人体構造学実習, 理学療法評価学, 運動機能評価学実習,	臨床運動機能学, 臨床運動機能学実習, 筋・骨格系理学療法学実習, 神経系理学療法学, 神経系理学療法学実習, 呼吸循環代謝系病態学, 呼吸理学療法学, スポーツ傷害理学療法学, 発達障害系理学療法学, 臨床評価実習 I, 臨床実習 I, 理学療法評価学実習, 老年期理学療法学, 地域理学療法学概論, 物理療法学, 生活動作学実習, 循環代謝系理学療法学, 義肢学, 装具学, 臨床評価実習 II, 日常生活援助法 II	身体運動解析セミナー, 画像診断セミナー, 運動機能解剖セミナー, 症例検討セミナー, 理学療法特論, 臨床実習 II, 卒業研究
作業療法専攻	臨床実習 I, 人体構造学, 運動機能解剖学	人体機能学, 人体機能学実習, 作業学, 作業分析学, 作業学演習 I, 作業療法評価学総論, 日常生活援助法 I, 臨床実習 II, 発達障害系病態学, 精神医学, 老年医学, 身体障害作業療法治療学総論, 精神障害作業療法治療学総論, 発達障害作業療法治療学総論, 人体構造学実習, 運動学, 筋・骨格系病態学, リハビリテーション医学, 神経系病態学, 運動機能評価学実習	作業療法管理運営論, 作業学演習 II, 生活機能評価学実習, 感覚運動統合機能評価学演習, 心理社会機能評価学, 日常生活援助法 II, 臨床実習 III, 研究方法論, 身体障害作業療法治療学各論 I, 身体障害作業療法治療学各論 II, 精神障害作業療法治療学各論 I, 精神障害作業療法治療学各論 II, 高次神経障害作業療法治療学各論 I, 発達障害作業療法治療学各論 II, 作業療法技術論, 高齢期作業療法学	地域作業治療学, 臨床実習 IV, 心理社会機能適応学原理/感覚統合機能適応学原理/高次神経機能適応学原理, 作業療法演習, 卒業研究

薬学部

Faculty of Agriculture

薬学部が望む学生像

京都大学薬学部は総合科学としての薬学の基礎体系を習得させ、創薬、医療薬学に関わる科学者、技術者、薬剤師を育成することを目標とします。

薬科学科：薬科学科の主たる使命は医薬品の創製です。自ら考え、探求し、創造する豊かな心を持つ人材が求められます。

薬学科：薬学科の主たる使命は最適な薬物治療の実現です。医療の進歩と発展を担うため、向上心と探求心を持ち続けられる人材が求められます。

学部概要

京都大学における薬学の研究は昭和14年（1939年）に医学部薬学科として始まりました。産学の強い要請により、製薬技術者、研究者の養成を目的に、有機化学系、分析化学系を中核とした教育・研究組織として出発しました。その後の薬学に対する社会的要請の広がりに対応して、生命科学系分野、医療系分野など研究分野を加え、総合科学としての薬学の教育、研究体制が整備されました。昭和35年（1960年）に薬学部薬学科として独立し、翌年に製薬化学科が設置され、2学科となりました。平成5年（1993年）に創薬研究の一層の推進を目的とした薬品作用制御システム専攻が独立専攻として設置されました。平成9年（1997年）に大学院重点化により大学院薬学研究科が創薬科学専攻、生命薬科学専攻、医療薬科学専攻の3専攻体制となり、それと同時に薬学部は総合薬学科の1学科に統合されました。

現在、薬学部の学部教育は大きな変革を迎えようとしております。平成18年度から薬剤師国家試験受験資格が6年間の履修期間を要する教育制度に変更となりました。従って、薬学部も従来の創薬科学研究者、技術者養成を目指す4年制の薬科学科と、高度な職能を持つ薬剤師、医療薬学研究者、技術者養成を目指す6年制の薬学科の2学科となりました。但し、4年制の薬科学科卒業生も大学院薬学研究科修士課程（博士前期課程）修了後、さらに、所定の医療薬学系科目や実務実習等の単位を取得すれば、個別審査の上、薬剤師国家試験受験資格が与えられることがあります。

薬学部は薬学教育、研究の大きな変革に対応するため、平成14年（2002年）に総合研究棟が新設され、平成15年（2003年）に薬学部本館の改修とともに教育棟が新設され、施設面でも大きな充実が図られてきております。また、平成15年には創薬神経科学、医薬品理論設計学の二つの寄附講座が設置され、文部科学省21世紀COEプログラム採択に伴い、生命知識システム学分野が協力講座として設置されました。さらに、平成18年（2006年）には、同省の特別教育設備費で、今までよりも総合的な教育や研究のための統合薬学フロンティア教育センターが設置されました。

〔写真〕DNAチップ解析によるテーラーメイド医療研究

総合科学としての薬学研究の発展を通じて社会貢献へ



薬学部の教育

創薬科学、医療薬学の研究者と 高度な職能をもつ薬剤師を育てる

薬学は疾患の治癒、健康の増進をもたらす医薬品の創成、生産、使用を目的とした総合科学です。薬学の基礎は物理学、化学、生物学である。これらの基礎科学の統合と応用により、薬学の教育・研究を発展させます。最近の医療技術の進歩と高齢化社会の問題等により、薬学に求められる社会的意義の重要性はますます増大しております。医薬品の研究開発や適正使用は人の健康や生命に関わるものです。薬学に携わる人間は単に学問的素養のみならず、高い社会性、道徳性が求められます。京都大学薬学部は4年制の総合薬学科で創薬科学、医療薬学の研究者、技術者の養成を目指してきました。平成18年度より京都大学薬学部は創薬科学研究者、技術者養成を目指す4年制の薬科学科と、高度な職能をもつ薬剤師、医療薬学研究者、技術者の養成を目指す6年制の薬学科の2学科となりました。

1～2回生（薬科学科、薬学科共通）： 全学共通科目を中心にした履修と専門教育への準備

1回生では教養・自然系基礎科目からなる全学共通科目と基礎専門教育科目を履修します。これらの科目は幅広い学問に接して高い教養を身につけるとともに、専門科目を学ぶための基礎学力、思考力を身につけることを目的としています。全学共通科目は人文・社会系科目、自然系科目、外国語科目からなっております。さらに、専門基礎教育科目として薬学概論、薬学生物学、薬学物理化学、基礎有機化学、科学英語なども履修します。2回生では、全学共通科目と専門基礎教育科目を履修するとともに、専門教育の科目も履修します。

3～4回生（薬科学科）：専門科目の講義と実習

3回生では薬学の専門知識・実験技術を学ぶための専門教育科目を中心とした科目を履修します。大学院教育に結びつく高度な専門知識を学ぶ研究基盤教育科目も一部入ってきます。主として午前中は講義、午後は実習を行います。実習は全て必修科目で薬学の全ての専門分野に関する実験技術を習得します。

4回生では主として特別実習を行います。特別実習はほぼ1年にわたって行われます。特別実習は希望する研究室に配属し、教員の指導、助言を受けながら、特定の専門領域の新しいテーマの研究に取り組みます。特別実習は薬学研究の現状を知り、将来の進路を考える上でも重要なものです。

3～6回生（薬学科）：専門科目の講義と実習

3回生では薬学の専門知識・実験技術を学ぶための専門教育科目を中心とした科目を履修します。大学院教育に結びつく高度な専門知識を学ぶ研究基盤教育科目も一部入ってきます。主として午前中は講義、午後は実習を行います。実習は全て必修科目で薬学の全ての専門分野に関する実験技術を習得します。

4回生前期では主として午前中は講義、午後は医療薬学専門演習を行います。医療薬学専門演習は主として医療薬学分野の研究室をまわり、医療薬学分野全体の研究領域について学びます。4回生後期から特別実習が行われます。特別

実習は6回生まで行われます。特別実習は希望する医療薬学の研究室に配属し、教員の指導、助言を受けながら、特定の医療薬学専門領域の新しいテーマの研究に取り組みます。特別実習は医療薬学研究の現状を知り、将来の進路を考える上でも重要なものです。5回生では特別実習に加えて、医療における薬剤師の役割と職能を理解し、薬剤業務等を学ぶため、京都大学医学部附属病院薬剤部と学外の調剤薬局で4ヶ月間の実務実習を行います。



[写真] X線結晶構造解析の実験風景

さらに詳しく知るには

薬学部のホームページ

<http://www.pharm.kyoto-u.ac.jp/>

入学についてのお問い合わせ

薬学部教務掛 tel.075-753-4514

在学生からのメッセージ



患者のための研究

総合薬学科4回生

松崎 直哉 さん

医療を志す学生はやはりまず医学部を思い浮かべるのではないのでしょうか。薬学は世間的に医学に比べその貢献が知られにくい所があると思います。私は最初医学部志望でしたが、高校の時長期で服薬することがありそれがきっかけで薬に興味を持ち薬学部に入りました。共に入学した友人達もモチベーションが高く、勉強する環境として満足しています。3回生までに講義や実習を通して基礎・専門知識を勉強してきましたが、とりわけ病院での臨床薬学実習では創薬研究の患者への貢献を感じることができた貴重な経験でした。

4回生の私は製剤機能解析学分野の研究で動脈硬化の原因となるコレステロールの研究をしています。患者のためにという本来の目的を意識して友人や先輩と共に研究を楽しんでいます。



4年を経て思うこと

総合薬学科4回生

浦島 利樹 さん

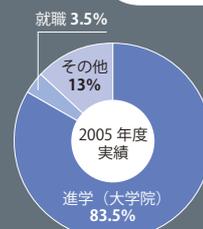
大学入学以来、早いもので4年が経ちました。その間にも、6年制への移行など薬学を取り巻く状況は大きく変化してきた訳ですが、私自身としては、当初から抱いていた「薬を創りたい」という漠然たる思いは変わることなく、むしろ学生実習や病院実習を通して実際の医療の現場に触れることで、その思いは確固たるものになっています。

薬を創るということは、サイエンスを通じて世界中の人々と向き合うことであり、それが与える影響の大きさや、あるいは人のためになるという充実感が自分にとっては大きな魅力です。また、死に抗い克服しようとする点に人間の本質の一つがあると考えており、そういった意味でも薬を創るということは、変わることなくお一層魅力的に映るのです。

現在、私は4回生としてゲノム創薬研究室に属し、刺激に満ちた恵まれた環境の中で、忙しいながらも充実した日々を送っています。いまだ研究者の卵としての第一歩を踏み出したに過ぎませんが、薬を創るという目標に向かい、良い意味での野心を持って精進していきたいと思っています。

卒業後の進路

8割以上が大学院に進学します。修士課程を修了した学生の4割が博士課程に進学します。大学院修了者の就職先には、企業、国立研究機関、大学等教育機関、医療機関などがあり、修士課程修了者では7割が製薬会社に就職しています。



[就職先の例 (修士課程修了者)]

武田薬品工業、三共、大日本住友製薬、小野薬品工業、総合メディカル、第一製薬、大正製薬、田辺製薬、日本新薬、持田製薬、大鵬薬品工業、中外製薬、帝國製薬、ニプロ、ノエビアなど

薬学部で取得可能な資格

薬学部卒業生にとって最も重要な資格は薬剤師です。薬剤師とは、厚生労働大臣の免許を受けて医薬品の製造、調剤、供給に従事できる者のことであり、公衆衛生の向上および増進に寄与し、国民の健康な生活を確保することを任務とします。薬剤師の免許は、薬剤師国家試験に合格したものに与えられ、6年制の薬学科で卒業見込みの者及び卒業生が薬剤師国家試験に受験することができます。また、4年制の薬科学科卒業生も必要な要件を満たせば、個別審査の上、薬剤師国家試験受験資格が与えられることがあります。このほかに、教員職員免許状などの資格が取得できます。

卒業生からのメッセージ



やりたいこと、やるべきこと

2004年 総合薬学科卒業
武田薬品工業株式会社 勤務

出春 裕子 さん

大学時代には、薬学ならではの知識や技術だけでなく、様々なことを学びました。薬学に限ったことではないのですが、やはり一番重要なのは「何をすべきか、何をやりたいか、決めるのは自分」ということだと思います。大学では、授業・サークル・進学や就職先など、たくさんの選択肢から選ぶことが求められます。高校と違って、自由度が高いのです。それゆえ、その決定の責任を持たねばなりません。やりたいと思ったことには積極的に挑戦してください。勉強でも、趣味でも、サークルでもかまいません。同時にやるべきことを冷静に見つめる目も、養ってください。大学生活は長いようであっという間です。その限られた時間を有意義に、楽しく過ごすことができると思います。



薬学部での貴重な時間

1998年 薬学科卒業
京都大学薬学研究科助手

大石 真也 さん

薬学の研究領域は、疾患に関わる遺伝子やタンパク質の解析、医薬品を化学合成する手法の開発、薬の作用メカニズムの解明、患者さんにあった適当な投与形態の開発など多岐にわたっていますが、その目指すところは最も身近で疾病の治療に効果的に用いられる「くすり」を創るという点で共通しており、相互に連携しあっています。私は、このうち新しい薬となりうる化合物の探索やその手法の開発研究を行っています。研究分野は化学を中心としていますが、実際に患者さんに応用されるまでのプロセスをイメージするために、薬学部で学んだ化合物の物理化学的性質や生理作用などに関する幅広い知識が役立っています。

皆さんが将来の創薬研究者あるいは薬剤師として活躍するために、薬学部での充実した学生生活を送ることを期待しています。

学科紹介

薬科学科

医薬品の創成，生産を目的とした総合科学として薬科学の基礎と応用に関する知識と技術を学びます。4年次には特別実習が行われます。卒業生の多くはさらに広い視野にたった専門知識を深め，研究能力を養うために，大学院に進学します。

薬学科

医薬品の適正使用を目的とした総合科学として薬学の基礎と応用に関する知識と技術を学びます。4～6年次には特別実習，病院実習，調剤薬局実習が行われます。薬学科は高度な薬剤師の養成を目指しますが，さらに広い視野にたった専門知識を深め，研究能力を養うことを希望する学生は大学院に進学します。

研究室紹介 (大学院の基幹分野，協力講座，寄附講座，COEプログラム協力講座，統合薬学フロンティア教育センター)

創薬科学専攻

薬品有機製造学：藤井信孝 教授

- 1) ゲノム/プロテオーム情報収斂型創薬研究
- 2) 7回膜貫通G-蛋白共役型受容体の有機化学・創薬化学研究
- 3) ペプチド類縁体をプローブとするケミカルバイオロジー研究
- 4) 抗癌剤，抗ウイルス剤，抗癌剤の分子設計・合成研究
- 5) 新規複素環骨格構築法の開発と創薬テンプレートへの応用

薬品合成化学：富岡 清 教授

- 1) 未来型触媒的不斉合成反応の設計と開拓
- 2) 立体化学制御の分子論的基礎の構築と新概念の創出
- 3) 分子の高次構造制御の有機化学
- 4) 抗腫瘍性有機化合物の設計・合成と生物有機化学
- 5) 生物活性天然物の全合成

薬品分子化学：竹本佳司 教授

- 1) プロセス研究を指向した環境調和型有機合成反応の開発
- 2) 金属の特性を利用した高立体選択的な新反応の開拓
- 3) 生物活性天然有機化合物及びその類縁体の全合成研究
- 4) 機能性複素環化合物の合成とバイオプローブとしての利用
- 5) 多点分子間相互作用するホスト分子の設計と生体機能の構築

薬品資源学：本多義昭 教授

- 1) 薬用植物の多様性に関する研究
- 2) 二次代謝機能発現に関する研究，特にテルペノイドの生合成に関する遺伝子群の発現制御機構
- 3) 生薬ならびに薬用植物に含まれる生理活性成分の研究
- 4) 海外伝統薬物の調査研究

薬品機能解析学：松崎勝巳 教授

- 1) 抗菌性ペプチドの作用機構の解明と創薬への展開
- 2) アルツハイマー病発症機構の解明と予防・治療法の開発
- 3) 膜タンパク質の構造形成原理の解明
- 4) 受容体の機能解析と創薬
- 5) NMRによる生体分子の構造解析

構造生物薬学：加藤博章 教授

生物装置がいかに機能しているのか，その仕組みを担う原子レベルの構造をX線結晶構造解析を用いて解明するべく以下の問題に取り組む。

- 1) トランスポーター，チャンネルなど膜タンパク質機能の構造要因の解明
- 2) 膜タンパク質局在化に関わるシステムの構造生物学
- 3) 酵素の触媒作用の構造的起源の解明

ゲノム創薬科学：辻本豪三 教授

- 1) ゲノム包括的解析による新規創薬標的の発見とターゲットバリデーション
- 2) ゲノムインフォマティクスによる in silico 創薬研究
- 3) 生体内オーファンG蛋白質共役型受容体のリガンド探索
- 4) 遺伝子改変動物，病態動物を用いた遺伝子の個体レベルの機能解析
- 5) 患者個人の遺伝子多型情報に基づいた至適臨床薬物療法の実現

創薬情報科学：馬見塚 拓 教授

- 1) バイオインフォマティクス：ゲノムワイドなデータからの情報処理技術による知識発見
- 2) 先端情報科学技術の創出による生命情報解析・創薬技術の高度化
- 3) 薬物投与データからの生体分子間ネットワーク推定による創薬インフォマティクス
- 4) 生体分子の生命機構の理解に向けた情報抽出技術の高精度化
- 5) システムズバイオロジー：計算機による模倣からの生命現象の解析・理解

製剤機能解析学：半田哲郎 教授

- 1) リポ蛋白質粒子とアポリポ蛋白質の相互作用に関する生物物理化学的研究
- 2) 脂質集合構造によるリパーゼの活性化と阻害に関する生体界面化学的研究
- 3) 脂質非ラメラ相の構造評価とその機能に関する物理化学的研究
- 4) レムナント粒子の細胞毒性とHDLによるその低減に関する研究
- 5) Naチャンネルブロッカーによるインスリンシグナリング抑制機構の解明

精密有機合成化学：川端猛夫 教授

- 1) 動的な不斉制御の方法論と不斉反応への利用
- 2) 有機触媒による精密反応制御
- 3) 分子のキラリティーに基づく高次構造の構築
- 4) 分子認識および超分子化学に関する研究
- 5) 生物活性化合物の創出を指向した新規合成法の開発

生命薬科学専攻

生体分子認識学：竹島 浩 教授

- 1) 小胞体 Ca2+ シグナリングに関する研究
- 2) 中枢系の新規情報伝達に関する研究
- 3) 筋細胞の膜構築と機能に関する研究
- 4) 神経系における糖鎖シグナルの役割の解明
- 5) 小型魚類を用いた発生に関する糖鎖の機能解析

分子微生物学：渡部好彦 助教授

- 1) インターフェロン産生と作用機序 (抗ウイルス機構) の解析
- 2) インターフェロンに対する多面的な細胞応答機序の解析
- 3) インターフェロン遺伝子の遺伝子治療への応用

腫瘍ウイルス薬品学：下遠野邦忠 教授

- 1) がんウイルスによる細胞の増殖制御と発がんの分子機構に関する研究
- 2) がんウイルスの蛋白質の機能と複製の分子機構に関する研究
- 3) ウイルスの持続感染機構
- 4) 細胞周期を制御するウイルス性因子の研究

生体機能解析学：金子周司 教授

- 1) イオンチャンネルなどの膜輸送タンパク質を対象とする創薬，機能解析，薬効解析，安全性評価，病因論，ゲノム科学に関する研究
- 2) 痛みの物質的基盤および鎮痛薬の作用機序に関する研究
- 3) 薬物依存や薬物有害事象の分子機構に関する研究
- 4) 生命科学用語オントロジーの研究

遺伝子薬学：伊藤信行 教授

- 1) 細胞増殖因子 (FGF) の脂肪組織，骨・軟骨，脳形成などにおける役割の解明
- 2) 遺伝子探索法による新規細胞増殖・分化因子遺伝子の探索と構造解析
- 3) 遺伝子機能抑制小型魚類の作成による新規遺伝子の個体レベルでの機能解析
- 4) 遺伝子欠損マウスの作成による新規遺伝子の機能解析とその分子機構の解明
- 5) 組織形成，組織修復の分子機構の解明と再生医学への応用

生理活性制御学：小堤保則 教授

- 1) 細胞死誘導型免疫抑制物質の作用機構と関連遺伝子に関する研究
- 2) スフィンゴ糖脂質の持つ生理活性に関する研究
- 3) シアル酸分子種に関する研究

生体情報制御学：中山和久 教授

- 1) ゴルジ体を中心としたタンパク質の細胞内輸送および局在化機構の解明
- 2) プロスタグランジンとヒスタミンの生理機能に関する研究
- 3) マスト細胞の分化と機能に関する研究
- 4) シングルセル発現プロファイル解析による神経・生殖細胞分化の研究

神経機能制御学：根岸 学 教授

- 1) 神経ネットワーク形成，神経可塑性の分子メカニズムの研究
- 2) 中枢神経系におけるプロスタノイド受容体の情報伝達機構の研究
- 3) 三量体G蛋白質及び低分子量G蛋白質による神経機能調節の研究
- 4) ストレス遺伝子の発現機構

生体機能化学：二本史朗 教授

- 1) 細胞機能・遺伝子を制御する生理活性蛋白質の創製
- 2) 細胞膜透過ペプチドベクターの開発とメカニズム
- 3) 亜鉛フィンガー型転写因子のDNA認識と機能解析
- 4) 細胞内ターゲティング (核・ミトコンドリアなど) の化学と分子設計
- 5) 環境応答型機能性ペプチドのデザイン

医療薬科学専攻

薬品動態制御学：橋田 充 教授

- 1) 医薬品の体内動態の分子機構の解明と動態モデルに基づく数理的解析
- 2) 治療の最適化を目的とする薬物の体内動態制御法、製剤設計法の開発
- 3) タンパク質医薬品の臓器、細胞特異的ターゲティング技術の開発
- 4) 遺伝子医薬品を対象とするドラッグデリバリーシステムの開発
- 5) 薬物の経粘膜・経皮吸収の機構解析とコンピュータ吸収予測法の開発

薬品作用解析学：赤池昭紀 教授

- 1) 中枢神経作用薬の薬理学を主要研究課題とする
- 2) 抗痴呆薬、難治性神経疾患治療および網膜変性疾患治療薬の薬理作用の解析
- 3) 神経変性疾患におけるニューロン死の機序の解析とその保護因子の探索
- 4) 胎仔血清に由来する神経保護化合物セロフェンド酸の作用機序の解析
- 5) ニューロン生存と神経再生を制御する細胞内機能分子に関する研究

病態機能分析学：佐治英郎 教授

- 1) 脳疾患、心疾患、がんでの生体機能変化をインビボ解析する分子イメージング法の開発とそれに基づく病態の仕組みの解明および薬物作用の動的解析に関する研究
- 2) 病態の特性に基づく標的部選択的移行、選択的活性化をおこなう機能性画像診断・治療薬の創薬研究
- 3) 生理活性金属化合物の生体作用の解明と治療への応用に関する研究

病態情報薬学：高倉喜信 教授

- 1) 遺伝子治療医薬品の体内動態支配因子及び細胞取り込み機構の解明
- 2) 免疫応答制御を目指したDNAワクチン及びタンパクワクチンの開発
- 3) RNA干渉を利用した遺伝子治療実現のための核酸医薬品のデザインとデリバリー
- 4) 極性を持つ上皮・内皮細胞への遺伝子導入による生理活性タンパクの分泌方向性制御
- 5) 高分子薬物の体内動態及び統計処理の解析法の開発とその薬物治療最適化への応用

医療薬剤学：乾 賢一 教授

- 1) 医薬品の体内動態と薬効・毒性に関する基礎と臨床
- 2) 薬物トランスポータの分子・細胞生物学的解析と臨床応用に関する研究
- 3) 病態時の薬物動態・薬効の変動要因解析と患者個別投与設計に関する研究
- 4) 薬物相互作用の in vitro 予測・評価系の開発に関する研究
- 5) 薬物トランスポータ・代謝酵素の遺伝的多型とテーラーメイド医療

寄附講座

創薬神経科学：杉本八郎 寄附講座教授

- 1) アルツハイマー病に代表される神経変性疾患の病因解明に基づく創薬研究
- 2) 生体内物質や天然物の中から生理活性物質を探索し創薬のシードを発見
- 3) ゲノムや神経再生医療技術駆使した創薬アプローチに関する研究
- 4) コリンエステラーゼ阻害薬の神経細胞保護作用のメカニズムの解明に基づく創薬研究

医薬品理論設計学：北浦和夫 寄附講座教授

- 1) 電子状態理論による蛋白質と医薬品候補化合物の分子間相互作用の精密解析
- 2) 統計・情報理論による医薬品候補化合物の高速・高精度親和性予測法の開発
- 3) ドラッグデザインのための計算化学的手法の開発
- 4) 計算化学的手法およびSBDDによる医薬品化合物の論理的な探索研究
- 5) 生体高分子の構造・機能に関する理論的研究

COE プログラム協力講座

生命知識システム学：金久 實 教授

- 1) バイオインフォマティクスに基づく創薬科学研究
- 2) 代謝パスウェイ、代謝物質、酵素反応に関する情報科学的解析
- 3) 糖鎖と糖関連遺伝子に関するゲノム科学的解析
- 4) タンパク質と低分子化合物の相互作用予測
- 5) ゲノム多型情報、遺伝子発現情報等の有効利用技術の開発

統合薬学フロンティア教育センター

本センターは、特任教員5名と兼任教員、連携教授から成り、新概念に基づくe-ラーニングを実践する統合型教育支援薬学情報ナビゲーションシステムを始め、薬学の全学領域を体系的に統合した薬学フロンティア教育プログラムを開発し、革新的医薬品開発、高度先進医療を担う薬学人を育成すると共に、連携ネットワークによる展開を図る。

統合薬学教育開発分野：奥野恭史 助教授
臨床薬学教育開発分野：矢野義孝 助教授

全学共通科目 (必須・選択必須科目)

科目

薬学概論, 薬学生物学, 薬学物理化学 (化学熱力学), 基礎有機化学A, 基礎有機化学B, 数学基礎A, 数学基礎B, 線形代数学A, 線形代数学B, 物理学基礎論A, 物理学基礎論B, 熱力学, 物理学実験, 基礎化学実験, 生物学実習III, 薬用植物学, 基礎情報処理1, 基礎情報処理2

専門科目 (予定)

	1 回生	2 回生～	3 回生～	4 回生	5 回生	6 回生
化学系講義科目		有機化学1 (有機合成化学), 有機化学2 (生物有機化学), 天然物薬学1 (天然物化学), 天然物薬学2 (薬用資源学), 創薬有機化学エクササイズ	有機化学3 (創薬化学), 有機化学4 (精密合成化学), 天然物薬学3 (生体機能化学), 有機化学5 (生体機能化学), 医薬品化学・新薬論			
物理系講義科目		物理化学1 (量子化学), 物理化学2 (電気化学・界面化学), 分析学1 (薬品分析学), 分析学2 (放射化学), 物理化学3 (構造化学), 分析学3 (分光化学), 創薬物理化学エクササイズ1, 創薬物理化学エクササイズ2	分析学4 (臨床化学), 物理化学4 (生物物理化学), 物理化学5 (生物構造情報学)			
生物系講義科目		生物化学1 (物質生化学), 生物化学2 (代謝生化学), 生物化学3 (基礎遺伝子学), 衛生薬学1 (健康化学)	微生物学1 (細菌学), 生物化学4 (応用遺伝子学), 生物化学7 (生体防衛学), 微生物学2 (ウイルス学), 衛生薬学2 (環境衛生学), 生物化学5 (細胞生物学), 生物化学6 (生理化学)	微生物学3 (感染学), 生物化学8 (腫瘍生物学)		
医療系講義科目	生理学1 (解剖生理学)	生理学2 (分子生理学), 生理学3 (病態生理学), 薬理学1 (総論・末梢薬理), 薬剤学1 (溶液製剤論)	薬理学2 (循環器薬理), 薬理学3 (中枢神経薬理), 薬剤学2 (固形製剤論), 薬剤学3 (薬物動態学), 生理学4 (病態ゲノム学)	医療薬剤学1, 薬局方・薬事関連法規, 臨床薬学総論, 薬物治療学1, 薬物治療学2, 医療薬剤学2		
情報系講義科目		バイオサイエンス統計基礎		基礎バイオインフォマティクス, 応用バイオインフォマティクス		
専門実習			薬学専門実習1, 薬学専門実習2, 薬学専門実習3, 薬学専門実習4			
薬科学科				特別実習		
薬学科				医療薬学ワークショップ, 医療薬学実験技術, 学術情報論, 特別実習	医療薬学ワークショップ, 医療薬学実験技術, 学術情報論, 医療実務事前学習, 病院実務実習, 薬局実務実習, 特別実習	医療薬学ワークショップ, 医療薬学実験技術, 学術情報論, 臨床薬学総論, 特別実習



工学部が望む学生像

- ・ 高等学校での学習内容をよく理解して、工学部での基礎学理の教育を受けるのに十分な能力を有している人。
- ・ 既存概念にとらわれず、自分自身の目でしっかりと物事を確かめ、それを理解しようとする人。
- ・ 創造的に新しい世界を開拓しようとする意欲とバイタリティに満ちた人。

学部概要

学問の本質は真理の探究です。その中で工学は人類の生活に直接・間接に関与するテーマを扱っています。そのため、地球社会の持続的な発展や文化の創造といった問題についても責任を負う立場にあります。工学部では、このような考え方に立って教育・研究を行います。教育にあたっては、しっかりとした基礎学力、高度な専門能力、高い倫理性、ならびに豊かな個性を兼ね備えた人材育成を目指しています。

京都大学工学部の歴史は、明治30(1897)年6月、京都帝国大学が創設され、分科大学の一つとして同年9月に理工科大学が開校したことに始まります。大正3(1914)年7月、理工科大学は理科大学と工科大学に分離されました。大正8(1919)年2月、分科大学の制度が学部制に改められ、工科大学が工学部となりました。工学部は創設以来、本学の歴史とともに歩み、それぞれの時代の学問的・社会的要請に応えるように拡充整備され、今日では工学の分野のほとんどを網羅した本学最大の学部で発展しました。大学院重点化に伴う工学部の改組により、平成5年度に工業化学科、平成6年度に物理工学科、平成7年度に電気電子工学科と情報学科、そして平成8年度に地球工学科及び建築学科が誕生し、現在では6学科体制となっています。

また、平成15年10月には京都大学桂キャンパスが開校しました。桂キャンパスへは工学研究科と情報学研究科が移転することになっており、平成18年4月現在で工学研究科の建築学専攻、電気系・化学系専攻が移転を終え、他専攻、情報学研究科についても今後順次移転することになっています。桂キャンパスでは主に大学院教育を行い、学部教育は吉田キャンパスで行いますが、4回生の授業と特別研究(卒業研究)は桂キャンパスで行うことがあります。

〔写真〕水理実験の風景(地球工学科)

工学部の教育

「自由の学風」と「学問の基礎重視」

工学部の教育の特徴は、京都大学の伝統である「自由の学風」の下で、「学問の基礎を重視する」ところにあります。「自由の学風」は、既存概念にとらわれず、物事の本質を自分の目でしっかりと科学的に見るということに基づいています。そこでは、学問に対する厳しさが要求され、それが、「学問の基礎を重視する」ことにつながります。一般的には「工学部は応用を中心とする学部である」と考えられているので、上のように「基礎重視」というと、やや異質な印象をもたれるかも知れません。しかし、京都大学工学部では、基礎となる学理をしっかりと学んでおくことが、将来の幅広い応用を可能とするための必須条件であるという信念の下に、この教育方針を貫いています。

第1・2学年では全学共通科目の履修に力を入れる

第1学年から第2学年にかけては、教養科目と自然科学基礎科目を主として履修します。これらの科目は、人間・環境学研究科と理学研究科を実施責任部局として京都大学の全学部ならびに研究所、研究センター等が、全学の学生が履修できるように開講しているもので、「全学共通科目」と呼ばれます。講義以外にも演習、ゼミナール、講読、実験、実習など、様々な形で行われ、これらの科目を履修することによって、専門分野を学ぶための基礎力を養うとともに、幅広い学問に接して高い教養を身につけ、人間としての視野を広げるよう工夫されています。

高学年ほど専門科目がふえる

京都大学工学部では、各学科によって多少の差異はありますが、第1学年においても工学部各学科によって開講される専門基礎科目を履修します。専門基礎科目は第2学年になると数が増え、特に第2学年後期以降はかなりの数の専門基礎科目を履修することになります。そして、第2あるいは第3学年以降で専門科目を学びます。

第4学年では特別研究(卒業研究)に取り組む

第4学年では、特別研究(卒業研究)を行います。教員の指導・助言を受けながら、各自で専門分野の新しいテーマに関する研究に取り組み、その結果を学士論文にまとめます。学生は各研究室に配属され、研究の最先端に接しながら、教員や大学院生と膝を交えて議論を重ね、創造的な研究活動を体験します。この授業科目はどの学科でも必修になっています。そして、所定の単位を取得し、学士論文を完成すれば、学士(工学)の学位を取得することができます。

カリキュラムの特徴をつかむ

京都大学工学部では、学生が特定の専門分野の知識を修得するだけでなく、なるべく広い視点から科学・技術の発展を見通し、創造的に新しい世界を開拓していける人材を養成したいと考えています。そのために、いずれの学科でも基礎科目を重視し、伸びのある思考力と実践力を養うようにしています。また、カリキュラムは各学科の特色を十分生かすように工夫されており、更に近い専門分野のカリキュラムには共通性・相互融通性を持たせて、幅広く柔軟な学習

ができるようにしています。なお、必要な場合には、他学科や他学部の科目を履修することもできます。

さらに詳しく知るには

工学部のホームページ

<http://www.kogaku.kyoto-u.ac.jp/>

入学についてのお問い合わせ

工学部教務掛 (tel.075-753-5039)

在学生からのメッセージ



電気電子工学科で学んだ楽しみ方

電気電子工学科 4 回生

小島 敬さん

大学入学からはや 4 年目、この間、大学から学んだどの経験からも "興味を持って関われば、面白い反応が返ってくる" ところだと感じています。大学という環境は今までのような与えられて何かをひたすらとこなす、というような環境とは違うのですが、自分から行動すれば、その深さゆえに何でも返ってくるような環境です。私のいる電気電子工学科は学生実験や講義などいろいろな場面で教員と関わる機会があります。そんな時にふと自分の気になっていることを話してみると必ずといっていいほど "面白い反応" が返ってきます。そんな感じで自分なりの楽しみ方をいろいろと探しているうちに、気がつけば 4 回生になっていました。入学当時は私も環境に慣れるまで大変でしたが、自分なりの楽しみ方を見つけながら毎日を過ごす、それが大学という環境なのかもしれません。



さらなる豊かさを目指す 情報学を学んで

情報学科 4 回生

森 直幸さん

熾烈な国際競争の中で大きく発展した情報技術は、インターネットに代表されるような形で社会の隅々まで浸透し、我々の社会は大きく進歩しました。しかしまだ人間とコンピュータの結びつきは十分でなく、もっと人間の生活に密着した情報社会の構築が望まれています。情報学科では人間の生活のさらなる豊かさを追求して研究が行われています。

私は映像についてのコミュニケーションに興味があって情報学科を選びました。膨大な量の情報をもたらす一方でデリケートで柔軟な側面をもった視覚と、白黒はつきりさせないと機能しないコンピュータを有機的に結合させるのは、難しいですが壮大で夢のあるテーマです。単なる技術開発にとどまらず、それが人や社会に与える影響を視野に入れながら、豊かな人間の暮らしを創造する研究をしていきたいです。



自分にしかできないことを探して

工業化学科 4 回生

市川 裕介さん

自由の学風の中で、僕達はあらゆる分野の世界に接することができます。1, 2 回生の間、数多くの授業を受講し僕が興味を持ったのは化学工学です。化学工学とは、効率的に高性能、高純度の製品を作り出すためのプロセス設計に必要な方法論のことです。

僕が化学工学を選んだ理由の一つに、これらプロセス設計の多くが、化学工学を学んだ者のみが活躍できる仕事であるということです。4 回生になった今、数人でチームを組み、一つのプラントを設計しシミュレートするという課題に取り掛かっています。困難は多々ありますが、協力し合い乗り越えていくことは、これからの人生の大きな糧となると思います。

本学には、すばらしい教授の方々と知識豊富な先輩方、そして共に学び切磋琢磨しあう仲間がいます。そんな人たちの中で学べることに誇りを持っています。

卒業後の進路

本学部卒業生の 5 分の 4 以上 (平成 17 年度 88%) の者が大学院修士課程へ進学しています。将来、研究職に就くことを希望する者のほか、近年の科学技術の進展に伴い、企業においても、高度な研究能力を有する人材を求めているため、大学院に進学を希望する学生は年々増加しています。



工学部で取得可能な資格

在学中に所定の授業科目を修得することによって、測量士、建築士、電気主任技術者、無線技術士、危険物取扱者、ボイラー取扱主任者等の学科試験が一部免除されます。(また、卒業後に一定の実務期間を経ることで受験資格を得られるものもあります。)

卒業生からのメッセージ



京都の香り

2000 年 建築学科卒業
(株) 安井建築設計事務所 設計部

守山 敦子 さん

入学当時は特別な思いがあって京大を選んだわけではありませんでした。社会人 5 年目となって振り返ってみると京都で過ごしてこそこの学生生活であったと思います。大学時代は特に五感をはたらかせ、いろんなものを見聞きするよう公私とも勤めました。特に京都には優れた社寺建築という無尽蔵の教材があったこと、魅力ある人たちと話せたこと、そして海外に出るなど良好なチャンスに恵まれたこと、それらが 20 代前半の私を育ててくれたと実感しています。現在は設計という職業に携わっていますが、ものづくりのプロセスに大学時代に見聞きしたことが間接的に生かされています。学生生活において何を目標とするかは各人に任されますが、望みがあれば整ったバックグラウンドとなり必ずステップアップできる、そんな場所だと思えます。



いろいろな人、刺激

2001 年 物理工学科卒業
キヤノン (株) 光学技術統括開発センター

前瀧 聡 さん

私が京都大学に入学して最初に感じたことは色々な人がいるということでした。勉学に勤しむ人、とことん遊ぶ人、部活動やサークルに熱中する人など挙げたらきりがありません。どこにでもいる大学生と言えばそうかもしれませんが、一つ言えるのは魅力的な人が多いということです。それまでには出会ったこともないような才能豊かな人が多くいて、良くも悪くも多くの刺激を受けたと思います。また大学院に入ってからは、自分を磨く良い期間になりました。自分の頭で考え先生と議論し研究を進めていくのは苦しくも楽しくもあり、成長できた期間であったと思います。京都大学は様々な刺激に溢れ、新しい自分を発見し成長させることができる場所です。是非、ここで多くの人と出会い刺激を受け充実した学生生活をおくって下さい。

学科紹介

地球工学科

地球工学 (Global Engineering) は、文明の運営に必要な資源・エネルギーの技術体系、文明を支える基盤としてのインフラ (社会基盤施設) の技術体系、人間・自然環境の均衡を維持する技術体系の3つの部門と、それらの有機的な融合部門によって構成されています。地球工学が貢献すべき科学技術は多岐にわたりますが、「Think globally and act locally」の理念で、地球全体の合理的な開発・保全と人類の持続可能な発展を支える学問です。本地球工学科では、上記の理念のもとで、様々な領域にまたがる科学技術を総合的に理解する見識を養うとともに、より専門的な科学技術に対しては、世界最先端の知識を習得してもらい、実社会における高度な研究や実務を遂行できる能力の養成を教育研究目標としています。

建築学科

人間の生活環境を構成し、安全で健康にして快適な生活を発展させるよりどころとなる建築は、多様な技術を総合して行われる創造的な努力によって作りだされます。建築は人間生活のあらゆる面に深く係わるヒューマンな技術です。このような特色から、教科課程も自然科学、人文・社会科学の広い分野にまたがり、卒業後の進路も建築・構造・環境の設計及び施工に従事する建築家及び建築技術者、行政的な指導、監督にあたる建築行政担当者、大学・研究機関で新しい技術を開発する研究者、各種開発事業に携わるプランナーなど実に多様です。したがって建築学科では自然科学だけでなく、人文・社会科学、さらには芸術にも深い関心をもつ学生もひとしく歓迎し、いずれもその才能を十分に伸ばせるような教育を行っています。

物理工学科

新時代に向けて、新しいシステム、材料、エネルギー源の開発、宇宙空間の利用など、数多くの工学的課題があります。これらに取り組む新技術を創造するためには、基礎的学問を十分に修得しておくことが必要です。物理工学科はそのための基礎的な教育・研究の場を提供します。同学科には機械システム学、材料科学、エネルギー理工学のエネルギー応用工学と原子核工学、宇宙基礎工学の5つのコース・サブコースがあり、一体となって教育を行っています。また、大学院では、工学研究科の機械理工学、マイクロエンジニアリング、航空宇宙工学、原子核工学、材料工学の各専攻、エネルギー科学研究科と情報学研究科に属するいくつかの専攻が、エネルギー理工学研究科、原子炉実験所、再生医科学研究所、国際融合創造センター及び工学研究科附属量子理工学実験センターなどの協力のもとに、学際的広がりをもつ基礎的研究と幅広い専門教育を行っています。

電気電子工学科

電気電子工学は、現代のあらゆる産業や社会生活の基盤として欠くことのできない科学技術を支えており、21世紀社会の発展のための多くの課題 (たとえば高性能で安全な情報通信ネットワーク、ナノテクノロジーによる新しい機能をもった素子や装置、正確な診断技術や人に優しい医療技術、エネルギー生成と利用の高効率化など) において重要な役割を担っています。電気電子工学科では、幅広い領域にわたる総合的な知識と視野を持つ高度な専門性に加えて、高い独創性、倫理性をもった人材の育成をめざしています。そのため、カリキュラムも基礎的な共通科目を学習した後、各自の志望に応じて選択する高度な専門科目を通して、最先端の科学技術を理解し、さらなる発展を担うための基礎を広く身につけることができるよう組まれています。

情報学科

現在の高度情報化社会においては、対象とするシステムはますます巨大化・複雑化し、工学の各専門分野が融合した形態をとるのが普通です。このような情勢に対処するためには、システムの機能とそこに流れる“情報”の本質を究明し、それにもとづいて効率的なデザインを考えることが大切です。情報学科では“数理的思考”によって高度なシステムの実際問題を解決し、計算機のハードウェア、システム・ソフトウェア、情報システムを設計・活用できる人材を育てることを目標として、基礎から応用までの総合的な教育研究を行っています。なお、1学年終了時に数理工学コースと計算機科学コースに分かれます。

工業化学科

化学は様々な物質を作り出す反応とそのプロセス、物質に機能を与える物性などを対象とする学問で、人々の豊かな生活を支えるとともに、最先端科学技術の発展に大きな貢献をしています。工業化学科では、化学に関連した幅広い分野にわたる基礎知識の養成を目的として教育を行います。第一学年では化学・物理学・数学などの自然科学基礎科目と、語学や人文社会科目を学習します。第二学年前期から工業化学科としての専門基礎科目が始まります。第二学年後期より、創成化学コース、工業基礎化学コース、化学プロセス工学コースに別れて、専門教育を受けます。第四学年には各専攻の研究室に所属して卒業研究を行い、研究者・技術者としての高度な知識を習得します。

工学部及び各学科の詳細については、「工学部紹介冊子 2007」をご覧ください。また、「工学部紹介冊子 2007」については、前頁の連絡先にお問い合わせください。

全学共通科目 (学科指定科目)

学 科	科 目
地球工学科	自然現象と数学、微分積分学 A、微分積分学 B、線形代数学 A、線形代数学 B、基礎物理化学 A、基礎物理化学 B、物理学基礎論 A、物理学基礎論 B、熱力学、力学統論、物理学実験、基礎地球科学 IA、基礎地球科学 IB、基礎地球科学 IIA、基礎地球科学 IIB、基礎有機化学 A、基礎有機化学 B、基礎化学実験、図学 A、図学 B、微分積分学統論 A、微分積分学統論 B、線形代数学統論、振動・波動論、無機化学入門 A、無機化学入門 B、生物自然史基礎論 A、生化学入門 101、生化学入門 102、地球科学序論、環境生物・化学、科学英語 (地球)
建築学科	自然現象と数学、線形代数学 A、線形代数学 B、微分積分学 A、微分積分学 B、物理学基礎論 A、物理学基礎論 B、振動・波動論、熱力学、力学統論、図学 A、図学 B、コンピュータグラフィクス実習 A 又は B、物理学実験、生活と数学 A、生活と数学 B、基礎地球科学 IIA、基礎地球科学 IIB、確率論基礎、数理統計、微分積分学統論 A、微分積分学統論 B
物理工学科	自然現象と数学、微分積分学 A、微分積分学 B、線形代数学 A、線形代数学 B、物理学基礎論 A、物理学基礎論 B、物理学実験、基礎物理化学 A、基礎物理化学 B、図学 A、基礎化学実験、微分積分学統論 A、微分積分学統論 B、電磁気学統論、確率論基礎、数理統計、無機化学入門 A、無機化学入門 B、生命科学概論 A、生命科学概論 B、振動・波動論、統計物理学、基礎有機化学 A、基礎有機化学 B、力学統論
電気電子工学科	微分積分学 A、微分積分学 B、線形代数学 A、線形代数学 B、自然現象と数学、物理学基礎論 A、力学統論、物理学実験、基礎有機化学 A、基礎有機化学 B、基礎化学実験、函数論 (関数論)、線形代数学統論、微分積分学統論 A、微分積分学統論 B、確率論基礎、数理統計、数理論理学 A、数理論理学 B、熱力学、統計物理学、量子物理学、解析力学、特殊相対論、基礎物理化学 A、基礎物理化学 B、無機化学入門 A、無機化学入門 B、科学英語 (電気電子)
情報学科	自然現象と数学、微分積分学 A、微分積分学 B、線形代数学 A、線形代数学 B、物理学基礎論 A、物理学基礎論 B、物理学実験、力学統論、微分積分学統論 A、微分積分学統論 B、線形代数学統論、熱力学、振動・波動論、確率論基礎、数理統計、数理論理学 A、数理論理学 B、情報と社会、情報と知財、科学英語 (数理)
工業化学科	基礎物理化学 A、基礎物理化学 B、基礎有機化学 A、基礎有機化学 B、自然現象と数学、微分積分学 A、微分積分学 B、線形代数学 A、線形代数学 B、物理学実験、物理学基礎論 A、物理学基礎論 B、基礎化学実験、微分積分学統論 A、微分積分学統論 B、熱力学、振動・波動論、力学統論、解析力学、科学英語 (創成化学)、科学英語 (工業基礎化学)、科学英語 (化学工学)

専門科目

学 科	1 年生～	2 年生～	3 年生～	4 年生
地球工学科	地球工学総論, 基礎情報処理演習, 基礎情報処理, 情報処理及び演習	確率統計解析及び演習, 地球工学基礎数理, 一般力学, 社会基盤デザイン, 基礎環境工学Ⅰ, 資源エネルギー論, 工業数学 B1, 構造力学Ⅰ及び演習, 水理学及び演習, 土質力学Ⅰ及び演習, 計画システム分析及び演習, 環境衛生学, 物理探査学	測量学及び実習, 連続体の力学, 工業数学 B2, 構造力学Ⅱ及び演習, 材料学, 波動・振動学, 水文学基礎, 水理水工学, 海岸環境工学, 土質力学Ⅱ及び演習, 土質実験及び演習, 社会システム計画論, 基礎環境工学Ⅱ, 大気・地球環境工学, 水質学, 環境装置工学, 放射線衛生工学, 環境工学実験Ⅰ, 地質工学及び演習, 弾性学及び演習, 流体力学, 物理化学, 資源工学基礎計測, 資源工学地化学実験, 先端資源エネルギー工学, 学外実習, 空間情報学, 構造実験・解析演習, コンクリート工学, 耐震・耐風・設計論, 河川工学, 水資源工学, 水理実験, 地盤環境工学, 岩盤工学, 都市・地域計画, 公共経済学, 交通マネジメント工学, 交通政策論, 都市景観デザイン, 上水道工学, 下水道工学, 廃棄物工学, 環境工学実験Ⅱ, 資源工学のための材料学, 波動工学, 応力解析法及び演習, 熱流体工学, 分離工学, 工業計測, 資源工学材料実験	地球工学デザイン, 土木法規, 地球防災工学, 材料実験, 地殻海洋資源論, 地殻開発工学, 塑性学及び演習, 時系列解析, 工学倫理, 建築工学概論, 特別研究
建築学科	基礎情報処理, 基礎情報処理演習, 建築工学概論, 日本都市史, 世界建築史, 設計演習基礎, 造形実習	建築計画学Ⅰ, 住居計画学, 建築設計論, 設計演習Ⅰ, 設計演習Ⅱ, 建築環境工学Ⅰ, 建築環境工学Ⅱ, 建築構造力学Ⅰ, 建築構造力学Ⅱ, 建築生産Ⅰ, 建築材料, 建築・都市行政, 景観デザイン論, 建築情報処理演習, 工業数学 C	都市設計学, 行動・建築デザイン論, 日本建築史, 建築設備システム, 鉄筋コンクリート構造Ⅰ, 鉄骨構造Ⅰ, 建築構造力学Ⅲ, 建築生産Ⅱ, 建築論, 都市・地域論, 都市環境工学, 建築光・音環境学, 建築温熱環境設計, 建築構造解析, 耐震構造, 鉄筋コンクリート構造Ⅱ, 鉄骨構造Ⅱ, 設計演習Ⅲ, 設計演習Ⅳ, 建築応用数学, 建築情報システム学	建築計画学Ⅱ, 建築基礎構造, 耐風構造, 地球工学総論, 設計演習Ⅴ, 構造設計演習, 構造・材料実験, 建築安全設計, 建築環境工学実習, 建築環境工学演習, 工学倫理, 専門英語, 特別研究
物理工学科	物理学総論 A, 物理学総論 B, 基礎情報処理, 基礎情報処理演習	計測学, 計算機数学, 材料力学Ⅰ, 材料力学Ⅱ, 熱力学Ⅰ, 熱力学Ⅱ, 機械設計製作, 工業数学 F1, 工業数学 A1, 材料基礎学Ⅰ, 固体物理学, 応用電磁気学, 原子物理学, 流体力学基礎, 物質科学基礎, 材料統計物理学, 材料科学基礎Ⅰ, 材料科学基礎Ⅱ, 化学熱力学基礎, 原子核工学序論, 機械製作実習	工業数学 F2, 工業数学 A2, 工業数学 F3, 工業数学 A3, 数値解析, 材料基礎学Ⅱ, 量子物理学Ⅰ, 量子物理学Ⅱ, 連続体力学, 流体熱工学, 工業力学 A, エネルギー変換工学, 振動工学, 制御工学Ⅰ, 制御工学Ⅱ, システム工学, 生産工学, 薄膜材料学, 精密加工学, 設計工学, 材料組織学, 結晶物性学, 材料物理学Ⅰ, 構造物性学, 熱及び物質移動, 統計力学, エネルギー・材料熱化学Ⅰ, エネルギー・材料熱化学Ⅱ, 材料物理学, プラズマ物理学, 量子反応基礎論, 中性子理工学, エネルギー化学Ⅰ, エネルギー化学Ⅱ, 流体力学, 統計熱力学, 量子線計測学, 気体力学, 熱統計力学, 空気力学, 推進基礎論, 航空宇宙機力学, 固体力学, 量子無機材料学, 固体電子論, 材料機能学, 材料プロセス工学, 環境物理化学, 電気回路と微分方程式, 電気電子回路, 物理学演習Ⅰ, 物理学演習Ⅱ, 機械システム学演習, 機械システム工学実験Ⅰ, 機械システム工学実験Ⅱ, 機械システム工学実験Ⅲ, 機械設計演習Ⅰ, 機械設計演習Ⅱ, 機械製作実習, 材料科学実験および演習Ⅰ, 材料科学実験および演習Ⅱ, エネルギー理工学設計演習・実験Ⅰ, エネルギー理工学設計演習・実験Ⅱ, 航空宇宙工学実験Ⅰ, 航空宇宙工学実験Ⅱ, インターンシップ, 金属材料学, 材料強度物性, 材料量子化学, 材料電気化学, 加速器工学, 放射化学	量子物理学Ⅱ, 応用制御工学, 人工知能基礎, システム工学, 加工学, 物理学英語, 固体物性学, 信頼性工学, 品質管理, 機械要素学, 材料分析化学, 核物理基礎論, 生物物理学, 原子炉基礎演習・実験, 数理解析, 有限要素法の基礎と演習, 航空宇宙工学演義, 工学倫理, 特別研究Ⅰ, 特別研究Ⅱ
電気電子工学科	電気電子工学概論, 電気回路基礎論, 電気電子回路, 基礎情報処理, 基礎情報処理演習	電子回路, 電気電子工学実験 A, 電気電子工学実験 B, 電気電子プログラミング及び演習, 電気電子数学, 電磁気学Ⅰ, 電力回路, 電気機器Ⅰ, 論理回路, 計算機工学, 情報理論, 物性・デバイス基礎論, 半導体工学	電気電子工学実習 A, 電気電子工学実習 B, 電気電子計算工学及び演習, グラフ理論, 電気回路, 電磁気学Ⅱ, デジタル回路, 電気電子計測Ⅰ, 電気電子計測Ⅱ, 自動制御工学, デジタル制御, システム最適化, 知能型システム論, 電気機器Ⅱ, パワーエレクトロニクス, 発電工学, 放電工学, 通信基礎論, 情報伝送工学, 通信ネットワーク, 電波工学Ⅰ, マイクロ波工学, 計算機ソフトウェア, 計算機システム, デジタル信号処理, 固体電子工学, 電気電子工学のための量子論, プラズマ工学, 真空電子工学Ⅰ, 電気電子材料学, 光工学Ⅰ, 生体医療工学	電波工学Ⅱ, 光通信工学, 電力系統工学, 絶縁設計工学, マンマシンシステム工学, マンマシンシステム工学, マンマシンシステム工学, 音響工学, 真空電子工学Ⅱ, 光電子デバイス工学, 光工学Ⅱ, 電気伝導論, 工学倫理, アルゴリズム論, 人工知能, 応用代数学, 電気法規, 電波法規, 特別研究
情報学科	計算機科学概論, 数理工学概論, アルゴリズムとデータ構造入門, 線形計画, 電気回路と微分方程式, 電気電子回路, 基礎情報処理演習	工業数学 A1, 数理工学実験, 基礎数理演習, プログラミング演習, 計算機科学実験及び演習Ⅰ, 計算機科学実験及び演習Ⅱ, システム解析入門, 論理システム, システムと微分方程式, 解析力学, 意思決定論, 論理回路, 言語・オートマトン, 計算機アーキテクチャⅠ, プログラミング言語, コンパイラ, 電子回路, 情報理論, コンピュータネットワーク, グラフ理論, 数値解析	情報理論, コンピュータネットワーク, 数値解析, 工業数学 A2, 工業数学 A3, 線形制御理論, 確率と統計, 確率離散事象論, 応用代数学, 人工知能, ヒューマンインタフェース, 数値計算演習, 数理工学セミナー, システム工学実験, 計算機科学実験及び演習Ⅲ, 計算機科学実験及び演習Ⅳ, 物理統計学, 連続体力学, 量子物理学Ⅰ, 量子物理学Ⅱ, 現代制御論, 最適化, 非平衡系の数理, 情報システム理論, 計算機アーキテクチャⅡ, オペレーティングシステム, パターン認識, データベース, 集積システム入門, 技術英語, 情報システム, アルゴリズム論, 画像処理論, ソフトウェア工学, マルチメディア, 計算と論理	信号とシステム, 数理解析, 非線形系の力学, 情報と職業, 通信基礎論, 工学倫理, 特別研究
工業化学科	工業化学概論Ⅰ, 工業化学概論Ⅱ, 基礎情報処理, 基礎情報処理演習	物理化学基礎及び演習, 有機化学基礎及び演習, 基礎無機化学, 化学プロセス工学基礎 [創成化学コース]有機化学Ⅰ(創成化学), 物理化学Ⅰ(創成化学), 無機化学(創成化学), 分析化学(創成化学), 高分子化学基礎Ⅰ(創成化学), 化学プロセス工学 [工業基礎化学コース]物理化学Ⅰ(工業基礎化学), 無機化学Ⅰ(工業基礎化学), 分析化学Ⅰ(工業基礎化学), 有機化学Ⅰ(工業基礎化学), 化学プロセス工学, 化学数学Ⅰ(工業基礎化学), 最先端の化学入門(工業基礎化学) [化学プロセス工学コース]物理化学Ⅰ(化学工学), 無機化学Ⅰ(化学工学), 基礎流体力学, 化学工学数学Ⅰ(化学工学), 化学工学計算機演習, 反応工学Ⅰ	[創成化学コース]創成化学実験(創成化学), 有機化学Ⅱ(創成化学), 生体関連物質化学(創成化学), 物理化学Ⅱ(創成化学), 高分子化学基礎Ⅱ(創成化学), 統計熱力学入門(創成化学), 機器分析化学(創成化学), 環境保全概論, 有機化学Ⅲ(創成化学), 物理化学Ⅲ(創成化学), 錯体化学(創成化学), 最先端機器分析(創成化学), 高分子化学Ⅰ, 化学生物学, 環境安全化学 [工業基礎化学コース]工業基礎化学実験(工業基礎化学), 物理化学Ⅱ(工業基礎化学), 有機化学Ⅱ(工業基礎化学), 無機化学Ⅱ(工業基礎化学), 分析化学Ⅱ(工業基礎化学), グリーンケミストリー概論, 生化学Ⅰ(工業基礎化学), 高分子化学概論(工業基礎化学), 化学数学Ⅱ, 環境保全概論, 有機化学Ⅲ(工業基礎化学), 物理化学Ⅲ(工業基礎化学), 無機化学Ⅲ(工業基礎化学), 生化学Ⅱ, 生物化学工学, 有機工業化学, 高分子化学概論Ⅱ(工業基礎化学), 量子化学概論, 環境安全化学 [化学プロセス工学コース]移動現象, 流体系分離工学, プロセス制御工学, 物理化学Ⅱ(化学工学), 化学工学数学Ⅱ, 計算化学工学, 化学工学実験(化学工学), 環境保全概論, 反応工学Ⅱ, 固相系分離工学, 微粒子工学, プロセスシステム工学, 化学工学シミュレーション, 生物化学工学, 環境安全化学, 物理化学Ⅲ(化学工学), 有機工業化学	[創成化学コース]電気化学, 高分子化学Ⅱ, 化学のフロンティア(創成化学), 産業科学特論, 工学倫理, 化学実験の安全指針, 特別研究 [工業基礎化学コース]化学実験の安全指針, 触媒化学, 化学統計力学(工業基礎化学), 有機分光化学, 電気化学, 有機金属化学, 先端機器分析科学(工業基礎化学), 工学倫理, 特別研究 [化学プロセス工学コース]化学実験の安全指針, プロセス設計, 工学倫理, 特別研究



農学部が望む学生像

各学科が対象とする様々な課題に果敢に挑戦する意欲を持ち、それぞれの専門教育で求められる十分な学力を有する人材を求めます。

学部概要

わが国は食料の実に60%を輸入に依存しています。途上国では多くの人々が飢えに苦しみ死に瀕しています。また、牛のBSEや鶏のインフルエンザ問題で騒がれたように、食の安全性が問題になっています。現在、われわれ人類が健康で幸せに暮らすために、安全で質の高い食料を十分に供給することが求められています。

他方、この地球上では、人口増加に加えて、砂漠化や地球温暖化などの環境問題が21世紀の緊急の課題となっています。「環境の時代」と言われる21世紀では、自然と人間活動の調和が求められており、環境に負担をかけない食料生産を目指すことが必要です。農村の豊かな生態系や自然景観を維持・保全することも大切です。このような食料と環境の問題を解決して、人類が快適で平和に暮らすためになくしてはならない学問が農学です。農学は、生物学のみならず、化学、物理学、社会科学などを基礎とした「生命・食料・環境」に関する総合科学です。研究対象は、分子・細胞などのマイクロレベルから圃場・生態系、さらには地域社会といったマクロレベルまで、広範囲に及んでいます。

京都大学農学部では、資源生物科学科(生物系)、応用生命科学科(化学系)、地域環境工学科(物理系)、食料・環境経済学科(社会科学系)の基礎系4学科、及び、森林科学科、食品生物科学科の総合系2学科、計6学科を設置し、食料の生産・加工から流通に至るまでの諸問題とそれを取り巻く環境の保全・管理・創造などについて幅広い教育・研究を展開しています。本学部は、それぞれの分野に共通する基礎的科目を系統的に教育するとともに、学科ごとに異なる高度な専門教育を実施することを目的としています。

農学部の学部教育の大部分は京都大学吉田キャンパス北部構内の農学部本館で行われますが、一部は、本館の北の農学・生命科学棟、宇治キャンパス(京都府宇治市)、農学部附属の農場(大阪府高槻市)・牧場(京都府京丹波町)で行われます。

〔写真〕細胞培養実験風景

農学部の教育

いま農学部では

衣食住は人類の生活にとって必要不可欠な条件です。食物はもとより、私たちの身の回りの実に多くのものが農林水産業や畜産業に関わりを持っています。21世紀を迎えて、地球環境を守りながら、あまねく人類の健康で文化的な生活を保障するためには、農学はますます重要な使命を担っています。今日では遺伝子組換えなどのバイオテクノロジーを活用した品種改良や食品の生産・加工、高度な機械を利用した生産技術の開発研究に力が注がれています。また、環境にやさしい農業を目指して、人工衛星からのリモートセンシングやIT技術を利用した研究も行われています。また、人類の持続的発展のためには地域の自然条件のみならず、経済的・社会的・文化的諸条件の総合的考察からの検討も不可欠です。今日の農学は、分子・細胞レベルから生態系・地域レベルまでを対象とした生命系の総合科学へと発展しているのです。

農学部は、基礎系4学科と総合系2学科から構成されています。学部では4年一貫教育のもとに、第1・2学年から専門科目も一部学ぶこととなりますが、第3学年から本格的に専門科目を履修し、実験、ゼミナール等が始まります。第4学年では研究分野(研究室)に分かれて課題研究(卒業研究)を行います。教員の指導、助言を受けながら大学院生とともに未知の分野の研究に取り組む最初のステップです。所定の単位を修得した学生は、学士(農学)の学位を取得して卒業することになります。さらに研究を深めようと志す学生は大学院へ進学します。

高度な専門的知識の修得と研究者養成

21世紀における地球規模の重要課題として、エネルギー、資源、環境、食料、生命、情報、民族および文化等がありますが、農学はそれら全てに関わっており、その果たすべき役割はますます重くなってきております。これらの課題に対処するため、農学研究科の改組を平成13年4月に行いました。これによって、大学院は教育と研究が有機的により一貫化され、社会の期待に応えることのできる組織となりました。そこでは、高い研究水準を持った熱意のある教員と最新の設備が大学院学生の研究意欲を強く刺激します。院生は教員の指導は受けられるものの、自由に発想し、自身で考え、近未来を目指した先端的研究や、遠い将来を見据えた着実ではあるがユニークな研究を行うことができます。現在、大学院には、韓国、中国、インドネシアをはじめ28カ国からの外国人留学生約100名が在籍しています。多くの留学生と一緒に勉強することで、国際性が身につくことにもなります。農学部は、これら高度な専門知識と研究能力を習得するための基礎を学ぶ場でもあるのです。

生産現場に根ざした教育・研究

農学研究科には附属の農場と牧場があり、学部および大学院の教育・研究の場として利用されています。附属農場では、農業の現状と未来に即した農学研

究、特に先端的研究を農場の現場に応用するための理論構築、作物の品種改良などを目的として圃場をベースにした数多くの研究が行われています。

附属牧場は、総面積約15ha(牧草地10ha)を有し、肉用牛を用いて、産肉生理学的な面からの研究を行うとともに、得られた成果にもとづいて効率的な牛肉生産方式を開発しようとしています。



[写真] 附属牧場全景

さらに詳しく知るには

農学部ホームページ

<http://www.kais.kyoto-u.ac.jp/>

入学についてのお問い合わせ

農学部第一教務掛 tel.075-753-6012

在学生からのメッセージ

農学部のススメ



食品生物科学科4回生
澤井 和宏 さん

農学部って何でしょう？漠然と農業を学び、農作業をするという印象があると思います。私自身、入ってみるまで分かりませんでした。実際は、医学、工学や薬学とも関連する分野を、広範囲にわたって研究できるところです。そのために、入学時に6つの分野に大きく分かれ、研究対象も様々です。4回生になり、研究室に配属されると各自が自分の興味に沿う問題に取り組んでいます。その際、独善に陥らないようにするために、学部の時に多岐にわたる講義を受講します。ですから、ただ単に研究に必要な知識のみを詰め込むのではなく、自分の研究外の知識でも「それをどう活かすのか」という事が要求されます。皆さんも農学部で自分が興味を持てるものを見つけ、興味をさらに追求し、新たな発見をしていきましょう。

興味を持ち、伸ばす

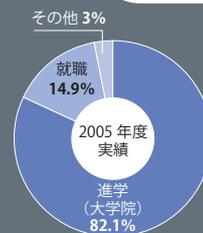


資源生物科学科4回生
森広 健一郎 さん

私が農学部に入学した理由は、ただ生物に関わりたいたいという漠然としたものでした。入学してからは自分のやりたいことをしようと思い、部活動(ウインドサーフィン)中心の生活でした。練習やトレーニングを重ねていく中で、食べ物の種類や摂取量、タイミングの違いで、体調やパフォーマンスに大きな差が出ることを実感し、栄養学に興味を持ちました。現在「マグネシウム及びカルシウム欠乏が筋肉量に与える影響」というテーマで研究を進めながら部活動にも励んでいます。好きなことだからこそがんばれるし、更なる向上心が生まれます。大学はやりたいことを見つけ、それを伸ばす最良の場だと思っています。新しいことに積極的にチャレンジする姿勢が自分自身の成長や土台作りに繋がると考えています。

卒業後の進路

約8割が大学院に進学しますが、就職先は、公務員、研究機関の研究者として、また民間企業では化学・食品等の製造業、バイオテクノロジー関係の産業、あるいは商社・金融・保険・マスコミ・コンピューター等、幅広い分野に進出しています。



[就職先の例]

農林水産省、キリンビール、サントリー、ライオン、資生堂、三共、積水ハウス、東芝、三菱電機、セガ、みずほ銀行、みずほフィナンシャルグループ、野村證券、東京海上日動火災、住友商事、伊藤忠商事、電通、全日空、リクルートなど

農学部で取得可能な資格

農学部では、教育職員免許状の取得を目的とした教職課程をはじめ、食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格取得、二級建築士試験及び木造建築士資格試験受験資格、測量士及び測量士補の資格取得の教育課程を設けているほか、専門職に必要な資格や受験資格が取得できます。

卒業生からのメッセージ



出会い

2001年生産環境科学科地域環境創造学コース卒業
独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構
農村工学研究所農村総合研究部広域防災研究チーム

井上敬資さん

歴史あるものは先人の様々な知恵を含んでおり、その歴史に出会うことで多くのことを学ぶことができると思います。私が京大に出会ったのは中学、高校の修学旅行で京都を訪れた時で、この町や大学の魅力に惹かれ京大を受験しました。自由な校風から大学時代はバイトや部活動に熱中し、様々な体験を通して、多くのことを学びました。多くの恩師、先輩、友人、後輩とも出会い、様々なものの考え方をならい、今では大きな財産となっています。私は現在、農村地域の広域防災に関する試験研究を行っています。持続可能な社会に必要な農村資源をいかに災害から守り、維持管理していくかが重要となっています。色々な視点を持ち、研究成果を少しでも多く社会に還元できるように頑張りたいと思っています。



農学部の磁力に引き寄せられて

2001年生産環境科学科生物資源経済学コース卒業
日本総合研究所(名古屋支社)勤務

遠藤冴己さん

「農業は目的ではなく手段である」「農業を兼業する豊かさ」「一番下は神様の土、その上は村の土、一番上が自分の土」農学部の大学の講義で、おぼろげに聞いていた言葉の一つ一つに深い意味が隠されていたのだと最近気付かされます。私自身は発展途上国の食糧問題や環境問題に貢献したいと思い、農学部を受験しました。幸い大学には合格しましたが、大学の講義に出席してその多角的な視点に感銘を受けると共に、自分の短絡的な見方何かに土台を奪われた気がしたことを覚えています。農学部は最先端のバイオテクノロジーから農業原論や比較農史学といった思想や歴史に関わる分野まで幅広く共存しています。その中で形成される人間模様も独特のものがあがり、社会人になって振り返ると物腰柔らかく見えて実は恐ろしく芯の強い人達に出会うことが多かった気がします。人はそれぞれの環境の中で大切なものを見出しながら一歩ずつ成長していくものだと思いますが、この現代社会で何が大切で或いは何が見過ごされているのか、そんな大枠の切り口を見つけるにはぴったりな場所が農学部にはあると思います。

学科紹介

資源生物科学科

資源生物科学科は、陸地や海洋に生育・生息する資源生物の生産性および品質の向上を、環境との調和を図りながら追求することを目標に、研究・教育を行っています。また、このような資源生物を、外敵や病気から守る技術を開発したり、生育・生息に好ましい環境を持続的に保つ方策を探るとともに、これまで生産性が見込めなかった劣悪な環境に適した、新しい品種の創出を目指すなど、資源生物を対象にした応用研究を多面的に行っています。

資源植物グループ：作物学、育種学、蔬菜花卉園芸学、果樹園芸学、栽培システム学、植物生産管理学、植物遺伝学、植物生理学、栽培植物起原学、品質評価学、品質設計開発学
資源動物グループ：動物遺伝育種学、生殖生物学、動物栄養科学、生体機構学、畜産資源学、生物資源情報学
海洋生物グループ：海洋生物環境学、海洋生物増殖学、海洋分子微生物学、海洋環境微生物学、海洋生物生産利用学、海洋生物機能学
生産環境グループ：雑草学、熱帯農業生態学、土壌学、植物病理学、昆虫生態学、昆虫生理学、微生物環境制御学、生態情報開発学

応用生命科学科

生物資源の生産・加工・利用・保全の諸側面に含まれる化学的・生物学的原理の探求とその応用に関する様々な分野の教育・研究に携わっています。すなわち、微生物、植物、動物など、生物の生命現象や生命機能を化学、生物学、生化学、物理学、生理学、分子生物学などを基盤として深く探求・理解する（バイオサイエンス）、一方その成果を農・医薬、食品、化成品を初めとする生活関連有用物質の高度な生産や利用に適用する（バイオテクノロジー）ための基礎教育と先端的研究を行っています。

細胞生化学、生体高分子化学、生物調節化学、化学生態学、植物栄養学、発酵生理及び醸造学、制御発酵学、生体機能化学、生物機能制御化学、エネルギー変換細胞学、応用構造生物学、分子細胞育種学（全能性統御機構学）、植物分子生物学（遺伝子特性学）

地域環境工学科

地域環境工学科は環境と調和した効率的な食料生産、地球環境も含めた環境・エネルギー問題の解決、環境共生型農村社会の創造をめざし、工学・技術学をツールに研究・教育を行います。水循環の制御による貴重な水資源の合理的な利用、精密農業による資源循環型社会の構築、自然と人間が共存する知的創造的農村の実現、ロボットやIT利用の未来型農業の追求、太陽エネルギー資源の開発利用など様々な研究を通して豊かな21世紀社会を構築します。

施設機能工学、水資源利用工学、水環境工学、農村計画学、農業システム工学、フィールドロボティクス、農産加工学

食料・環境経済学科

食料・環境経済学科では、私達の生活に最も関連の深い食料問題と環境問題の研究と教育に携わっています。この問題を国内だけでなく世界的な次元で捉え、途上国の貧困問題、人口問題、技術開発普及、農林水産物の貿易問題あるいは食品安全性、さらに農山漁村の社会経済生活について研究しています。その際、有限な地球環境資源の保全と両立する持続可能な資源循環型社会のあり方について学際的・総合的な研究・教育を行っています。

農業組織経営学、経営情報会計学、地域環境経済学、食料・環境政策学、森林・林業政策学、国際農村発展論、比較農史学、農学原論

森林科学科

環境の保全に配慮しながら自然資源を有効に利用するため、森林の持続的管理がキーワードになっています。森林科学科では、森林生態系の機能・構造と物質循環を基礎に、森林資源の持続的な生産技術、木材や紙をはじめセルロースや生分解性プラスチックなどさまざまな林業生産物の利用法、水や大気などの保全に果たす森林の役割、さらにこれらの社会科学的評価などをテーマとして、広く森林を取り扱う教育・研究を行っています。

森林利用学、林産加工学、生物材料設計学、生物繊維学、樹木細胞学、複合材料化学、生物材料化学、森林生化学、森林生態学、熱帯林環境学、森林・人間関係学、森林環境計画学、森林生物学、森林水文学、森林育成学、森林情報学、環境デザイン学、山地保全学、エネルギーエコシステム学、生物圏情報学

食品生物科学科

食品生物科学科では、食品を構成する物質の構造と機能、新しい食品機能を持つ物質や遺伝子の探索、疾病を予防する機能や栄養性・安全性などに優れた食品の創成と効率的な生産、並びに地球規模での食環境など、食料全般に関わる諸問題を微生物、植物、動物を対象に研究し、教育を行います。これにより、食料科学の学術の進展のみならず、健康の維持・増進や食料不足の改善など、多様な社会的問題の解決に寄与し、豊かな食生活の確立に貢献することを目指しています。

栄養化学、生体情報応答学、生命有機化学、農産製造学、微生物生産学、酵素化学、食品分子機能学、食品生理機能学、生物機能変換学、食環境学

全学共通科目（学科推薦科目）

学 科	科 目
資源生物科学科	数学基礎 A、数学基礎 B、基礎情報処理、基礎情報処理演習、物理学基礎論 A、物理学基礎論 B、基礎物理化学 A、基礎物理化学 B、基礎有機化学 A、基礎有機化学 B、基礎生物学 A、基礎生物学 B、生化学入門 101、生化学入門 102、生命科学概論 A、生命科学概論 B、バイオテクノロジー—農学の新戦略—、生物圏の科学—生命・食糧・環境—、基礎化学実験、環境科学基礎ゼミナール
応用生命科学科	数学基礎 A、数学基礎 B、確率論基礎、基礎情報処理、基礎情報処理演習、物理学基礎論 A、物理学基礎論 B、基礎物理化学 A、基礎物理化学 B、無機化学入門 A、無機化学入門 B、バイオテクノロジー—農学の新戦略—、基礎化学実験、基礎生物学 A、応用生命科学
地域環境工学科	数学基礎 A、数学基礎 B、微分積分学 A、微分積分学 B、数理統計、確率論基礎、基礎情報処理、基礎情報処理演習、物理学基礎論 A、物理学基礎論 B、物理学実験
食料・環境経済学科	数学基礎 A、数学基礎 B、確率論基礎、数理統計、基礎情報処理、基礎情報処理演習、環境学、生命科学概論 A、生命科学概論 B、バイオテクノロジー—農学の新戦略—、生物圏の科学—生命・食糧・環境—、人間と数学 A、人間と数学 B、環境科学基礎ゼミナール
森林科学科	数学基礎 A、数学基礎 B、基礎情報処理、基礎情報処理演習、物理学基礎論 A、物理学基礎論 B、基礎物理化学 A、基礎物理化学 B、基礎有機化学 A、基礎有機化学 B、生命科学概論 A、生命科学概論 B、環境学、物理学実験、基礎生物学 A、基礎生物学 B
食品生物科学科	数学基礎 A、数学基礎 B、基礎情報処理、基礎情報処理演習、基礎物理化学 A、基礎物理化学 B、基礎有機化学 A、基礎有機化学 B、基礎生物学 A、基礎化学実験、物理学基礎論 A、物理学基礎論 B、

専門科目

学 科	1 回生～	2 回生～	3 回生～	4 回生
資源生物科学科	農学概論Ⅰ, 農学概論Ⅱ, 資源生物科学基礎Ⅰ, 資源生物科学基礎Ⅱ, 遺伝学	資源生物科学概論Ⅰ, 資源生物科学概論Ⅱ, 資源生物科学概論Ⅲ, 資源生物科学概論Ⅳ, 分子生物学, 生態学, 動物生理学, 微生物学, 植物生理学, 応用気象学, 生物統計学, 資源生物科学基礎実験, 土壌学Ⅰ, 海洋動物学, 栽培技術論と実習, 畜産技術論と実習, 海洋生物科学技術論と実習Ⅰ, 海洋生物科学技術論と実習Ⅱ, 海洋生物科学技術論と実習Ⅲ, 植物調査法と実習, 応用数学, 生化学Ⅰ, 生化学Ⅱ, 細胞生物学概論, 食品安全学Ⅰ	植物遺伝資源学, 植物生理学Ⅱ, 作物学Ⅰ, 育種学Ⅰ, 蔬菜園芸学, 果樹園芸学Ⅰ, 植物生産管理学, 栽培システム学Ⅰ, 品質科学, 動物遺伝育種学, 動物生殖学, 動物栄養学, 動物生体機構学, 資源動物生産学, 海洋環境学, 海洋生物生態学, 海洋微生物学Ⅰ, 海洋生物資源化学, 海洋微生物生態学, 雑草学Ⅰ, 植物病理学Ⅰ, 昆虫生態学Ⅰ, 昆虫生理学, 熱帯農業生態学, 微生物生態学, 生物圏情報学Ⅰ, 資源生物科学専門外書講義Ⅰ, 資源生物科学専門外書講義Ⅱ, 資源生物科学専門外書講義Ⅲ, 資源生物科学専門外書講義Ⅳ, 資源生物科学実験及び実験法Ⅰ, 資源生物科学実験及び実験法Ⅱ, 作物学Ⅱ, 育種学Ⅱ, 花卉園芸学, 果樹園芸学Ⅱ, 栽培システム学Ⅱ, 家畜ゲノム科学・バイオテクノロジー, 動物機能開発学, 海洋生物生理学, 海洋微生物学Ⅱ, 魚類学, 海洋生物細胞工学, 雑草学Ⅱ, 昆虫生態学Ⅱ, 生態制御学, 遺伝学Ⅱ, 品質設計開発学, 品質評価学, 動物栄養機能学, 動物環境生理学, 海洋生態系学, 海洋生体システム利用学, 海洋植物学, 植物病理学Ⅱ, 植物環境ストレス学, 土壌学Ⅱ, 農薬科学, 生物圏情報学Ⅱ, 分析化学, 生物有機化学Ⅱ, 分子生物学Ⅰ, 分子生物学Ⅱ, 分子細胞生物学Ⅰ, 分子細胞生物学Ⅱ, 植物栄養学, 食品微生物学, 酵素化学	家畜育種学, 環境情報処理論, 畜産技術論と実習Ⅱ, 食品安全学Ⅱ, 資源生物科学特別科目Ⅰ, 資源生物科学特別科目Ⅱ, 資源生物科学特別科目Ⅲ, 資源生物科学特別科目Ⅳ, 作物科学演習, 園芸科学演習, 耕地生態科学演習, 品質科学演習, 生産管理科学演習, 応用動物科学演習Ⅰ, 応用動物科学演習Ⅱ, 海洋生物資源学演習, 海洋微生物学演習, 海洋生物生産学演習, 資源植物科学演習, 植物保護科学演習, 生産生態科学演習, 課題研究,
応用生命科学科	農学概論Ⅰ, 農学概論Ⅱ, 応用生命科学入門Ⅰ, 応用生命科学入門Ⅱ, 応用生命科学入門Ⅲ, 応用生命科学入門Ⅳ	細胞生物学概論, 生化学Ⅰ, 生化学Ⅱ, 有機構造解析学, 生物物理学Ⅰ, 有機反応機構論Ⅰ, 有機反応機構論Ⅱ, 応用微生物学Ⅰ, 食品安全学Ⅰ	生物物理学Ⅱ, 分析化学, 生物有機化学Ⅰ, 生物有機化学Ⅱ, 生物有機化学Ⅲ, 一般生体高分子化学, 生体高分子構造論, 生体触媒化学, 応用微生物学Ⅱ, 応用微生物学Ⅲ, 植物栄養学, 植物生化学, 分子生物学Ⅰ, 分子生物学Ⅱ, 分子細胞生物学Ⅰ, 分子細胞生物学Ⅱ, 醸造食品学概論, 基礎生理学, 専門外国書講義Ⅰ, 専門外国書講義Ⅱ, 産業微生物学, 分析化学実験, 生化学実験, 分子生物学実験, 植物生化学実験, 応用微生物学実験, 有機化学実験, 生物物理学実験	応用微生物学Ⅳ, 栄養化学, 食品工学, 油脂製造加工並びに食品保蔵論, 食品安全学Ⅱ, 応用生命科学演習Ⅰ, 応用生命科学演習Ⅱ, 課題研究
地域環境工学科	農学概論Ⅰ, 農学概論Ⅱ, 地域環境工学概論Ⅰ, 地域環境工学概論Ⅱ, 地域環境工学演習	応用気象学, 地域環境工学基礎, 応用数学, 応用力学, 材料力学, 水理学, 情報処理学及び演習Ⅰ, 情報処理学及び演習Ⅱ, 栽培技術論と実習	工業数学C, 環境動態学, 測量学, 土木材料学, 構造解析学, 土壌物理学, 農業水文学, 地域整備開発施設学, 灌漑排水学, 農村計画学, 農地整備学, 水資源利用学, 利水システム工学, 生物機械計測学, 振動学, 熱力学及び伝熱工学, 数値計画法, 農用エネルギー・動力学, フィールドロボティクス, 農産加工機械学, 制御工学, 機械設計, 電気・電子工学, 農業機械技術史, 農業機械学専門外書講義, 作物学Ⅰ, 蔬菜園芸学, 果樹園芸学Ⅰ, 土壌学Ⅰ, 農学原論, 食料・環境政策学, 資源環境経済学, 食品工学, 砂防学Ⅰ, 森林水文学, 森林生態学, 土木材料・環境地盤工学実験, 水理学実験, 土壌物理学・水環境工学実験, 測量法及び実習, 施設機能工学演習, 計算水理学演習, 農業機械学実験Ⅰ, 農業機械学実験Ⅱ, 製図(CAD)演習	国土・地域計画, 生物圏情報学Ⅰ, 生物圏情報学Ⅱ, 地域環境工学実習, 灌漑排水学演習, 農村整備計画演習, 農業機械学演習, 課題研究
食料・環境経済学科	農学概論Ⅰ, 農学概論Ⅱ, 食料・環境経済学概論Ⅰ, 食料・環境経済学概論Ⅱ, 食料環境基礎社会・経済学	経済原論Ⅰ, 経済原論Ⅱ, 経済思想史, 社会経済史, 農林統計利用実習, 農業発展論, 国際農林業概論, 農業会計学基礎実習, 資源生物科学基礎Ⅰ	農業組織経営学, 農業経営情報会計学, 資源環境経済学, 食料・環境政策学, 林業政策学, 国際農村発展論, 農業・農村史, 農学原論, 農企業問題特論, アグリビジネス論, 農業資金会計論, 資源環境分析学, 農林統計学, 農産物価格論, 林業経済学, 農村社会学, 専門外国書講義Ⅰ(英語), 専門外国書講義Ⅱ, 地域農業・農業経営管理特論, 作物学Ⅰ, 土壌学Ⅰ, 植物栄養学, 農村計画学, 水資源利用学, 国際森林資源論, 熱帯林環境学, 花卉園芸学, 栄養化学, 農地整備学, 野生動物保全学, 熱帯森林資源学, 食環境学, 食品安全学Ⅰ, 食料・環境経済学特別講義Ⅰ, 食料・環境経済学特別講義Ⅱ, 食料・環境経済学特別講義Ⅲ, 食料・環境経済学特別講義Ⅳ, 食料・環境経済学特別講義Ⅴ, 農業組織経営学演習Ⅰ, 農業経営情報会計学演習Ⅰ, 資源環境経済学演習Ⅰ, 食料・環境政策学演習Ⅰ, 林業政策学演習Ⅰ, 国際農村発展論演習Ⅰ, 農業・農村史演習Ⅰ, 農学原論演習Ⅰ, 農業簿記経営調査実習	国土・地域計画, 食品安全学Ⅱ, 食料・環境経済学特別講義Ⅲ, 森林法律論, 農業組織経営学演習Ⅱ, 農業組織経営学演習Ⅲ, 農業経営情報会計学演習Ⅱ, 農業経営情報会計学演習Ⅲ, 資源環境経済学演習Ⅱ, 資源環境経済学演習Ⅲ, 食料・環境政策学演習Ⅱ, 食料・環境政策学演習Ⅲ, 林業政策学演習Ⅱ, 林業政策学演習Ⅲ, 国際農村発展論演習Ⅱ, 国際農村発展論演習Ⅲ, 農業・農村史演習Ⅱ, 農業・農村史演習Ⅲ, 農学原論演習Ⅱ, 農学原論演習Ⅲ, 食料・環境経済学実習, 課題研究
森林科学科	農学概論Ⅰ, 農学概論Ⅱ, 森林基礎科学Ⅰ, 森林基礎科学Ⅱ, 森林基礎科学Ⅲ, 森林基礎科学Ⅳ	森林科学Ⅰ, 森林科学Ⅱ, 森林科学Ⅲ, 森林科学Ⅳ, 応用気象学, 森林科学実習Ⅰ, 森林科学実習Ⅱ, 森林科学実習Ⅲ, 森林科学実習Ⅳ, 研究林実習Ⅰ	国際森林資源論, 森林計画学, 造園学Ⅰ, 造園学Ⅱ, 森林利用学, 樹木生理学, 森林育成学, 森林植物学, 森林管理システム及び応用技術論, 雪水学基礎論, 森林生態学, 群集生態学, 森林植物繁殖学, 野生動物保全学, 熱帯林環境学, 熱帯森林資源学, 樹木細胞生理学, 細胞壁形成論, 砂防学Ⅰ, 砂防学Ⅱ, 森林水文学, 森林影響論, 生物材料物性学, 木構造学, 木材加工学Ⅰ, 木材加工学Ⅱ, セルロース化学, バイオマス化学, 森林生化学Ⅰ, 森林生化学Ⅱ, 高分子合成化学, バイオマス複合材料化学, 生物物理化学, パルプ・紙学, 専門外国書講義Ⅰ, コンピュータ利用と森林科学, 森林総合実習及び実習法, 森林生物学実験及び実験法, 森林物理学実験及び実験法, 森林基礎化学実験及び実験法, 森林利用学実習及び実習法, 生態学実験及び実験法, 樹木の超微形態観察及び観察法, 森林水文・砂防学実験及び実験法, 木材工学実験及び実験法, 木材加工学実験及び実験法, バイオマス化学実験及び実験法Ⅰ, バイオマス化学実験及び実験法Ⅱ, 造園学実習Ⅰ, 研究林実習Ⅱ, 研究林実習Ⅲ, 研究林実習Ⅳ	緑地植物学, 専門外国書講義Ⅱ, 森林法律論, 緑地計画論, 森林有機化学, 高分子物性学, バイオマスエネルギー, 生物圏情報学Ⅰ, 生物圏情報学Ⅱ, 木材保存学, 木質材料学, 住環境学, さのこ学, 森林科学特別科目Ⅰ, 森林科学特別科目Ⅱ, 森林科学特別科目Ⅲ, 林業政策学, 林業経済学, 測量学, 水理学, 土壌学Ⅰ, 土壌学Ⅱ, 材料力学, 構造解析学, 振動学, 熱力学及び伝熱工学, 応用数学, 森林分析化学, 造園学実習Ⅱ, 建築設計・製図実習, 森林科学演習, 生物圏情報学演習Ⅰ, 生物圏情報学演習Ⅱ, 課題研究
食品生物科学科	農学概論Ⅰ, 農学概論Ⅱ, 食品基礎生物学Ⅰ, 食品基礎生物学Ⅱ, 食品基礎生物学Ⅲ, 食品有機化学Ⅰ	食品有機化学Ⅱ, 食品物理化学Ⅰ, 食品生化学Ⅰ, 食品生物科学概論, 食品安全学Ⅰ, 食品生物科学入門及び実習Ⅰ, 食品生物科学入門及び実習Ⅱ	食品有機化学Ⅲ, 食品物理化学Ⅱ, 食品生化学Ⅱ, 食品分子生物学, 食品微生物学, 食品生理学, 酵素化学, 生命有機化学, 栄養化学, 食品工学, 食品分子機能学, 食品生理機能学, 生体情報応答学, 微生物生産学, 食品化学, 品質科学, 専門外国書講義Ⅰ, 食品生物科学基礎実験及び実験法, 有機化学実験及び実験法, 食品・栄養化学実験及び実験法, 化学工学実験及び実験法, 酵素化学・生化学実験及び実験法, 微生物学実験及び実験法, 生命科学実験及び実験法	専門外国書講義Ⅱ, 油脂製造加工並びに食品保蔵論, 醸造食品学概論, 生体触媒化学, 食品安全学Ⅱ, 食品生物科学演習, 課題研究

RESEARCH ACTIVITIES

教員の研究テーマ紹介

ここでは、京都大学教員の研究テーマを学部ごとに紹介します。
進路の選択や、興味ある研究テーマを探すための参考にしてください。

総合人間学部

足立幸男 教授

現代政治理論、公共政策学

阿辻哲次 教授

漢字の歴史

石原昭彦 教授

神経・筋の可塑性に関する分子生物学的研究

稲垣直樹 教授

■ヴィクトル・ユゴー研究 ■近現代フランス小説とその日本での受容 ■科学技術と擬似科学の文化表象

伊従 勉 教授

近現代建築都市論研究、歴史民俗世界の祭儀空間研究

石田明文 教授

ドイツ近代の知の構造

宇敷重広 教授

力学系の分岐理論、カオス・フラクタル、複素力学系

内田賢徳 教授

古代日本語文法の研究・和歌のことばの研究

江田憲治 教授

1920 - 30 年代の中国政治史・思想史

大木 充 教授

外国語教授法、動機づけ、自律学習、CALL

岡田温司 教授

イタリアを中心とした中世・近世美術史、芸術理論

岡田敬司 教授

「かかわり」と「コミュニケーション」の人間形成作用

小川 侃 教授

(地球環境学堂)
現象学と現代の諸思想、西洋の政治哲学の歴史

愛宕 元 教授

中国中世・近世の社会経済史研究

小田伸午 教授

(高等教育推進センター)
スポーツ科学、身体運動の制御機構

尾野照治 教授

ドイツ語圏を中心とするヨーロッパ中世の思想・文芸作品および法書・史書に映し出された当時の人々の理想像ならびに生活像

加藤 真 教授

植物や動物の生態と進化、生物の多様性と生態系の保全

加藤幹郎 教授

映画学ならびに表象文化論（アイルランド亡命文学研究等）

鎌田浩毅 教授

火山学、地質学、地球科学、科学教育法、コミュニケーション論

際本泰士 教授

プラズマ物理学。特に集団的相互作用による多粒子系の自己組織化と輸送過程の実験研究

鯨岡 峻 教授

初期母子関係におけるコミュニケーションの発達

金坂清則 教授

■都市の地域的存在様式に関する研究 ■地域整備に関する歴史地理学的研究 ■19 世紀イギリスの女性旅行家とその活動に関する研究

川島昭夫 教授

近代イギリスの文化史、社会生活史および科学の制度史

木村 崇 教授

ロシアを中心とするスラブ世界の文化論的問題

小林茂夫 教授

(情報学研究所)
感覚を生むしくみ、情報とは何か

小山静子 教授

近代日本における教育とジェンダーに関する歴史的研究

齋藤治之 教授

ドイツ語の歴史および印欧語比較言語学

佐伯啓思 教授

現代社会の諸現象を思想的背景にもとづいて分析する。

阪上雅昭 教授

ブラックホールと初期宇宙での非平衡非線形現象

四日谷敏子 教授

アリストテレスとヘーゲル、ハイデッガーの哲学に基づく身体と建築の研究

篠原資明 教授

間哲学と交通論という立場にもとづく芸術の研究

島田真杉 教授

アメリカ現代史における国民統合の研究

新宮一成 教授

精神分析および精神医学の思想と臨床実践の研究

菅原和孝 教授

狩猟採集民の社会と生態、対面相互行為の構造、日常会話の人類学的分析

鈴木雅之 教授

初期近代からロマン主義時代を経てヴィクトリア朝にいたるイギリス文学、視覚芸術・視覚表象文化

水光雅則 教授

(高等教育推進センター)
言語習得理論にもとづく英文法研究、外国語習得論、英語教育論

杉万俊夫 教授

グループ・ダイナミクス、社会心理学

杉山雅人 教授

(地球環境学堂)
水圏における物質の化学動態、環境化学物質の高感度分析

高崎金久 教授

代数解析、数理論理、可積分系

高橋義人 教授

■ゲート自然科学にもとづく近代科学の批判的検証 ■デモノロジーと近代ヨーロッパ ■グノーシス主義と西欧の宗教史

高橋由典 教授

(高等教育推進センター)
感情を基点とする社会学理論の研究

竹安邦夫 教授

(生命科学研究所)
細胞膜、核レベルにおける環境応答現象の解析とその分子機構の解明

田地野 彰 教授

(高等教育推進センター)
教育言語学、教育文法、外国語の教授と学習、第二言語習得論

田邊玲子 教授

近代西欧、特にドイツの文学現象における人間、ジェンダー、セクシュアリティ観

玉田 攻 教授

■合成結晶や鉱物の結晶構造解析 ■地球深部物質の巨大結晶の合成 ■鉱物の風化や反応、吸着に関する理論的研究 ■ゼオライトやグラファイト系の環境浄化材料の合成と応用

田村 類 教授

■分子のキラリティーが誘起する物質の新しい現象や性質に関する研究 ■キラル機能性有機化合物の設計・合成と物性に関する研究

壇辻正剛 教授

(学術情報メディアセンター)
音声学、応用言語学

津田謹輔 教授

糖尿病の成因ならびに合併症に関する研究

東郷雄二 教授

フランス語を中心とする談話機能文法と意味論

富田博之 教授

平衡から離れた系の統計物理学

富田恭彦 教授

■粒子仮説を基盤とした 17 世紀観念説の論理空間とその変貌 ■現代言語哲学・科学哲学

中西輝政 教授

冷戦後の新しい国際政治秩序の形成と東アジアの地域秩序の相関

長屋政勝 教授

ドイツ社会統計史および統計学史

西井正弘 教授

国境を越える人の移動（難民・移民・逃亡犯罪人など）に関する国際法的規制と国際人権法、国際環境法の研究

西垣安比古 教授

東アジアの住まいに関する建築論的研究 / 住居観の史的研究

西村 稔 教授

18 ~ 19 世紀ドイツ法文化史および近代日本道徳思想史

西山良平 教授

日本古代中世の都市・王権・文化

丹羽隆昭 教授

N. ホーソーンを中心とする 19 世紀アメリカ文学の研究

服部文昭 教授

スラヴ諸語の研究

福井勝義 教授

民族間関係と戦い、自然の文化化、牧畜・焼畑民の社会生態

福岡和子 教授

19 世紀アメリカ小説・批評理論

船橋新太郎 教授

ワーキングメモリの神経機構に関する研究

カール・ベッカー 教授

宗教と生命・医療倫理・環境倫理の東西比較

堀 智孝 教授

水圏環境の化学、金属酸化物複合体の構造化学、物質の地球循環を解明するための分析化学

前川 覚 教授

極低温度における磁性体の量子力学的現象やスピン現象の核磁気共鳴法による研究

前川玲子 教授

20 世紀のアメリカ思想・文化史研究

松井正文 教授

両生爬虫類の系統分類学の研究

松浦 茂 教授

17・18 世紀のアムール川流域史、18 世紀東アジア地理学史、清初史

松下和夫 教授

(地球環境学堂)
公共政策としての環境政策論の研究、特に地球環境に関する法的・制度的な枠組みの検討と政府・企業・NGO などの多様な主体の役割の分析

松田 清 教授

日本洋学史、日欧文化交渉史

松村道一 教授

運動制御の神経機構

間宮陽介 教授

公共的空間（コモンズ、都市空間、政治空間）に関する研究

丸橋良雄 教授

英国喜劇と比較演劇

三谷恵子 教授

中・東欧の言語と文化、言語接触と言語変化、言語と社会

道籙泰三 教授

W. ベンヤミン 等 19、20 世紀のドイツ文学・思想の研究

三原弟平 教授

カフカ、ベンヤミンなど 20 世紀ドイツ文学・思想

三室 守 教授

(地球環境学堂)
光合成の光化学、光物理学的過程の解析。光合成生物の進化。光合成生物の環境科学への応用。

宮本嘉久 教授

ソフトマターの構造形成、緩和現象、破壊

村中重利 教授

酸化物薄膜の蒸着

元木泰雄 教授

日本中世成り期の政治史、院政・武士・内乱について

森谷敏夫 教授

生体信号処理・応用生理学

森本芳則 教授

偏微分方程式に対する超局所解析

山口良平 教授

有機金属分子・錯体の構造と触媒機能の探求、ならびにその触媒機能を活用した環境調和型分子変換に関する研究

山田孝子 教授

東アジア諸民族における宗教と生態に関する人類学的比較研究

山田 誠 教授

北方圏地域の地誌および都市地理学

山梨正明 教授

言語学（意味論・語用論）

山本行男 教授

酵素や生体関連物質の機能解明研究

吉田 純 教授

（高等教育推進センター）ドイツの社会思想・社会理論、情報ネットワーク社会の理論的・経済的研究

依田義丸 教授

創造行為としての演劇（特にシェイクスピアを中心とした英米演劇）

エンゲルベルト ヨリッセン 教授

日欧交渉史、西南ヨーロッパのルネッサンス・バロック時代、ヨーロッパの領土拡張政策に関連した問題、比較文化・比較文学、インド英文学

赤松紀彦 助教授

中国古典演劇

浅野耕太 助教授

環境経済学、応用計量経済学

安部 浩 助教授

M. ハイデガーを中心とする存在論・実存哲学。H. ヨナスを中心とする環境思想。

石川尚人 助教授

古地磁気学・岩石磁気学的情報による地球表層部での地学現象（超大陸の形成史、古環境変遷など）の解明

市岡孝朗 助教授

生態学、昆虫学、熱帯雨林における群集生態学

上木直昌 助教授

確率解析学

内本喜晴 助教授

電気化学エネルギー変換

大川 勇 助教授

近現代ドイツ・オーストリア文学、中欧精神史、教養論

大澤真幸 助教授

■社会システムの構造に関する身体論的研究 ■メディア・コミュニケーションの構造に関する研究

岡 真理 助教授

■現代アラブ文学 ■第三世界のフェミニズム思想 ■パレスチナ問題

小方 登 助教授

コンピュータを利用した地理情報処理、宇宙からの映像による遺跡探査と歴史景観復原

奥田敏広 助教授

20世紀ドイツの長編小説-トーマス・マンを中心に-

小倉紀蔵 助教授

東アジア思想に基づき、特に韓国・朝鮮を主なフィールドとする文化およびメディア概念の研究

小畑史子 助教授

（地球環境学堂）労働災害の予防と補償を中心とする労働法、環境法、民法などの研究

勝又直也 助教授

■中世ヘブライ文学 ■ユダヤ学 ■地中海・中東における3つの一神教文明の交流史

桂山康司 助教授

英国宗教詩人の研究 - ミルトン、ホプキンスを中心に -

河崎 靖 助教授

言語学・文献学

木坂正史 助教授

力学系理論、特に複素力学系

齋木 潤 助教授

視覚認識の認知神経科学的研究

酒井 敏 助教授

大気・海洋の流体としての力学

櫻川貴司 助教授

計算機科学

佐藤義之 助教授

メルロ＝ポンティ、レヴィナスを手がかりとした、現象学ならびに倫理学の研究

島崎 健 助教授

平安朝文学の研究

須田千里 助教授

日本近代文学の研究

瀬戸口浩彰 助教授

植物系統進化学・植物地理学

大黒弘慈 助教授

貨幣・信用を中心とする経済理論および経済思想史

多賀 茂 助教授

十八世紀フランスの知の構造及びフランス現代思想

高谷 修 助教授

18世紀英文学及び比較文学

田部勢津久 助教授

光機能性ガラスの設計・無機材料科学、固体光物性

立木秀樹 助教授

プログラミング言語理論、実数計算、連続性と計算可能性の研究

津江広人 助教授

構造有機化学、合成有機化学を基盤とした、かご形分子の合成と物性に関する研究

中森誉之 助教授

言語学理論、認知科学理論を基盤とした効果的効率的な外国語指導理論の構築

西山教行 助教授

外国語教育ならびに言語政策、フランコフォニー、植民地主義などの研究

林 達也 助教授

運動による糖・脂質・エネルギー代謝活性化とそのメカニズム解明

ブライアン・マサル・ハヤシ 助教授

アメリカ20世紀の移民史

日置尋久 助教授

（高等教育推進センター）データハイディング

廣野由美子 助教授

19世紀イギリス小説、小説技法、物語論

藤田健一 助教授

（地球環境学堂）新しい有機遷移金属錯体の創製と環境調和型分子変換触媒としての応用

藤田耕司 助教授

生成文法理論にもとづく自然言語の統語論研究

藤原直樹 助教授

高圧を含む多重（極限）環境下における強相関電子系（超伝導、金属絶縁体転移、低次元量子効果）の核磁気共鳴法による研究

松田英男 助教授

イギリスおよびアメリカ映画論

水野尚之 助教授

■アメリカ19・20世紀の小説 ■アメリカの都市の成立と文化

水野真理 助教授

■英国ルネサンス期の物語文学 ■イングランド人による自己と他者・異文化の表象

道坂昭廣 助教授

中国古典文学、特に南北朝から唐の散文。江戸から明治時代の漢文学

宮下英明 助教授

（地球環境学堂）光合成生物の多様性と多機能性、光合成の系統進化、光合成生物を利用した環境リスク低減に関する研究

吉村成弘 助教授

（生命科学研究科）1分子イメージング・計測・操作技術を用いて、細胞核内の分子構造や分子反応機構を解明する。

細川 浩 講師

（情報学研究科）神経生物学、細胞生物学

湯山哲守 講師

プラズマ境界における不安定波

李 長波 講師

日本語と中国語の歴史的研究、東アジア言語思想史の研究

文学部

伊藤邦武 教授

言語分析による認識論

出口康夫 助教授

統計学・シミュレーションなど現代科学の方法論を視野に入れた認識論・存在論。進化する生物学的人間観を批判的に検討する「新・人間本性論」。

中畑正志 教授

西洋古代哲学の研究、現代英語圏哲学を視野に入れた「心の哲学」の研究

川添信介 教授

■西洋13・14世紀のアヴェロース主義の問題 ■スコラ哲学における身心問題

小林道夫 教授

デカルト哲学を中心とした西洋近世哲学および科学哲学上の諸問題の研究

福谷 茂 助教授

カントを中心とする近世哲学史

藤田正勝 教授

ドイツ観念論における哲学と宗教の問題

水谷雅彦 教授

■現代倫理学の理論的研究 ■コミュニケーション及び情報の倫理学的研究

氣多雅子 教授

近代のニヒリズムの本質と思想的系講について

杉村靖彦 助教授

現代フランス思想を手掛かりに、哲学と宗教がそれぞれ深刻な危機にさらされているこの時代になお可能な宗教哲学を追究する。

片柳榮一 教授

ギリシア的存在理解とヘブライ的存在理解の問題を、人間存在の歴史性を解明する方向で考究している。

芦名定道 助教授

近代キリスト教世界の形成と現代キリスト教思想の諸問題について

中村俊春 教授

17世紀フランドル絵画史

根立研介 教授

日本には、きわめて写実的な肖像彫刻が数多くのこざれているが、その「写実」の意味など、肖像に関する諸問題を研究する。

木田章義 教授

日本語の歴史

大谷雅夫 教授

国文学中国文学の比較研究

大槻 信 助教授

古代日本語の研究

川合康三 教授

唐宋変革期の文学

平田昌司 教授

中国における言語の史的变化と社会変動・情報技術の変遷過程について

木津祐子 助教授

近世以降に編まれた対音資料をもとに、基礎または対象となる中国方言音系を分析する。さらにそれを通して中国語の規範意識の所在を探る。

池田秀三 教授

漢魏六朝の学術と思想

宇佐美文理 助教授

中国宋代思想史。特に存在論と藝術論についての研究

徳永宗雄 教授

古代インド宗教思想史・叙事詩研究

横地優子 助教授

インド古代から中世にかけてのヒンドゥー教の神話・信仰の変遷。特に大女神信仰の形成過程

赤松明彦 教授

古代インドにおける認識論・存在論・論理学・言語哲学の展開についての思想史的研究

御牧克己 教授

インド・チベット仏教思想研究

宮崎 泉 講師

後期インド仏教とそのチベットへの伝播について

中務哲郎 教授

古代ギリシアの説話文学

高橋宏幸 教授

ローマ文学におけるペルソナの研究

佐藤昭裕 教授

スラブ言語学、アスペクト論、テキスト文法

西村雅樹 教授

19世紀末から20世紀前半にかけてのオーストリアの文学ならびに文化の研究

松村朋彦 助教授

18・19世紀ドイツ文学・文化史

宮内 弘 教授

英詩（特にルネサンス期と20世紀）及び文体論研究

若島 正 教授

Vladimir Nabokov を中心としたアメリカ小説の研究

佐々木徹 教授

イギリス小説

廣田篤彦 助教授

初期近代イングランドにおけるナショナリズムの文学作品における表象について

家入葉子 助教授

12世紀から15世紀にかけての英語の文法構造の変化について

田口紀子 教授
フランス語学・ナラトロジー

吉川一義 教授
近現代フランス文学。ブルースト小説の生成および絵画との関連。

増田 眞 助教授
ルソーを中心とする18世紀フランスの思想と文学

永盛克也 助教授
フランス17世紀演劇の劇作法と文学理論の関係

齊藤泰弘 教授
レオナルド・ダ・ヴィンチの思想研究

天野 恵 助教授
中世ヨーロッパ文学最古のジャンルのひとつである武勲詩の伝統に、古典文学の要素を盛り込んだルネサンス騎士道文学。

鎌田元一 教授
日本古代国家の形成過程および支配構造の解明

藤井譲治 教授
日本近世政治史研究

勝山清次 教授
これまで収取制度を中心に、日本の中世社会の特質を解明しようとしてきた。最近は権門勢家の形成に関心をもっている。

吉川真司 助教授
日本古代政治の形式と規範に関する研究。畿内の古代寺院および寺領荘園に関する研究

夫馬 進 教授
中国明清社会研究

杉山正明 教授
モンゴル時代史

吉本道雅 教授
中国古代史（西周～前漢）

中砂明徳 助教授
前近代中国人の歴史認識の研究。すぐれた歴史家の、というよりは「俗流」の歴史観の展開に興味がある。

高嶋 航 助教授
中国近代の社会と文化の諸相

濱田正美 教授
中央ユーラシア史上のイスラーム教と政治の相互関係

久保一之 助教授
前近代中央アジア・イラン史

服部良久 教授
ドイツ中世史

南川高志 教授
元首政期ローマ帝国の政治史的研究

小山 哲 教授
16～18世紀のポーランドにおける政治文化について

上原真人 教授
日本における瓦生産体制の変遷について

泉 拓良 教授
西日本縄文文化・社会の研究及び、中東フェニキアの考古学的研究

吉井秀夫 助教授
考古資料を通して朝鮮三国時代の地域性や地域間関係を復元し、その意味を考察する。

清水芳裕 助教授
自然科学的分析による土器・陶器の製作技術復元

芋阪直行 教授
感覚・知覚・意識情報処理

藤田和生 教授
動物の知覚・認知機能に関する実験的な分析と「知性」や「心」の進化の探究

櫻井芳雄 教授
記憶の脳内メカニズムを神経細胞の活動から実験的に解明しようとする認知神経科学的研究

板倉昭二 助教授
ヒト乳児およびチンパンジー乳児における社会的認知に関する実験的研究

蘆田 宏 助教授
人間の視覚情報処理とその脳内機構に関する心理物理学的研究

吉田和彦 教授
インド・ヨーロッパ諸語比較言語学

田窪行則 教授
日本語、英語、朝鮮語の統語論・語用論

吉田 豊 教授
中央アジア出土中世イラン語文献の言語学的・文献学的研究

白井聡子 講師
チベット語および中国西南部少数民族言語の調査研究

松田素二 教授
アフリカ都市社会の研究

落合恵美子 教授
家族社会学、ジェンダー論、歴史社会学、特に近代家族論

伊藤公雄 教授
ポピュラー・カルチャーを対象とした文化社会学的研究

田中紀行 助教授
文化と社会構造の関係にかんするマクロ社会学理論の研究；文化エリートの比較歴史社会学的研究

金田章裕 教授
景観の歴史的生態とその認識の研究

石川義孝 教授
人口移動をはじめとする空間的相互作用の理論的・計量的検討

杉浦和子 教授
都市の空間構造の形成や変化の過程に関するモデル化について

米家泰作 助教授
近世・近代日本における地理的知と環境の歴史地理学的検討

伊藤和行 教授
16・17世紀イタリアにおける自然哲学および科学思想の歴史的研究

林 晋 教授
情報化社会と情報技術の人文・社会学的分析

杉本淑彦 教授
フランス植民地帝国の社会史をテーマとし、文学・絵画・映画などを素材にして、フランス民衆のアラブ観・イスラーム観を研究している。

紀平英作 教授
20世紀アメリカ合衆国政治史と合衆国を中心とした国際政治史の研究

永井 和 教授
戦前日本における政軍関係の研究

小野澤 透 助教授
第二次世界大戦以降のアメリカ合衆国の中東地域に対する政策の展開を冷戦史の視点から分析している

教育学部

辻本雅史 教授
教育史学：日本教育史・近世思想史

鈴木晶子 教授
教育学：教育哲学・思想史

駒込 武 助教授
教育史学・植民地教育史

山田洋子 教授
発達教育論：生涯発達心理学・ことばとイメージ・フィールド心理学

田中耕治 教授
教育方法学：学力論、授業論、評価論

遠藤利彦 助教授
発達心理学：親子の愛着関係と子どもの社会情動的発達 / 感情の進化論・文化論

西岡加名恵 助教授
教育方法学：カリキュラム論、教育評価論

子安増生 教授
発達心理学：視点理解、心の理論、創発的思考

吉川左紀子 教授
認知心理学：顔・表情認識とコミュニケーション

楠見 孝 助教授
認知心理学：比喩・類推、知識、熟達化、意思決定

齊藤 智 助教授
認知心理学：記憶・作動記憶、言語産出、言語理解

岩井八郎 教授
教育社会学：ライフコース・教育と社会移動

稲垣恭子 教授
教育社会学：学校社会学・青年文化史

川崎良孝 教授
図書館情報学

前平泰志 教授
生涯教育学

渡邊洋子 助教授
生涯教育学：生涯学習・成人教育の国際比較研究、社会教育史

佐藤卓己 助教授
広報学：メディア社会学、マス・コミュニケーション研究、情報史

高見 茂 教授
教育政策学：教育資源分配と公共政策

杉本 均 教授
比較教育学：教育と国際関係（東南アジア）

金子 勉 助教授
教育行政学：高等教育に関する立法過程、大学の自治

矢野智司 教授
教育人間学：生成の教育人間学

齋藤直子 助教授
教育人間学：アメリカの教育哲学

岡田康伸 教授
心理臨床学：人格心理学・心理療法と箱庭療法

河合俊雄 教授
心理臨床学：心理療法の哲学的・理論的検討及びユング心理学の深化

桑原知子 助教授
心理臨床学：人格心理学

田中康裕 助教授
心理臨床学：ユング心理学に基づく心理療法における治癒とその限界

藤原勝紀 教授
臨床実践指導学：心理臨床学・臨床イメージ法による心理体験の研究

皆藤 章 助教授
臨床実践指導学：心理臨床学・心理臨床と教育の接点

伊藤良子 教授
（臨床教育実践研究センター）臨床心理実踐学：心理療法及び臨床人間形成に関する研究

角野善宏 助教授
（臨床教育実践センター）臨床心理実践学：心理療法・精神医学

角野善宏 助教授
（臨床教育実践センター）臨床心理実践学：心理療法・精神医学

法学部

法学部の研究テーマ紹介については、**法学部の学部紹介 (46P, 47P)**に記載されています。

経済学部

経済学科

今久保幸生 教授
ドイツ経済政策史、ドイツ生産システムの発展、日本のFTA 戦略と東アジア経済

岩本武和 教授
国際貿易・国際金融に関する理論的、歴史的研究

植田和弘 教授
財政と公共政策に関する基礎理論、持続可能な社会の経済と財政、環境制御の財政理論、循環型社会の理論と政策

宇仁宏幸 教授
経済制度の補完性とマクロ経済の安定性に関する理論的、実証的研究

大西 広 教授
「レーニン型」の国際資本リンクモデルの構築から、「マルクス＝新古典派型」の2部間成長モデルの開発へとテーマを移動中である。後者は「技術に依存した経済システムの転換」過程のモデル化でもあり、その観点から中国経済の転換過程分析も実証の分野で行っている。

岡田知弘 教授
日本における地域開発、産業構造の再編と地域経済の変動、経済のグローバル化と地域、都市形成史、農村経済論、アグリビジネス論

小島専孝 教授
ケインズ経済学形成史を同時代の経済理論との関連で研究。ホートリーを再評価し、ホートリー・コネクションを主張

塩地 洋 教授
自動車産業に関して、その史的形成過程及び現在の構造的特質、国際比較等を生産、開発、流通等の全分野において解明している。

下谷政弘 教授
日本経済における企業グループ、系列、コーポレート・ガバナンス、持株会社を用いた企業統合と産業再編の現況

橋木俊昭 教授
労働経済や公共経済の研究を行っている。具体的には、日本における格差の拡大、貧者と富者は誰か、フリーター問題、等に取りくんでいる。

田中秀夫 教授
17～18世紀の英国（スコットランドを含む）の社会思想の諸側面を原資料の分析を通して解明すること

成生達彦 教授
ミクロ経済学への応用という観点から、企業組織、企業間関係、マーケティング、流通について研究しています。

西村周三 教授
医療および福祉の経済学、経済心理学、サービス経済論、保険と年金の経済学

根井雅弘 教授
マーシャル以後の現代イギリス経済学

久本憲夫 教授
一國の労使関係・人材育成・処遇制度などが固有にもつ論理の相違点と共通点を国際比較を通じて解明すること

文 世一 教授
都市の空間構造に関する理論的、実証的分析、交通政策の分析

堀 和生 教授
日本、中国、朝鮮の近代経済史を比較検討し、東アジアの発展理論を構築することをめざしている

森棟公夫 教授
計量経済学の研究を行っている。計量経済学とは、経済分析に必要なとされる統計学的な解析方法である。研究としては、特に金融データの時系列分析に携わっている。

八木紀一郎 教授
マルクス経済学、オーストリア学派、歴史学派などの学史的な研究をふまえて、制度の成立・変化を解明する理論を探究している

山本裕美 教授
開発経済学の立場から現代中国経済の市場化過程を中華民国期の市場経済化との比較の視点から研究している。

吉田和男 教授
日本経済・財政の数理分析

依田高典 助教授
「ネットワーク・エコノミクス」情報通信・電力・ガスのようなネットワーク産業の理論・実証研究。特にBBサービスの需要分析、規制機関分割の契約理論的分析、産業融合における経済政策分析など

岩城秀樹 助教授
数理工学的アプローチによる将来の不確実な資産価値及びキャッシュ・フロー（現金流列）の価値評価とその制御

宇高淳郎 助教授
応用ミクロ経済学、特にマーケティング戦略の経済分析

菊谷達弥 助教授
広い意味での企業組織の経済学的研究。企業の特質の行動の国際比較。自動車産業における部品調達・製品販売における企業間関係の分析など。

宮崎 卓 助教授
中国経済。経済協力論。

黒澤隆文 助教授
近現代ヨーロッパ経済史・経済政策史、工業経済論

坂出 健 助教授
20世紀に登場した主要産業の一つである航空機産業における国際的な競争、協調関係の特質の検討をつうじて、欧米各国の産業構造の史的展開とその国際的連関を研究している。

島本哲郎 助教授
■マスメディアの経済政策■金融政策の有効性

竹澤祐丈 助教授
近代社会形成期の英国（イングランドとスコットランド）での議論。特に、共和主義思想を、同時代のヨーロッパの動向と関連付けながら、思想的に研究しております。

曳野 孝 助教授
経済環境と社会組織が異なる条件のもとで、現在の世界経済の重要な要素である巨大企業がどのように生成し発展を遂げたかを、国際比較によって明らかにすること。

久野秀二 助教授
グローバル化下での農業・食料システムの変動と農業政策の展開について。農業バイオテクノロジーの国際規制枠組みをめぐる政治経済的力学について。

松井啓之 助教授
■行政の情報化 ■計画支援情報システムの開発 ■マルチエージェントシミュレーション

諸富 徹 助教授
環境税、排出権取引制度をはじめとする、環境政策における経済的手段の研究。租税構造の歴史の変動と租税思想史の研究。地域の接続可能な発展とそれを支える財政システムの研究。

遊喜一洋 助教授
マクロ経済学、特に経済発展のメカニズムや所得・資産分布の決定要因についての分析

渡辺純子 助教授
産業構造の変化に対する企業・政策の対応（日本の繊維産業に関する歴史的研究）

飯山将晃 講師
情報処理論。メディア工学。

稲葉久子 講師
異なる文化的背景を持つ個人や組織が接触する際に、何を学習し、どのように多文化共存の途に活用できるか、探求すること。

ジャン・クロード マスワナ 講師
グローバル化下でのビジネスにおける変化、金融システム開発、アジア・アフリカ比較経済開発、非新古典派金融理論

ティミター・ヤルナゾフ 講師
■ロシア・東欧における資本市場とコーポレート・ガバナンス ■ブルガリアにおける市場経済移行 ■EU経済統合とEUの東方拡大

経営学科

上總康行 教授
日米企業の経営戦略や経営行動は大きく異なっているが、その特徴や原因を、特に経営システムや会計情報との関連で比較研究している

末松千尋 教授
事業創成、ITビジネス論、IT戦略論

田尾雅夫 教授
組織のなかの人間の行動に関する実証的研究

徳賀芳弘 教授
会計の国際的調和化現象の分析、ベンチャー企業のIPO前後の会計行動の考察

西牟田祐二 教授
経営史、国際経営史、投資銀行史

日置弘一郎 教授
比較経営特に組織デザイン論、キャリア形成、権力継承など

藤井秀樹 教授
会計の比較制度分析、国際会計論 会計、非営利組織（NPO）会計

若林靖永 教授
マーケティング・流通・商業。顧客満足志向マーケティング（組織）、リレーションシップ・マーケティング、非営利・協同組織のマーケティング。

澤邊紀生 助教授
会計学、管理会計学、会計制度形成過程の研究

福山泰生 助教授
国際的な製品開発組織・戦略、競争優位と国際的な立地戦略、技術と知識のマネジメント。

若林直樹 助教授
企業組織でのネットワーク行動に関する実証研究

理学部

数理科学系

池田 保 教授
数論

磯 祐介 教授
微分方程式論の数値解析、逆問題解析、応用解析学

上 正明 教授
低次元トポロジー

上田哲生 教授
多変数複素関数論および複素力学系

上野健爾 教授
理論物理学への応用を見込んだ複素多様体。数論的多様体の研究

加藤和也 教授
整数論、とくに類体論や岩澤理論の代数多様体への拡張

加藤信一 教授
代数群の表現論

木上 淳 教授
解析学

河野 明 教授
位相幾何学 リー群やそれに関連する空間をトポロジーの手法、とくにホモトピー論の手法を用いて研究

齋藤 裕 教授
代数群の保型表現・許容表現の研究

重川一郎 教授
確率論 無限次元空間上の解析を確率論の立場から研究

宍倉光広 教授
力学系理論 ■複素力学系の不変集合や分岐集合 ■実力学系の分岐現象

堤 誉志雄 教授
非線形偏微分方程式論 特に非線形分散型及び波動方程式

中島 啓 教授
表現論・幾何学 幾何学を用いた量子展開環の表現論の研究

西田吾郎 教授
代数的位相幾何学 一般コホモロジー論およびホモトピー論の研究

西和田公正 教授
偏微分方程式の解の構造

深谷賢治 教授
幾何学 図形を研究する。現在は位相的場の理論を通じて無限次元幾何学を目指す

松木敏彦 教授
リー群論

三輪哲二 教授
代数解析学

森脇 淳 教授
代数幾何学、特にモディライ空間と数論的多様体の研究

吉田敬之 教授
数論 保型形式から得られるL関数について、その特殊値と零点の研究

泉 正己 助教授
作用素環

梅田 亨 助教授
関数解析 量子群対称性に基づく不変式論及び双対性の研究

大鍛治隆司 助教授
微分方程式論

加藤 毅 助教授
空間の局所的な微分構造から大域的構造を調べる微分位相幾何学

加藤文元 助教授
代数幾何学、特に非アルキメデスの解析学やその代数幾何学への応用

國府寛司 助教授
非線型問題 ■カオスの力学系とその分岐 ■力学系理論の非線型微分方程式への応用

塩田隆比呂 助教授
微分方程式論

中西賢次 助教授
偏微分方程式論

西村 進 助教授
計算機科学 特にプログラミング言語の理論、プログラム変換

西山 享 助教授
リー群の表現論

畑 政義 助教授
超越数論

日野正訓 助教授
確率論

藤井道彦 助教授
微分位相幾何学 特に双曲多様体の変形の研究

望月拓郎 助教授
代数多様体のトポロジー

山崎愛一 助教授
多元環の整数論

吉田伸生 助教授
確率論 統計物理学の対象となる諸現象を確率論の立場から研究。特に相転移（例えば液体の気化や凝固）の確率的な仕組みについて

浅岡正幸 講師
力学系理論 特に低次元力学系の位相的性質の研究

稲場道明 講師
代数幾何学におけるモジュライ理論

久保雅義 講師
応用解析、数値解析

高村 茂 講師
複素曲線の退化の変形の構成や変形に関して最も安定な退化の分類研究

平賀 郁 講師
数論特に保型表現

若野 功 講師
応用解析、数値解析：破壊現象の数学解析と数値解析

物理科学系

前野悦輝 教授
固体物理学 ■スピン三重項超伝導体などの新しい超伝導体や磁性体の物質開発と、熱測定などによる低温での量子凝縮状態の研究 ■低温での測定技術の開発

石田憲二 助教授
固体物理学　新奇な超伝導体や磁性体の研究。主に原子核レベルのミクロな測定（核磁気共鳴（NMR）実験を用いた研究）

松田祐司 教授
固体物理学　新奇超伝導状態の研究　強く相関し合った電子系の示す新しい量子状態の電子輸送現象を中心に研究

芝内孝禎 助教授
固体物性・低温物理学　超伝導を中心とした極低温・強磁場下における物質中の量子現象に関する実験的研究

高橋義朗 助教授
量子光学　中性原子のレーザー冷却及びその精密測定的基础物理への応用

田中耕一郎 教授
光物性　■超高速レーザー分光法をもちいた非熱平衡系のダイナミクス研究
■光誘起構造変化の素過程の解明
■新しいテラヘルツ分光法の開発およびソフトマテリアルへの応用

八尾 誠 教授
不規則系物理学、液体、アモルファス、マイクロクラスター等の構造と物性に関する実験的研究

吉川研一 教授
化学物理学・生命物理学　複雑多彩巧妙な生命現象に潜む基本原理を、発見・解明することをめざす。

瀬戸秀紀 助教授
化学物理学・生命物理学、両親媒性膜等の柔らかい物質（ソフトマター）系の秩序形成要因を、実験により明らかにする。

山本 潤 教授
ソフトマター物理学　液晶・高分子・ゲル・マイクロエマルジョン・生命体の階層構造とダイナミクス

前川 孝 教授
プラズマ物理学　■プラズマ波動物理　■トラスプラズマの波動加熱・電流駆動及び平衡と安定性

田中 仁 助教授
プラズマ物理学　特に、電子サイクロトロン波・電子バーストアイン波を用いた球状トカマクの生成、純電子プラズマの閉じ込めと波動特性の研究

池田隆介 助教授
低温物理学・固体物理学　磁場下の超伝導の基礎理論、量子統計物理一般

篠本 滋 助教授
非線形動力学、統計物理学、脳の情報処理の理論的研究

藤 定義 助教授
流体物理学　■乱流ダイナミクスにおける微細構造の役割及び巨視的秩序構造形成メカニズムの研究
■乱流混合、拡散の理論

小貫 明 教授
統計物理学　■相転移ダイナミクス
■非平衡現象の統計物理学

武末真二 助教授
統計物理学・非線形動力学　格子熱伝導系や粒子流の格子模型を用いた非平衡統計力学の理論的研究

早川尚男 助教授
非平衡物理学　粉体等の散逸粒子系の力学の研究。非平衡統計力学の基礎研究。

今井憲一 教授
原子核物理学　加速器を用いたハドロンと原子核の研究

齊藤直人 助教授
ハドロン物理学　ハドロン構造の理解とハドロンを用いた基本的相互作用の解明を目指す実験的研究

川合 光 教授
物理に限らずサイエンス一般に興味を持っているが、通常は素粒子論を中心とし、場の理論、量子重力、超弦理論に関する研究をしている。特に超弦理論は非常におもしろい段階にさしかかっており、力をいれている。

畑 浩之 教授
素粒子基礎論　■ゲージ場・重力場理論のダイナミクス
■弦理論の基本原理とダイナミクスの解明

福岡将文 助教授
素粒子基礎論　■場の量子論のダイナミクス
■弦理論、量子重力理論の基本原理の解明と理論の定式化

小林達夫 助教授
素粒子論。弦理論から素粒子の様々な現象論的性質がどのように導かれるのかを研究している。

植松恒夫 教授
素粒子論。特に、量子色力学と深非弾性過程、核子や光子の構造関数、超弦理論など相互作用の統一理論における超対称性とその自発的破れおよび有効作用理論の研究。

青山秀明 教授
理論物理学・素粒子論。新しい超対称性の研究の一方で、経済物理学、言語物理学などでも、理論物理学の見方を生かした研究を行っている。

笹尾 登 教授
高エネルギー物理学　素粒子の基本構造と相互作用の実験的研究及びビーム物理学の研究。現在は荷電バリティ対称性とその破れの起源に関する研究及び高輝度ミュオン源や高輝度 X 線源の開発を行っている。

中家 剛 助教授
素粒子実験物理学を専門としており、現在はニュートリノ物理学を主に研究を遂行している。テーマとしては、ニュートリノ振動現象の解明、ニュートリノ質量二乗差の精密測定、ニュートリノ・核子相互作用の研究を行っている。

小山勝二 教授
_宇宙空間からの X 線観測
■宇宙超高温プラズマ
■中性子星・ブラックホール
■超高エネルギー粒子

谷森 達 教授
高エネルギー宇宙物理学、特にガンマ線天文学及び素粒子論的宇宙観測。それに必要なガンマ線、粒子線、イメージング技術開発。

鶴 剛 助教授
高エネルギー宇宙物理学　特に天文衛星など飛翔体を用いた宇宙 X 線、ガンマ線の観測的研究と、それに必要な観測機器の開発。

松柳研一 助教授
核構造物理学（理論）■高速回転する原子核、巨大変形した原子核、中性子スキンをもった不安定核における集団現象に対する微視的モデル
■有限質量系における大振幅集団運動の理論

藤原義和 講師
原子核物理学（理論）　■クォーク模型によるバリオン間相互作用
■軽い原子核のクラスター構造、小数多体問題

中村卓史 教授
相対論的天体物理学：ブラックホール、動波、中性子星、ガンマ線バースト、ダークマター、ダークエネルギー等の形成、起源の研究

犬塚修一郎 助教授
宇宙物理学　輻射流体力学、磁気流体力学による星・惑星系形成過程の理論的研究など

田中貴浩 助教授
初期宇宙論（プレーンワールド、インフレーション、初期密度ゆらぎ）、および、一般相対論（重力波、輻射反作用問題）。

早田次郎 助教授
弦理論的宇宙論、およびブラックホール物理学。超弦理論などの量子重力理論に基づいた宇宙初期やブラックホールの理論的研究。

菅沼秀夫 助教授
_クォーク・ハドロン物理学
■量子色力学に基づくクォークの閉じ込めとハドロンの研究

稲垣省五 教授
重力多体問題

岩室史英 助教授
銀河天文学、高赤方偏移天体、観測装置開発

太田耕司 助教授
銀河の形成と初期進化、QSO/AGN の探査の研究

戸谷友則 助教授
理論天文学、銀河形成論、高エネルギー宇宙物理学

長田哲也 教授
赤外線天文学、銀河中心領域、星間物質、観測装置開発

北井礼三郎 助教授
■太陽の対流現象の観測的研究
■太陽大気加熱機構の観測的研究

柴田一成 教授
太陽・恒星表面や星間空間での電磁流体的活動現象

上田佳宏 助教授
X 線天文学、ブラックホール、活動銀河核の進化

地球惑星科学系

福田洋一 助教授
測地学　■ジオイドの精密決定
■人工衛星アルティメトリー
■重力異常と地下構造

淡路敏之 教授
海洋物理学　海洋循環・変動のシミュレーションと輸送力学

秋友和典 助教授
海洋物理学　高緯度海域におけるX深い対流と黒潮変動の力学

余田成男 教授
気象学　■大気循環の数値実験および理論
■非線形力学
■カオス理論

石岡圭一 助教授
地球流体力学　地球流体運動に関する数値実験的・理論的研究

堤 浩之 助教授
変動地形学及び活構造学　■活断層の地震危険度評価に関する研究
■東アジアのアクティブテクトニクスに関する研究

町田 忍 教授
地球電磁気学及び太陽地球系物理学　■地球・惑星磁気圏物理学
■磁気圏における粒子加速
■プラズマ粒子計測器開発

中西一郎 教授
地震学及び地球内部物理学　■地球内部構造
■地震活動とテクトニクス

平原和朗 教授
地震学及び地球内部物理学　■地震発生シミュレーション
■地球内部の構造と運動のモデリング

久家慶子 助教授
地震学及び地球内部物理学　■地震の破壊過程の推定とその物理に関する研究
■地球内部におけるダイナミクスに関する研究

里村雄彦 助教授
物理気候学　数値モデルを用いた、グローバル及びローカル気候の形成と変動の素過程の研究

藤森邦夫 講師
測地学及び地殻変動学

家森俊彦 教授
■太陽地球系物理学および地球電磁気学
■磁気圏および電離層における電磁氣的現象の研究
■地磁気の観測とデータ処理に関する研究

竹村憲二 教授
地熱テクトニクス、第四紀地質学

大沢信二 助教授
水の地球科学、地球熱学

田中良和 教授
火山物理学、火山電磁気学、地球熱学、火山の電磁氣的構造探査

鍵山恒臣 教授
火山物理学、火山電磁気学、火山の熱放出、電磁氣的構造探査

須藤靖明 助教授
地震学、火山物理学、火山の地震、地殻変動観測

大倉敬宏 助教授
地震学、火山物理学、測地学、スラブ内部地震、構造

古川善紹 助教授
地球惑星科学　惑星の構造形成、進化、沈み込み帯のダイナミクス

小畑正明 教授
上部マントル、地殻下部の岩石学、マグマの成因　岩石組織と構造の形成過程の研究

北村雅夫 教授
天然の鉱物の形成過程に関する研究、および原始太陽系で形成した隕石の成因に関する研究

嶋本利彦 教授
断層の力学的性質及び地質構造の形成機構の研究と岩石の変形試験機の開発。特に断層深部のプロセスを実験室で再現し、地震の発生過程を明らかにする研究

田上高広 助教授
放射性核種の壊変を利用した年代測定による地球変動の研究。特にプレート収束境界での造山運動や火山活動と全地球変動との関係に興味がある。

平島崇男 教授
世界各地の変動帯に分布する地殻深部物質を岩石学的手法で解析し造山帯の発達過程を研究する

前田晴良 助教授
層序学および古生物学、白亜紀アンモナイトの分類、進化、古生態

山路 敦 助教授
地質学的手法を用いた地球及び他の惑星・衛星のテクトニクスの研究

下林典正 助教授
天然の鉱物に見られる微細組織や集合様式を解析することによって、その形成過程を解明しようとしている。

化学系

齋藤軍治 教授
機能性（超伝導性、磁性、等）を持つ分子性結晶、及び、関連物質の開拓と物性研究（TTF 誘導体、フラーレン（誘導体）、水素結合能を持つ化合物等）

三木邦夫 教授
タンパク質結晶学による生体高分子の構造生物学の研究（タンパク質の構造と機能の解明）

竹田一旗 講師
物質輸送を担うタンパク質の構造と作動原理の研究

谷村吉隆 教授
凝縮系の化学物理理論、統計力学理論、分光理論の研究

- 安藤耕司 助教授**
化学反応量子論、分子多体系における量子移動過程の理論的研究
- 加藤重樹 教授**
分子の電子状態と化学反応のダイナミクスの理論的研究
- 林 重彦 助教授**
生体機能の分子機構に関する理論的研究
- 寺嶋正秀 教授**
新規レーザー分光の開発と蛋白質反応に関するエネルギーと構造ダイナミクスの研究
- 熊崎茂一 助教授**
光合成光化学、レーザー顕微分光、時間分解レーザー分光、細胞分光
- 竹腰清乃理 助教授**
固体 NMR 法の開発と応用研究
- 馬場正昭 助教授**
レーザー分子分光 励起分子の構造とダイナミクス
- 有賀哲也 教授**
固体表面を利用した低次元物質の作成と新奇物性の探索
- 奥山 弘 助教授**
固体表面における分子の吸着および反応の基礎的研究
- 吉村一良 教授**
■遷移金属化合物の磁気的・電気的性質の研究 ■核磁気共鳴を用いたミクロな固体物性研究
- 陰山 洋 助教授**
新奇物性（磁性）を示す無機化合物の開拓。新合成ルート（低温合成法）の開発。単結晶育成。
- 花田禎一 教授**
機能性無機非晶質物質の合成と物性研究
- 中西和樹 助教授**
無機系及び有機無機ハイブリッド系多孔材料の液相合成と構造制御
- 林 民生 教授**
遷移金属錯体を用いた触媒的不斉合成による有用な光学活性化合物の効率の高い合成法の開発
- 白川英二 助教授**
遷移金属触媒を用いる新規付加反応および新規高機能反応場の開発
- 西村貴洋 講師**
遷移金属を触媒とする新規炭素-炭素結合開裂および炭素-炭素結合形成反応の開発
- 丸岡啓二 教授**
ルイス酸型人工酵素の創製と精密有機合成；環境調和型キラル相間移動触媒のデザインと実用的アミノ酸合成
- 大須賀篤弘 教授**
新規な構造と機能を持つポルフィリン系化合物の開拓
- 忍久保洋 助教授**
■水中での有機合成反応の開発 ■ポルフィリン系化合物の新規合成法の開拓
- 杉山 弘 教授**
核酸を中心としたケミカルバイオロジー、遺伝子発現制御化学
- 板東俊和 助教授**
有機合成化学を基盤としたケミカルバイオロジー
- 井上 丹 教授**
バイオナノサイエンスとテクノロジー：RNP(RNA-タンパク質複合体)の分子デザインと構築
- 白石英秋 助教授**
■機能性 RNA の研究 ■植物及び藻類の生殖とその進化の分子生物学的研究

生物科学系

- 疋田 努 助教授**
爬虫類の系統分類学と生物地理学
- 今福道夫 教授**
■昆虫および甲殻類の行動に関する研究 ■動物の左右性に関する研究
- 曾田貞滋 助教授**
■昆虫の種分化と複数種の共存機構 ■昆虫の生活史進化
- 山極壽一 教授**
■ゴリラ・チンパンジー・ニホンザルの社会生態学 ■人間の社会性の起源
- 佐藤矩行 教授**
■動物の進化発生生物学 ■動物の発生ゲノム科学
- 森 哲 助教授**
爬虫類の行動および生態に関する研究
- 堀 道雄 教授**
■アフリカのタンガニイカ湖の魚類群集の研究 ■甲虫の個体群および生物地理学についての研究 ■水生動物の左右性についての研究
- 中務真人 助教授**
■類人猿の進化と人類の起源に関する古人類学 ■霊長類の運動分析と運動器官の形態学
- 久保田洋 助教授**
アフリカツメガエルの原腸陥入運動の分子機構の研究・初期発生における細胞内 Ca の役割
- 張 秋梅 助教授**
■酸化的 DNA 損傷の生成とその修復機構 ■酸化ストレスと老化、老化の関係 ■放射線、活性酸素に対する細胞応答
- 片山一道 教授**
■古人骨から人物像を復元する研究 ■ポリネシア人の起源と成立を探る人類学的研究
- 渡辺勝敏 助教授**
■淡水魚類の保全生態学・遺伝学 ■淡水魚類の系統地理学
- 佐藤ゆたか 助教授**
尾索動物ホヤを対象とした分子発生生物学
- 中川尚史 助教授**
霊長類の採食生態、および社会生態学的研究
- 稲葉カヨ 教授**
異物認識機構と自然免疫ならびに適応免疫応答の制御に関する研究
- 高原和彦 講師**
免疫システムにおける外来微生物の認識と生体の応答
- 長谷あきら 教授**
植物の光応答に関する、分子遺伝学的、生化学的、生理学的及び細胞学的研究
- 井上 敬 講師**
細胞生物学 細胞性粘菌における細胞分化と細胞運動・形態形成機構の研究
- 戸部 博 教授**
高等植物の形態学と系統分類学
- 西村いこ 教授**
高等植物の細胞と細胞内小器官の分化に関する分子生物学的・細胞生物学的研究
- 岡田清孝 教授**
植物分子遺伝学 シロイヌナズナを用いた高等植物の形態形成と細胞間シグナリング機構の分子遺伝学的研究
- 藤吉好則 教授**
膜蛋白質を中心とする細胞のシグナル伝達機構についての構造生物学的研究。
- 西田栄介 教授**
細胞増殖・分化、発生及び高次生命機能を制御するシグナル伝達に関する分子生物学

- 平野丈夫 教授**
脳神経系がはたらくメカニズムについての分子・細胞レベルの研究。
- 七田芳則 教授**
生体における情報変換機構の分子レベルでの研究
- 石川冬木 教授**
遺伝子の振る舞いが、どのように老化やがん化を引き起こすかを明らかにする。
- 森 和俊 教授**
小胞体におけるタンパク質の品質管理機構に関する研究
- 上村 匡 教授**
高次生命現象を支える、細胞のデザイン、構築、そしてリモテリングに関する研究
- 阿形清和 教授**
幹細胞をキーワードにした再生と進化に関する研究
- 千坂 修 助教授**
動物の分子発生生物学
- 中世古幸信 助教授**
細胞周期を制御する因子の分子生物学的解析
- 吉田秀郎 助教授**
高等動物における遺伝子発現制御機構の分子レベルでの研究
- 土井知子 助教授**
シグナル伝達における膜蛋白質が担う調節機構の構造生物学的研究
- 船山典子 助教授**
カワカインを用いた、進化的に最も古い生物での幹細胞分化制御機構、細胞間相互作用
- 佐藤 智 講師**
細胞膜を構成する脂質分子の機能研究・分子集合
科学による生命現象の解析

医学部

医学科

- 渡邊 大 教授**
生体情報科学
- 塩田浩平 教授**
形態形成機構学
- 野間昭典 教授**
細胞機能制御学
- 武藤 誠 教授**
遺伝薬理学
- 鍋島陽一 教授**
腫瘍生物学
- 松田道行 教授**
病態生物医学
- 光山正雄 教授**
微生物感染症学
- 湊 長博 教授**
免疫細胞生物学
- 玉木敬二 教授**
法医学
- 野田 亮 教授**
分子腫瘍学
- 篠原隆司 教授**
分子遺伝学

- 武田俊一 教授**
放射線遺伝学
- 金子武嗣 教授**
高次脳形態学
- 河野憲二 教授**
認知行動脳科学
- 大森治紀 教授**
神経生物学
- 成宮 周 教授**
神経・細胞薬理学
- 芹川忠夫 教授**
実験動物学
- 松田文彦 教授**
疾患ゲノム疫学解析
- 平出 敦 教授**
医学教育、救急医学、蘇生学
- 福山秀直 教授**
脳機能イメージング
- 内山 卓 教授**
血液・腫瘍内科学
- 中尾一和 教授**
内分泌・代謝内科学
- 北 徹 教授**
循環器内科学
- 千葉 勉 教授**
消化器内科学
- 三嶋理晃 教授**
呼吸器内科学
- 三森経世 教授**
臨床免疫学
- 福垣暢也 教授**
糖尿病・栄養内科学
- 小池 薫 教授**
初期診療・救急医学
- 宮地良樹 教授**
皮膚科学
- 中畑龍俊 教授**
発達小児科学
- 平岡真寛 教授**
放射線腫瘍学・画像応用治療学
- 富樫かおり 教授**
画像診断学・核医学
- 一山 智 教授**
臨床病態検査学
- 坂井義治 教授**
消化管外科学
- 上本伸二 教授**
肝胆臓・移植外科学
- 福田和彦 教授**
麻酔科学
- 藤井信吾 教授**
婦人科学・産科学
- 小川 修 教授**
泌尿器科学
- 米田正始 教授**
心臓血管外科学
- 和田洋巳 教授**
呼吸器外科学
- 鈴木茂彦 教授**
形成外科学

吉村長久 教授 <div>眼科学</div>
伊藤壽一 教授 <div>耳鼻咽喉科・頭頸部外科学</div>
中村孝志 教授 <div>整形外科科学</div>
別所和久 教授 <div>口腔外科学</div>
藤田 潤 教授 <div>分子病診療学</div>
高橋良輔 教授 <div>臨床神経学</div>
橋本信夫 教授 <div>脳神経外科学</div>
林 拓二 教授 <div>精神医学</div>
佐藤俊哉 教授 <div>医療統計学</div>
福原俊一 教授 <div>医療疫学</div>
川上浩司 教授 <div>薬剤疫学</div>
今中雄一 教授 <div>医療経済学</div>
小杉眞司 教授 <div>医療倫理学</div>
中山健夫 教授 <div>健康情報学</div>
小泉昭夫 教授 <div>環境衛生学</div>
木原正博 教授 <div>社会疫学</div>
中原俊隆 教授 <div>健康政策・国際保健学</div>
前川 平 教授 <div>輸血医学、血液学</div>
真鍋俊明 教授 <div>診断病理学（一般）、皮膚病理学、肺病理学</div>
吉原博幸 教授 <div>病院情報システム学、医療情報交換規格</div>
乾 賢一 教授 <div>医療薬理学、薬物動態学</div>
清水 章 教授 <div>分子生物学、遺伝子医学</div>
福島雅典 教授 <div>臨床試験管理学、薬剤疫学</div>
横出正之 教授 <div>先端医療構築学、高齢医学</div>
中嶋善明 助教授 <div>生体情報科学</div>
出沢真理 助教授 <div>機能微細形態学</div>
光家 保 助教授 <div>細胞機能制御学</div>
高橋 玲 助教授 <div>腫瘍生物学</div>
豊國伸哉 助教授 <div>病態生物医学</div>
河村伊久雄 助教授 <div>微生物感染症学</div>

北山仁志 助教授 <div>分子腫瘍学</div>
川本卓男 助教授 <div>放射線遺伝学</div>
園田英一朗 助教授 <div>放射線遺伝学</div>
藤山文乃 助教授 <div>高次脳形態学</div>
石井孝広 助教授 <div>神経生物学</div>
渡邊直樹 助教授 <div>神経・細胞薬理学</div>
山田 亮 助教授 <div>疾患ゲノム疫学解析</div>
長峯 隆 助教授 <div>臨床脳生理学</div>
橋川一雄 助教授 <div>脳機能イメージング</div>
向山政志 助教授 <div>内分泌・代謝内科学</div>
松森 昭 助教授 <div>循環器内科学</div>
木村 剛 助教授 <div>循環器内科学</div>
長井苑子 助教授 <div>呼吸器内科学</div>
山田祐一郎 助教授 <div>糖尿病・栄養内科学</div>
守谷厚志 助教授 <div>皮膚科学</div>
平家俊男 助教授 <div>発達小児科学</div>
永田 靖 助教授 <div>放射線腫瘍学・画像応用治療学</div>
飯沼由嗣 助教授 <div>臨床病態検査学</div>
高倉賢二 助教授 <div>婦人科学・産科学</div>
賀本敏行 助教授 <div>泌尿器科腫瘍学、前立腺癌、分子遺伝学</div>
池田 義 助教授 <div>心臓血管外科学、先天性心疾患の外科治療</div>
平田敏樹 助教授 <div>呼吸器外科学</div>
鈴木義久 助教授 <div>形成外科学</div>
喜多美徳里 助教授 <div>眼科学</div>
田中信三 助教授 <div>耳鼻咽喉科・頭頸部外科学</div>
川那辺圭一 助教授 <div>整形外科科学</div>
村上賢一郎 助教授 <div>口腔外科学</div>
下濱 俊 助教授 <div>臨床神経学</div>
野崎和彦 助教授 <div>脳神経外科学</div>
村井俊哉 助教授 <div>精神医学</div>

大森 崇 助教授 <div>医療統計学</div>
松井茂之 助教授 <div>薬剤疫学、生物統計学</div>
石崎達郎 助教授 <div>医療経済学</div>
沼部博直 助教授 <div>医療倫理学</div>
木原雅子 助教授 <div>社会疫学</div>
里村一成 助教授 <div>健康政策・国際保健学</div>
荒井俊之 助教授 <div>虚血再灌流傷害の研究</div>
柴田登志也 助教授 <div>画像診断学</div>
山田圭介 助教授 <div>救急医学、脳神経外科学、再生医工学</div>
陳 和夫 助教授 <div>呼吸器内科、呼吸管理、睡眠呼吸障害</div>
長瀬啓介 助教授 <div>医療管理及び同領域での情報システム応用</div>
白神豪太郎 助教授 <div>麻酔科学</div>
桂 敏也 助教授 <div>医療薬理学、生物薬理学</div>
西尾彰功 助教授 <div>消化器病学、消化管内視鏡学</div>
江川裕人 助教授 <div>肝移植</div>
田中 誠 助教授 <div>地域医療学・加齢医学</div>
高田泰次 助教授 <div>肝移植</div>
高橋政代 助教授 <div>網膜への細胞移植の研究</div>
赤水尚史 助教授 <div>内分泌学、甲状腺学、神経内分泌学</div>
井戸章雄 助教授 <div>肝臓病学、消化器内科学</div>
南 幸太郎 助教授 <div>分子糖尿病学、再生医学</div>
中村 肇 助教授 <div>感染・炎症・ストレスと生体防御レドックス生物学</div>
王 英正 助教授 <div>重症心不全への心筋幹細胞移植療法の確立</div>
石橋 誠 講師 <div>形態形成機構学</div>
青木正博 講師 <div>遺伝薬理学</div>
鶴山竜昭 講師 <div>法医学</div>
庫本高志 講師 <div>実験動物学</div>
森本 剛 講師 <div>医学教育学、総合内科学、医療安全学、臨床疫学</div>
石川隆之 講師 <div>血液・腫瘍内科学</div>
堀 利行 講師 <div>血液・腫瘍内科学</div>

門脇則光 講師 <div>血液・腫瘍内科学</div>
細田公則 講師 <div>内分泌・代謝内科学</div>
荒井宏司 講師 <div>内分泌・代謝内科学</div>
久米典昭 講師 <div>循環器内科学</div>
中川義久 講師 <div>循環器内科学</div>
堀内久徳 講師 <div>循環器内科学</div>
八隅秀二郎 講師 <div>消化器内科学</div>
三尾直士 講師 <div>肺癌</div>
藤井隆夫 講師 <div>臨床免疫学</div>
若月芳雄 講師 <div>加齢医学</div>
荒井秀典 講師 <div>加齢医学</div>
松吉徳久 講師 <div>皮膚科学</div>
高橋健造 講師 <div>皮膚科分子生物学、細胞生物学</div>
依藤 亨 講師 <div>内分泌代謝</div>
足立壯一 講師 <div>発達小児科学</div>
光森通英 講師 <div>放射線腫瘍学・画像応用治療学</div>
溝脇尚志 講師 <div>放射線腫瘍学・画像応用治療学</div>
安里令人 講師 <div>画像診断学・核医学</div>
三木幸雄 講師 <div>画像診断学・核医学</div>
嶋田 裕 講師 <div>消化管外科学</div>
渡辺 剛 講師 <div>消化管外科学</div>
佐藤誠二 講師 <div>消化管外科学</div>
猪飼伊和夫 講師 <div>肝胆膵・移植外科学</div>
上田幹子 講師 <div>肝胆膵・移植外科学</div>
岡本晋弥 講師 <div>肝胆膵・移植外科学</div>
土井隆一郎 講師 <div>肝胆膵・移植外科学</div>
廣田喜一 講師 <div>麻酔科学</div>
藤原 浩 講師 <div>婦人科学・産科学</div>
伊東宏晃 講師 <div>婦人科学・産科学</div>
伊藤哲之 講師 <div>泌尿器科学</div>

西山博之 講師 泌尿器科学
仁科 健 講師 心臓血管外科学
大久保憲一 講師 呼吸器外科学
板東 徹 講師 呼吸器外科学
片岡和哉 講師 形成外科学
田邊晶代 講師 眼科学
板谷正紀 講師 眼科学
平野 滋 講師 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
三浦 誠 講師 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
根尾昌志 講師 整形外科科学
中川泰彰 講師 整形外科科学
西田光男 講師 口腔外科学
坪井陽一 講師 口腔外科学
伊藤克彦 講師 分子病診療学
池田昭夫 講師 臨床神経学
高橋 潤 講師 脳神経外科学
高橋 淳 講師 脳神経外科学
岸本卓三 講師 精神医学
須賀英道 講師 精神医学
森田智視 講師 医療疫学
井上佳代子 講師 環境衛生学
伊藤順子 講師 臨床神経生理学
岡野嘉明 講師 循環・呼吸病態生理学、肺高血圧症の臨床、心・血管超音波診断、臨床心電図学
樋口壽宏 講師 婦人科腫瘍学
深津敦司 講師 腎臓内科
中嶋安彬 講師 診断病理学、骨腫瘍
三上芳喜 講師 診断病理学、婦人科腫瘍学、泌尿器腫瘍学
細川雅也 講師 糖尿病学、臨床栄養学
黒田知宏 講師 医療情報学、福祉情報学、VR
瀬川 一 講師 集中治療医学、麻酔科学

増田智先 講師 薬物の体内動態・毒性発現の分子機構解明
医学部保健学科
齋藤ゆみ 教授 基礎看護学（感染・生体防御看護論）
菅 佐和子 教授 臨床心理学
宮島朝子 教授 環境看護学「人間-環境系」の視点からみた療養者の生活環境と生活リズムの関係性
桂 敏樹 教授 地域看護学（老人保健学）
江川隆子 教授 成人看護学（糖尿病患者のフットケア・腎不全患者のセルフケア・リンパドレナージの効果）
櫻庭 繁 教授 精神看護学、リエゾン精神看護学、自殺、失感情症、病跡学、精神障害者援助論、精神保健福祉活動
我部山キヨ子 教授 助産学・母性看護学・女性生涯看護学
林 優子 教授 臓器移植医療および看護に関する研究
成木弘子 教授 地域看護学（地域ケアシステム構築における市民参画に関する研究）
菅沼信彦 教授 不妊症学 産婦人科内分沁学
木下彩栄 教授 神経内科学・老年看護学（認知症の病態に関する分子生物学的研究）
柳吉桂子 助教授 助産学・母性看護学
祖父江育子 助教授 小児看護学（小児期・青年期のライフスタイルと健康に関する研究）
赤澤千春 助教授 急性期成人看護 生体肝臓移植術を受けた成人患者の術後精神症状に関する研究、術後精神症状の発症と生体リズムとの関係に関する研究
星野明子 助教授 地域看護学 大都市の人口空洞化地域における高齢者の自立支援のためのサテライトシステムの構築
若村智子 助教授 生体リズムからみた生活環境調整に関する研究。睡眠に関する研究
奥津文子 講師 成人・老年看護学（慢性期看護・痴呆ケア）
笹田昌孝 教授 血液内科学・感染症学
福田耕治 教授 物理学・電波分光学・核磁気共鳴・NMR 顕微鏡の開発
天野 殖 教授 実験てんかん学、神経病理学
福田善弘 教授 肝臓病学・臨床免疫学
藤田正俊 教授 内科学・循環器内科学
月田早智子 教授 細胞生物学

梅村晋一郎 教授 医用理工学全般とくに医用超音波工学
船渡忠男 教授 臨床検査医学、腫瘍学（バイオマーカー、抗がん剤）、遺伝子工学（遺伝子検査）
岡 昌吾 教授 生化学・神経糖鎖生物学
後藤俊幸 助教授 微生物学・感染制御学
池本正生 助教授 臨床生化学・臨床酵素学に関する研究
大塚研一 助教授 偏微分方程式論
笹山 哲 助教授 医療情報処理
野村 巖 教授 神経解剖学・機能解剖学
坪山直生 教授 整形外科科学
黒木裕士 教授 超音波装置を用いた軟骨の評価に関する研究、遠心性収縮による運動療法がラット骨格筋に及ぼす影響に関する研究、空気圧を利用した歩行補助装置の研究
市橋則明 教授 筋力トレーニングに関する筋電図学的解析及びトレーニング効果に関する研究
笠原勝幸 助教授 整形外科科学・運動学
バジェル, プライアン スティーブン 助教授 自律神経の反射
玉木 彰 助教授 運動と呼吸のリズムに関する研究、呼吸理学療法に関する研究
榎間春利 助教授 骨格筋の萎縮と肥大に関する研究、神経、筋の変性と再生に関する研究、実験的脳梗塞ラットを使用した脳の可塑性に関する研究
小西紀一 教授 発達障害の作業療法・自閉症児に対する感覚統合療法の効果・コミュニケーション障害に対する作業療法
山根 寛 教授 精神障害のリハビリテーション、作業活動を介したコミュニケーションとグループダイナミックス
三谷 章 教授 健康神経科学
十一元三 教授 精神医学、認知神経科学、発達障害学、児童司法精神医学
種村留美 助教授 高次脳機能障害のリハビリテーション
加藤寿宏 講師 発達障害の作業療法（特に高機能広汎性発達障害、注意欠陥多動性障害、学習障害児に対する臨床研究）
薬学部
藤井信孝 教授 ゲノム・プロテオーム情報収斂型創薬研究
富岡 清 教授 機能性分子の有機合成化学と生物活性分子の生物有機化学

竹本佳司 教授 ■金属錯体を用いた立体選択的合成法の開発 ■生物活性天然有機化合物の不斉合成研究
本多義昭 教授 ■薬用植物の二次代謝研究 ■海外伝統薬物の調査・開発研究
松崎勝巳 教授 生体膜における生体分子間相互作用解析と創薬への展開
加藤博章 教授 酵素、トランスポーター、チャンネル、シャペロン、レセプターなど細胞内のタンパク質装置がいかに機能しているのか、X線結晶構造解析で決定した原子レベルの構造に基づいてその仕組みを解明すること。
辻本豪三 教授 ゲノム包括的解析、バイオインフォマティクスによる in silico 創薬研究とテーラーメイド医療
半田哲郎 教授 脂質あるいはこれと血漿アポリホ蛋白質による分子集合体形成の生物物理化学とその薬学への応用
竹島 浩 教授 細胞内 Ca ²⁺ シグナルと神経情報伝達の分子基盤解明
金子周司 教授 神経伝達物質受容体とイオンチャンネルに関する電気生理および分子薬理学的研究
伊藤信行 教授 遺伝子探索法による細胞間シグナル分子の探索とその生理的意義
中山和久 教授 ■細胞内メンブレン・トラフィックの調節機構 ■細胞内タンパク質分解の調節機構
橋田 充 教授 ■薬物の体内動態の機構解明に関する研究 ■薬物体内動態の精密制御を目的とした新しい薬物投与技術の開発
赤池昭紀 教授 ■神経疾患におけるニューロン死の機序と神経保護因子の探索 ■虚血性網膜障害の予防・治療薬の研究
佐佐英郎 教授 ■画像診断薬、放射線治療薬の創製 ■画像解析による病態の解明 ■金属化合物の生体作用の解明
高倉喜信 教授 ■遺伝子治療医薬品の生物薬剤学的研究 ■培養細胞を利用した薬物動態研究
大野浩章 助教授 創薬テンプレートの構築を指向した新規変換反応の開発と応用に関する研究
宮部豪人 助教授 触媒的環境調和型有機合成反応の開発と生物活性物質合成への応用
伊藤美千穂 助教授 ■植物二次代謝酵素の構造・機能相関研究 ■フィールドワークを軸とする薬用植物の調査・開発研究
星野 大 助教授 高分解能 NMR による生体物質の構造機能解析
中津 亨 助教授 ■光生物タンパク質の構造生物学的研究 ■ヒト赤血球アニオントランスポーターの構造生物学的研究
平澤 明 助教授 ■オーファン受容体のリガンド探索と機能解析 ■DNA マイクロアレイを用いた発現プロファイル解析

黒田義弘 助教授

■イオンチャネルの構造とゲート機構の解明
■プリオン病等の神経変性疾患の発生機構の解明と治療薬の開発
■チロシンキナーゼブロッカーの分子設計

渡部好彦 助教授

サイトカインの細胞生物学および腫瘍免疫学

中川貴之 助教授

■薬物依存形成機構の神経薬理学的解析
■痛みの発生・制御機構に関する神経薬理学的解析

杉本幸彦 助教授

アスピリンが何故解熱鎮痛薬として効くのか、その標的物質であるプロスタグランジンとその受容体の生理機能を研究している。

山下富義 助教授

■薬物体内動態シミュレーターの開発研究
■微粒子運搬体による薬物体内動態制御に関する研究

香月博志 助教授

■中枢神経変性疾患に関わる細胞死の機構
■活性酸素種の中枢神経系における働き

矢野育子 助教授

薬物動態と薬効の速度論的解析並びに個別化投与設計に関する研究

久下裕司 助教授

分子・遺伝子レベルでの体内内情報の画像化を指向した診断薬の創製とこれらを用いる病態生理の解明

山岡 清 助教授

■動物体内動態試験での一点 Sampling データに基づく Bootstrap 法による動態パラメータの分散の評価
■RNA 干渉の速度論的定量化およびその制御
■非線形臓器動態と全身動態の関連解析 (in loci)

西川元也 助教授

■核酸を基盤とする治療・テリバリーシステムの開発
■生体防御関連因子の時空間制御技術の開発

輿水崇鏡 講師

遺伝子改変動物を用いた創薬研究

三宅 歩 講師

ゼブラフィッシュを用いたFGFの機能解析

工学部

地球工学科

松本 勝 教授

社会基盤工学専攻 風工学（構造物の耐風設計、強風災害低減）および橋梁工学（景観設計、安全性評価）に関する研究

宮川豊章 教授

社会基盤工学専攻 コンクリート構造物の耐久性、維持管理、補修・補強、新材料・新工法

田村 武 教授

社会基盤工学専攻 応用力学、数値解析、粒状体の力学、トンネル工学

福津家久 教授

社会基盤工学専攻 各種水域における流れと環境の相互特性および乱流輸送現象に関する研究

岡二三生 教授

社会基盤工学専攻 計算地盤力学、砂地盤の液状化解析、地盤の変形の局所化

小林潔司 教授

都市社会学専攻 国土・地域システムの分析と計画方法論に関する研究

谷口栄一 教授

都市社会学専攻 道路交通計画、地域ロジスティクスに関する研究

北村隆一 教授

都市社会学専攻 交通需要予測、交通システム工学

家村浩和 教授

都市社会学専攻 地震時における都市社会施設の安全性と信頼性に関する研究

チャールズ スコーゾン 教授

都市社会学専攻 地震リスクマネジメント、マルチハザードアナリシス、ライフラインネットワークの信頼性

大津宏康 教授

都市社会学専攻 ジオリスクエンジニアリング、海外建設プロジェクトリスクマネジメント

細田 尚 教授

都市社会学専攻 河川工学、開水路水理学、数値流体力学

田村正行 教授

都市環境工学専攻 衛星リモートセンシング及び地理情報システムに関する研究

大西有三 教授

都市環境工学専攻 地下空間開発に伴う岩盤の力学・水理学特性解明と解析ならびに計測手法の研究

酒井哲郎 教授

都市環境工学専攻 海岸工学、波浪と海底地盤の力学および水理学、海洋生態系、人工海浜の安全性

河野広隆 教授

都市環境工学専攻 構造物の維持管理、コンクリート工学

椎葉充晴 教授

都市環境工学専攻 水文学、水資源工学、河川防災

樋口忠彦 教授

都市環境工学専攻 景観工学、都市デザイン論

嘉門雅史 教授

地球環境学堂 社会基盤親和技術の開発、環境地盤工学

藤田正治 教授

社会基盤工学専攻/防災研究所 山地流域の土砂動態に関する研究、水・土砂・生物系に関する研究

中川 一 教授

社会基盤工学専攻/防災研究所 洪水および土砂災害の防止・軽減に関する研究

関口秀雄 教授

社会基盤工学専攻/防災研究所 水際地形環境の研究、海岸地下水環境に関する研究

井合 進 教授

社会基盤工学専攻/防災研究所 地震時の地盤災害、地盤防災に関する研究

澤田純男 教授

都市社会学専攻/防災研究所 震源モデルと地盤振動解析に基づく設計入力地震動評価

小尻利治 教授

都市社会学専攻/防災研究所 水資源工学、総合流域管理、流域環境評価、人工知能システム

中北英一 教授

都市社会学専攻/防災研究所 降雨予測を含むレーダー水文学、世界の異常降雨災害

岡田憲夫 教授

都市社会学専攻/防災研究所 災害リスクマネジメント、特に、計画的な手法やシステム科学的アプローチに関する研究

戸田圭一 教授

都市社会学専攻/防災研究所 地下浸水を含む都市水害の予測と対策

多々納裕一 教授

社会情報学専攻/防災研究所 防災の経済分析、災害リスクガバナンス

河田恵昭 教授

社会情報学専攻/防災研究所 総合減災システムに関する研究、巨大災害過程に関する研究

林 春男 教授

社会情報学専攻/防災研究所 防災心理学、組織の危機管理論、災害情報システム、災害過程論

池淵周一 教授

都市環境工学専攻/防災研究所 人間活動を含めた大気・陸面間の相互作用を広域的・長期的に記述するシステムモデルの構築

高山知司 教授

都市環境工学専攻/防災研究所 高潮・津波の変形と予測、海岸・港湾構造物の耐波性能設計と性能評価

宝 馨 教授

都市環境工学専攻/防災研究所 洪水予報と治水計画、極値統計理論、防災の新技術・政策論

萩原良巳 教授

都市環境工学専攻/防災研究所 災害リスク軽減、環境創生計画、環境と開発のコンフリクト、環境災害、水循環圏再構成

宇都宮智昭 助教授

社会基盤工学専攻 海洋構造物の動的応答に関する研究

白土博通 助教授

社会基盤工学専攻 風工学（構造物の耐風設計、強風災害低減）

服部篤史 助教授

社会基盤工学専攻 コンクリート構造物の耐久性、維持管理、補修・補強、新材料・新工法

角 哲也 助教授

社会基盤工学専攻 ダム工学、水工水理学、ダム貯水地の土砂管理に関する研究

牛島 省 助教授

社会基盤工学専攻 数値流体力学

松島格也 助教授

都市社会学専攻 交通市場分析、交通経済学、コミュニケーション

中川 大 助教授

都市社会学専攻 都市計画、都市交通対策、公共交通政策

山田忠史 助教授

都市社会学専攻 輸送システム、ロジスティクス、最適化

宇野伸宏 助教授

都市社会学専攻 道路交通システムの計画とITSを用いた管理運用の方法論に関する研究

吉井稔雄 助教授

都市社会学専攻 交通制御工学、交通流解析、交通ネットワーク解析

五十嵐晃 助教授

都市社会学専攻 地震荷重下における社会基盤構造物の安全性および動的応答の制御

清野純史 助教授

都市社会学専攻 地盤震動および地震時の人的被害発生メカニズムの解明に関する研究

木村 亮 助教授

都市社会学専攻 構造物基礎とトンネルの力学特性の解明

岸田 潔 助教授

都市社会学専攻 地盤の力学特性と水理学特性の評価、地盤解明、地下構造の可視化

西山 哲 助教授

都市環境工学専攻 地下空間の創造・保全・維持管理のための力学、水理学的特性を解明する解析および計測手法の研究

後藤仁志 助教授

都市環境工学専攻 海岸工学、流砂・漂砂水理学、数値流体力学

杉浦邦征 助教授

都市環境工学専攻 鋼構造・複合構造の力学的特性評価およびその設計法

堀 智晴 助教授

都市環境工学専攻 水資源システムの計画と管理、洪水・渇水災害の防止と軽減

川崎雅史 助教授

都市環境工学専攻 公共空間における景観デザイン

勝見 武 助教授

地球環境学堂 環境地盤工学に関する研究

川池健司 助教授

社会基盤工学専攻/防災研究所 都市水害の氾濫数値解析、防災水工学

三村衛 助教授

社会基盤工学専攻/防災研究所 粘土地盤の変形解析、地盤情報データベース、土壌遺跡の保存

高橋良和 助教授

都市社会学専攻/防災研究所 地震時における土木構造システムの安全性評価、オブジェクト指向地震工学

田中賢治 助教授

都市社会学専攻/防災研究所 陸面過程スキームの開発、全球規模から領域規模までの水・熱循環の予測

城戸由能 助教授

都市社会学専攻/防災研究所 水環境の動態解析と予測・評価

横松宗太 助教授

都市社会学専攻/防災研究所 防災投資による災害リスクの軽減便益の経済評価に関する研究

米山 望 助教授

都市社会学専攻/防災研究所 数値シミュレーションによる流体関連災害メカニズムの解明

畑山満則 助教授

社会情報学専攻/防災研究所 時空間地理情報システム、災害リスク・コミュニケーション、情報システムを用いた災害対応

矢守克也 助教授

社会情報学専攻/防災研究所 防災心理学に関する研究、防災教育を中心とした減災・防災システムに関する研究

間瀬 肇 助教授

都市環境工学専攻/防災研究所 海岸災害解析の基礎となる波動理論、数値モデル、耐波設計法

立川康人 助教授

都市環境工学専攻/防災研究所 水循環および洪水の数値予測と洪水災害軽減に関する研究

竹門康弘 助教授

都市環境工学専攻/防災研究所 河川や湖沼の生態系管理のための応用生態工学的、生態水文学的研究

青木謙治 教授

都市環境工学専攻 岩盤内の浸透流挙動に関する研究、地殻環境評価技術の研究

松岡俊文 教授
社会基盤工学専攻 地下地質構造の探査および評価技術の確立

石田 毅 教授
社会基盤工学専攻 地圧や破壊音の測定による岩盤破壊の研究に基づく地下深部の利用・開発への貢献

芦田 譲 教授
社会基盤工学専攻 物理探査の精度向上、物理探査データの総合解釈技術の確立と応用

朝倉俊弘 教授
社会基盤工学専攻 岩盤構造物設計と保守に関する研究

馬淵 守 教授
エネルギー科学研究科・エネルギー応用科学専攻 省エネルギー・省資源に資する新材料に関する研究

宅田裕彦 教授
エネルギー科学研究科・エネルギー応用科学専攻 加工プロセスにおける省エネルギー・省資源

新苗正和 助教授
都市環境工学専攻 地殻環境工学及び資源循環工学に関する研究

三ヶ田均 助教授
社会基盤工学専攻 統合型マルチスケール構造探査技術の確立と応用

塚田和彦 助教授
社会基盤工学専攻 非破壊検査による材料劣化の評価に関する研究

村田澄彦 助教授
社会基盤工学専攻 人と地球環境にやさしい資源開発技術の創生

山田泰広 助教授
社会基盤工学専攻 資源開発と地球環境保全のための地質モデルに関する研究

楠田 啓 助教授
エネルギー科学研究科・エネルギー応用科学専攻 資源開発と合理的供給システム、海洋資源エネルギー

藤本 仁 助教授
エネルギー科学研究科・エネルギー応用科学専攻 加工プロセスにおける省エネルギー・省資源

福中康博 助教授
エネルギー科学研究科・エネルギー応用科学専攻 宇宙資源エネルギー学、地球環境調和型プロセス及び電気化学プロセスに関する研究

松井三郎 教授
地球環境学 有害化学物質の管理（環境ホルモン、発ガン性物質など）、産業の環境調和を目指す研究

武田信生 教授
都市環境工学専攻 固形廃棄物・下水汚泥の熱的特性とその熱的利用の研究

内山巖雄 教授
都市環境工学専攻 環境が原因となる人の健康のリスク評価に関する研究

森澤眞輔 教授
都市環境工学専攻 環境の劣化が人の健康に及ぼすリスクの評価に関する研究

津野 洋 教授
都市環境工学専攻 公共用水域の水質制御と水処理に関する研究

小山昭夫 教授
都市環境工学専攻 放射性廃棄物管理に関する研究

馬原保典 教授
都市環境工学専攻 環境中での放射能の移動挙動と分布に関する研究

松岡 譲 教授
都市環境工学専攻 地球環境の統合評価に関する研究

藤井滋穂 教授
都市環境工学専攻 水域水質・生態系の保全と制御に関する研究

田中宏明 教授
都市環境工学専攻 健全な水循環・水環境をめざす研究

酒井伸一 教授
都市環境工学専攻 循環型社会形成と廃棄物管理に関する研究

伊藤禎彦 教授
都市社会工学専攻 都市衛生工学、水道水質の安全性評価とその制御

山田春美 助教授
都市環境工学専攻 化学酸化による有害物質の分解技術の開発と消毒副生成物の研究

東野 達 助教授
エネルギー科学研究科・エネルギー社会・環境科学専攻 エアロゾル粒子の環境動態と環境負荷評価に関する研究

清水芳久 助教授
都市環境工学専攻 環境微量汚染物質の分析方法の開発と挙動の解明、流域管理

米田 稔 助教授
都市環境工学専攻 土壌圏を中心とする環境汚染物質のリスク評価

藤川陽子 助教授
都市環境工学専攻 放射性廃棄物地中処分の環境安全評価に係わる実験的研究

藤原健史 助教授
都市環境工学専攻 廃棄物を中心とした物質循環と地球環境に関する研究

松井利仁 助教授
都市環境工学専攻 騒音が人間の健康に及ぼす影響に関する研究

松田知成 助教授
地球環境学 環境微量汚染物質の毒性メカニズムの解明

高岡昌輝 助教授
都市環境工学専攻 循環型社会形成のための廃棄物の処理・処分・管理に関する研究

管運涛 助教授
都市環境工学専攻 環境用水保全のための雨水利用と水道給水管路内における微生物学的安全性に関する研究

平井康宏 助教授
都市環境工学専攻 教育研究における環境安全に関する研究、廃棄物管理・物質循環のシステム解析に関する研究

永禮英明 講師
都市環境工学専攻 水環境の保全と下水からの資源回収

越後信哉 講師
都市社会工学専攻 浄水処理の化学、高度水処理技術の開発

山下尚之 講師
都市環境工学専攻 健全な水環境をめざす研究

建築学科

加藤直樹 教授
建築計画、構造、環境の全般にわたる情報工学的、システム工学的技術に関する研究

門内輝行 教授
人間生活環境学及び建築・都市設計の方法に関する研究

高橋康夫 教授
日本都市・建築史の研究

渡邊史夫 教授
コンクリート系建築構造物の耐震設計

宗本順三 教授
建築設計方法及び建築計画学の研究

鉾井修一 教授
エネルギーの有効利用と快適な建築温熱環境の設計

高松 伸 教授
建築設計過程の分析を通じた建築意匠学の研究

前田忠直 教授
建築的空間の構成システムに関する建築論的・意匠論的研究

上谷宏二 教授
弾塑性構造物の臨界現象論と建築構造物の性能設計

井上一郎 教授
鋼構造物および鋼・コンクリート合成構造物の設計と接合システムに関する研究

吉田典典 教授
環境負荷の少ない都市・建築の設計方法の研究

高田光雄 教授
建築計画学及び住まい・まちづくりに関する研究

高橋大武 教授
居住・行動空間の音環境設計に関する研究

竹脇 出 教授
建築構造物－地盤連成系の逆問題型設計法

小林正美 教授
自然が災害によって教える人間らしい居住のあり方に関する研究

林 康裕 教授
■地域と建築物の保全再生 ■建築物の耐震性能評価とリスクマネジメント ■建築地震防災

大崎 純 助教授
建築システム最適化と大スパン構造物の設計

石田泰一郎 助教授
人間の視覚特性に基づいた建築視環境に関する研究

山岸常人 助教授
日本建築史及び歴史的建造物保存

河野 進 助教授
コンクリート系構造物の耐震設計

原田和典 助教授
建築空間の火災安全設計

竹山 聖 助教授
建築空間論及び居住形態論

荒木慶一 助教授
計算力学、非破壊検査及び構造力学

吹田啓一郎 助教授
鋼構造建築物の耐震設計と耐震補強

古阪秀三 助教授
建築プロジェクトのマネジメントシステムに関する研究

金多 隆 助教授
建築生産システムとマネジメントに関する研究

上谷芳昭 助教授
環境共生型昼光照明設計法

西山峰広 助教授
コンクリート系建築構造物の耐震設計

伊勢史郎 助教授
アクティブ騒音制御、音環境制御及び音環境心理に関する研究

大窪健之 助教授
環境と防災に配慮した都市・建築の計画・設計に関する研究

吉田 哲 助教授
居住空間における環境心理学の研究

辻 聖晃 助教授
粘性系のダンパーを用いた既存建築物の耐震補強

神吉紀世子 助教授
都市・農村計画、環境共生の地域づくり

山崎雅弘 講師
建築基礎構造の力学的性能評価手法と提案と開発

西澤英和 講師
文化財建造物の修復保存に関する力学的研究

中島正愛 教授
建物の地震時挙動の解明と震害の防御・軽減技術

鈴木祥之 教授
都市空間の耐震安全性向上のための建築・防災技術の構築

河井宏允 教授
自然風の特徴を考慮した新しい建築構造物の耐風設計

田中仁史 教授
鉄筋コンクリート構造物の耐震設計法

田中孝義 教授
地震火災被害のリスク評価と防災対策

丸山 敬 助教授
市街地における風環境の解明

田村修次 助教授
地盤の不均一性評価および地盤－杭－建築物の耐震性能評価法

物理工学科

榎木哲夫 教授
機械理工学専攻・機械システム学コース 人間機械協調システムのデザインと知的意思決定支援

北條正樹 教授
機械理工学専攻・機械システム学コース 先進複合材料の破壊における巨視微視相関メカニクス、ハイオメガニクス

宮崎則幸 教授
機械理工学専攻・機械システム学コース 電子材料／電子デバイスの強度評価、計算固体力学

小森 悟 教授
機械理工学専攻・機械システム学コース 流体装置および環境中に見られる乱流輸送現象の流体工学的解明

木田重雄 教授
機械理工学専攻・機械システム学コース 乱流による熱や物質の混合・輸送のメカニズムの解明

北村隆行 教授
機械理工学専攻・機械システム学コース 小さな構造材料の破壊機構の解明と数値シミュレーション

牧野俊郎 教授
機械理工学専攻・機械システム学コース 熱・ふく射輸送現象の解明と熱・ふく射応用計測

松久 寛 教授
機械理工学専攻・機械システム学コース ■機械構造物の振動解析 ■振動および騒音の制御

久保愛三 教授
機械理工学専攻・機械システム学コース
ドライブレーン機械装置の設計、トラブルシューティング、操作フィーリング評価

中部主敬 教授

機械理工学専攻・機械システム学コース　熱物質移動現象の解明と制御ならびに熱流体応用計測

富田直秀 教授

国際融合創造センター・機械システム学コース　荷重支持組織の再生、再建とその生体循環設計

井手亜里 教授

国際融合創造センター・機械システム学コース　粒子ビームによる超微細加工・分析

安達泰治 助教授

機械理工学専攻・機械システム学コース　生体組織・細胞の機能的対応のバイオメカニクスとその工学的応用

池田 徹 助教授

機械理工学専攻・機械システム学コース　界面の破壊力学，電子実装における信頼性評価

花崎秀史 助教授

機械理工学専攻・機械システム学コース　流体中の熱・物質輸送現象の解明

蓮尾昌裕 助教授

機械理工学専攻・機械システム学コース　レーザ一分光法を用いた物性の解明と評価

松本充弘 助教授

機械理工学専攻・機械システム学コース　分子熱流体現象の解明

宇津野秀夫 助教授

機械理工学専攻・機械システム学コース　■機械構造物の振動，騒音制御　■連続体を伝える波動現象の解析

横小路泰義 助教授

機械理工学専攻・機械システム学コース　ロボット工学，操縦型マニピュレータの解析と制御

小森雅晴 助教授

機械理工学専攻・機械システム学コース　■動力伝達機械装置・機械要素　■超精密形状計測

黒瀬良一 助教授

機械理工学専攻・機械システム学コース　流体装置内および環境中に見られる乱流輸送現象の解明

水山 元 講師

機械理工学専攻・機械システム学コース　■生産システム工学　■品質管理・品質工学

梅野宜崇 講師

機械理工学専攻・機械システム学コース　微小材料の強度と物性に関する分子動力学および第一原理解析

小寺秀俊 教授

マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース　マイクロシステムの加工と特性に関する研究

田畑 修 教授

マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース　マイクロマシン、マイクロシステム、微小電気機械システム（MEMS）に関する研究

木村健二 教授

マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース　高速荷電粒子と固体表面の相互作用の解明とそれを用いた表面の新しい評価・分析法の開発

立花明知 教授

マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース　量子力学に基づく物性理論とシミュレーション及びそのエレクトロニクス材料設計への応用

松原 厚 教授

マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース　■高速・高精度位置決め技術　■加工プロセスのモニタリングと制御

堤 定美 教授

再生医科学研究所・機械システム学コース　ナノ再生医学における生体計測・制御・数理モデル化とシミュレーション技術の研究

楠見明弘 教授

再生医科学研究所・機械システム学コース　1分子ナノバイオテクノロジーの開発と細胞の構造形成・情報変換・神経回路研究への応用

神野伊策 助教授

マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース　薄膜材料工学およびマイクロマシンデバイスに関する研究

土屋智由 助教授

マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース　マイクロシステム、マイクロマシン用材料の機械的物性評価

鈴木基史 助教授

マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース　■ナノ構造薄膜の電気的，光学的物性に関する研究　■イオンビームを用いた薄膜表面・界面の解析

玄丞丞 助教授

再生医科学研究所・機械システム学コース　■有機高分子医療用材料の合成と物性■人工関節軟骨・人口関節のバイオメカニクス■細胞増殖制御と生体組織の保存

津守不二夫 講師

マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース　粉体成形・粒子系材料を利用したプロセス開発および応用，解析手法の開発

中村康一 講師

マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース　化学反応・誘電物性に関する電子状態理論とシミュレーション

吉村允孝 教授

航空宇宙工学専攻・機械システム学コース■最適システム設計・生産　■生産情報システム

吉田英生 教授

航空宇宙工学専攻・機械システム学コース熱エネルギーを主体とするシステムの開発

片井 修 教授

情報学研究科システム科学専攻・機械システム学コース　■知能システムの構築と運用　■メディア技術とヒューマン・インターフェイス　■創発システム論

熊本博光 教授

情報学研究科システム科学専攻・機械システム学コース　■人間中心システム　■乗用車の運転支援　■信頼性と安全性

杉江俊治 教授

情報学研究科システム科学専攻・機械システム学コース　■アドバンスト制御理論とその応用　■メカトロニクス系の設計と制御

西脇眞二 助教授

航空宇宙工学専攻・機械システム学コース　■最適設計法　■車両設計・生産工学

川上浩司 助教授

情報学研究科システム科学専攻・機械システム学コース　■人工工学による設計支援　■機械学習

西原 修 助教授

情報学研究科システム科学専攻・機械システム学コース　■人間中心システム　■動力学解析によるパーチャル・プロトタイプング

石川将人 助教授

情報学研究科システム科学専攻・機械システム学コース　■非線形制御理論　■非ホロノミックシステムの制御　■ハイブリッドシステムの制御

岩井 裕 講師

航空宇宙工学専攻・機械システム学コース熱機器における熱移動現象の解明とその予測および制御

土屋和雄 教授

航空宇宙工学専攻・宇宙基礎工学コース　宇宙機の動力学と運動制御，非線形システム論

稲室隆二 教授

航空宇宙工学専攻・宇宙基礎工学コース　複雑混相流体力学の基礎理論とその応用

永田雅人 教授

航空宇宙工学専攻・宇宙基礎工学コース　流れの非線形安定性に関する研究と非線形システムにおける解の分岐

斧 高一 教授

航空宇宙工学専攻・宇宙基礎工学コース　電離気体および反応性気体の力学と物性に関する実験的研究とその航空宇宙工学への応用

市川 朗 教授

航空宇宙工学専攻・宇宙基礎工学コース　システム制御理論とその航空宇宙工学への応用

大和田拓 助教授

航空宇宙工学専攻・宇宙基礎工学コース　分子気体力学の理論的研究

幸田武久 助教授

航空宇宙工学専攻・宇宙基礎工学コース　システムの信頼性および安全性

江利口浩二 助教授

航空宇宙工学専攻・宇宙基礎工学コース　プラズマと固体表面・界面との反応機構に関する研究と航空宇宙工学への応用

杉元 宏 講師

航空宇宙工学専攻・宇宙基礎工学コース　微視的流体力学の理論的研究

青木一生 教授

機械理工学専攻・宇宙基礎工学コース　希薄気体力学の理論的研究とその航空宇宙工学への応用

高田 滋 助教授

機械理工学専攻・宇宙基礎工学コース　非平衡気体力学の理論的研究

福山 淳 教授

原子核工学専攻・原子核工学サブコース　■プラズマ物理学　■核融合プラズマ工学■プラズマ応用

伊藤秋男 教授

原子核工学専攻・原子核工学サブコース　■イオンビーム衝突現象の基礎と原子スケール物質科学　■クラスター粒子を含む量子線ビームの高度利用研究　■量子線計測

森島信弘 教授

原子核工学専攻・原子核工学サブコース　■超流動ヘリウム・液体水素などの中性子散乱　■生命・物質科学を拓く中性子源の開発　■原子炉の物理

森山裕次 教授

原子核工学専攻・原子核工学サブコース　■核材料工学　■放射化学　■核燃料サイクル

山本克治 教授

原子核工学専攻・原子核工学サブコース　■物理学の基礎理論　■光と原子の量子状態操作と量子情報通信　■素粒子物理学

高木郁二 助教授

原子核工学専攻・原子核工学サブコース　■核融合炉材料　■軽水炉材料　■水素エネルギー材料

功刀資彰 助教授

原子核工学専攻・原子核工学サブコース　■数値熱流体力学　■ナノ・マイクロ熱流体工学　■核融合炉熱工学

神野郁夫 助教授

量子理工学研究実験センター・原子核工学サブコース　■放射線物理学　■放射線検出器と量子励起現象

村上定義 助教授

原子核工学専攻・原子核工学サブコース　■プラズマ物理学　■核融合プラズマ工学

松尾二郎 助教授

量子理工学研究実験センター・原子核工学サブコース　■量子ビームと物質との相互作用　■量子ビームによる新材料創製技術■反応ダイナミクス

田崎誠治 助教授

原子核工学専攻・原子核工学サブコース　■低速中性子光学　■中性子スピン干渉現象の研究と応用

佐々木隆之 助教授

原子核工学専攻・原子核工学サブコース　■アクチノイドの分離分析化学　■放射性廃棄物の処理処分

柴田裕実 助教授

原子核工学専攻・原子核工学サブコース　■高速クラスターイオンと物質との相互作用　■超高速微粒子生成と宇宙塵計測　■マイクロイオンビームに依る微量分析

河原全作 講師

原子核工学専攻・原子核工学サブコース　■エネルギー機器の熱流体工学　■伝熱工学　■混相流の物理と工学

松原英一郎 教授

材料工学専攻・材料科学コース　構造解析に基づく金属ガラス転移解明，金属ナノ粒子製造，鉛フリーへんだ設計，磁性薄膜自己組織化等研究

栗倉泰弘 教授

材料工学専攻・材料科学コース　材料電気化学の手法を用いた薄膜材料のプロセッシングと材料表面の耐食性・高機能化

村上正紀 教授

材料工学専攻・材料科学コース　薄膜材料の作製と物性

乾 晴行 教授

材料工学専攻・材料科学コース　金属間化合物の格子欠陥と物性

田村剛三郎 教授

材料工学専攻・材料科学コース　物理学的手法を用いた金属材料の研究

河合 潤 教授

材料工学専攻・材料科学コース　材料の構造、物性、電子状態、化学状態、濃度等に関する物質情報を計測したり、環境物質を分析するための新手法の開発

杉村博之 教授

材料工学専攻・材料科学コース　物質の集積化と機能構築

田中 功 教授

材料工学専攻・材料科学コース　セラミックス材料の量子材料設計

酒井 明 教授

国際融合創造センター・材料科学コース　ナノテクノロジー，特にナノワイヤー，ナノ接点の電子伝導の研究

落合庄治郎 教授

国際融合創造センター・材料科学コース　複合材料の機能発現メカニズムと最適構造デザイン

田中克志 助教授

材料工学専攻・材料科学コース　単結晶弾性率測定法の開発と新材料の弾性率測定，外部応力・磁場による組織制御とそのデバイスへの応用

沼倉 宏 助教授

材料工学専攻・材料科学コース　固体中の点欠陥と拡散，原子移動のダイナミクス

松本 要 助教授

材料工学専攻・材料科学コース　材料のナノ構造制御と物理的性質および結晶成長

田邊兎生 助教授

材料工学専攻・材料科学コース 環境物質・環境調和型材料にかかわる反応論的研究

伊藤和博 助教授

材料工学専攻・材料科学コース 薄膜材料の作製と物性

邑瀬邦明 助教授

材料工学専攻・材料科学コース 電気化学的もしくは化学的手法による金属および化合物薄膜の作製プロセスとその機能評価

松永克志 助教授

材料工学専攻・材料科学コース 酸化セラミック材料の機械特性を支配するサブナノスケール因子の解明、異相界面の量子構造と幾何学的ミスフィット、セラミック脆性破壊の原子論的メカニズム、結晶欠陥ダイナミクスによる機能発現機構の解明

奥田浩司 助教授

国際融合創造センター・材料科学コース 多相・複合化材料の構造解析と機能最適化デザイン

黒川 修 助教授

国際融合創造センター・材料科学コース メソスコピック電子現象の研究

石原慶一 教授

エネルギー科学研究科エネルギー社会・環境科学専攻・エネルギー応用工学サブコース エネルギー・環境材料、エネルギー・環境教育、エネルギー環境負荷評価

奥村英之 助教授

エネルギー科学研究科エネルギー社会・環境科学専攻・エネルギー応用工学サブコース 環境材料、機能性材料、環境教育、エネルギー環境負荷評価

萩原理加 教授

エネルギー科学研究科エネルギー基礎科学専攻・エネルギー応用工学サブコース 無機合成化学、物理化学、電気化学

伊藤澄子 助教授

エネルギー科学研究科 エネルギー基礎科学専攻・エネルギー応用工学サブコース 統計素粒子物理学

塩路昌宏 教授

エネルギー科学研究科 エネルギー変換科学専攻・エネルギー応用工学サブコース 熱機関における燃焼現象の解明とその制御

松本英治 教授

エネルギー科学研究科 エネルギー変換科学専攻・エネルギー応用工学サブコース 連続体中の波動伝ばと電磁場下の材料の挙動

石山拓二 教授

エネルギー科学研究科 エネルギー変換科学専攻・エネルギー応用工学サブコース 内燃機関の燃焼と排気

星出敏彦 教授

エネルギー科学研究科 エネルギー変換科学専攻・エネルギー応用工学サブコース セラミックス系材料の強度と金属疲労に関する実験と数値シミュレーション、セラミックス薄膜の創製とその機械的特性の評価

今谷勝次 助教授

エネルギー科学研究科 エネルギー変換科学専攻・エネルギー応用工学サブコース 高温非弾性変形と材料加工プロセスの解析

川那辺洋 助教授

エネルギー科学研究科 エネルギー変換科学専攻・エネルギー応用工学サブコース 乱流燃焼の光学計測および数値解析

琵琶志郎 助教授

エネルギー科学研究科 エネルギー変換科学専攻・エネルギー応用工学サブコース 非線形超音波計測によるエネルギー機器の機能・健全性評価

富井洋一 教授

エネルギー科学研究科 エネルギー応用科学専攻・エネルギー応用工学サブコース プラズマ材料合成、マイクロキャラクタリゼーション

岩瀬正則 教授

エネルギー科学研究科 エネルギー応用科学専攻・エネルギー応用工学サブコース 鉄鋼生産をはじめとするエネルギー多量消費型材料生産のプロセスに関する熱化学とプロセス物理化学

藤原弘康 助教授

エネルギー科学研究科 エネルギー応用科学専攻・エネルギー応用工学サブコース 鉄鋼精錬の熱力学およびエネルギー解析

電気電子工学科**古谷栄光 助教授**

制御理論の医療への応用に関する研究、モデル予測制御系、状態予測制御系に関する研究、最適化手法の応用に関する研究、スケジューリング問題の解法に関する研究

島崎真昭 教授

超並列計算機による計算電磁界解析法とソフトウェアの研究

松尾哲司 助教授

計算電磁界解析、ヒステリシス要素を含む非線形システムの研究

中村武恒 助教授

高温超伝導パワー応用

小林哲生 教授

主体医工学、脳機能イメージング、生体計測、生体信号処理、高次脳機能の研究

濱田昌司 助教授

表面電荷法、電荷重畳法などによる、高電圧環境下の複合誘電場の数値電磁界解析。空間電荷の形成するが、放電進展におよぼす影響の実験的検討ならびに、放電進展数値シミュレーション

引原隆士 教授

パワーエレクトロニクス、電力システムの安定化制御手法の検討、磁気浮上システム、非線形力学応用工学

舟木 剛 助教授

パワーエレクトロニクス、電力用半導体素子のモデリング、スイッチ素子による非線形現象の解析

和田修己 教授

電気回路モデリング、ディジタル EMC 実装工学、電磁波工学

久門尚史 助教授

非線形回路システム、分布定数回路システム、アルゴリズムのハードウェア化

萩原朋道 教授

ディジタル/サンプル値制御理論、2自由度最適制御系の理論と応用、動的システム理論

蛸原義雄 講師

数値最適化手法を用いた線形制御系の解析・設計

大澤靖治 教授

電力システムの安定度解析ならびに安定化制御

鈴木 実 教授

異種電子材料の集積による新しいデバイス機能の創製、超伝導物性工学、複合酸化物電子応用

石川順三 教授

■イオンビーム装置の開発とその応用 ■真空ナノ（マイクロ）エレクトロニクス

後藤康仁 助教授

電界放出現象の解明とその応用、PVD 法による薄膜形成技術開発

橘 邦英 教授

■プラズマ中の原子分子過程と集団的性質の実験的研究 ■プラズマを応用した電子材料の薄膜形成と超微細加工

酒井 道 講師

マイクロプラズマの生成法の研究、マイクロプラズマによる電磁波制御の研究

木本恒暢 教授

ワイドギャップ半導体の結晶成長、物性制御とデバイス応用

須田 淳 講師

ワイドギャップ半導体ヘテロエピタキシーと機能デバイスへの応用

松重和美 教授

■分子ナノエレクトロニクス ■有機電子材料の構造制御と電子物性 ■ナノテクノロジー

山田啓文 助教授

ナノスケール構造の光・電子物性とその応用

川上養一 助教授

原子レベルで制御された低次元量子構造において発現する新しい光物性の解明と探索

船戸 充 講師

光材料の育成と物性探索

野田 進 教授

■光半導体・光結晶、■超高速光エレクトロニクス、■情報通信・ネットワーク用光デバイス

浅野 卓 講師

半導体光デバイスの研究

北野正雄 教授

光計測・量子光学

杉山和彦 助教授

高精度レーザー制御・計測、光シナセサイザ

青木学聡 講師

ナノスケール材料の創製、評価に関するシミュレーション技術

高岡義寛 教授

クラスターイオンビーム技術による高機能材料創製の研究

川下将一 講師

クラスターイオンビーム技術による高機能バイオマテリアルの創製に関する研究

中村敏浩 講師

電子材料プロセスの分光診断と反応解析

石田謙司 講師

有機分子の光・電子機能、薄膜構造解析

黒橋禎夫 教授

自然言語処理、知識情報処理

松山隆司 教授

ディジタル画像・映像の処理、認識、表示、生成、編集のためのソフトウェアおよびハードウェアの研究

牧 淳人 助教授

画像処理・パターン認識

吉田 進 教授

■高信頼度ディジタル通信技術 ■無線情報ネットワーク

森広芳照 教授

マルチメディア通信網統合技術の研究

田野 哲 助教授

適応信号処理、伝送路符号化、ソフトウェア無線技術を駆使した次世代無線通信システムの研究

高橋達郎 教授

マルチメディアネットワークアーキテクチャ、プロトコル、システム構成技術

朝香卓也 助教授

情報ネットワークの制御・設計・管理技術

中村行宏 教授

新しいプロセス・アーキテクチャとその方式設計技術、マルチメディア/通信融合環境

越智裕之 助教授

再構成アーキテクチャ、マルチメディア機器向け VLSI 技術

小野寺秀俊 教授

VLSI の設計手法と CAD 技術

小林和淑 助教授

大規模集積回路のアーキテクチャと設計技術

佐藤 亨 教授

地下探査、降雨観測、宇宙環境探査などにおけるレーダ信号処理法の研究

乗松誠司 助教授

光通信、特に光ファイバ通信に関する研究

杉本直三 助教授

医用画像処理・表示・診断支援システムについて

松田哲也 教授

医用画像診断法および生体物理計測法の開発

天野 晃 助教授

■生体シミュレーション ■3次元画像処理 ■文書画像処理

下田 宏 助教授

エネルギーシステムを支える情報技術とヒューマンインタフェース技術

近藤克己 教授

高温プラズマ中の多価電離イオンの挙動および電磁エネルギーの放射について

中村祐司 助教授

核融合プラズマの閉じ込め及び電磁流体力学の性質に関するコンピュータ数値解析・シミュレーション

野澤 博 教授

熱、光、イオン、プラズマ等各種最先端エネルギーを応用した超 LSI のデバイス構造についての基礎的研究

白井康之 助教授

超伝導現象のエネルギー応用に関する研究

藤田静雄 教授

量子機能薄膜材料の育成と物性探索、有機エレクトロニクスの材料

白藤 立 助教授

プラズマケミストリーとその応用：薄膜堆積、表面改質、プラズマ重合、エッチング等及び「その場診断」とモデリング、シミュレーション

小山田耕二 教授

情報可視化に関する研究およびボリュームコミュニケーション分野への応用、パラメータ最適化に関する研究および電子機器製品設計や生体シミュレーションへの応用

中村裕一 教授

ネットワークを介したコミュニケーションシステム、画像・映像メディアの撮影・認識・編集

中村素典 助教授

メッセージ伝送システム、ネットワークコミュニケーション、遠隔講義システム

小嶋浩嗣 助教授

科学衛星による宇宙プラズマ中でのプラズマ波動の探査

橋本弘藏 教授

マイクロ波電力伝送、宇宙プラズマ中の波動現象、科学衛星による波動観測、衛星インターネット

篠原真毅 助教授

マイクロ波エネルギー伝送、宇宙太陽発電所

深尾昌一郎 教授

先端的な大気レーダーの開発とそれをを用いた地球大気環境、特に中層・超高層大気力学や赤道大気のリモートセンシング

山本 衛 助教授
電離圏イレギュラリティの研究、レーダーによる大気観測方式に関する研究

橋口浩之 助教授
各種大気レーダーの開発とそれを用いた気象現象のリモートセンシングに関する研究

津田敏隆 教授
電波・光・音波を用いた地球大気計測技術の開発と大気環境科学への応用

中村卓司 助教授
レーダーと光学測器による地球大気の複合計測。レーダー・光学観測ネットワークによる大気のグローバル構造の研究

大村善治 教授
宇宙プラズマ中の非線形現象の計算機実験と宇宙電磁環境工学への応用

臼井英之 助教授
計算機シミュレーションによる宇宙プラズマ環境および宇宙飛翔体環境の研究

水内 亨 教授
高温プラズマ周辺領域の物性・制御技術の研究

長崎百伸 助教授
高周波を用いたプラズマの生成と加熱に関する研究、ミリ波伝送システムの開発

佐野史道 教授
複合複雑系としての高温プラズマ中の協同現象の機構解明

花谷 清 助教授
トーラスプラズマにおける輸送と加熱の計算機シミュレーション

岡田浩之 助教授
高温プラズマの生成および閉じ込め

吉川 潔 教授
■荷電粒子と電磁場との強い相互作用
■静電閉じこめ型核融合
■直接エネルギー変換
■自由電子ユーザ

増田 開 助教授
荷電粒子ビーム・電磁界相互作用を用いた高輝度電子ビーム源、自由電子レーザ、ビーム集束核融合の研究

情報学科

佐藤雅彦 教授
構成的プログラミング、コンピュータソフトウェア

山本章博 教授
人工知能基礎論、帰納論理、機械学習、知能発見

西田豊明 教授
会話情報学、社会知のデザイン、人工知能

奥乃 博 教授
人工知能、音環境理解、音楽情景分析、ロボット聴覚

吉川正俊 教授
データベース情報検索、Web、XML

田中克己 教授
マルチメディア情報システム、データベース、情報検索

石田 亨 教授
人工知能、コミュニケーション、社会情報システム

船越満明 教授
非線形力学、流体力学、カオスの利用と制御

藤坂博一 教授
非平衡系の統計理論、非線形科学、散逸構造

西村直志 教授
計算力学、応用力学、計算工学

山本 裕 教授
システム・制御理論、デジタルシステムと信号処理、システムと知能

中村佳正 教授
応用可積分系／計算数学、アルゴリズム、離散構造、計算機代数

永持 仁 教授
離散最適化問題に対するアルゴリズム理論の研究および実用問題への応用

福嶋雅夫 教授
計画工学、システム最適化の理論とアルゴリズム

太田快人 教授
システム制御理論、ロバスト制御、関数解析手法に基づく制御系設計

宗像豊哲 教授
統計物理学、非線形動力学、計算機シミュレーション

岩井敏洋 教授
力学系の微分幾何学的研究

田中利幸 教授
確率モデルに基づく情報処理、情報通信理論、情報統計力学、ニューロコンピューティング

酒井英昭 教授
適応信号処理と通信、雑音制御への応用

高橋 豊 教授
システムのモデル化と性能解析、情報システム、待ち行列理論

岩間一雄 教授
アルゴリズムと計算複雑さの理論

富田眞治 教授
計算機アーキテクチャと並列処理

湯浅太一 教授
プログラミング言語と処理系、並列計算

美濃寿彦 教授
マルチメディア情報処理、3次元モデル中心処理、知的映像メディア処理、環境メディア、スマートクラスルーム、e-Learning

稲垣耕作 助教授
基礎情報学・情報物理学・情報文明学の研究

五十嵐淳 助教授
プログラミング言語の基礎理論

角 康之 助教授
知識処理システム、ヒューマンインタフェース、インタラクティブシステム

尾形哲也 助教授
ヒューマンロボットインタラクション、ロボット認知学習モデル

岩井原瑞穂 助教授
■データベース
■電子商取引システム

田島敬史 助教授
データベースシステム、情報検索

田中泰明 助教授
確率力学系の理論とそのリスク解析への応用、効率化シミュレーション

藤岡久也 助教授
サンプル値制御、ロバスト制御、数値最適化に基づく制御系設計解析

山下信雄 助教授
山下計画、均衡問題に対する理論と応用

鷹羽淨嗣 助教授
ロバスト制御、最適制御およびフィルタリング

五十嵐颯人 助教授
統計物理学と確率過程理論を用いた、多数の要素が非線形に相互作用しあっている系の研究

池田和司 助教授
■機械学習
■ニューロダイナミクス

笠原正治 助教授
情報システム理論、ネットワークシステム、待ち行列理論とその応用

伊藤大雄 助教授
グラフ・ネットワーク理論とアルゴリズム、離散幾何学

森眞一郎 助教授
計算機アーキテクチャ、並列処理及び可視化

八杉昌宏 助教授
プログラミング言語及び並列処理

角所 考 助教授
コンピュータと人間のコミュニケーションのための知的メディア処理

五十嵐淳 講師
プログラミング言語の基礎理論

尾形哲也 講師
ヒューマンロボットインタラクション、ロボット認知学習モデル

八槨博史 講師
■計算的市場モデルを用いた資源割当て手法
■マルチエージェントシステム

宮崎修次 講師
複雑力学系や複雑ネットワークの数理解析

青柳富誌生 講師
脳の情報処理のモデルの構成と解析、非線形力学、統計物理学

辻本 諭 講師
離散可積分系の理論とその応用

趙 亮 講師
ネットワークの最適化および応用

柳浦睦憲 講師
組合せ最適化問題に対するメタ戦略に関する研究

荻野勝哉 講師
■意思決定論
■ゲーム理論
■紛争と交渉問題

工業化学科

松原誠二郎 教授
材料化学専攻　有機反応化学、立体化学、有機合成化学、有機金属化学、有機材料化学

平尾一之 教授
材料化学専攻　無機材料化学、非晶質ガラス科学、無機構造化学、セラミックス工学

三浦清貴 助教授
材料化学専攻　無機材料化学、無機材料光物性、レーザー材料プロセスing、ナノ構造制御

田中勝久 教授
材料化学専攻　無機固体化学、無機材料科学、非線形光学、酸化物磁性体

藤田晃司 助教授
材料化学専攻　無機固体化学、無機材料化学、光機能性材料

大藁幸一郎 教授
材料化学専攻　有機反応化学、立体化学、有機合成化学、有機金属化学、有機材料化学

楡山爲次郎 教授
材料化学専攻　天然物有機化学、ヘテロ元素化学、有機合成、有機金属、触媒反応、有機材料

清水正毅 助教授
材料化学専攻　有機合成化学、有機金属化学、有機ケイ素化学、有機フッ素化学、有機材料化学

大塚浩二 教授
材料化学専攻　材料解析化学、分離分析化学、マイクロ/ナノ分析、μ_TAS

森下富士夫 助教授
材料化学専攻　材料解析化学、分離分析化学、環境計測化学

瀧川敏算 教授
材料化学専攻　高分子ダイナミクス、高分子ゲルの物理化学、不均質系のレオロジー

浦山健治 講師
材料化学専攻　高分子ゲルの物理化学、高分子薄膜の電気力学物性、エラストマーの力学

木村俊作 教授
材料化学専攻　機能材料、高分子超分子化学、ペプチド工学

小山宗孝 助教授
材料化学専攻・協力講座　ナノ材料化学、電子移動化学、電気分析化学、分光電気化学

小久見善八 教授
物質エネルギー化学専攻　電気化学反応の解析とそのための材料の合成

西本清一 教授
物質エネルギー化学専攻　励起状態の物理化学、放射線生物化学、光機能性核酸の化学

垣内 隆 教授
物質エネルギー化学専攻　界面の物理化学、溶液系の界面物性、電気分析化学、機能性材料化学

井上正志 教授
物質エネルギー化学専攻　無機材料の新規合成法とその触媒機能

江口浩一 教授
物質エネルギー化学専攻　環境およびエネルギーに関連した固体触媒の開発と基礎物性

大江浩一 教授
物質エネルギー化学専攻　有機活性種化学、遷移金属錯体を用いる触媒反応の開発

辻 康之 教授
物質エネルギー化学専攻　新規分子触媒の開発とその応用、触媒反応機構の解明

柴田誠一 教授
物質エネルギー化学専攻・協力講座　放射性同位体の生成と利用に関する放射化学的研究

年光昭夫 教授
物質エネルギー化学専攻・協力講座　有機ヘテロ元素化学を利用する材料合成

小澤文幸 教授
物質エネルギー化学専攻・協力講座　高効率遷移金属錯体触媒の開発と機能物質合成

中村正治 教授
物質エネルギー化学専攻・協力講座　元素科学的アプローチによる資源活用型合成反応の開発

木下知己 助教授
物質エネルギー化学専攻　炭化水素活性種の物理有機化学

近藤輝幸 助教授
物質エネルギー化学専攻　新規有機金属錯体の合成とその触媒機能の開発

山本雅博 助教授
物質エネルギー化学専攻　固体、固液、液液界面の物理化学

安部武志 助教授

物質エネルギー化学専攻 電極、電解質材料のインターカレーションケミストリー

菊池隆司 助教授

物質エネルギー化学専攻 エネルギー変換材料開発システムに関する研究

沖 雄一 助教授

物質エネルギー化学専攻・協力講座 放射性エアロゾルの生成機構と性質の解明

岡崎雅明 助教授

物質エネルギー化学専攻・協力講座 新規遷移金属クラスターの合成と機能発現

和田健司 講師

物質エネルギー化学専攻 炭素資源変換に用いる新規触媒材料の開発

白川昌宏 教授

分子工学専攻 生体高分子の立体構造と生体計測手法に関する研究

榊 茂好 教授

分子工学専攻 化学反応の理論研究、複合電子系の量子化学研究

田中一義 教授

分子工学専攻 分子ナノ工学、量子機能材料の設計と電子物性解析

田中庸裕 教授

分子工学専攻 エアロピック酸化触媒系の開発、光触媒化学、触媒構造・機能・設計

今堀 博 教授

分子工学専攻 人工光合成系の構築、有機太陽電池の開発

川崎昌博 教授

分子工学専攻 化学反応ダイナミクス、大気環境化学反応

横尾俊信 教授

分子工学専攻・協力講座 機能性無機材料の創製、有機-無機ハイブリッド低温溶融ガラスの構造、機能設計

渡辺 宏 教授

分子工学専攻・協力講座 高分子ダイナミクス、不均質物質の変形、流動とダイナミクス

堀井文敬 教授

分子工学専攻・協力講座 高分子の種々の状態における構造と分子運動、高度組織化分子材料の構造と機能、微生物セルロース系ナノハイブリッド材料の創製

柘尾豪人 助教授

分子工学専攻 タンパク質の立体構造・運動性・細胞内機能の研究

佐藤啓文 助教授

分子工学専攻 溶液内分子の量子化学・統計力学と化学反応理論

伊藤彰浩 助教授

分子工学専攻 量子機能材料、分子磁性、物理有機化学

宍戸哲也 助教授

分子工学専攻 固体酸塩基触媒の化学、選択酸化触媒、固体触媒の構造・機能・設計

俣野善博 助教授

分子工学専攻 高原子価ビスマス化合物の化学とヘテロ原子を含む機能性材料の化学

川崎三津夫 助教授

分子工学専攻 感光材料の光物理化学と表面化学

高橋雅英 助教授

分子工学専攻・協力講座 光機能性無機固体材料の基礎科学と応用開発

井上正志 助教授

分子工学専攻・協力講座 流動光学、高分子ダイナミクス、分子レオロジー

梶 弘典 助教授

分子工学専攻・協力講座 非晶質材料の構造と発光特性、特に有機 EL、新しい個体 NMR 法の開発。乱れた構造をもつ高分子材料の構造およびダイナミクス

佐藤 徹 助教授

分子工学専攻・協力講座 物性理論化学と炭素材料の電子物性解析

橋本 訓 助教授

分子工学専攻 光化学反応、ラジカル反応、大気化学

増田俊夫 教授

高分子化学専攻 遷移金属触媒を用いた新規高分子の設計と合成、置換ポリアセチレンの合成と特性、機能性高分子

澤本光男 教授

高分子化学専攻 高分子精密合成、カチオン重合、ラジカル重合

中條善樹 教授

高分子化学専攻 新しい高分子合成反応の開拓、インテリジェント高分子の創成、高分子ナノハイブリッド材料

吉崎武尚 教授

高分子化学専攻 高分子溶液学、高分子ダイナミクス、高分子統計力学

田中文彦 教授

高分子化学専攻 高分子基礎物理化学、高分子理論物性学、高分子の会合とゲル化に関する理論・シミュレーション

伊藤紳三郎 教授

高分子化学専攻 高分子光物理・光化学、機能性高分子、高分子構造、高分子超薄膜

赤木和夫 教授

高分子化学専攻 導電性・発光性・液晶性高分子の合成と性質、不斉液晶場での階層構造盛業、キラル転写・反転による円偏光性発現

長谷川博一 助教授

高分子化学専攻 高分子形態学、ブロックコポリマー・ポリマーブレンド・高分子液晶の構造と物性、エレクトロントモグラフィ

松岡秀樹 助教授

高分子化学専攻 高分子界面化学、両親媒性高分子の自己組織化、高分子微粒子

中 建介 助教授

高分子化学専攻 高分子合成、有機無機複合高分子、新規重合法の開拓

三田文雄 助教授

高分子化学専攻 高分子合成、アミノ酸ポリマー

中村 洋 助教授

高分子化学専攻 分枝高分子溶液物性

堂寺知成 助教授

高分子化学専攻 高分子計算物性学、自己組織化の分子シミュレーション

福田 猛 教授

高分子化学専攻・協力講座 リビングラジカル重合の反応速度論、高分子材料の精密設計

金谷利治 教授

高分子化学専攻・協力講座 高分子高次構造制御を目指した 1) 高分子結晶化過程の解明 2) 高分子ガラス転移機構の解明 3) 高分子ゲルの生成機構と階層構造

山子 茂 教授

高分子化学専攻・協力講座 新しい高分子合成反応および有機合成反応の開発

岩田博夫 教授

高分子化学専攻・協力講座 高分子材料の医療への応用と細胞・組織工学の研究

田畑泰彦 教授

高分子化学専攻・協力講座 生体材料、再生医学工学、ドラッグデリバリーシステム (DDS)、幹細胞工学

辻 正樹 助教授

高分子化学専攻・協力講座 結晶性高分子の固体の構造とその形成過程

辻井敬巨 助教授

高分子化学専攻・協力講座 高分子表面設計、高分子超薄膜、高分子ブラシの合成と物性

西田幸次 助教授

高分子化学専攻・協力講座 高分子電解質溶液の構造、高分子の結晶化

加藤功一 助教授

高分子化学専攻・協力講座 生体材料、バイオエンジニアリング

中辻 博 教授

合成・生物化学専攻 新しい化学理論の開発、励起分子、触媒作用および生体分子の量子化学、化学における相対論の役割

吉田潤一 教授

合成・生物化学専攻 新しい有機合成法の開発、機能性物質および生物活性物質の合成

今中忠行 教授

合成・生物化学専攻 生物工学、極限環境微生物学、環境バイオテクノロジー

北川 進 教授

合成・生物化学専攻 錯体化学、多重機能化学、ナノポーラス錯体マテリアル

青山安宏 教授

合成・生物化学専攻 生体認識化学、生体機能工学、応用細胞工学、ゲノム工学

村上正浩 教授

合成・生物化学専攻 有機金属化学および有機合成化学

森 泰生 教授

合成・生物化学専攻 細胞生理科学、遺伝子工学、分子神経生物学、タンパク質科学、生体分子機能測定

杉野目道紀 教授

合成・生物化学専攻 精密有機合成を目指した新反応開拓、新規高分子材料を指向した精密重合法開拓

浜地 格 教授

合成・生物化学専攻 生命分子化学、生物有機・無機化学、細胞内有機化学、超分子バイオマテリアル

跡見晴幸 助教授

合成・生物化学専攻 微生物を対象とした生化学・分子生物学

伊藤義勝 助教授

合成・生物化学専攻 有機固体化学および光化学反応

江原正博 助教授

合成・生物化学専攻 理論精密分光学、励起状態ダイナミクス、密度行列の直接決定法

世良貴史 助教授

合成・生物化学専攻 人工 DNA 結合タンパク質を用いた生命現象の人為的操作

菅 誠治 助教授

合成・生物化学専攻 新しい合成手法の開発と有機合成への応用

大場正昭 助教授

合成・生物化学専攻 金属錯体、錯体磁性体の誘電性・磁気光学特性、多孔磁性性体

若森 実 助教授

合成・生物化学専攻 神経生理学、細胞電気測定法、イオンチャンネル研究

東谷 公 教授

化学工学専攻 液相微粒子分散系の移動現象の基礎と応用に関する研究

宮原 稔 教授

化学工学専攻 界面制御工学、ナノ空間工学、ナノ秩序構造形成

三浦孝一 教授

化学工学専攻 反応工学、石炭転換工学、炭素材料

田門 肇 教授

化学工学専攻 分離工学、吸着工学、乾燥工学

増田弘昭 教授

化学工学専攻 微粒子工学、粉体工学、エアロゾル工学

大嶋正裕 教授

化学工学専攻 材料プロセス工学、高分子成形加工、プロセス制御

長谷部伸治 教授

化学工学専攻 化学プロセスの最適合成・設計・操作、生産管理

前 一廣 教授

化学工学専攻 環境プロセス工学、マイクロリアクター開発、バイオマス転換工学

丸山敬朗 教授

化学工学専攻・協力講座 輸送現象、機能性材料工学、光エネルギー変換

山本量一 助教授

化学工学専攻 複雑流体・ソフトマターの流動現象に関する基礎研究、計算機シミュレーションを用いた物性研究

河瀬元明 助教授

化学工学専攻 反応工学、材料反応工学、反応装置

松坂修二 助教授

化学工学専攻 粉体とエアロゾルの特性評価とその応用

加納 学 助教授

化学工学専攻 統計的プロセス・品質管理、プロセス制御、生体情報解析

牧 奉輔 助教授

化学工学専攻 環境プロセス工学、マイクロリアクター開発

木下正弘 助教授

化学工学専攻・協力講座 生体高分子の立体構造予測、ソフトマターの理論物理化学

八尾 健 教授

エネルギー基礎科学専攻 結晶化学、材料電気化学、リチウム電池・燃料電池の材料開発、生命適合材料、医用セラミックスの開発、無機材料化学

日比野光宏 助教授

エネルギー基礎科学専攻 無機固体化学、固体電気化学、種々の固体内におけるイオン輸送現象解明とエネルギーデバイス材料の開発

尾形幸生 教授

エネルギー理工学研究所・協力講座 半導体の電気化学と表面改質および太陽光などの光エネルギー有効利用への応用

作花哲夫 助教授

エネルギー理工学研究所・協力講座 物質界面層における光化学反応および分光学的研究

農学部**資源生物科学科****今井 裕 教授**

生殖細胞の分化・脱分化機構の解明と個体生産への応用

内海 成 教授

ヒトの健康維持・増進に役立ち、加工食品の製造にも適したタンパク質を含有する作物の開発

遠藤 隆 教授
コムギにおける異種染色体断片導入系統の育成と分子細胞遺伝学的研究

大西近江 教授
ソバ等の雑穀類の起源・分化・伝播の集団遺伝学的研究

奥野哲郎 教授
植物ウイルスの増殖機構の研究

小崎 隆 教授
地域・地球環境問題と土壌資源の持続的管理

高藤晃雄 教授
ハダニ類および捕食性カブリダニ類の種内変異と個体群動態

田中 克 教授
魚類の初期生態研究と森里海連環学研究

谷坂隆俊 教授
有用遺伝子資源の開発と同一に関する育種学的研究

中原紘之 教授
沿岸域生態系の保全と再生

廣岡博之 教授
牛肉生産に関するシステム分析と熱帯地域への応用

藤崎憲治 教授
昆虫類の生態学

矢澤 進 教授
野菜・花卉の生理・生態と発育制御

矢野秀雄 教授
動物における栄養素の代謝および代謝機構に関する研究

稲村達也 助教授
持続的農業システムのための耕地生態管理に関する研究

今井一郎 助教授
有害有毒プランクトンの生理生態と防除技術の開発

大崎直太 助教授
植食性昆虫の個体群生態学

奥本 裕 助教授
イネの出穂期に関する遺伝子分析

河原太八 助教授
コムギ等の栽培植物の起源と近縁野生種の進化に関する研究

形部正博 助教授
ハダニ類の個体群構造と種間相互作用について

左子彦彦 教授
海洋熱水環境に生息する超好熱菌の探索と遺伝子資源の研究開発

田川正朋 助教授
魚類初期生活史の内分泌学的研究

豊原治彦 助教授
海洋生物機能の活用に関する研究

縄田栄治 助教授
熱帯作物の生理生態

林 孝洋 助教授
画像解析による植物生態情報の解析

平田 孝 教授
海洋生物生産物の品質および生理機能物質の利用に関する研究

藤原建紀 教授
沿岸の海洋環境ならびに物質・生物輸送に関する研究

二井一禎 教授
森林における微生物と樹木、昆虫の相互関係に関する研究

舟川晋也 助教授
熱帯および半乾燥地土壌の形態と養分維持機構に関する研究

松井 徹 助教授
消化管内ミネラルの化学形態とその利用性

松村康生 教授
食品およびその加工素材の品質評価制御

三瀬和之 助教授
植物ウイルスの感染・増殖機構の研究

宮下直彦 助教授
イネ属植物及びシロイヌナズナとハタザオ属植物の分子集団遺伝子学研究

山末祐二 教授
耕地生態系の構造と物質循環に関する研究

山田宣永 助教授
量的形質原因遺伝子の同一に関する研究

山田雅保 助教授
哺乳動物胚の発生と分化

米森敬三 教授
果実生長の制御要因解析と果樹の系統分類

白岩立彦 教授
作物の収量形成の生理・生態的機構と増収技術

田尾龍太郎 助教授
果樹類の形質転換及び受粉開花生理

佐久間正幸 教授
昆虫の感覚と空間定位行動の生理学的研究

笠井亮秀 助教授
海洋環境と生態系に関する研究

菅原達也 助教授
海洋生物の機能性脂質に関する研究

田中千尋 助教授
糸状菌類の生理・生態遺伝学的研究

林由佳子 助教授
口腔内での味の受容メカニズムの解明とその応用

久米新一 教授
動物の環境生理に関する研究

富永 達 教授
雑草の生活史特性に関する生態・遺伝学的研究

熊谷 元 助教授
・熱帯地域における家畜・飼料生産技術開発・未利用資源の飼料化に関する研究

南 直治郎 助教授
哺乳動物の初期発生と遺伝子発現に関する研究

高野義孝 講師
植物と病原糸状菌の相互作用の背景にある分子メカニズムの研究

中崎 鉄也 講師
イネの活性型トランスボゾン mPing の転移誘発機構の解明

三浦勲一 講師
アフリカ半乾燥地の雑穀農業における雑草の生態と進化

山下 洋 教授
沿岸域における水産重要魚類の生態、特に、成育場環境と仔稚魚の成長。生き残りとの関係。

山田利昭 教授
イネ、ムギ類、ダイズ等主要な農作物についての遺伝・育種学的研究

北川幸政 助教授
環境調和型肉用牛飼養に関する研究

北島 宣 助教授
果樹類の生殖生理と染色体解析

益田玲爾 助教授
海産魚類の行動の発達、魚類心理学

梅本信也 助教授
自然域ならびに里域生態系の両存保全と森里海連環学研究

畑 信吾 助教授
マメ科植物の共生窒素固定根粒形成ならびに菌根形成に関する分子生物学的研究

守屋和幸 教授
GPS 首輪を用いた林内放牧牛の移動履歴の収集と解析

荒井修亮 助教授
バイオテレメトリーによる水圏生物資源情報の収集と解析

竹田晋也 助教授
森林資源学 / 東南アジアモンスーン林の利用と保全

荒木 崇 教授
高等植物の環境応答の分子機構の研究。特に、1) 成長相転換（花成）の制御機構の解明, 2) 長距離作用性シグナルによる生体調節の研究, 3) 頂端分裂組織の維持機構の解明

丸山伸之 助教授
種子貯蔵タンパク質の細胞内輸送機構の解明と分子農業への応用

応用生命科学科

清水 昌 教授
微生物の新機能探索・開発と物質生産への応用

喜多恵子 教授
微生物の有用酵素に関する構造・機能相関の解析と分子進化

相原茂夫 助教授
微小重力環境下でのタンパク質の結晶化と酵素反応の構造と機能に関する研究

井上善晴 助教授
生物の環境ストレス応答機構に関する分子細胞生物学的研究

植田和光 教授
健康な体をまもる ABC 蛋白質：脂質トランスポーターの分子メカニズムの解明

片岡道彦 助教授
微生物による有用物質生産に関する研究

加納健司 教授
酵素触媒電子移動反応の基礎と応用

阪井康能 教授
微生物の細胞機能を利用した制御発酵学

白井 理 助教授
生体膜及び模擬膜を介したイオン輸送の物理化学

西田律夫 教授
昆虫生理活性物質の化学生態学的研究

間藤 徹 教授
高等植物における無機元素の生理作用に関する研究

宮川 恒 教授
植物および菌類の二次代謝に関する化学

三芳秀人 助教授
呼吸鎖電子伝達酵素系に作用する生理活性物質のデザイン合成と作用機構研究

中川好秋 助教授
昆虫成育制御剤の構造活性相関と作用機構研究

西岡孝明 教授
新しい生物機能開発を目的とした応用バイオインフォマティクス研究

植田充美 教授
植物と咀嚼情報の解析による細胞分子生物学とその応用

木岡紀幸 助教授
動物細胞の運動、形態の制御に関する研究

森 直樹 助教授
植物と咀嚼性昆虫における防御と適応の有機化学

由里本博也 助教授
微生物の代謝および遺伝子発現制御機構に関する研究

横関健三（客員）教授
微生物の有する潜在機能の探索とものづくりへの応用

萩下大郎（客員）助教授
有用微生物の探索ならびに実用化に向けた機能開発

三上文三 教授
食品タンパク質・食品関連酵素の X 線結晶構造解析及び新機能設計

佐藤文彦 教授
植物細胞の機能分化の分子細胞生物学と分子育種

河内孝之 教授
植物の可塑的発生と環境応答の分子生物学

福澤秀哉 助教授
ゲム情報を利用した光合成の環境順化（二酸化炭素のセンシングと輸送）ならびに生殖に関する分子細胞生物学

遠藤 剛 講師
光合成電子伝達系を中心とした葉緑体機能の環境応答機構の解明

地域環境工学科

青山成康 教授
水利構造物の設計理論と耐震性能

梅田幹雄 教授
フィールド及び昆虫ロボットと精密農業

河地利彦 教授
水資源の開発・管理・保全と水環境のモデル化に関する理論と応用

三野 徹 教授
陸上の水循環と灌漑排水に関する理論と応用

赤松美紀 助教授
医薬・農業の化学構造と生理活性、農業と環境

飯田訓久 助教授
農業におけるロボティクスおよびメカトロニクス

牛野 正 助教授
住民主体による地区総合計画づくりに関する研究

加藤宏郎 助教授
農産物の物性と品質計測・評価に関する研究

小林 晃 助教授
農業水利施設の安全性と周辺環境に与える影響

田中 樹 助教授
半乾燥熱帯圏における生業技術群の成立要件および人為・環境連関の解明

鳥井清司 助教授
GIS、リモートセンシングの比較農業論への応用

中嶋 洋 助教授 土-車両系のテラメカニクス
宇波耕一 助教授 水資源の管理・運用における最適化問題と利水系における水理現象の数値モデリング
中村公人 講師 流域圏および農地土壌中の水循環と物質循環の制御・管理

食料・環境経済学科

加賀爪優 教授 農業貿易と環境保全および地域経済発展に関する計量経済分析
野田公夫 教授 近現代日本農業史および比較農業発展史・比較土地制度史
吉田昌之 教授 森林・林業・木材関連産業に関する理論的実証的研究
浅見淳之 助教授 途上国の農村制度と農業発展
足立芳宏 助教授 近代ドイツ農業・農村社会史
小田滋晃 教授 農業経営・情報会計論
末原達郎 教授 地球規模における農業・食料・地域社会の持続に関する比較農学的研究
武部 隆 教授 資源利用評価と環境ガバナンス
新山陽子 教授 アグリビジネス・フードシステム分析の概念と方法
沈 金虎 講師 中国の農業・農村経済と食料・環境問題に関する研究
香川文庸 講師 農業経営・アグリビジネスにおける損益・資産・資本構造の測定
辻村英之 助教授 アフリカの農家経済経営・農村協同組合・フードシステムの分析
川村 誠 助教授 森林・林業政策学
秋津元輝 助教授 現代農村の地域社会と環境に関する社会学的研究

森林科学科

東 順一 教授 バイオマスの化学と生化学、リグノセルロースの合成と生分解
岩井吉彌 教授 世界の林業ならびに森林資源のあり方についての研究
奥村正悟 教授 木材の機械加工と生産加工システム
武田博清 教授 森林生態系における生物群集の研究
谷 誠 教授 洪水・渇水緩和、地球温暖化抑制など、森林の環境保全機能に関する研究

中坪文明 教授 木材をはじめとする生物材料の基礎化学と高機能化
西尾嘉之 教授 木材・セルロース・キチン等バイオマスの高機能複合材料化
藤田 稔 教授 画像解析による木材の構造的特徴の解析
太田誠一 教授 熱帯林の土壌生態と物質循環に関する研究

水山高久 教授 土砂の生産、流出とその森林等による制御
森本幸裕 教授 緑地環境の保全と創造に関する研究
大手信人 助教授 森林流域における水と物質の循環に関する研究
岡田直紀 助教授 温帯および熱帯樹木の成長と材形成に関する生理・生態学的研究

神崎 護 助教授 熱帯林の群集生態学と植生管理

高野俊幸 助教授 木材成分の化学的利用に関する研究

高部圭司 助教授 木質化細胞壁の形成メカニズム

藤井義久 助教授 木材の高度利用と加工

松下幸司 助教授 森林計画に関する研究

山内龍男 助教授 製紙科学に関する研究

大澤直哉 講師 森林生態系における昆虫群集の研究

高柳 敦 講師 クマハギ発生地域におけるツキノワグマの保護管理に関する研究。カモシカ・シカによる造林木食害に関する研究。狩猟制度に関する研究。

仲村匡司 講師 木質系材料の感性的特性、木質環境の居住性
--

吉岡まり子 講師 バイオマスを用いた高性能・高機能材料の開発に関する研究
--

坂本正弘 講師 木質系バイオマスの形成に関わる生化学・分子生物学的研究

里深好文 助教授 土砂の生産、流出とその制御

竹内典之 教授 森林資源の持続的管理に関する研究

安藤 信 助教授 森林の更新技術に関する研究

芝 正己 助教授 森林資源の持続的管理・利用システムに関する研究
--

中島 皇 講師 森林の公益的機能に関する研究

西村和雄 講師 金蓄積植物を利用した金鉱脈の探査法、黄砂由来の日本へのリン資源の輸送に関する研究
--

徳地直子 助教授 森林生態系における物質循環に関する研究
--

柴田昌三 助教授 都市近郊二次林(里山)の再生に関する研究、竹類の生理・生態学的研究及び造園緑化への利用に関する研究、道路法面緑化工法の開発に関する研究
--

坂 志朗 教授 植物バイオマスのバイオ燃料化・有用ケミカリス化及び環境調和型エコ材料の創製

河本晴雄 助教授 バイオマス変換およびエネルギー利用の生態系に及ぼす影響
--

酒井徹朗 教授 リモートセンシングやGISを用いた生物圏の環境情報モニタリングと評価
--

沼田邦彦 助教授 持続的森林管理のための各種計画法と地球環境の持続可能性についての検討

食品生物科学科

井上國世 教授 酵素の機能発現の解明と有用生理活性物質生産への応用

大東 肇 教授 生物活性天然物の究明とその作用機構

北島直文 教授 食品素材の加工特性に関する研究、甘味・渋味・苦味物質の構造と甘味・渋味・苦味発現機構、伝統食に関する食品栄養学的研究
--

伏木 亨 教授 食品の持つ情報と、動物消化管・口腔における情報受容機構、運動能力を増強する食品の開発、おいしさの科学
--

村田幸作 教授 細胞やタンパク質の形はどうして決まるか。細胞はどうして増えるか。DNAはどうしてできたか。遺伝子、タンパク質細胞の進化。
--

吉川正明 教授 ・食品中に存在する新しい生体調節因子の探索・生体調節因子の作用機構の解明と生活習慣病予防食品の開発・生体調節機能を強化した食糧素材の遺伝子生産

安達修二 教授 食品製造工学、食品反応工学

入江一浩 助教授 タンパク質機能ドメインの化学合成と構造および機能の有機化学的解析

裏出令子 助教授 ・小胞体におけるタンパク質の品質管理機構に関する研究・動物細胞における脂質代謝の調節機構に関する研究

河田照雄 教授 肥満の発症メカニズムの解明とその応用研究、生活習慣病を防ぐ食品の開発
--

谷 史人 助教授 ■自然免疫および粘膜免疫系のストレス応答に関する研究 ■分子進化から眺めたタンパク質の構造と機能

橋本 涉 助教授 微生物における高分子物質の輸送と代謝に関わる分子の構造・機能相関解析

木村幸敬 助教授 亜臨界水を用いた環境に優しい食品加工、脂溶性食品成分の腸吸収細胞透過に関する研究

大日向耕作 講師 脳神経系や循環器系に作用する新しい生理活性ペプチドの探索と作用機構の解明

保川 清 助教授 タンパク質分解酵素の酵素化学的性質の解明および改変
--

井上和生 助教授 中枢性疲労発生機構に関する研究、運動時エネルギー代謝の中枢性調節機構に関する研究

永尾雅哉 教授 (1) 肝臓の再生や分化に関する研究 (2) 天然物からの有用な生理活性物質の探索

山本憲二 教授 (1) 微生物の菌体や酵素が糖タンパク質や脂質の糖鎖にどのように働くかを解析する研究 (2) 乳酸菌の腸管接着機構や糖代謝を明らかにする研究
--

岩井裕子 助教授 (1) 細胞の環境ストレス応答の機構解析 (2) 細胞内金属代謝機構の解明
--

鈴木秀之 助教授 微生物のアミノ酸・ペプチド代謝に関する酵素化学的、結晶構造学的、分子生物学的基礎研究とこれらより得られた知見をもとにした応用生命科学研究。
--

増田誠司 助教授 mRNA 成熟に関わる複合体群の機能解析

入学者選抜要項・学生募集要項の請求方法

入学者選抜要項の請求方法

入学者選抜に関する概要を記載した選抜要項は、7月下旬（予定）から配付します。

郵送を希望する場合は、受信者の住所・氏名・郵便番号を明記して、200円分の切手を貼付した返信用封筒（角形2号 332mm×240mm）を同封し、志望する学部の教務掛あてに、「選抜要項請求」と朱書して申し込んでください。

学生募集要項の請求方法

本学の学生募集要項等の請求方法には、以下の3つの方法があります。

①大学へ請求する方法（12月中旬から請求可能）

■学生募集要項のみ請求する場合

受信者の住所・氏名・郵便番号を明記して、240円分の切手を貼付した返信用封筒（角形2号 332mm×240mm）を同封し、志望する学部の教務掛あてに、「学生募集要項請求」と朱書して申し込んでください。

なお、医学部保健学科後期日程試験の願書を含んだものを請求する場合は、「保健学科後期含む」と朱書してください。

■学生募集要項及び大学案内を請求する場合

受信者の住所・氏名・郵便番号を明記して、390円分の切手を貼付した返信用封筒（角形2号 332mm×240mm）を同封し、志望する学部の教務掛あてに、「学生募集要項・大学案内請求」と朱書して申し込んでください。

なお、医学部保健学科後期日程試験の願書を含んだものを請求する場合は「保健学科後期含む」と朱書してください。また、返信用封筒の切手の金額は580円になります。

■総合人間学部、工学部、農学部を志願する者で学生募集要項及び学部案内を請求する場合

受信者の住所・氏名・郵便番号を明記して、390円分の切手を貼付した返信用封筒（角形2号 332mm×240mm）を同封し、志望する学部の教務掛あてに、「学生募集要項・総合人間学部案内請求」、「学生募集要項・工学部案内請求」又は「学生募集要項・農学部案内請求」と朱書して申し込んでください。

②郵便局から請求する方法（10月から請求可能：12月中旬から送付）

郵便局や高等学校等に10月から設置されます「請求申込書」（入学願書ゆうパックカタログ）に必要事項を記入し、最寄りの郵便局に送料と払込手数料100円を添えて

申し込んでください。

③テレメール（インターネット・自動応答電話）で請求する方法

学生募集要項は9月から請求可能、12月中旬から送付。

テレメールによる請求方法

インターネットの場合		電話の場合	
携帯電話・パソコンとも共通アドレス	http://telemail.jp	IP電話 [一般電話回線からの通話料金は日本全国3分毎に約11円です。]	050-2015-0555
QRコード ※対応する携帯電話で読み取れます。		一般電話	

資料名	資料番号	送料	
学生募集要項	584622	210円	送料は、お届けした資料に同封されている支払方法に従いお支払いください。なお、払込手数料として100円が必要となります。
学生募集要項 ※ (医学部保健学科後期願書含む)	584602	210円	
学生募集要項+大学案内	544612	290円	
学生募集要項+大学案内 ※ (医学部保健学科後期願書含む)	544602	340円	
大学案内	564602	290円	

※京都大学は医学部保健学科のみ前期・後期日程試験を行います。他学部他学科は前期日程試験のみ行います。医学部保健学科後期日程志願者は、資料番号584602又は544602の資料を請求してください。なお、全学部共通の前期の願書も含まれています。

郵便局・テレメールでの請求についての問い合わせ先：テレメールカスタマーセンター
050-2015-5050 (9:30～18:00)

京都大学オープンキャンパス



本学では、京都大学受験を志望する方に京都大学を直接知ってもらうための広報活動として、平成14(2002)年度から年に一度、夏休みを利用して2日間の日程で「京都大学オープンキャンパス」を実施しています。

このオープンキャンパスは、本学各学部の教育研究の紹介・模擬授業体験・施設見学や入試・学生生活・留学などの各種相談等を通して、本学の教員・在学生・事務職員と直接交流していただくことにより、受験生の皆さんに本学を実感していただく場となっています。

近畿を中心に全国から参加があり、平成17(2005)年度には約7,000名の受験生・保護者・学校関係者等の参加を得ました。多くの参加者から「有意義であった」と好評をいただいています。

[問い合わせ先]

学生部入試企画課 Tel.075-753-2524)

多様な入学制度／お問い合わせ先一覧

京都大学では、一般選抜のほか、以下のような特別選抜を実施しています。

外国学校出身者の入学について

法学部、経済学部で実施しています。
詳しくは、当該学部の教務掛にお問い合わせください。

第3年次編入学試験について

教育学部、法学部、経済学部、医学部保健学科、工学部（高等専門学校卒業（見込）者対象）で実施しています。
詳しくは、当該学部の教務掛にお問い合わせください。

学士入学試験について

1. 大学を卒業した者及び卒業見込の者が対象の学部：文学部で実施しています。
2. 京都大学を卒業した者及び卒業見込の者が対象の学部：総合人間学部、経済学部、

理学部、工学部で実施しています。
詳しくは、当該学部の教務掛にお問い合わせください。

参考：平成18年度外国学校出身者のための選考の実施結果

学 部	募集人員	志願者数	合格者数	入学者数
法 学 部	20名以内	41	7	7
経済学部	10名以内	26	11	11

参考：平成18年度3年次編入学試験の実施結果

学 部	募集人員	志願者数	合格者数	入学者数
教育学部	10名	37	10	9
法 学 部	10名	137	10	9
経済学部	20名以内	68	10	9
医学部保健学科	17名	114	25	22
工 学 部	10名程度	58	23	22

入学者選抜要項・学生募集要項の請求先／学部・学科に関する問い合わせ先

学 部	担 当 掛	電 話 番 号	所 在 地	URL
総合人間学部	教 務 掛	075-753-6507	〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町	http://www.h.kyoto-u.ac.jp
文 学 部	第一教務掛	075-753-2709	〒606-8501 京都市左京区吉田本町	http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/index-j.html
教 育 学 部	教 務 掛	075-753-3010		http://www.educ.kyoto-u.ac.jp
法 学 部	教 務 掛	075-753-3107		http://kyodai.jp/
経 済 学 部	教 務 掛	075-753-3406		http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/
理 学 部	第二教務掛	075-753-3637	〒606-8502 京都市左京区北白川追分町	http://www.rigaku.kyoto-u.ac.jp
医学部	医 学 科	教務・学生支援室 (学部教務担当)	〒606-8501 京都市左京区吉田近衛町	http://www.med.kyoto-u.ac.jp/
	保健学科	教務・学生支援室 (教務保健学科担当)	〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町 53	http://www.hs.med.kyoto-u.ac.jp/
薬 学 部	教 務 掛	075-753-4514	〒606-8501 京都市左京区吉田下阿達町	http://www.hs.med.kyoto-u.ac.jp/
工 学 部	教 務 掛	075-753-5039	〒606-8501 京都市左京区吉田本町	http://www.hs.med.kyoto-u.ac.jp/
農 学 部	第一教務掛	075-753-6012	〒606-8502 京都市左京区北白川追分町	http://www.kais.kyoto-u.ac.jp/

入学試験・入学後の就学に関する問い合わせ先

担 当 部 課	電 話 番 号	所 在 地	URL
学生部入試企画課	075-753-2521 ~ 2524	〒606-8501 京都市左京区吉田本町	http://www.kyoto-u.ac.jp

[資料] 入学者選抜実施状況について

平成 18 年度 入学者選抜実施状況 (単位：人)

学 部	日 程	募集人員	志願者数	第 1 段階選抜 合格者数	受験者数	合格者数	入学辞退者数	追加合格者数	入学者数
総合人間学部	前期文系	55	198	194	192	57			123
	前期理系	50	180	178	175	51			
	後 期	15	257	240	156	15			
文 学 部	前 期	190	577	573	567	194	1		225
	後 期	30	385	300	150	32			
教 育 学 部	前 期	40	164	163	158	41	1		62
	後 期	20	174	152	92	22			
法 学 部	前 期	300	886	882	871	303			328
	後 期	10	419	290	106	25			
経 済 学 部	前期一般	160	503	500	493	160			240
	前期論文	50	281	250	241	50			
	後 期	20	704	570	346	30			
理 学 部	前 期	280	857	838	826	283	2		312
	後 期	31	878	865	562	31			
医 学 部	前 期	213	618	550	540	225	17		259
	後 期	30	338	292	177	51			
薬 学 部	前 期	70	184	183	178	76			87
	後 期	10	131	131	74	11			
工 学 部	前 期	857	2,224	2,218	2,197	860	3		958
	後 期	98	988	832	351	101			
農 学 部	前 期	233	581	578	572	243	5		310
	後 期	67	719	718	431	72			
小 計	前 期	2,498	7,253	7,107	7,010	2,543			
	後 期	331	4,993	4,390	2,445	390			
合 計		2,829	12,246	11,497	9,455	2,933	29		2,904

工学部・農学部学科別内訳 (単位：人)

学 部 (学 科)	日 程	募集人員	志願者数	第 1 段階選抜 合格者数	受験者数	合格者数	入 学 辞退者数	追 加 合格者数	入学者数
工 学 部	前期	857	2,224	2,218	2,197	860	3		958
	後期	98	988	832	351	101			
地 球 工 学 科	前期	166	465	465	462	166	2		185
	後期	19	248	228	105	21			
建 築 学 科	前期	72	238	237	234	73			81
	後期	8	117	80	29	8			
物 理 工 学 科	前期	211	492	492	489	211			235
	後期	24	214	192	65	24			
電 気 電 子 工 学 科	前期	117	326	325	322	118	1		130
	後期	13	123	92	48	13			
情 報 学 科	前期	81	240	237	230	81			91
	後期	9	97	90	58	10			
工 業 化 学 科	前期	210	463	462	460	211			236
	後期	25	189	150	46	25			
農 学 部	前期	233	581	578	572	243	5		310
	後期	67	719	718	431	72			
資 源 生 物 科 学 科	前期	75				77	1		96
	後期	19	168	168	113	20			
応 用 生 命 科 学 科	前期	38				41			51
	後期	9	119	119	60	10			
地 域 環 境 工 学 科	前期	26				27	2		38
	後期	11	141	141	89	13			
食 料 ・ 環 境 経 済 学 科	前期	23				25			34
	後期	9	110	110	78	9			
森 林 科 学 科	前期	45				47	2		58
	後期	12	129	128	65	13			
食 品 生 物 科 学 科	前期	26				26			33
	後期	7	52	52	26	7			

医学部学科・専攻別／薬学部学科別内訳（単位：人）

学部 (学科・専攻)	日程	募集人員	志願者数	第1段階選抜 合格者数	受験者数	合格者数	入学 辞退者数	追加 合格者数	入学者数
医学部	前期	213	618	550	540	225	17		259
	後期	30	338	292	177	51			
医学科	前期	90	344	278	276	95	1		104
	後期	10	155	110	71	10			
保健学科	前期	123	274	272	264	130	16		155
	後期	20	183	182	106	41			
看護学専攻	前期	63	142	141	135	69	13		76
	後期	7	80	80	46	20			
検査技術科学 専攻	前期	30	77	77	76	30	1		40
	後期	7	53	53	32	11			
理学療法学専攻	前期	15	39	38	37	16			20
	後期	3	25	24	12	4			
作業療法学専攻	前期	15	16	16	16	15	2		19
	後期	3	25	25	16	6			
薬学部	前期	70	184	183	178	76			87
	後期	10	131	131	74	11			
薬科学科	前期	44	114	113	110	50			57
	後期	6	74	74	34	7			
薬学科	前期	26	70	70	68	26			30
	後期	4	57	57	40	4			

外国学校出身者のための選考の実施結果（外数）（単位：人）

学部	募集人員	志願者数	第1次選考 合格者数	受験者数	合格者数	入学者数
法学部	20名以内	41	23	13	7	7
経済学部	10名以内	26	16	13	11	11

※外国学校出身者のための選考については、下記の各学部教務掛にお尋ねください。
 法学部教務掛 (Tel.075-753-3107) 経済学部教務掛 (Tel.075-753-3406)

平成18年度 出身高校等所在地別 志願者・入学者数（単位：人）

出身高校等所在地		志願者	入学者
北海道		187	38
東北地区	青森県	32	2
	岩手県	21	4
	宮城県	67	11
	秋田県	17	6
	山形県	13	1
	福島県	62	8
	計	212	32
関東地区	茨城県	97	14
	栃木県	42	12
	群馬県	70	11
	埼玉県	197	25
	千葉県	209	30
	東京都	764	117
	神奈川県	296	44
計	1,675	253	
中部地区	新潟県	74	18
	富山県	58	13
	石川県	110	33
	福井県	121	28
	山梨県	34	3
	長野県	132	23
	岐阜県	184	46
	静岡県	230	49
	愛知県	691	173
計	1,634	386	

出身高校等所在地		志願者	入学者
近畿地区	三重県	188	51
	滋賀県	300	66
	京都府	1,239	291
	大阪府	2,134	541
	兵庫県	1,424	381
	奈良県	942	295
	和歌山県	187	53
	計	6,414	1,678
中国地区	鳥取県	56	12
	島根県	39	13
	岡山県	205	64
	広島県	354	103
	山口県	102	18
	計	756	210
四国地区	徳島県	47	14
	香川県	184	48
	愛媛県	143	32
	高知県	104	21
計	478	115	
九州地区	福岡県	356	100
	佐賀県	32	8
	長崎県	51	13
	熊本県	93	16
	大分県	21	4
	宮崎県	44	9
	鹿児島県	128	28
	沖縄県	26	5
	計	751	183
	その他（高校卒業程度認定等）	139	9

[資料] 平成 18 年度合格者 最高点・最低点 (総点)

学部	日程	満点	総点				
			最高点	最低点	平均点		
総合人間学部	前期文系	800	597.16	499.66	530.70		
	前期理系	800	589.00	472.25	517.24		
	後期	800	594.99	512.99	536.46		
文学部	前期	700	558.08	448.78	480.34		
	後期	700	529.30	466.70	489.70		
教育学部	前期	900	667.78	569.35	606.34		
	後期	900	615.99	552.24	576.23		
法学部	前期	750	580.60	479.55	514.86		
	後期	500	407.50	379.70	387.66		
経済学部	前期一般	800	627.35	521.00	553.00		
	前期論文	1000	671.68	484.76	543.82		
	後期	950	619.96	544.58	573.62		
理学部	前期	650	529.00	366.00	415.18		
	後期	400	336.00	267.00	289.77		
医学部	医学科		前期	1300	1062.85	909.43	958.45
	保健学科	看護学専攻	前期	1200	824.40	597.80	683.36
		検査技術科学専攻		1200	877.73	760.50	795.49
		理学療法学専攻		1200	889.40	791.33	839.47
		作業療法学専攻		1400	977.76	548.10	809.32
	医学科		後期	1250	939.20	838.53	885.90
	保健学科	看護学専攻	後期	1200	797.56	641.16	702.57
		検査技術科学専攻		1200	888.60	730.96	783.28
		理学療法学専攻		1200	853.06	795.86	823.56
		作業療法学専攻		1400	916.30	822.76	873.05
薬学部	前期	950	790.16	571.10	657.15		
	後期	950	717.35	560.95	611.89		
工学部	前期	1000	871.10	624.50	698.13		
	後期	-	-	-	-		
農学部	前期	1050	893.26	649.33	716.36		
	後期	-	-	-	-		

薬学部学科別内訳

学部		日程	満点	総点		
				最高点	最低点	平均点
薬学部	薬科学科	前期	950	790.16	619.43	668.15
	薬学科		950	754.13	571.10	636.00
	薬科学科	後期	950	717.35	568.15	622.58
	薬学科		950	622.25	560.95	593.19

工学部学科別内訳

学部		日程	満点	総点		
				最高点	最低点	平均点
工学部	地球工学科	前期	1000	781.16	625.61	676.39
	建築学科		1000	803.46	673.65	719.56
	物理工学科		1000	862.00	664.48	727.31
	電気電子工学科		1000	871.10	644.63	687.17
	情報学科		1000	831.85	644.30	709.12
	工業化学科		1000	790.13	624.50	680.55
	地球工学科	後期	1100	899.50	761.50	804.86
	建築学科		450	363.00	261.00	298.13
	物理工学科		1100	918.75	780.50	834.23
	電気電子工学科		500	418.59	367.31	386.70
	情報学科		300	190.00	105.00	136.50
	工業化学科		1000	645.66	558.50	585.43

農学部学科別内訳

学部		日程	満点	総点		
				最高点	最低点	平均点
農学部	資源生物科学科	後期	810	664.06	484.96	521.69
	応用生命科学科		810	589.39	525.42	550.42
	地域環境工学科		900	716.00	541.90	598.86
	食料・環境経済学科		800	555.66	478.33	505.25
	森林科学科		810	620.29	474.88	521.73
	食品生物科学科		290	252.30	228.30	237.22

(備考)

1. 法学部・経済学部の外国学校出身者のための選考を除く。
2. 総点については、前期・後期共合格発表時のもの。

吉田キャンパス



吉田キャンパスへの交通

主要鉄道駅	利用交通機関等	乗車バス停	市バス系統	市バス経路	本学までの所要時間※	下車バス停
京都駅 (JR/近鉄)	市バス	京都駅前	206系統	「東山通 北大路バスターミナル」行	約35分	「京大正門前」又は「百万遍」, 医・薬は「近衛通」
			17系統	「河原町通 錦林車庫」行	約35分	「百万遍」, 理・農は「京大農学部前」, 薬は「荒神口」
河原町駅 (阪急)	市バス	四条河原町	201系統	「祇園・百万遍」行	約25分	「京大正門前」又は「百万遍」, 医・薬は「近衛通」
			31系統	「熊野・岩倉」行	約25分	
			17系統	「河原町通 錦林車庫」行	約25分	「百万遍」, 理・農は「京大農学部前」, 薬は「荒神口」
今出川駅 (地下鉄烏丸線)	市バス	烏丸今出川	3系統	「百万遍 北白川仕伏町」行	約25分	「百万遍」, 薬は「荒神口」
			203系統	「銀閣寺道・錦林車庫」行	約15分	「百万遍」, 理・農は「京大農学部前」
東山駅 (地下鉄東西線)	市バス	東山三条	201系統	「百万遍・祇園」行	約15分	「京大正門前」又は「百万遍」, 医・薬は「近衛通」
			206系統	「高野 千本北大路」行	約20分	
			201系統	「百万遍・千本今出川」行	約20分	「京大正門前」又は「百万遍」, 医・薬は「近衛通」
31系統	「修学院・岩倉」行	約20分				
出町柳駅 (京阪)	徒歩	(東へ)			約20分	文・教育・法・経済・工は、当駅から徒歩約15分, 総人・理・農は徒歩約20分
	市バス	出町柳駅前	201系統	「祇園・みぶ」行	約10分	「百万遍」又は「京大正門前」, 医・薬は「近衛通」
丸太町駅 (京阪)	徒歩	(東へ)	17系統	「錦林車庫」行	約10分	「百万遍」, 理・農は「京大農学部前」
					約10分	医・薬は、当駅から徒歩約10分

※本学までの所要時間はあくまでも目安であり、交通事情等により超えることがあります。

宇治キャンパス

エネルギー理工学研究所
化学研究所
防災研究所
生存圏研究所

正門

宇治地区研究所本館
化学研究所
エネルギー理工学研究所
生存圏研究所
防災研究所
農学部, 農学研究科

主要鉄道駅 駅からのアクセス
黄檗駅 (JR / 京阪) 当駅下車西へ徒歩約 10 分

Campus Map

京都大学キャンパス配置図



桂キャンパス

*一部計画中の施設を含む

Dクラスター
情報学研究科
情報基盤センター
国際学術交流センター
セミナーハウス
ゲストハウス

Bクラスター
桂インテックセンター
福利棟
事務管理棟
図書館
講堂

Cクラスター
工学研究科
物理系専攻
建築系専攻
地球系専攻

Aクラスター
工学研究科
化学系専攻
電気系専攻
国際融合創造センター

東桂坂
桂御陵前
京大桂キャンパス前
桂イノベーションパーク前

桂キャンパスへの交通

主要鉄道駅	乗車バス停	乗車バス系統	経路	下車バス停
桂駅 (阪急)	桂駅西口	市バス 西6系統	「桂坂中央」行	「京大桂キャンパス前」 (所要時間約 17 分)
		京阪京都交通	「桂坂中央」行	
向日町駅 (JR)	JR 向日町	京阪京都交通	「桂坂中央」行	「京大桂キャンパス前」 (所要時間約 20 分)
		ヤサカバス	「桂坂中央」行	

※本学までの所要時間はあくまでも目安であり、交通事情等により超えることがあります。

発行 平成 18 年 7 月

京都大学 学生部入試企画課

〒 606-8501 京都市左京区吉田本町

TEL. 075-753-2521 ~ 2524

<http://www.kyoto-u.ac.jp/>